

**地域貢献調査報告Ⅰ  
(地域貢献ニーズ集)**

**高知県各地域の地域課題の  
現況等に関する調査報告書**

2013年3月

**高知県立大学  
地域教育研究センター  
地域課題研究部会**



## 目次

I. 序	001
1. はじめに	003
2. 調査概要	005
3. 本報告書をお読みいただくうえでのご注意	006
(1) 使用している表記法・用語などについて	006
(2) 自由記述項目の表記について	008
II. 統計からみた高知県の地域課題と高知県立大学の役割の概要	009
1. 調査対象機関・団体の種別・地域区分	011
(1) 調査対象機関・団体の種別	011
表1-01 調査対象団体の種別	011
(2) 調査対象機関・団体の所在地域	012
表1-02 調査対象機関・団体の地域区分	012
表1-03 地域別の調査対象団体種別	013
2. 高知県立大学(高知女子大学)との連携	014
(1) 高知県立大学との連携等の有無	014
表2-01 地域別・団体別の高知県立大学との連携有無	014
(2) 高知県立大学とおこなった連携活動の内容	014
表2-02 地域別・団体別のおこなった連携活動の内容	015
(3) 高知県立大学との連携等をおこなっていない理由	016
表2-03 地域別・団体別の連携活動をおこなっていない理由	016
(4) 高知県立大学と今後おこないたい連携活動の内容	017
表2-04 地域別・団体別の今後おこないたい連携活動の内容	018
表2-05 公益セクタ内認識の今後おこないたい連携活動の内容	019
3. 高知県の地域課題	020
3-1) 現在の地域課題	020
(1) 現在の生活・健康課題	020
表3-01 (a) 地域別・団体別の現在の地域課題(1)生活・健康課題	021
表3-01 (b) 地域別・団体別の現在の地域課題(1)生活・健康課題(1～10位)	022
(2) 現在の経済課題	023
表3-02 (a) 地域別・団体別の現在の地域課題(2)経済課題	023
表3-02 (b) 地域別・団体別の現在の地域課題(2)経済課題(1～7位)	024
(3) 現在の文化課題	025
表3-03 (a) 地域別・団体別の現在の地域課題(3)文化課題	025
表3-03 (b) 地域別・団体別の現在の地域課題(3)文化課題(1～7位)	026

(4) 現在の教育課題	027
表3-04(a) 地域別・団体別の現在の地域課題(4)教育課題	027
表3-04(b) 地域別・団体別の現在の地域課題(4)教育課題(1～8位)	028
(5) 現在の環境課題	029
表3-05(a) 地域別・団体別の現在の地域課題(5)環境課題	029
表3-05(b) 地域別・団体別の現在の地域課題(5)環境課題(1～7位)	030
<b>3-2) 高知県立大学と連携したい地域課題</b>	<b>031</b>
(1) 高知県立大学と連携したい生活・健康課題	031
表3-06 地域別・団体別の連携したい地域課題(1)生活・健康課題	033
(2) 高知県立大学と連携したい経済課題	034
表3-07 地域別・団体別の連携したい地域課題(2)経済課題	035
(3) 高知県立大学と連携したい文化課題	036
表3-08 地域別・団体別の連携したい地域課題(3)文化課題	037
(4) 高知県立大学と連携したい教育課題	038
表3-09 地域別・団体別の連携したい地域課題(4)教育課題	039
(5) 高知県立大学と連携したい環境課題	040
表3-10 地域別・団体別の連携したい地域課題(5)環境課題	041
<b>4. 高知県立大学への要望と期待度</b>	<b>042</b>
(1) 高知県立大学から得たい連携・支援・協力	042
表4-01 地域別・団体別の高知県立大学から得たい連携・支援・協力などの内容	043
(2) 高知県立大学への期待度	044
表4-02 地域別・団体別の高知県立大学への期待度	044
<b>Ⅲ. 記述項目からみた高知県の地域課題と高知県立大学の役割の詳細</b>	<b>045</b>
<b>1. 記述項目からみた地域課題の現況と高知県立大学への期待(総括)</b>	<b>047</b>
1-1) 高知県立大学との連携の現況と期待・要請	047
(1) 高知県立大学との連携等の現況	047
(2) 各団体が今後高知県立大学との連携や支援・協力などで実施したいこと	049
1-2) 各分野ごとの課題と役割	052
(1) 医療・看護分野における地域課題と高知県立大学の役割	052
(2) 福祉分野における地域課題と高知県立大学の役割	054
(3) 食・栄養分野における地域課題と高知県立大学の役割	056
(4) 文化分野における地域課題と高知県立大学の役割	057
(5) 生活分野における地域課題と高知県立大学の役割	058
(6) 教育分野における地域課題と高知県立大学の役割	059
<b>2. 高知県立大学(高知女子大学)との連携</b>	<b>061</b>
表5-01 高知県立大学と連携した活動実績の内容	061
表5-02 高知県立大学と連携したい活動内容	067

3. 高知県の地域課題	078
3-1) 現在の地域課題	078
表6-01 現在の地域課題(1)生活・健康課題	078
表6-02 現在の地域課題(2)経済課題	089
表6-03 現在の地域課題(3)文化課題	097
表6-04 現在の地域課題(4)教育課題	104
表6-05 現在の地域課題(5)環境課題	112
3-2) 高知県立大学と連携したい地域課題	120
表7-01 高知県立大学と連携したい地域課題(1)生活・健康課題	120
表7-02 高知県立大学と連携したい地域課題(2)経済課題	126
表7-03 高知県立大学と連携したい地域課題(3)文化課題	130
表7-04 高知県立大学と連携したい地域課題(4)教育課題	134
表7-05 高知県立大学と連携したい地域課題(5)環境課題	140
4. 高知県立大学への要望・期待	144
表8-01 高知県立大学に要望したい支援の内容	144
表8-02 高知県立大学にたいする要望・期待の内容	153
IV. 資料編	163
1. 調査依頼文「高知県各地域の地域課題の現況等に関する調査」への協力をお願い	165
2. 調査票「高知県各地域の地域課題の現況等に関する調査」	167



# I. 序





## 1. はじめに

2013年3月  
高知県立大学地域教育研究センター  
センター長 萩沼 一男  
地域課題研究部会長 田中きよむ

高知県立大学では、2012年度より地域教育研究センターを設置し、地域とのさまざまな連携活動や、地域にたいするさまざまな貢献活動などをおこなう体制を整えようとしております。

そのなかで、その1部門である地域課題研究部会では、高知県におけるさまざまな地域課題の解決に向けて研究・教育面や実践・支援面などで貢献する仕組づくりを整えるための活動を開始いたしました。このような体制を整え、実効性のある地域貢献等の活動を実施していくためには、県内各市町村や各地域における、さまざまな地域課題やそれらにたいする支援等の要望(地域貢献ニーズ)を的確に把握したうえで、その地域貢献ニーズに適切に対応するための県立大学における研究・教育資源(地域貢献シーズ)とのマッチングをはかっていく必要があると考えております。

そこで地域教育研究センターの地域課題研究部会として、まず第1に、県内各地域の地域課題を明らかにするための地域貢献ニーズ調査を実施させていただきました。ついで第2に、それと並行するかたちで、学内の教員を対象とした地域貢献シーズ調査をおこないました。本報告書は、このうちの高知県内地域貢献ニーズ調査の結果を分析・整理したものです(「高知県各地域の地域課題の現況等に関する調査報告書」)。別冊として、高知県立大学内地域貢献シーズ調査結果報告書(「地域貢献に関する実績・資源調査報告書」)をとりまとめましておりますので、あわせてご参照願えれば幸いに存じます。

もちろんこれらの報告書は、たんに調査をしてその報告書をまとめれば終わりというものではなく、今後の高知県立大学によるさまざまな地域貢献活動をより実効性のあるものとして実施していくための手がかりとするためのものです。それに向けた学内体制の整備やじっさいの活動開始のための準備などにはなお若干の時間が必要ではありますが、地域貢献の実践にたいする学長の強い意志のもと、地域課題を解決するためのさまざまな地域貢献活動にとりくんでまいりますので、みなさまにおかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

このニーズ調査においては、これまで高知県立大学(高知女子大学時代を含む)と県内各機関・団体がどのような連携活動をおこなってきたのか、今後どのような連携活動をおこないたいのか、各機関・団体からみてどのような地域課題があるのか、それらの課題解決に向けて、県立大学との連携やその支援・協力等が望まれているテーマは何か、などを明らかにすることを目的としておこなったものです。

2013年度からは、本調査結果をふまえて、県内の地域課題の解決に向けた学内地域貢献シーズとのマッチング等をおこない、実効性のある地域貢献活動をおこなうための仕組づくりを進め、具体的なプロジェクトに即した調査・研究・実践活動等を推進していきたいと考えております。県立大学と県内関係各機関・団体等との実りある連携活動に向けて、なにとぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

本調査の実施にあたりましては、調査対象として、高知県内の各市町村や県庁各部署・機関、学校や医療・栄養・福祉関連団体、文化関連団体、NPO・ボランティア団体、産業・経済・商工団体等のみなさまにご協力いただきました。この場をかりて、厚くお礼申し上げます。また、本調査報告書の作成にあたっては、本調査の集計・分析を主として宇野浩三部会員(地域教育研究センター専任教員)が担当し、地域課題研究部会で議論しながら、とりまとめてまいりました。

なお、高知県立大学との連携や協力・支援などのご要望に対応できる学内体制については、2013年度中をめどに整備をすすめる予定をいたしておりますが、具体的な地域課題などにかんして連携・協力・支援等の

ご要望がありましたら、まずは以下に記載しておりますお問合せ先にご相談ください。学内体制の整備完了前の場合でも、可能な対応等について協議させていただきます。

具体的な地域課題等についての高知県立大学との連携や協力・支援等にかんするお問合せ先

〒780-8515 高知市永国寺町5-15

TEL 088-873-2152(内線232)

FAX 088-873-3934

Email [aeru@cc.u-kochi.ac.jp](mailto:aeru@cc.u-kochi.ac.jp)

担当者：岡崎康展・川崎 伸

## 2. 調査概要

本調査(「高知県各地域の地域課題の現況等に関する調査」)は高知県内各地域の地域課題の現況等を広く把握する目的で、(1)高知県内全域の県庁関係機関・市町村役場・公社・教育関係団体・商工会議所・商工会・社会福祉協議会・公立図書館・美術館・博物館・病院・保健所・公民館・高等学校・中学校・小学校・特別支援学校・教育委員会・NPO法人等にたいして、(2)配布・回収とも郵送による方法で総数1140票の調査票を送付したものである。

この当初発送数にたいして、28票が宛先不存在等で返送されたため、実発送数は1112票である。また高知県にたいする当初配布数11票にたいして、配布後に配布先の判断によって調査対象に該当する部署で未配布であった部署にたいして内部で複写・再配布がなされたために、高知県関係への実質配布数は15票となったため、この4票をくわえて実総配布数としたものである。調査実施時期は、2012年9～10月である。

調査対象の団体種別別の実配布数と回収数・回収率を表0-01にしめす。これによれば、全体の回収数・回収率は432・38.7%である。郵送による配布・回収の場合のアンケート調査の一般的な回収率である20%をいどを大幅にうまわっており、回収状況はかなり良好であるといえよう。

表0-01 団体種別別の調査票配布数・回収数・回収率

	配布数	回収数	回収率
0. 総数	1116 <sup>2)</sup>	432	38.7
1. 自治体	262	92	35.1
11. 市町村	247	77	31.2
12. 高知県	15 <sup>1)</sup>	15	100.0
2. 公益セクタ	544	222	40.8
21. 教育A(小学校)	213	61	28.6
22. 教育B(中・高・特別支援)	167	80	47.9
23. 医療・栄養・福祉	56	38	67.9
24. 文化	108	43	39.8
3. 民間セクタ	310	118	38.1
31. NPO・ボランティア団体	279	103	36.9
32. 産業・経済・商工団体	31	15	48.4
4. その他	0	0	-

### [凡例]

1. 自治体
  11. 市町村の役所・役場
  12. 高知県や広域市町村の機関
2. 公益セクタ  
(文化・教育・医療・健康・福祉等の専門機関)
21. 教育A：小学校
22. 教育B：中学校・高等学校・特別支援学校
23. 医療・栄養(健康)・福祉関連団体
24. 文化関連団体
3. 民間セクタ
  31. NPO法人・ボランティア団体
  32. 産業・経済・商工の団体・事業所

### [註]

- 1) 高知県への当初配布数は11であるが、配布後に配布先当該部署で必要に応じて複写・再配布された4票を加えた数である。
- 2) 宛先不存在等で返送された28票を除く当初の実発送数1112票に、上記註1)による4票を加えた数である。

### 3. 本報告書をお読みいただくうえでのご注意

#### (1) 使用している表記法・用語などについて

##### (a) カタカナ語および送りがななどの表記の仕方について

①セクター：セクタ、コンピューター：コンピュータ、コーディネーター：コーディネータ、などのように、単語末尾の「ー」については、単語の判別などの点でとくにさしつかえがないと判断される場合などはおおむね省略して表記している。ただし固有名詞に含まれている場合などには原表記のままとしているほか、アンケート回答者による表記などの記載者が異なる場合などには、表記法が混在している場合もあるが、とくに統一ははかっていない。

②問い合わせ：問合せ、取り組み：「取組み」または「取組」、仕組み：仕組、などのように、熟語に含まれる漢字の間のかななどは、判読上とくにさしつかえがないと判断される場合にはおおむね省略している。「取組み」と「取組」の使い分けは、おおむね、名詞として使用されている場合には「取組」とし、動詞や連体形・連用形などの場合には「取組み」としている。

##### (b) 使用している用語の説明

「Ⅱ. 統計からみた高知県の地域課題と高知県立大学の役割の概要」では、調査票の選択項目の統計分析をおこなっているが、分析上多数のあらたな造語を使用している。それらの意味はおおむね以下のとおりである。この部分を読むときの参考にしていただきたい。各用語のうしろの( )内の数値は、当該用語の初出頁数をしめしている。

①自治体(004)：調査対象団体を統計分析のために区分したうちの1区分で、県・広域市町村の機関と市町村の役所・役場を含む。

②公益セクタ(004)：調査対象団体を統計分析のために区分したうちの1区分で、文化・教育・医療・食・栄養・福祉等の専門機関などを含む。

③民間セクタ(004)：調査対象団体を統計分析のために区分したうちの1区分で、NPO・ボランティア団体、産業・経済・商工関連の団体・事業所などを含む。

④要望実数(013)：調査対象団体の回答にもとづく、高知県立大学との連携等にかんする要望の各要望ごとの実際の数(要望があると回答した団体数)。

⑤連携要望倍率(013)：表2-02にもとづく「高知県立大学と回答団体との連携等の実績」の回答数(a)にたいする、表2-04にもとづく「高知県立大学と回答団体との連携等の今後の要望」の回答数(b)の割合(b/a)のこと。連携等をしたいという項目ごとに、これまでの実績にたいして何倍の要望があるかをしめす数値である。回答実数とその相対度数(%)の両方で算出している。

⑥期待度数(031)：地域課題の解決等にかんして、回答団体が高知県立大学との連携・支援・協力等を希望すると回答した回答数の、この設問にたいする回答団体総数にたいする割合のこと。単純な相対度数(%)のことで、高知県立大学との連携等についての各項目ごとの単純な期待の大きさの度合いをしめす。

⑦期待倍率(031)：地域課題にかんする各選択項目(課題項目)ごとに、当該課題を回答団体が地域課題であると回答した回答数(a)にたいする、当該課題の解決等にかんして高知県立大学との連携・支援・協力等を希望すると回答した回答数(b)の割合(b/a)のこと。当該課題を地域の課題であると回答している団体のうち、どのくらいの割合の団体が、その解決等にかんして高知県立大学との連携等を希望しているかをしめす。このうち、回答実数で算出した期待倍率を**実質期待倍率**とよび、相対度数(%)で算出した期待倍率を**相対期待**

倍率とよんでいる。実質期待倍率は、実際の回答団体数にもとづく期待の大きさの割合をしめし、相対期待倍率は当該設問(「(1)生活・健康課題」～「(5)環境課題」の5つに区分した地域課題区分ごとの設問のこと)のなかの個別の選択項目(課題項目)全体のなかでの、相対的な高知県立大学への期待の大きさをしめす。

## (2) 自由記述項目の表記について

「Ⅲ. 記述項目からみた高知県の地域課題と高知県立大学の役割の詳細」では、調査票の「自由記述欄」に記載された記載内容を、原則として原文のまま記載しています。ただし、原文の趣旨を変更しない範囲で、以下のような変更をおこなっている場合があります。

- ①漢字・かな使いについて、あるていどの統一をはかるなどのために、漢字表記をかな表記に変更している。
- ②送りがななどについて、あるていどの統一をはかるなどのために、かなの省略などをおこなっている。
- ③判読不能な単語などについては、記載を省略している。
- ④一読したときのわかりやすさなどのために、記述内容を簡略化している。
- ⑤箇条書きなどの場合の文末の句点(。)の有無については、文意のわかりやすさなどには影響しないので、原則として原文のままとしている。とくに統一ははかっていない。
- ⑥読点(、)については、文意のわかりやすさなどのために、省略・追加、位置の変更、中点(・)への変更、などをおこなっている。
- ⑦文意がより正確に伝わるようにするなどのために、言葉の追加・省略などをおこなっている。

各自由記述の文章には行頭に番号を付していますが、この番号は調査票回収後にあらためて付したもので、調査時に調査票に付していた番号とは異なっています。この番号は、設問項目をこえてすべての表で、同一番号は同一団体の回答にもとづくものであることをしめしています。

なお、自由記述を整理した各表には、同一の記述内容を重複して記載している場合があります。その理由は以下のとおりです。

- ⑧自由記述の内容を適宜項目立てして整理しているため、1つの記述内容(文章)のなかに複数の項目に関連する記述がある場合でかつ記述された文章を分割することが困難な場合には、同一の記述内容(文章)を該当する複数の項目のなかに重複して記載している。
- ⑨記述内容に、「前項に同じ」との記載がある場合や、○印をつけた選択肢の番号に関連した内容を記載している場合など、その記述だけでは具体的な内容がよくわからないなどの場合には、該当の記述(文章)を再掲したり、選択肢の内容を記載している。

## Ⅱ. 統計からみた 高知県の地域課題と 高知県立大学の役割の概要





## 1. 調査対象機関・団体の種別・地域区分

### (1) 調査対象機関・団体の種別

調査対象の機関・団体(以下たんに団体と表記)の種別およびその所在地域区分は、表1-01・表1-02にしめすとおりである。ここでは、本来は公益セクタに区分すべきと考えられる教育委員会・図書館・公民館のうち、高知県および高知市以外のものについては、いずれも「1. 自治体」のなかの「11. 市町村」に類別した。その理由は、高知県・高知市以外の教育委員会・図書館・公民館では、その事務局や日常業務担当者が役所・役場の別の部署などと兼任している場合などが多いとみられ、その回答の見解なども所属の役所・役場などに依存しているとみられる場合が多いことによる。もちろんそうでない場合もあると考えられるが、本調査ではそれらを容易に区別できないので、一括して上記のような処理をおこなったものである。高知県・高知市の教育委員会・図書館・公民館はすべて公益セクタの該当の区分に類別し、また博物館・美術館・記念館等については国公立・私立をとわずいずれも公益セクタの「24. 文化」に類別している。

これによれば回答のあった団体は、公益セクタが約半数でもっとも多く、ついで民間セクタ・自治体が多い。以降の分析では、団体区分については、おもに「1. 自治体」「2. 公益セクタ」「3. 民間セクタ」の区分を用いている。

表1-01 調査対象団体の種別

団体の種別	実数	%
0. 総数	432	100.0
1. 自治体	92	21.3
11. 市町村	77	17.8
12. 高知県	15	3.5
2. 公益セクタ	222	51.4
21. 教育A(小学校)	61	14.1
22. 教育B(中・高・特別支援)	80	18.5
23. 医療・栄養・福祉	38	8.8
24. 文化	43	10.0
3. 民間セクタ	118	27.3
31. NPO・ボランティア団体	103	23.8
32. 産業・経済・商工団体	15	3.5
4. その他	0	0.0

#### [凡例]

- [1. 自治体]
  - 11. 市町村の役所・役場
  - 12. 高知県や広域市町村の機関
- [2. 公益セクタ]
  - (文化・教育・医療・健康・福祉等の専門機関)
  - 21. 教育A：小学校
  - 22. 教育B：中学校・高等学校・特別支援学校
  - 23. 医療・栄養(健康)・福祉関連団体
  - 24. 文化関連団体
- [3. 民間セクタ]
  - 31. NPO法人・ボランティア団体
  - 32. 産業・経済・商工の団体・事業所

## (2) 調査対象機関・団体の所在地域

調査対象団体の所在地域区分については、区分Ⅰ：「1. 高知市」「21. 中部(除高知市)」「22. 東部」「23. 西部」、区分Ⅱ：「1. 高知市」「31. 市部(除高知市)」「32. 郡部」、区分Ⅲ：「1. 高知市」「41. 沿岸部」「42. 山間部」の3種類の区分をおこなっている。高知県では東西に長い地形をしているため行政的には区分Ⅰの地域区分がよく用いられているようだが、ここでは地域課題との関連から、区分Ⅱの市部・郡部区分、区分Ⅲの沿岸部・山間部の区分も用いることにしたものである。いずれの場合にも、高知市は人口規模も大きく都市化のていども進んでいるなどの事情で、単独で類別している。

これらの区分のうち、区分Ⅰは以下のように区分している。

中部：4. 南国市・5. 土佐市・10. 香南市・11. 香美市・19. 本山町・20. 大豊町・21. 土佐町・22. 大川村・23. いの町・24. 仁淀川町・26. 佐川町・27. 越知町・29. 日高村

東部：2. 室戸市・3. 安芸市・12. 東洋町・13. 奈半利町・14. 田野町・15. 安田町・16. 北川村・17. 馬路村・18. 芸西村

西部：6. 須崎市・7. 宿毛市・8. 土佐清水市・9. 四万十市・25. 中土佐町・28. 禰原町・30. 津野町・31. 四万十町・32. 大月町・33. 三原村・34. 黒潮町

また区分Ⅲは、以下のように海岸線をもつ自治体に所在している場合とそれ以外に区分している。

沿岸部：2. 室戸市・3. 安芸市・4. 南国市・5. 土佐市・6. 須崎市・7. 宿毛市・8. 土佐清水市・9. 四万十市・10. 香南市・12. 東洋町・13. 奈半利町・14. 田野町・15. 安田町・18. 芸西村・32. 大月町・31. 四万十町・34. 黒潮町・25. 中土佐町・

山間部：11. 香美市・16. 北川村・17. 馬路村・19. 本山町・20. 大豊町・21. 土佐町・22. 大川村・23. いの町・24. 仁淀川町・26. 佐川町・27. 越知町・29. 日高村・28. 禰原町・30. 津野町・33. 三原村

これによれば回答のあった団体の所在地域は、高知市が全体の3分の1、高知市以外の中部と西部がそれぞれ4分の1ほどで、東部がやや少ない。郡部は全体の3割ほどで、7割ほどが高知市を含む市部である。また、山間部は2割ほどで、8割が沿岸部の地域に所在している。

表1-02 調査対象機関・団体の地域区分

団体の地域区分		実数	%
0. 総数		428	100.0
1. 高知市		143	33.1
高知市以外	2. 区分Ⅰ 21. 中部(除高知市) 22. 東部 23. 西部	118	27.3
		58	13.4
		113	26.2
	3. 区分Ⅱ 31. 市部(除高知市) 32. 郡部	157	36.3
		132	30.6
	4. 区分Ⅲ 41. 沿岸部(除高知市) 42. 山間部	203	47.1
85		19.7	

なお、以降の地域別集計データおよび団体種別集計データの理解の参考のために、地域区分別の団体種別を表1-03にします。

表1-03 地域別の調査対象団体種別

		0. 総数	1. 自治 体	2. 公益 セク タ	21. 教育 A	22. 教育 B	23. 医栄 福	24. 文化	3. 民間 セク タ	
0. 全体		432	92 21.3	222 51.4	61 14.1	80 18.5	38 8.8	43 10.0	118 27.3	
1. 高知市		143	13 9.1	77 53.8	13 9.1	22 15.3	7 4.9	35 24.5	53 37.1	
高 知 市 以 外	2. 区分 I	21. 中部 (除高知市)	118 29.7	35 44.1	52 15.3	18 15.3	18 9.3	11 4.2	5 26.3	31
		22. 東部	58 32.8	19 58.6	34 19.0	11 22.4	13 13.8	8 3.4	2 8.6	5
		23. 西部	113 22.1	25 52.2	59 16.8	19 23.9	27 10.6	12 0.9	1 25.7	29
	3. 区分 II	31. 市部 (除高知市)	157 29.9	47 51.0	80 18.5	29 19.7	31 8.9	14 3.8	6 19.1	30
		32. 郡部	132 24.2	32 49.2	65 14.4	19 20.5	27 12.9	17 1.5	2 26.5	35
	4. 区分 III	41. 沿岸部	203 28.1	57 52.2	106 18.2	37 21.7	44 9.4	19 3.0	6 19.7	40
42. 山間部		85 25.9	22 45.9	39 12.9	11 16.5	14 14.1	12 2.4	2 28.2	24	

## 2. 高知県立大学(高知女子大学)との連携

### (1) 高知県立大学との連携等の有無

高知県立大学との連携等の実績がある団体は、全体の4分の1ほどで、そう多いとはいえないのが現状である(表2-01)。

地域別では高知市が約4割でもっとも多く、ついで高知市以外の中部(28%)が多い。これらの中部地域全体で3分の2をしめており、東部(17%)・西部(15%)はいずれも少ない。また高知市以外では、郡部(23%)・山間部(31%)が比較的多く、専門機関や人的資源が手薄と考えられる地域との連携・協力等が相対的にはよくおこなわれているようである。

団体別では、自治体で連携実績があるもの約3割でもっとも多いが、公益セクタ・民間セクタでもそれぞれ4分の1ほどが連携実績をもっている。

表2-01 地域別・団体別の高知県立大学との連携有無

	0. 全体	地域別								団体別		
		1. 高知市	2. 区分Ⅰ			3. 区分Ⅱ		4. 区分Ⅲ		1. 自治体	2. 公益セクタ	3. 民間セクタ
			21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	427	141	115	58	113	155	131	201	84	90	220	117
1. 連携あり	114 26.7	55 39.0	32 27.8	10 17.2	17 15.0	29 18.7	30 22.9	33 16.4	26 31.0	28 31.1	56 25.5	30 25.6
2. 連携なし	313 73.3	86 61.0	83 72.2	48 82.8	96 85.0	126 81.3	101 77.1	168 83.6	58 69.0	62 68.9	164 74.5	87 74.4

### (2) 高知県立大学とおこなった連携活動の内容

高知県立大学との連携等でおこなった活動の内容については、「2. 講演・講座・研修会共同開催(34%)」がもっとも多く、ついで「10. 地域活動助言・講師派遣(30%)」「11. 学生の地域活動・調査研究(27%)」「8. イベント・啓発・広報(21%)」「4. 学校教育(19%)」が比較的多い(表2-02)。「1. 共同研究・共同調査(11%)」「5. 商品開発・生活サービス(4%)」などの研究・開発などはまだ少ない。

地域ごとにその地域内での当該活動の相対的な多さの度合いで比較してみると、「2. 講演・講座・研修会共同開催」は西部(47%)が最多であるほか、市部(38%)・高知市(36%)・沿岸部(36%)などもやや多い。いっぽう郡部(27%)・山間部(27%)はやや少なめである。これにたいして、「10. 地域活動助言・講師派遣」については郡部(42%)・山間部(37%)や中部(38%)などがやや多く、また「11. 学生の地域活動・調査研究」についても郡部(42%)・山間部(37%)や中部(38%)などが多い。これらの機会をとおしての大学と地域との人的な交流などは、いずれの地域でもあるていどはおこなわれているものと思われる。

団体別の傾向でみると、自治体では「2. 講演・講座・研修会共同開催(39%)」や「10. 地域活動助言・講師派遣(39%)」のほか「1. 共同研究・共同調査(18%)」も比較的多く、公益セクタでは「10. 地域活動助言・講師派遣(39%)」と「4. 学校教育(34%)」への支援・協力が多く、また民間セクタでは「8. イベント・啓発・広報(33%)」活動の共同実施や支援・協力のほか、「11. 学生の地域活動・調査研究(30%)」への支援・協力もいくぶん多めである。団体の種別によって連携実績の内容には特徴があり、おこないたい(またはおこないやすい)連携等の内容に違いがあることをうかがわせるものである。

表2-02 地域別・団体別のおこなった連携活動の内容

(複数回答)	0. 全体	地域別								団体別		
		1. 高知市	2. 区分Ⅰ			3. 区分Ⅱ		4. 区分Ⅲ		1. 自治体	2. 公益セクタ	3. 民間セクタ
			21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	114	55	32	10	17	29	30	33	26	28	56	30
1. 共同調査 共同研究	13 11.4	4 7.3	6 18.8	2 20.0	1 5.9	5 17.2	4 13.3	5 15.2	4 15.4	5 17.9	5 8.9	3 10.0
2. 講演・講座・ 研修会共同開催	39 34.2	20 36.4	10 31.3	1 10.0	8 47.1	11 37.9	8 26.7	12 36.4	7 26.9	11 39.3	18 32.1	10 33.3
3. 社会人教育 ・生涯教育	11 9.6	7 12.7	2 6.3	0 0.0	2 11.8	3 10.3	1 3.3	4 12.1	0 0.0	4 14.3	4 7.1	3 10.0
4. 学校教育	22 19.3	13 23.6	5 15.6	2 20.0	2 11.8	7 24.1	2 6.7	8 24.2	1 3.8	3 10.7	19 33.9	0 0.0
5. 商品開発・ 生活サービス	5 4.4	2 3.6	2 6.3	1 10.0	0 0.0	2 6.9	1 3.3	2 6.1	1 3.8	2 7.1	1 1.8	2 6.7
6. 生活相談・ 健診等	1 0.9	0 0.0	1 3.1	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0	1 3.0	0 0.0	0 0.0	1 1.8	0 0.0
7. 研究会・ 学習会	17 14.9	9 16.4	6 18.8	2 20.0	0 0.0	5 17.2	3 10.0	5 15.2	3 11.5	3 10.7	10 17.9	4 13.3
8. イベント・ 啓発・広報	24 21.1	15 27.3	6 18.8	1 10.0	2 11.8	4 13.8	5 16.7	4 12.1	5 19.2	4 14.3	10 17.9	10 33.3
9. 地域活動・ 住民活動	16 14.0	9 16.4	5 15.6	1 10.0	1 5.9	3 10.3	4 13.3	3 9.1	4 15.4	5 17.9	7 12.5	4 13.3
10. 地域活動助言 ・講師派遣	34 29.8	14 25.5	12 37.5	2 20.0	6 35.3	9 31.0	11 36.7	9 27.3	11 42.3	11 39.3	20 35.7	3 10.0
11. 学生の地域活動 ・調査研究	31 27.2	11 20.0	10 31.3	3 30.0	7 41.2	8 27.6	12 40.0	9 27.3	11 42.3	7 25.0	15 26.8	9 30.0
12. その他	12 10.5	8 14.5	4 12.5	0 0.0	0 0.0	3 10.3	1 3.3	3 9.1	1 3.8	5 17.9	6 10.7	1 3.3

## [凡例]

1. 共同調査・共同研究
2. 講演・講座・研修会の共同開催、支援・協力
3. 社会人教育・生涯教育への支援・協力
4. 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の学習・教育への支援・協力
5. 商品開発や生活サービス・住民サービス等の共同実施、支援・協力
6. 生活相談や健診等の共同実施、支援・協力
7. 研究会や学習会の共同開催、支援・協力
8. イベントや啓発・広報活動の共同実施、支援・協力
9. 地域活動や住民活動への、共同での支援・協力
10. 地域活動等に助言を受けたり、講師派遣での支援・協力
11. 高知県立大学の学生による地域活動や調査研究への支援・協力
12. その他

(3) 高知県立大学との連携等をおこなっていない理由

高知県立大学との連携等をおこなっていない理由は、これまでにその「1. 機会・きっかけがなかった(83%)」というものがほとんどである(表2-03)。このほか、高知県立大学に「2. どのような資源があるか知らない(11%)」というものや、高知県立大学に「3. 連携で期待できるものがない(3%)」というものも、そう多くはないが、ある。ただし選択項目のパーセンテージでは多いとはいえないものの、高知県立大学にどのような資源があるかよくわからないので、どのような連携等が可能なのかもっと積極的に広く広報等をしてほしいとの要望は、自由記述欄には数多く記載されている(この点については第Ⅲで詳述する)。

地域の諸団体等との連携等のきっかけづくりも含めて、高知県立大学の地域貢献にかんする資源の内容やその利用の仕方等を広く広報するとともに、アクセスしやすい窓口やスムーズな学内決定などの利用のしやすい体制整備等について、早期におこなうことが必要と考えられる。

表2-03 地域別・団体別の連携活動をおこなっていない理由

(複数回答)	0. 全体	地域別								団体別		
		1. 高知市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治体	2. 公益セクタ	3. 民間セクタ
			21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	309	85	81	48	95	123	101	165	58	60	163	86
1. 機会・きっかけがなかった	256 82.8	64 75.3	68 84.0	40 83.3	84 88.4	109 88.6	83 82.2	146 88.5	46 79.3	52 86.7	139 85.3	65 75.6
2. どのような資源があるか知らない	35 11.3	11 12.9	12 14.8	5 10.4	7 7.4	11 8.9	13 12.9	15 9.1	9 15.5	4 6.7	22 13.5	9 10.5
3. 連携で期待できるものがない	10 3.2	8 9.4	0 0.0	2 4.2	0 0.0	0 0.0	2 2.0	1 0.6	0 0.0	2 3.3	2 1.2	6 7.0
4. その他	15 4.9	3 3.5	3 3.7	1 2.1	8 8.4	9 7.3	3 3.0	9 5.5	3 5.2	5 8.3	4 2.5	6 7.0

[凡例]

1. 機会やきっかけがなかった
2. どのような学部・センターや研究・教育・人的な資源があるか知らない
3. 連携で期待できるものがない
4. その他

#### (4) 高知県立大学と今後おこないたい連携活動の内容

高知県立大学と今後おこないたい連携等の内容についての回答をみると、今後高知県立大学となんらかの連携活動をおこないたいと具体的な活動内容を回答した団体総数は353(有効回答の88.0%)あり、これまで連携実績があるという114団体に較べて3.10倍増となっている(表2-04)。これまで連携実績のない団体も含めて、多くの団体で高知県立大学との連携が要望されている。

要望内容の分布は、全般的にはこれまでにこなったことのある活動内容ごとの実績とほぼ同様の傾向をしめしている。要望分布率をもっとも高いもの(A)は「4. 学校教育(38%)」であり、ついで「2. 講演・講座・研修会共同開催(33%)」「10. 地域活動助言・講師派遣(26%)」「11. 学生の地域活動・調査研究(20%)」「8. イベント・啓発・広報(20%)」などが多い。

いっぽう要望実数についてみてみると、要望実数そのものはそう多くないものも含めて連携実績にたいする連携要望倍率が高いもの(B)は、「6. 生活相談・健診等(倍率17.0/要望実数17)」「5. 商品開発・生活サービス(同8.20/41)」「4. 学校教育(7.00/154)」「3. 社会人教育・生涯教育(6.18/68)」「9. 地域活動・住民活動(4.50/72)」などである。

また要望内容の分布比率についてみてみると、要望分布率そのものはそう多くないものも含めて連携実績分布率にたいする連携要望分布率が高いもの(C)は、「6. 生活相談・健診等(要望分布率4%/要望倍率4.67)」「5. 商品開発・生活サービス(同10%/2.32)」「4. 学校教育(38%/1.99)」「3. 社会人教育・生涯教育(17%/1.77)」「9. 地域活動・住民活動(18%/1.29)」などである。

これらについて整理すると、以下のとおりである。

(1) A：全体として要望が多いもの。「4. 学校教育」「2. 講演・講座・研修会共同開催」「10. 地域活動助言・講師派遣」「11. 学生の地域活動・調査研究」「8. イベント・啓発・広報」など。

(2) B：実績実数にたいして実在する要望実数が多く、実ニーズの増加度合いが大きいと考えられるもの。「6. 生活相談・健診等」「5. 商品開発・生活サービス」「4. 学校教育」「3. 社会人教育・生涯教育」「9. 地域活動・住民活動」など。

(3) C：連携実績分布率にたいする連携要望分布率が高く、今後の要望シェアが相対的には高くなる可能性があるもの。「6. 生活相談・健診等」「5. 商品開発・生活サービス」「4. 学校教育」「3. 社会人教育・生涯教育」「9. 地域活動・住民活動」など。

このように整理してみると、そもそも要望の多い「2. 講演・講座・研修会共同開催」などについては今後とも着実に実施していく必要があるが、そのほかにも「4. 学校教育」「3. 社会人教育・生涯教育」「9. 地域活動・住民活動」などは今後対応の強化をはかる必要があるものといえよう。とくに「4. 学校教育」への支援・協力の要望はひじょうに強いようである。また「6. 生活相談・健診等」「5. 商品開発・生活サービス」については新たなニーズの高まりがうかがわれる活動項目であり、全体としての要望数が少ないような場合であってもその内容などを精査して、必要に応じて新たに対応をすべき場合などもあると考えられる。

なお「1. 共同研究・共同調査(自治体13%/民間セクタ19%)」「5. 商品開発・生活サービス(同12%/20%)」については、民間セクタでの要望が比較的高く、ついで自治体でもやや高めである。

これらにかんして、具体的な要望の内容などについては、第Ⅲ部において詳述し、整理する。

表2-04 地域別・団体別の今後おこないたい連携活動の内容

(複数回答)	[参考] 連携実績 内容 <sup>1)</sup> (a)	0. 要望 全体 <sup>2)</sup> (b)	倍率 (b/a) <sup>3)</sup>	地域別								団体別		
				1. 高知 市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治 体	2. 公益 セクタ	3. 民間 セクタ
					21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	114 -	401 <sup>2)</sup> 353	- 3.10	132 -	110 -	51 -	108 -	142 -	127 -	188 -	80 -	82 -	211 -	108 -
1. 共同調査 共同研究	13 11.4	45 11.2	3.46 0.98	16 12.1	8 7.3	5 9.8	16 14.8	14 9.9	15 11.8	20 10.6	8 10.0	11 13.4	14 6.6	20 18.5
2. 講演・講座・ 研修会共同開催	39 34.2	133 33.2	3.41 0.97	53 40.2	32 29.1	12 23.5	36 33.3	45 31.7	35 27.6	60 31.9	20 25.0	26 31.7	77 36.5	30 27.8
3. 社会人教育 ・生涯教育	11 9.6	68 17.0	6.18 1.77	29 22.0	15 13.6	2 3.9	22 20.4	18 12.7	21 16.5	24 12.8	15 18.8	24 29.3	31 14.7	13 12.0
4. 学校教育	22 19.3	154 38.4	7.00 1.99	41 31.1	41 37.3	22 43.1	50 46.3	58 40.8	55 43.3	80 42.6	33 41.3	15 18.3	124 58.8	15 13.9
5. 商品開発・ 生活サービス	5 4.4	41 10.2	8.20 2.32	10 7.6	13 11.8	4 7.8	14 13.0	12 8.5	19 15.0	18 9.6	13 16.3	10 12.2	9 4.3	22 20.4
6. 生活相談・ 健診等	1 0.9	17 4.2	17.0 4.67	7 5.3	6 5.5	2 3.9	2 1.9	7 4.9	3 2.4	7 3.7	3 3.8	5 6.1	5 2.4	7 6.5
7. 研究会・ 学習会	17 14.9	59 14.7	3.47 0.99	27 20.5	15 13.6	3 5.9	14 13.0	19 13.4	13 10.2	23 12.2	9 11.3	6 7.3	34 16.1	19 17.6
8. イベント・ 啓発・広報	24 21.1	78 19.5	3.25 0.92	32 24.2	26 23.6	4 7.8	16 14.8	21 14.8	25 19.7	25 13.3	21 26.3	21 25.6	24 11.4	33 30.6
9. 地域活動・ 住民活動	16 14.0	72 18.0	4.50 1.29	24 18.2	20 18.2	6 11.8	22 20.4	23 16.2	25 19.7	29 15.4	19 23.8	18 22.0	22 10.4	32 29.6
10. 地域活動助言 ・講師派遣	34 29.8	103 25.7	3.02 0.86	39 29.5	28 25.5	9 17.6	27 25.0	31 21.8	33 26.0	42 22.3	22 27.5	21 25.6	58 27.5	24 22.2
11. 学生の地域活動 ・調査研究	31 27.2	79 19.7	2.55 0.72	21 15.9	28 25.5	6 11.8	24 22.2	29 20.4	29 22.8	35 18.6	23 28.8	21 25.6	30 14.2	28 25.9
12. その他	12 10.5	15 3.7	1.25 0.35	10 7.6	2 1.8	0 0.0	3 2.8	3 2.1	2 1.6	3 1.6	2 2.5	7 8.5	6 2.8	2 1.9
13. おこないたい ことはない	- -	48 12.0	- -	19 14.4	9 8.2	6 11.8	14 13.0	19 13.4	10 7.9	24 12.8	5 6.3	9 11.0	19 9.0	20 18.5

## [凡例]

1. 共同調査・共同研究
2. 講演・講座・研修会の共同開催、支援・協力
3. 社会人教育・生涯教育への支援・協力
4. 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の学習・教育への支援・協力
5. 商品開発や生活サービス・住民サービス等の共同実施、支援・協力
6. 生活相談や健診等の共同実施、支援・協力
7. 研究会や学習会の共同開催、支援・協力
8. イベントや啓発・広報活動の共同実施、支援・協力
9. 地域活動や住民活動への、共同での支援・協力
10. 地域活動等に助言を受けたり、講師派遣での支援・協力
11. 高知県立大学の学生による地域活動や調査研究への支援・協力
12. その他
13. とくにおこないたいことはない

## [註]

- 1) 「連携実績内容」は、表2-02の「0. 全体」のデータを再掲したものである。
- 2) 353=401(今後おこないたい連携活動の内容の総回答数)-48(おこないたいことはないという回答数)
- 3) 3.10=353(今後おこないたい連携活動があるという回答総数)/114(連携実績があるという回答総数)



高知県立大学との連携の要望内容について、表2-05ではとくに公益セクタの各専門分野ごとの要望内容をしめしている。これによれば、教育機関では86～83%もの学校が「4. 学校教育」への支援・協力を希望している。医療・栄養・福祉分野では「10. 地域活動助言・講師派遣(64%)」「2. 講演・講座・研修会共同開催(53%)」にたいする要望がとくに強い。また文化の分野では「2. 講演・講座・研修会共同開催(41%)」にたいする要望がやや強いものの、「8. イベント・啓発・広報(28%)」「3. 社会人教育・生涯教育(26%)」「10. 地域活動助言・講師派遣(26%)」などの、いろいろな活動への要望が分散してあらわれている。

表2-05 公益セクタ内識別の今後おこないたい連携活動の内容

(複数回答)	0.	2.	21.	22.	23.	24.
	全体	公益セクタ	教育A	教育B	医療栄養福祉	文化
0. 総数	401	211	59	77	36	39
1. 共同調査 共同研究	45 11.2	14 6.6	2 3.4	4 5.2	6 16.7	2 5.1
2. 講演・講座・ 研修会共同開催	133 33.2	77 36.5	14 23.7	28 36.4	19 52.8	16 41.0
3. 社会人教育 ・生涯教育	68 17.0	31 14.7	7 11.9	3 3.9	11 30.6	10 25.6
4. 学校教育	154 38.4	124 58.8	51 86.4	64 83.1	4 11.1	5 12.8
5. 商品開発・ 生活サービス	41 10.2	9 4.3	1 1.7	5 6.5	3 8.3	0 0.0
6. 生活相談・ 健診等	17 4.2	5 2.4	2 3.4	1 1.3	0 0.0	2 5.1
7. 研究会・ 学習会	59 14.7	34 16.1	9 15.3	9 11.7	11 30.6	5 12.8
8. イベント・ 啓発・広報	78 19.5	24 11.4	4 6.8	2 2.6	7 19.4	11 28.2
9. 地域活動・ 住民活動	72 18.0	22 10.4	2 3.4	4 5.2	13 36.1	3 7.7
10. 地域活動助言 ・講師派遣	103 25.7	58 27.5	6 10.2	19 24.7	23 63.9	10 25.6
11. 学生の地域活動 ・調査研究	79 19.7	30 14.2	5 8.5	3 3.9	14 38.9	8 20.5
12. その他	15 3.7	6 2.8	1 1.7	1 1.3	0 0.0	4 10.3
13. おこないたい ことはない	48 12.0	19 9.0	5 8.5	4 5.2	2 5.6	8 20.5

【凡例】

【公益セクタ】

21. 教育A：小学校

22. 教育B：中学校・高等学校・特別支援学校

【連携活動内容】

1. 共同調査・共同研究

2. 講演・講座・研修会の共同開催、支援・協力

3. 社会人教育・生涯教育への支援・協力

4. 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の学習・教育への支援・協力

5. 商品開発や生活サービス・住民サービス等の共同実施、支援・協力

6. 生活相談や健診等の共同実施、支援・協力

7. 研究会や学習会の共同開催、支援・協力

8. イベントや啓発・広報活動の共同実施、支援・協力

9. 地域活動や住民活動への、共同での支援・協力

10. 地域活動等に助言を受けたり、講師派遣での支援・協力

11. 高知県立大学の学生による地域活動や調査研究への支援・協力

12. その他

13. とくにおこないたいことはない

### 3. 高知県の地域課題

ここでは、高知県内各地域の地域課題について、(1)生活・健康課題、(2)経済課題、(3)文化課題、(4)教育課題、(5)環境環境に分けて、調査対象団体がどのような課題をかかえているか、または地域課題についてどのように認識しているか、をみる。

#### 3-1) 現在の地域課題

##### (1) 現在の生活・健康課題

現在の生活・健康課題については、表3-01(a)にしめすとおりである。また地域別・団体別の各区分ごとの上位1～10位の課題を、多いものから順に整理したものを表3-01(b)にしめす。

地域課題として全体で多くあげられているのは「12. 交流・楽しみづくり(36%)」「1. 日常生活の移動(35%)」「5. 地域福祉・在宅福祉(33%)」「3. 買い物のしやすさ(29%)」「7. 地域医療(29%)」などで、これらの日常生活の利便性や医療・福祉にかんする課題についてはおおむね3割以上の団体があげている。ついで「11. 食生活・栄養改善・食育推進(21%)」「10. 地域の健康づくり(21%)」などの、食や健康についての課題が比較的多くあげられている。

これを地域別にみると、「12. 交流・楽しみづくり(地域別で26～47%)」については、中部・東部では若干少ないものの、高知市も含めておおむねどの地域でも多くが課題としてあげている。これにたいして「1. 日常生活の移動(高知市19%/高知市以外38～50%)」「3. 買い物のしやすさ(同16%/31～38%)」については、高知市ではこれらの日常生活の利便性をあげるものは比較的少なく、高知市以外ではこれらがもっとも大きな地域課題のひとつと考えられているようである。これらのほか、高知市では「5. 地域福祉・在宅福祉(40%)」「11. 食生活・栄養改善・食育推進(28%)」が他地域より多くなっている。これにたいして高知市以外の地域では、西部・東部・市部・沿岸部で「7. 地域医療(高知市18%/高知市以外のこれらの地域で34～41%)」をあげるものが多い。また西部ではこれにくわえて「5. 地域福祉・在宅福祉(37%)」も他地域より多くあげられている。

団体別でみると、自治体では高知市以外の自治体の認識を反映して、「1. 日常生活の移動(41%)」「3. 買い物のしやすさ(33%)」が多くなっている。公益セクタで多いのは「1. 日常生活の移動(40%)」「12. 交流・楽しみづくり(35%)」であるが、公益セクタに類別されている団体は医療・福祉・栄養・文化などの専門分野に明確にわかれているために、それぞれの関連分野の課題に分散して分布する結果となっている。民間セクタでは「12. 交流・楽しみづくり(46%)」「5. 地域福祉・在宅福祉(42%)」がとくに多くなっており、地域の活性化などを志向するNPO団体や福祉関連のNPO団体が多いことがうかがわれる。

表3-01(a) 地域別・団体別の現在の地域課題(1)生活・健康課題

(複数回答)	0. 全体	地域別								団体別		
		1. 高知市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治体	2. 公益セクタ	3. 民間セクタ
			21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	365	109	99	50	107	141	115	185	71	80	194	91
1. 日常生活の移動	128 35.1	21 19.3	40 40.4	25 50.0	42 39.3	60 42.6	47 40.9	80 43.2	27 38.0	33 41.3	77 39.7	18 19.8
2. 飲料水などの確保	15 4.1	4 3.7	6 6.1	0 0.0	5 4.7	5 3.5	6 5.2	5 2.7	6 8.5	6 7.5	7 3.6	2 2.2
3. 買い物のしやすさ	105 28.8	17 15.6	31 31.3	16 32.0	41 38.3	49 34.8	39 33.9	62 33.5	26 36.6	26 32.5	50 25.8	29 31.9
4. 郵便の利用・非常時の通信	36 9.9	4 3.7	14 14.1	9 18.0	9 8.4	17 12.1	15 13.0	25 13.5	7 9.9	14 17.5	20 10.3	2 2.2
5. 地域福祉・在宅福祉	120 32.9	44 40.4	23 23.2	13 26.0	40 37.4	41 29.1	35 30.4	58 31.4	18 25.4	21 26.3	61 31.4	38 41.8
6. 住環境の整備・バリアフリー化	54 14.8	17 15.6	14 14.1	9 18.0	14 13.1	23 16.3	14 12.2	29 15.7	8 11.3	12 15.0	27 13.9	15 16.5
7. 地域医療	105 28.8	20 18.3	24 24.2	17 34.0	44 41.1	52 36.9	33 28.7	68 36.8	17 23.9	22 27.5	58 29.9	25 27.5
8. 疾病予防・保健活動	39 10.7	15 13.8	7 7.1	3 6.0	14 13.1	14 9.9	10 8.7	18 9.7	6 8.5	6 7.5	23 11.9	10 11.0
9. 地域包括ケア	53 14.5	18 16.5	13 13.1	6 12.0	16 15.0	19 13.5	16 13.9	26 14.1	9 12.7	7 8.8	28 14.4	18 19.8
10. 地域の健康づくり	76 20.8	23 21.1	18 18.2	9 18.0	26 24.3	33 23.4	20 17.4	41 22.2	12 16.9	17 21.3	42 21.6	17 18.7
11. 食生活・栄養改善・食育推進	78 21.4	30 27.5	17 17.2	10 20.0	21 19.6	27 19.1	21 18.3	35 18.9	13 18.3	13 16.3	48 24.7	17 18.7
12. 交流・楽しみづくり	133 36.4	40 36.7	30 30.3	13 26.0	50 46.7	53 37.6	40 34.8	68 36.8	25 35.2	23 28.8	68 35.1	42 46.2
13. その他	56 15.3	19 17.4	24 24.2	5 10.0	8 7.5	14 9.9	23 20.0	19 10.3	18 25.4	10 12.5	33 17.0	13 14.3

[凡例]

1. 日常生活上の移動のしやすさ
2. 飲料水などの水の確保
3. 日用品・食料品などの買い物のしやすさ
4. 日常の郵便の利用のしやすさや、非常時の通信確保
5. 地域福祉や在宅福祉の充実
6. 住環境の整備や、住宅などのバリアフリー化の推進
7. 地域医療の充実
8. 地域の疾病予防・保健活動などの強化
9. 地域包括ケアの推進
10. 地域の健康づくりの推進
11. 健康的な食生活・栄養改善や食育などの推進
12. 地域でのさまざまな交流や楽しみづくり
13. その他

表3-01 (b) 地域別・団体別の現在の地域課題(1)生活・健康課題(1~10位)

[%]

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	
0. 全体		12. 交流 36.4	1. 移動 35.1	5. 福祉 32.9	3. 買物 28.8	7. 医療 28.8	11. 食 21.4	10. 健康 20.8	6. 住環 14.8	9. ケア 14.5	8. 保健 10.7	
地域別	1. 高知市	5. 福祉 40.4	12. 交流 36.7	11. 食 27.5	10. 健康 21.1	1. 移動 19.3	7. 医療 18.3	9. ケア 16.5	3. 買物 15.6	6. 住環 15.6	8. 保健 13.8	
	2. I	21. 中部	1. 移動 40.4	3. 買物 31.3	12. 交流 30.3	7. 医療 24.2	5. 福祉 23.2	10. 健康 18.2	11. 食 17.2	4. 通信 14.1	6. 住環 14.1	9. ケア 13.1
		22. 東部	1. 移動 50.0	7. 医療 34.0	3. 買物 32.0	5. 福祉 26.0	12. 交流 26.0	11. 食 20.0	4. 通信 18.0	6. 住環 18.0	10. 健康 18.0	9. ケア 12.0
		23. 西部	12. 交流 46.7	7. 医療 41.1	1. 移動 39.3	3. 買物 38.3	5. 福祉 37.4	10. 健康 24.3	11. 食 19.6	9. ケア 15.0	6. 住環 13.1	8. 保健 13.1
	3. II	31. 市部	1. 移動 42.6	12. 交流 37.6	7. 医療 36.9	3. 買物 34.8	5. 福祉 29.1	10. 健康 23.4	11. 食 19.1	6. 住環 16.3	9. ケア 13.5	4. 通信 12.1
		32. 郡部	1. 移動 40.9	12. 交流 34.8	3. 買物 33.9	5. 福祉 30.4	7. 医療 28.7	11. 食 18.3	10. 健康 17.4	9. ケア 13.9	4. 通信 13.0	6. 住環 12.2
	4. III	41. 沿岸部	1. 移動 43.2	7. 医療 36.8	12. 交流 36.8	3. 買物 33.5	5. 福祉 31.4	10. 健康 22.2	11. 食 18.9	6. 住環 15.7	9. ケア 14.1	4. 通信 13.5
		42. 山間部	1. 移動 38.0	3. 買物 36.6	12. 交流 35.2	5. 福祉 25.4	7. 医療 23.9	11. 食 18.3	10. 健康 16.9	9. ケア 12.7	6. 住環 11.3	4. 通信 16.9
団体別	1. 自治体	1. 移動 41.3	3. 買物 32.5	12. 交流 28.8	7. 医療 27.5	5. 福祉 26.3	10. 健康 21.3	4. 通信 17.5	11. 食 16.3	6. 住環 15.0	9. ケア 8.8	
	2. 公益セクタ	1. 移動 39.7	12. 交流 35.1	5. 福祉 31.4	7. 医療 29.9	3. 買物 25.8	11. 食 24.7	10. 健康 21.6	9. ケア 14.5	6. 住環 14.4	8. 保健 11.9	
	3. 民間セクタ	12. 交流 46.2	5. 福祉 41.8	3. 買物 31.9	7. 医療 27.5	1. 移動 19.8	9. ケア 19.8	10. 健康 18.7	11. 食 18.7	6. 住環 16.5	8. 保健 11.0	

## [凡例]

表3-01 (a) 参照。

## [註]

- 1) 「13. その他」を除いた順位である。
- 2) 同順位の場合は、項目番号順に記載している。

## (2) 現在の経済課題

現在の経済課題については同様に、地域別および団体別の分布を表3-02(a)に、また地域別・団体別の各区分ごとの上位1～7位の課題を多いものから順に整理したものを表3-02(b)に、それぞれしめす。

地域の経済課題として、全体では「1.雇用確保(72%)」が圧倒的に多くあげられており、ついで「2.地場産業活性化(54%)」が多い。地域によってその比率にはやや大きめの幅があるものの、すべての地域においてこの2項目が地域経済にとっての第1順位・第2順位の最優先課題と認識されている。これらについて、「3.地場製品の製品開発(34%)」「6.地域行事・イベント等(31%)」「4.地場製品の販売・流通確保(29%)」「7.企業等誘致(25%)」をあげるものがそれぞれ3割前後で比較的多い。「5.地場製品の調査・研究(16%)」については全体として2割に満たない低い比率であり、どの地域においても第7位または第6位の下位の課題となっている。経済課題にかんしては、調査・研究よりも具体的な施策・対策などを実施すべき段階にある切実な課題が多いと考えられている。

表3-02(a) 地域別・団体別の現在の地域課題(2)経済課題

(複数回答)	0. 全体	地域別								団体別		
		1. 高知市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治体	2. 公益セクタ	3. 民間セクタ
			21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	341	89	93	51	108	135	117	179	72	74	171	96
1. 雇用確保	246 72.1	61 68.5	55 59.1	41 80.4	89 82.4	96 71.1	89 76.1	134 74.9	50 69.4	50 67.6	130 76.0	66 68.6
2. 地場産業活性化	185 54.3	40 44.9	54 58.1	25 49.0	66 61.1	75 55.6	70 59.8	99 55.3	45 62.5	33 44.6	95 55.6	57 59.4
3. 地場製品の製品開発	116 34.0	16 18.0	40 43.0	18 35.3	42 38.9	53 39.3	47 40.2	69 38.5	30 41.7	27 36.5	50 29.2	39 40.6
4. 地場製品の販売・流通確保	98 28.7	18 20.2	28 30.1	15 29.4	37 34.3	36 26.7	44 37.6	54 30.2	25 34.7	24 32.4	39 40.6	36 37.5
5. 地場製品の調査・研究	54 15.8	8 9.0	20 21.5	7 13.7	19 17.6	22 16.3	24 20.5	31 17.3	15 20.8	14 18.9	18 10.5	22 22.9
6. 地域行事・イベント等	106 31.1	25 28.1	34 36.6	12 23.5	35 32.4	44 32.6	37 31.6	55 30.7	26 36.1	23 31.1	48 28.1	35 36.5
7. 企業等誘致	86 25.2	15 16.9	20 21.5	19 37.3	32 29.6	35 25.9	36 30.8	52 29.1	19 26.4	26 35.1	42 24.6	18 18.8
8. その他	15 4.4	4 4.5	7 7.5	2 3.9	2 1.9	5 3.7	6 5.1	6 3.4	5 6.9	2 2.7	7 4.1	6 6.3

### [凡例]

1. 雇用の確保
2. 地場産業の活性化
3. 地場産品を活用した製品開発
4. 地場産品の販売・流通ルートの確保
5. 地場産品の商品価値等に関する調査・研究
6. 活性化のための地域行事・イベント等の企画・開発
7. 企業等の地元への誘致
8. その他の課題

これを地域別にみると、おおむね高知市ではこれらの課題をあげるものが相対的に少なく、他地域では多い。経済課題にかんしては、高知市以外の地域でとくに課題山積と考えられている。個別の項目でみると、「1. 雇用確保」がとくに多いのは西部(82%)・東部(80%)であり、郡部(76%)・沿岸部(75%)もやや多めである。もっとも少ないのは中部(59%)である。「2. 地場産業活性化」については、高知市(45%)でもっとも少なく、山間部(63%)・西部(61%)・郡部(60%)などで他地域より多くあげられている。「3. 地場産品の製品開発」は、高知市(18%)以外の地域(43~35%)ではいずれもおおむね4割前後があげており、比較的多い。これらについて「6. 地域行事・イベント等」「4. 地場産品の販売・流通確保」「7. 企業等誘致」についても、一部の地域をのぞけば、おおむね3~4割がこれらの課題をあげている。これらの課題をあげる割合が比較的低いのは、「6. 地域行事・イベント等」では東部(24%)、「4. 地場産品の販売・流通確保」では高知市(20%)、「7. 企業等誘致」では高知市(17%)・中部(22%)、である。

これを団体別でみると、団体ごとの課題の順位については比較的類似してはいるが、自治体では「7. 企業等誘致(35%)」が他団体よりかなり多く、公益セクタでは「1. 雇用確保(76%)」「4. 地場産品の販売・流通確保(41%)」が、また民間セクタでは「2. 地場産業活性化(59%)」「3. 地場産品の製品開発(41%)」「6. 地域行事・イベント等(37%)」が、それぞれ他団体より多くなっている。

表3-02(b) 地域別・団体別の現在の地域課題(2) 経済課題(1~7位)

[%]

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	
0. 全体		1. 雇用確保 72.1	2. 地場産業 54.3	3. 製品開発 34.0	6. 地域行事 31.1	4. 販売流通 28.7	7. 企業誘致 25.2	5. 調査研究 15.8	
地域別	1. 高知市	1. 雇用確保 68.5	2. 地場産業 44.9	6. 地域行事 28.1	4. 販売流通 20.2	3. 製品開発 18.0	7. 企業誘致 16.9	5. 調査研究 9.0	
	高知市以外	21. 中部	1. 雇用確保 59.1	2. 地場産業 58.1	3. 製品開発 43.0	6. 地域行事 36.6	4. 販売流通 30.1	5. 調査研究 21.5	7. 企業誘致 21.5
		2. I 22. 東部	1. 雇用確保 80.4	2. 地場産業 49.0	7. 企業誘致 37.3	3. 製品開発 35.3	4. 販売流通 29.4	6. 地域行事 23.5	5. 調査研究 13.7
		23. 西部	1. 雇用確保 82.4	2. 地場産業 61.1	3. 製品開発 38.9	4. 販売流通 34.3	6. 地域行事 32.4	7. 企業誘致 29.6	5. 調査研究 17.6
	3. II 31. 市部	1. 雇用確保 71.1	2. 地場産業 55.6	3. 製品開発 39.3	6. 地域行事 32.6	4. 販売流通 26.7	7. 企業誘致 25.9	5. 調査研究 16.3	
	32. 郡部	1. 雇用確保 76.1	2. 地場産業 59.8	3. 製品開発 40.2	4. 販売流通 37.6	6. 地域行事 31.6	7. 企業誘致 30.8	5. 調査研究 20.5	
	4. III 41. 沿岸部	1. 雇用確保 74.9	2. 地場産業 55.3	3. 製品開発 38.5	6. 地域行事 30.7	4. 販売流通 30.2	7. 企業誘致 29.1	5. 調査研究 17.3	
42. 山間部	1. 雇用確保 69.4	2. 地場産業 62.5	3. 製品開発 41.7	6. 地域行事 36.1	4. 販売流通 34.7	7. 企業誘致 26.4	5. 調査研究 20.8		
団体別	1. 自治体	1. 雇用確保 67.6	2. 地場産業 44.6	3. 製品開発 36.5	7. 企業誘致 35.1	4. 販売流通 32.4	6. 地域行事 31.1	5. 調査研究 18.9	
	2. 公益セクタ	1. 雇用確保 76.0	2. 地場産業 55.6	4. 販売流通 40.6	3. 製品開発 29.2	6. 地域行事 28.1	7. 企業誘致 24.6	5. 調査研究 10.5	
	3. 民間セクタ	1. 雇用確保 68.6	2. 地場産業 59.4	3. 製品開発 40.6	4. 販売流通 37.5	6. 地域行事 36.5	5. 調査研究 22.9	7. 企業誘致 18.8	

[凡例]

表3-02(a)参照。

[註]

- 1)「8. その他」を除いた順位である。
- 2)同順位の場合は、項目番号順に記載している。

### (3) 現在の文化課題

現在の文化課題については、地域別および団体別の分布を表3-03(a)に、また地域別・団体別の各区分ごとの上位1～7位の課題を多いものから順に整理したものを表3-03(b)に、それぞれしめす。

これによれば、もっとも少ない「4. 古い建物・町なみ保存(17%)」を除けば、いずれの項目についてもおおむね2～3割があげている。特段強く認識されている課題はないが、どの項目についてもあるていどは取組むべき課題として認識されているということであろう。また、「1. 文化施設の充実(29%)」「2. 文化施設の企画・開発(26%)」などのハード面の充実より、「7. 文化財・資源等の情報発信(32%)」「5. 生活文化・文化活動の推進(30%)」などのソフト面の取組のほうが、課題としていくぶん強く認識されているようである。

地域別では、「7. 文化財・資源等の情報発信」の必要性をより強く認識しているのは、西部(44%)・山間部(40%)・郡部(36%)などの地域である。これにたいして「1. 文化施設の充実」や「2. 文化施設の企画・開発」については、東部(充実33%/開発31%)・西部(同32%/26%)や市部(32%/32%)・沿岸部(30%/31%)でより多く課題としてあげられている。相対的には、あるていど人口が集積しているところではなお施設面での充実がより必要と考えられており、また過疎地域では施設の充実よりはむしろすでにある文化資源をいかして地域の活性化等につなげるためにも、地域外への情報発信をおこなうことが必要と認識している。

表3-03(a) 地域別・団体別の現在の地域課題(3)文化課題

(複数回答)	0. 全体	地域別								団体別		
		1. 高知市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治体	2. 公益セクタ	3. 民間セクタ
			21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	305	87	84	42	92	113	105	150	68	59	167	79
1. 文化施設の充実	87 28.5	24 27.6	20 23.8	14 33.3	29 31.5	36 31.9	27 25.7	45 30.0	18 26.5	14 23.7	56 33.5	17 21.5
2. 文化施設の企画・開発	80 26.2	23 26.4	20 23.8	13 31.0	24 26.1	36 31.9	21 20.0	47 31.3	10 14.7	11 18.6	43 25.7	26 32.9
3. 文化財・文化資源の発掘・発見	71 23.3	18 20.7	19 22.6	9 21.4	25 27.2	33 29.2	20 19.0	38 25.3	15 22.1	14 23.7	38 22.8	19 24.1
4. 古い建物・町なみ保存	51 16.7	16 18.4	11 13.1	7 16.7	17 18.5	16 14.2	19 18.1	25 16.7	10 14.7	9 15.3	23 13.8	19 24.1
5. 生活文化・文化活動の推進	92 30.2	30 34.5	22 26.2	11 26.2	29 31.5	32 28.3	30 28.6	44 29.3	18 26.5	17 28.8	51 30.5	24 30.4
6. 文化財・資源等の啓蒙・広報	78 25.6	24 27.6	20 23.8	9 21.4	25 27.2	30 26.5	24 22.9	39 26.0	15 22.1	15 25.4	39 23.4	24 30.4
7. 文化財・資源等の情報発信	97 31.8	21 24.1	23 27.4	13 31.0	40 43.5	38 33.6	38 36.2	49 32.7	27 39.7	19 32.2	53 31.7	25 31.6
8. その他	22 7.2	4 4.6	7 8.3	3 7.1	8 8.7	5 4.4	13 12.4	9 6.0	9 13.2	8 13.6	9 5.4	5 6.3

#### [凡例]

1. 既存の文化施設の充実
2. 地域にふさわしい文化施設の企画・開発
3. 文化財・文化資源の発掘・発見や、調査・研究
4. 古い建物・町なみの保存や、歴史的価値等に関する調査・研究
5. 生活文化や文化活動の向上・推進・普及
6. 文化財・文化資源・生活文化等に関する住民などへの啓蒙・広報
7. 文化財・文化資源・生活文化等の地域外への情報発信
8. その他

これを団体別にみると、自治体の場合には「7.文化財・資源等の情報発信(32%)」「5.生活文化・文化活動の推進(29%)」「6.文化財・資源等の啓蒙・広報(25%)」などのソフト面の課題をあげるものが多いが、公益セクタ・民間セクタではこれらの項目(公益セクタ32~23%/民間セクタ32~30%)とならんで「1.文化施設の充実(公益セクタで34%)」や「2.文化施設の企画・開発(民間セクタで33%)」をあげているものも多い。

表3-03(b) 地域別・団体別の現在の地域課題(3)文化課題(1~7位)

[%]

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	
0. 全体		7. 情報発信 31.8	5. 活動推進 30.2	1. 施設充実 28.5	2. 施設開発 26.2	6. 啓蒙広報 25.6	3. 発掘発見 23.3	4. 建物保存 16.7	
地域別	1. 高知市	5. 活動推進 34.5	1. 施設充実 27.6	6. 啓蒙広報 27.6	2. 施設開発 26.4	7. 情報発信 24.1	3. 発掘発見 20.7	4. 建物保存 18.4	
	2. I	21. 中部	7. 情報発信 27.4	5. 活動推進 26.2	1. 施設充実 23.8	2. 施設開発 23.8	6. 啓蒙広報 23.8	3. 発掘発見 22.6	4. 建物保存 13.1
		22. 東部	1. 施設充実 33.3	2. 施設開発 31.0	7. 情報発信 31.0	5. 活動推進 26.2	3. 発掘発見 21.4	6. 啓蒙広報 21.4	4. 建物保存 16.7
		23. 西部	7. 情報発信 43.5	1. 施設充実 31.5	5. 活動推進 31.5	3. 発掘発見 27.2	6. 啓蒙広報 27.2	2. 施設開発 26.1	4. 建物保存 18.5
	3. II	31. 市部	7. 情報発信 33.6	1. 施設充実 31.9	2. 施設開発 31.9	3. 発掘発見 29.2	5. 活動推進 28.3	6. 啓蒙広報 26.5	4. 建物保存 14.2
		32. 郡部	7. 情報発信 36.2	5. 活動推進 28.6	1. 施設充実 25.7	6. 啓蒙広報 22.9	2. 施設開発 20.0	3. 発掘発見 19.0	4. 建物保存 18.1
	4. III	41. 沿岸部	7. 情報発信 32.7	2. 施設開発 31.3	1. 施設充実 30.0	5. 活動推進 29.3	6. 啓蒙広報 26.0	3. 発掘発見 25.3	4. 建物保存 16.7
		42. 山間部	7. 情報発信 39.7	1. 施設充実 26.5	5. 活動推進 26.5	3. 発掘発見 22.1	6. 啓蒙広報 22.1	2. 施設開発 14.7	4. 建物保存 14.7
団体別	1. 自治体	7. 情報発信 32.2	5. 活動推進 28.8	6. 啓蒙広報 25.4	1. 施設充実 23.7	3. 発掘発見 23.7	2. 施設開発 18.6	4. 建物保存 15.3	
	2. 公益セクタ	1. 施設充実 33.5	7. 情報発信 31.7	5. 活動推進 30.5	2. 施設開発 25.7	6. 啓蒙広報 23.4	3. 発掘発見 22.8	4. 建物保存 13.8	
	3. 民間セクタ	2. 施設開発 32.9	7. 情報発信 31.6	5. 活動推進 30.4	6. 啓蒙広報 30.4	3. 発掘発見 24.1	4. 建物保存 24.1	1. 施設充実 21.5	

【凡例】

表3-03(a)参照。

【註】

- 1) 「8. その他」を除いた順位である。
- 2) 同順位の場合は、項目番号順に記載している。



#### (4) 現在の教育課題

現在の教育課題については、地域別および団体別の分布を表3-04(a)に、また地域別・団体別の各区分ごとの上位1～8位の課題を多いものから順に整理したものを表3-04(b)に、それぞれしめす。

これによれば、全体では「8. 地域防災の学習機会(44%)」がもっとも多く、これについて「1. 授業への支援・協力(33%)」「3. 相談・カウンセリング体制(33%)」「2. 教諭への研修(28%)」などの学校教育への支援・協力が比較的多くあげられている。

この傾向は地域別でみてもほぼ同様で、「8. 地域防災の学習機会」がいずれの地域でも第1位(51～35%)にあげられているほか、「1. 授業への支援・協力」や「3. 相談・カウンセリング体制」が第2位～第4位(40～24%)

表3-04(a) 地域別・団体別の現在の地域課題(4)教育課題

(複数回答)	0. 全体	地域別								団体別		
		1. 高知市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治体	2. 公益セクタ	3. 民間セクタ
			21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	349	105	98	45	101	129	115	172	72	65	199	85
1. 授業への支援・協力	114 32.7	34 32.4	28 28.6	13 28.9	39 38.6	47 36.4	33 28.7	61 35.5	19 26.4	19 29.2	78 39.2	17 20.0
2. 教諭への研修	99 28.4	28 26.7	19 19.4	13 28.9	39 38.6	37 28.7	34 29.6	51 29.7	20 27.8	12 18.5	66 33.2	21 24.7
3. 相談・カウンセリング体制	113 32.4	34 32.4	23 23.5	18 40.0	38 37.6	46 35.7	33 28.7	61 35.5	18 25.0	18 27.7	73 36.7	22 25.9
4. 施設・設備支援・協力体制	90 25.8	29 27.6	22 22.4	7 15.6	32 31.7	32 24.8	29 25.2	43 25.0	18 25.0	5 7.7	62 31.2	23 27.1
5. 社会人教育・生涯教育	87 24.9	33 31.4	20 20.4	12 26.7	22 21.8	27 20.9	27 23.5	37 21.5	17 23.6	29 44.6	40 20.1	18 21.2
6. 医療・福祉・健康等の学習機会	66 18.9	22 21.0	17 17.3	10 22.2	17 16.8	22 17.1	22 19.1	29 16.9	15 20.8	9 13.8	35 17.6	22 25.9
7. 文化・住まい・まち・環境等の学習機会	80 22.9	23 21.9	19 19.4	8 17.8	30 29.7	36 27.9	21 18.3	43 25.0	14 19.4	15 23.1	34 17.1	31 36.5
8. 地域防災の学習機会	152 43.6	53 50.5	34 34.7	20 44.4	45 44.6	53 41.1	46 40.0	70 40.7	29 40.3	26 40.0	97 48.7	29 34.1
9. その他	18 5.2	7 6.7	5 5.1	3 6.7	3 3.0	4 3.1	7 6.1	6 3.5	5 6.9	6 9.2	6 3.0	6 7.1

#### [凡例]

1. 授業向上のための地域住民・専門家などの支援・協力の推進
2. 教諭にたいする教育力量向上のための研修内容・研修機会などの充実
3. 相談・カウンセリング体制などの充実
4. 学校内外の施設・設備や支援・協力体制などの充実
5. 社会人教育・生涯教育の充実
6. 医療・福祉・健康等への住民知識・認識向上等のための学習機会充実[学習A]
7. 文化・住まい・まち・環境等への住民知識・認識向上等のための学習機会充実[学習B]
8. 地域防災への住民知識・認識向上等のための学習機会充実
9. その他の課題

にあげられている。具体的な学習課題のうち、「6. 医療・福祉・健康等の学習機会」については東部(22%で6位)以外の地域では7～8位(21～17%)であるが、「7. 文化・住まい・まち・環境等の学習機会」については4～8位(30～18%)とやや幅があり、文化的な資源があるなどの地域の特性などによっては上位にあげられている地域もある。

これを団体別でみると、自治体では「5. 社会人教育・生涯教育(45%)」がもっとも多いが、公益セクタでは「8. 地域防災の学習機会(49%)」が、また民間セクタでは「7. 文化・住まい・まち・環境等の学習機会(37%)」が、それぞれ多くなっている。団体の性格やかかげている活動のテーマなどによって、いわば優先課題(多くあげられている課題)には違いがみられるわけである。第2順位以降の項目についても、「8. 地域防災の学習機会」以外では、自治体や公益セクタでは「1. 授業への支援・協力(自治体29%・第3位/公益セクタ39%・第2位)」「3. 相談・カウンセリング体制(同28%/37%)」が多いが、民間セクタでは「4. 施設・設備支援・協力体制(27%・第3位)」「6. 医療・福祉・健康等の学習機会(26%・第4位)」が多くなっている(ただし、民間セクタについては「3. 相談・カウンセリング体制(26%・第4位)」も同率で第4位)。また自治体と公益セクタについても、学校教育への支援・協力についての認識が共通しているようにみえるが、「2. 教諭への研修(自治体19%・第6位/公益セクタ33%・第4位)」という教師自身への支援・協力については認識の違いがみられる。

表3-04(b) 地域別・団体別の現在の地域課題(4)教育課題(1～8位)

[%]

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	
0. 全体		8. 防災 43.6	1. 授業 32.7	3. 相談 32.4	2. 教諭 28.4	4. 施設 25.8	5. 生涯 24.9	7. 学B 22.9	6. 学A 18.9	
地域別	1. 高知市	8. 防災 50.5	1. 授業 32.4	3. 相談 32.4	5. 生涯 31.4	4. 施設 27.6	2. 教諭 26.7	7. 学B 21.9	6. 学A 21.0	
	2. I	21. 中部	8. 防災 34.7	1. 授業 28.6	3. 相談 23.5	4. 施設 22.4	5. 生涯 20.4	2. 教諭 19.4	7. 学B 19.4	6. 学A 17.3
		22. 東部	8. 防災 44.4	3. 相談 40.0	1. 授業 28.9	2. 教諭 28.9	5. 生涯 26.7	6. 学A 22.2	7. 学B 17.8	4. 施設 15.6
		23. 西部	8. 防災 44.6	1. 授業 38.6	2. 教諭 38.6	3. 相談 37.6	4. 施設 31.7	7. 学B 29.7	5. 生涯 21.8	6. 学A 16.8
	3. II	31. 市部	8. 防災 41.1	1. 授業 36.4	3. 相談 35.7	2. 教諭 28.7	7. 学B 27.9	4. 施設 24.8	5. 生涯 20.9	6. 学A 17.1
		32. 郡部	8. 防災 40.0	2. 教諭 29.6	1. 授業 28.7	3. 相談 28.7	4. 施設 25.2	5. 生涯 23.5	6. 学A 19.1	7. 学B 18.3
	4. III	41. 沿岸部	8. 防災 40.7	1. 授業 35.5	3. 相談 35.5	2. 教諭 29.7	4. 施設 25.0	7. 学B 25.0	5. 生涯 21.5	6. 学A 16.9
		42. 山間部	8. 防災 40.3	2. 教諭 27.8	1. 授業 26.4	3. 相談 25.0	4. 施設 25.0	5. 生涯 23.6	6. 学A 20.8	7. 学B 19.4
団体別	1. 自治体	5. 生涯 44.6	8. 防災 40.0	1. 授業 29.2	3. 相談 27.7	7. 学B 23.1	2. 教諭 18.5	6. 学A 13.8	4. 施設 7.7	
	2. 公益セクタ	8. 防災 48.7	1. 授業 39.2	3. 相談 36.7	2. 教諭 33.2	4. 施設 31.2	5. 生涯 20.1	6. 学A 17.6	7. 学B 17.1	
	3. 民間セクタ	7. 学B 36.5	8. 防災 34.1	4. 施設 27.1	3. 相談 25.9	6. 学A 25.9	2. 教諭 24.7	5. 生涯 21.2	1. 授業 20.0	

[凡例]

表3-04(a)参照。

学A：医療・福祉・健康等への住民知識・認識向上等のための学習機会充実。

学B：文化・住まい・まち・環境等への住民知識・認識向上等のための学習機会充実。

[註]

1)「9. その他」を除いた順位である。

2)同順位の場合は、項目番号順に記載している。

(5) 現在の環境課題

現在の環境課題については、地域別および団体別の分布を表3-05(a)に、また地域別・団体別の各区分ごとの上位1～7位の課題を多いものから順に整理したものを表3-05(b)に、それぞれしめす。

これによれば、全体として突出して多いのは「6. 地震・水害等災害対策(60%)」である。ついで「5. 鳥獣被害対策(30%)」や「3. 地域資源有効活用(25%)」がやや多いものの、これら以外の「1. 自然環境保護対策(21%)」「2. ゴミ処理問題対策(17%)」「7. 環境保護運動推進(11%)」などの環境問題関連の課題をあげるものはそう多くはない。地域に固有の課題が強く認識されているようである。

これを地域別にみると、「6. 地震・水害等災害対策」は高知市(76%)と東部(69%)でとくに多く、中部(42%)・山間部(43%)・郡部(50%)ではそのほかの地域に較べて相対的には少ない。「5. 鳥獣被害対策」は高知市(14%)以外の地域(40～33%)では比較的多く、とくに西部(40%)・山間部(39%)が多くなっている。このほかにも、「4. 中山間地域の道路整備」は中部(30%)・東部(31%)のほか郡部・山間部よりもむしろ市部(36%)・沿

表3-05(a) 地域別・団体別の現在の地域課題(5)環境課題

(複数回答)	0. 全体	地域別								団体別		
		1. 高知市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治体	2. 公益セクタ	3. 民間セクタ
			21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	337	98	88	51	100	122	117	167	72	65	183	89
1. 自然環境保護対策	69 20.5	16 16.3	22 25.0	5 9.8	26 26.0	24 19.7	29 24.8	35 21.0	18 25.0	10 15.4	32 17.5	27 30.3
2. ゴミ処理問題対策	56 16.6	19 19.4	15 17.0	6 11.8	16 16.0	17 13.9	20 17.1	23 13.8	14 19.4	11 16.9	27 14.8	18 20.2
3. 地域資源有効活用	85 25.2	13 13.3	23 26.1	12 23.5	37 37.0	31 25.4	41 35.0	46 27.5	26 36.1	19 29.2	39 21.3	27 30.3
4. 中山間地域の道路整備	74 22.0	7 7.1	26 29.5	16 31.4	25 25.0	40 32.8	27 23.1	49 29.3	18 25.0	18 27.7	41 22.4	15 16.9
5. 鳥獣被害対策	101 30.0	14 14.3	30 34.1	17 33.3	40 40.0	44 36.1	43 36.8	59 35.3	28 38.9	35 53.8	43 23.5	23 25.8
6. 地震・水害等災害対策	203 60.2	74 75.5	37 42.0	35 68.6	57 57.0	71 58.2	58 49.6	98 58.7	31 43.1	37 56.9	128 69.9	38 42.7
7. 環境保護運動推進	36 10.7	8 8.2	11 12.5	2 3.9	15 15.0	12 9.8	16 13.7	17 10.2	11 15.3	7 10.8	14 7.7	15 16.9
8. その他	17 5.0	5 5.1	6 6.8	3 5.9	3 3.0	8 6.6	4 3.4	9 5.4	3 4.2	4 6.2	5 2.7	8 9.0

[凡例]

1. 自然環境保護のための対策
2. ゴミ処理問題への対策
3. 地域資源(木材など)の有効活用
4. 中山間地域の道路整備や補修
5. 鳥獣被害対策
6. 地震・水害などの災害対策
7. 環境保護運動の推進
8. その他の課題

岸部(35%)の方が多くことや、「3. 地域資源有効活用」は西部(37%)・山間部(36%)・郡部(35%)が多いことなど、それぞれの地域特性を反映した課題認識となっている。

これを団体別で見ると、「6. 地震・水害等災害対策」が第1位にあげられている点では共通しているものの、もっとも多い公益セクタ(70%)に較べると、自治体(57%)は13ポイントも少なくなっており、民間セクタ(43%)ではさらにそれより14ポイント少ない。これにたして、自治体では「5. 鳥獣被害対策(54%)」が「6. 地震・水害等災害対策」とほぼ同じくらいにあげられており、自治体にとっての重要課題と認識されているようである。また民間セクタでは、「1. 自然環境保護対策(30%)」「3. 地域資源有効活用(30%)」や「2. ゴミ処理問題対策(20%)」「7. 環境保護運動推進(17%)」などの環境問題関連等の課題が、相対的には多くなっている。環境課題についても、団体種別による課題認識の違いは比較的明確である。

表3-05(b) 地域別・団体別の現在の地域課題(5) 環境課題(1～7位)

[%]

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	
0. 全体		6. 災害対策 60.2	5. 鳥獣対策 30.0	3. 資源活用 25.2	4. 道路整備 22.0	1. 自然保護 20.5	2. ゴミ対策 16.6	7. 環境保護 10.7	
地域別	1. 高知市	6. 災害対策 75.5	2. ゴミ対策 19.4	1. 自然保護 16.3	5. 鳥獣対策 14.3	3. 資源活用 13.3	7. 環境保護 8.2	4. 道路整備 7.1	
	高知市以外	21. 中部	6. 災害対策 42.0	5. 鳥獣対策 34.1	4. 道路整備 29.5	3. 資源活用 26.1	1. 自然保護 25.0	2. ゴミ対策 17.0	7. 環境保護 12.5
		2. I 東部	6. 災害対策 68.6	5. 鳥獣対策 33.3	4. 道路整備 31.4	3. 資源活用 23.5	2. ゴミ対策 11.8	1. 自然保護 9.8	7. 環境保護 3.9
		23. 西部	6. 災害対策 57.0	5. 鳥獣対策 40.0	3. 資源活用 37.0	1. 自然保護 26.0	4. 道路整備 25.0	2. ゴミ対策 16.0	7. 環境保護 15.0
	3. II	31. 市部	6. 災害対策 58.2	5. 鳥獣対策 36.1	4. 道路整備 32.8	3. 資源活用 25.4	1. 自然保護 19.7	2. ゴミ対策 13.9	7. 環境保護 9.8
		32. 郡部	6. 災害対策 49.6	5. 鳥獣対策 36.8	3. 資源活用 35.0	1. 自然保護 24.8	4. 道路整備 23.1	2. ゴミ対策 17.1	7. 環境保護 13.7
	4. III	41. 沿岸部	6. 災害対策 58.7	5. 鳥獣対策 35.3	4. 道路整備 29.3	3. 資源活用 27.5	1. 自然保護 21.0	2. ゴミ対策 13.8	7. 環境保護 10.2
		42. 山間部	6. 災害対策 43.1	5. 鳥獣対策 38.9	3. 資源活用 36.1	1. 自然保護 25.0	4. 道路整備 25.0	2. ゴミ対策 19.4	7. 環境保護 15.3
団体別	1. 自治体	6. 災害対策 56.9	5. 鳥獣対策 53.8	3. 資源活用 29.2	4. 道路整備 27.7	2. ゴミ対策 16.9	1. 自然保護 15.4	7. 環境保護 10.8	
	2. 公益セクタ	6. 災害対策 69.9	5. 鳥獣対策 23.5	4. 道路整備 22.4	3. 資源活用 21.3	1. 自然保護 17.5	2. ゴミ対策 14.8	7. 環境保護 7.7	
	3. 民間セクタ	6. 災害対策 42.7	1. 自然保護 30.3	3. 資源活用 30.3	5. 鳥獣対策 25.8	2. ゴミ対策 20.2	4. 道路整備 16.9	7. 環境保護 16.9	

[凡例]

表3-05(a)参照。

[註]

- 1) 「8. その他」を除いた順位である。
- 2) 同順位の場合は、項目番号順に記載している。

### 3-2) 高知県立大学と連携したい地域課題

ここでは、さまざまな地域課題にかんして、調査対象団体が高知県立大学との連携やその支援・協力等をどの程度希望しているかを、各課題区分ごとにみる。

#### (1) 高知県立大学と連携したい生活・健康課題

高知県立大学と連携等をしたい生活・健康課題について、地域別および団体別の分布を表3-06にしめす。表3-06では、比較のために各団体が認識している現在の生活・健康課題の「0. 全体」のデータも掲載している。全体の有効回答数をみると、現在の課題については365団体が回答しているが、高知県立大学との連携等を希望する課題については271団体が回答している。この[連携希望課題/現状認識課題]の倍率0.74(74%)は、この生活・健康課題にかんする全体としての高知県立大学への期待度ともいえる数値(以下「期待倍率」とする)である。生活・健康課題に回答した団体のうちの74%の団体は、高知県立大学にたいしてこれらの地域課題解決等にかんしてなんらかの期待をしているということである。なお各課題ごとの期待倍率については、実数による倍率(実質期待倍率)と相対度数(%)による倍率(相対期待倍率)を区別して表記している。全体の相対期待倍率は $100.0\%/100.0\%=1.00$ であるので、各課題の相対期待倍率は、全体の実質期待倍率0.74(平均実質期待倍率)にたいして各課題の実質期待倍率がどの程度大きい小さいかをしめす指数となる。このことを課題「1. 日常生活の移動」を例にとって計算方法をしめすと、相対期待倍率は $[10.0\%(連携したい団体の相対度数)/35.1\%(現在の課題と認識している団体の相対度数)]=0.28$ で算出するが、これは $[0.21(実質期待倍率)/0.74(全体の実質期待倍率)]=0.28$ と同一である。すなわち、相対期待倍率が1.00以上であれば、課題全体のなかで高知県立大学への期待度が相対的に高い課題であるということをしめすものである。この数値の大きさは、平均実質倍率(全体の実質期待倍率)にたいして何倍期待が大きい小さいかをしめすものとなっている。

各課題についてみると、各団体が連携等を希望している生活・健康課題で比較的多いのは、「12. 交流・楽しみづくり(相対度数34%。これを期待度数とする)」のほかには、「5. 地域福祉・在宅福祉(同30%)」「11. 食生活・栄養改善・食育推進(27%)」「10. 地域の健康づくり(24%)」「7. 地域医療(20%)」などの福祉・健康・栄養・医療・看護などにかかわる課題である。これらの福祉等にかんする課題の実質期待倍率は0.92~0.52であり、課題認識している団体の半数以上はこれらの課題にかんして高知県立大学に連携等を期待している。とくに「11. 食生活・栄養改善・食育推進(実質期待倍率0.92/相対期待倍率1.24)」「10. 地域の健康づくり(同0.84/1.13)」という食や健康にかんする課題についてはその実質期待倍率からみた期待度が8~9割とかなり高く、平均期待倍率(全体の実質期待倍率)の1.24~1.13倍の期待が寄せられている。

これらのほかにも、「8. 疾病予防・保健活動(期待度数12%/実質期待倍率0.82/相対期待倍率1.10)」と「9. 地域包括ケア(同13%/0.64/0.86)」については、全体のなかでの期待度数(相対度数)は1割ほどでそう大きくはないものの、実質期待倍率でみると有効回答団体の6~8割が期待しており、とくに「8. 疾病予防・保健活動」については相対期待倍率が1倍超となっている。これらの課題は関連分野の団体にとっては高知県立大学への連携等の期待が大きいものであり、上記に述べたような全体としての期待度数の大きい課題とともに、具体的な課題抽出などのきめこまかい対応等が必要と考えられる課題である。

これを地域別にみると、「12. 交流・楽しみづくり(地域別で29~38%)」はおおむねどの地域でも多く、3~4割が高知県立大学との連携等を期待している。これにたいして福祉等の課題にかんしては、地域特性や高知県立大学との連携のしやすさなどを反映しているためか、地域的な違いがやや大きくなっている。具体的には、「5. 地域福祉・在宅福祉」については、高知市(36%)・西部(34%)などが比較的多く、中部(20%)はやや少ない。また「9. 地域包括ケア」についても、高知市(21%)・西部(14%)が相対的には多く、中部(2%)・山間部(6%)などは少ない。「11. 食生活・栄養改善・食育推進」については、高知市(33%)・山間部(29%)が他地域よりいくぶん多いものこれら以外の地域でも22~25%が期待しており、「12. 交流・楽しみづくり」とともにどの地域の期待度数も比較的高いものである。「10. 地域の健康づくり」については、高知市(28%)・市部(25%)・沿岸部(25%)がやや多く、山間部(14%)・郡部(18%)はやや少ない。

「7. 地域医療」については、山間部(10%)・高知市(13%)・中部(15%)ではやや少なく、西部(31%)・沿岸部(28%)・市部(27%)で多くなっている。医療施設・機関などがあるていど整っている高知市やその利用が見込める中部や人口の少ない山間部ではこれらの課題で高知県立大学と連携する必要性をあまり感じていないものと考えられる。これらの地域にたいして、人口があるていど集積しているが医療施設・機関等が充分

ではない高知市以外の市部・沿岸部などでは、高知県立大学との連携に期待している。これにたいして「8. 疾病予防・保健活動」については、高知市(16%)・市部(12%)・中部(12%)が相対的には多く、高知市も含めた都市部などでいくぶん期待されている。

これを団体別でみると、「12. 交流・楽しみづくり(団体別で32~36%)」はどの団体区分でも連携等を期待されている。また「8. 疾病予防・保健活動(団体別で11~13%)」についても、いずれの団体区分でも1割ほどの期待度数であり、ほとんど差はない。これ以外の課題では団体ごとの期待度数に違いがあり、「5. 地域福祉・在宅福祉」「9. 地域包括ケア」では民間セクタ(福祉39%/ケア16%)・公益セクタ(同30%/14%)の期待度数が大きい。「11. 食生活・栄養改善・食育推進」については公益セクタ(33%)の期待度数が大きく、「10. 地域の健康づくり」については自治体(27%)・公益セクタ(25%)の期待度数が、また「7. 地域医療」については民間セクタ(23%)の期待度数が、それぞれ大きくなっている。

表3-06 地域別・団体別の連携したい地域課題(1)生活・健康課題

現在 課題  (複数回答)	高知県立大学と連携したい課題													
	0. 全体 <sup>1)</sup>	0. 全体	期待 倍率 (b/a)	地域別								団体別		
	(a)	(b)		1. 高知 市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治 体	2. 公益 セク タ	3. 民間 セク タ
					21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	365	271	0.74	83	66	37	85	105	83	139	49	59	143	69
1. 日常生活 の移動	128 35.1	27 10.0	0.21 0.28	6 7.2	5 7.6	5 13.5	11 12.9	13 12.4	8 9.6	17 12.2	4 8.2	9 15.3	12 8.4	6 8.7
2. 飲料水など の確保	15 4.1	5 1.8	0.33 0.44	2 2.4	3 4.5	0 0.0	0 0.0	2 1.9	1 1.2	2 1.4	1 2.0	3 5.1	2 1.4	0 0.0
3. 買い物の しやすさ	105 28.8	29 10.7	0.28 0.37	5 6.0	8 12.1	4 10.8	12 14.1	16 15.2	8 9.6	18 12.9	6 12.2	9 15.3	11 7.7	9 13.0
4. 郵便の利用・ 非常時の通信	36 9.9	13 4.8	0.36 0.48	2 2.4	5 7.6	3 8.1	3 3.5	7 6.7	4 4.8	9 6.5	2 4.1	6 10.2	5 3.5	2 2.9
5. 地域福祉・ 在宅福祉	120 32.9	81 29.9	0.68 0.91	30 36.1	13 19.7	9 24.3	29 34.1	26 24.8	25 30.1	37 26.6	14 28.6	11 18.6	43 30.1	27 39.1
6. 住環境の整備・ バリアフリー化	54 14.8	24 8.9	0.44 0.60	9 10.8	7 10.6	1 2.7	7 8.2	9 8.6	6 7.2	11 7.9	4 8.2	2 3.4	14 9.8	8 11.6
7. 地域医療	105 28.8	55 20.3	0.52 0.70	11 13.3	10 15.2	8 21.6	26 30.6	28 26.7	16 19.3	39 28.1	5 10.2	11 18.6	28 19.6	16 23.2
8. 疾病予防・ 保健活動	39 10.7	32 11.8	0.82 1.10	13 15.7	8 12.1	2 5.4	9 10.6	13 12.4	6 7.2	15 10.8	4 8.2	7 11.9	16 11.2	9 13.0
9. 地域包括ケア	53 14.5	34 12.5	0.64 0.86	17 20.5	1 1.5	4 10.8	12 14.1	10 9.5	7 8.4	14 10.1	3 6.1	3 5.1	20 14.0	11 15.9
10. 地域の 健康づくり	76 20.8	64 23.6	0.84 1.13	23 27.7	14 21.2	8 21.6	19 22.4	26 24.8	15 18.1	34 24.5	7 14.3	16 27.1	35 24.5	13 18.8
11. 食生活・栄養改善 ・食育推進	78 21.4	72 26.6	0.92 1.24	27 32.5	16 24.2	8 21.6	21 24.7	24 22.9	21 25.3	31 22.3	14 28.6	12 20.3	47 32.9	13 18.8
12. 交流・ 楽しみづくり	133 36.4	91 33.6	0.68 0.92	29 34.9	19 28.8	11 29.7	32 37.6	36 34.3	26 31.3	47 33.8	15 30.5	21 35.6	45 31.5	25 36.2
13. その他	56 15.3	23 8.5	0.41 0.56	8 9.6	8 12.1	3 8.1	4 4.7	7 6.7	8 9.6	8 5.8	7 14.3	6 10.2	11 7.7	6 8.7

【凡例】

1. 日常生活上の移動のしやすさ
2. 飲料水などの水の確保
3. 日用品・食料品などの買い物のしやすさ
4. 日常の郵便の利用のしやすさや、非常時の通信確保
5. 地域福祉や在宅福祉の充実
6. 住環境の整備や、住宅などのバリアフリー化の推進
7. 地域医療の充実
8. 地域の疾病予防・保健活動などの強化
9. 地域包括ケアの推進
10. 地域の健康づくりの推進
11. 健康的な食生活・栄養改善や食育などの推進
12. 地域でのさまざまな交流や楽しみづくり
13. その他

【註】

1)「現在課題」の「0. 全体」は、表3-01(a)の「0. 全体」の再掲載である。

## (2) 高知県立大学と連携したい経済課題

高知県立大学と連携等をした経済課題について、地域別および団体別の分布を表3-07に示す。これによれば、経済課題全体としての高知県立大学への連携等の実質期待倍率は0.68であり、環境課題の0.66について低い値となっている。

個別の課題ごとに見ると、もっとも期待度数が高いのは「1.雇用確保(期待度数43%)」と「2.地場産業活性化(41%)」であり、これらは生活・健康課題から環境課題までの5つの課題区分をとおしてみたときにも、環境課題の「6.地震・水害等災害対策(同58%)」をのぞけば、もっとも期待度数が高い課題となっている。ただしこの背景には、高知県立大学と連携したい課題としての経済課題への総回答数(総回答数231)そのものが生活・健康課題(同271)や教育課題(272)より少ないために相対度数(期待度数)が高くでやすいことや、「1.雇用確保」や「2.地場産業活性化」という課題が課題全体のなかでも突出して強くかつ広く認識されているためと考えられる。じっさいに実質期待倍率をみるとこれら2課題についてはそれぞれ0.41(相対期待倍率0.60)と0.51(同0.76)であり、食・健康・福祉(0.92~0.64)などの場合に較べるとかなりやや低めである。すなわち、これら2課題にたいする地域全体の課題認識の強さに較べれば、その高知県立大学への連携等の期待度はやや低いということである。

これにたいして、「3.地場産品の製品開発(期待度数36%/実質期待倍率0.72/相対期待倍率1.07)」と「5.地場産品の調査・研究(同19%/0.80/1.18)」については、いずれも実質期待倍率が比較的高いものであり、相対期待倍率はともに1倍超となっている。これらの課題を認識している関連団体においては、その7~8割の団体が高知県立大学との連携等に期待しているということである。このうち「3.地場産品の製品開発」については期待度数も比較的高い。また「5.地場産品の調査・研究」については、期待度数そのものはそう高くないが実質期待倍率は経済課題のなかではもっとも高くなっており、関連団体にとっては高知県立大学との連携等への期待が大きいと考えられる。

これらのほかに、「6.地域行事・イベント等(期待度数27%/実質期待倍率0.59/相対期待倍率0.88)」については、期待度数・期待倍率がともにいくぶん高めめの課題である。

地域別にみると、「1.雇用確保」については西部(期待度数51%)・高知市(同49%)の期待度数が高い。「2.地場産業活性化」については、高知市(31%)以外の地域(51~39%)ではいずれの地域でも比較的高い期待度数が高いが、とくに西部(51%)・山間部(48%)の期待度数が高い。「3.地場産品の製品開発」については、高知市以外の地域(47~39%)ではいずれの地域でも比較的高い期待度数が高く、とくに高いのは中部(47%)・山間部(46%)である。「5.地場産品の調査・研究」については山間部(29%)・郡部(27%)の期待度数が高い。また「6.地域行事・イベント等」については、東部(19%)・高知市(21%)以外の地域(35~28%)での期待度数が高い。

団体別で見ると、自治体では「2.地場産業活性化(47%)」「1.雇用確保(42%)」についての期待度数が高い。公益セクタでは、「1.雇用確保(44%)」「2.地場産業活性化(42%)」について、「3.地場産品の製品開発(37%)」での期待度数も比較的高い。民間セクタでは、「1.雇用確保(42%)」について、「3.地場産品の製品開発(38%)」「2.地場産業活性化(37%)」での期待度数が高い。いずれの団体区分でも、順位に若干の違いはあるが、これらの3課題が高知県立大学との連携等を期待する課題の上位を占めている。これらの課題について、「6.地域行事・イベント等」については民間セクタ(32%)・公益セクタ(26%)の期待度数が比較的高く、「5.地場産品の調査・研究」については自治体(24%)・民間セクタ(23%)の期待度数が比較的高い。



表3-07 地域別・団体別の連携したい地域課題(2)経済課題

現在 課題  (複数回答)	高知県立大学と連携したい課題													
	0. 全体 <sub>1)</sub>	0. 全体	期待 倍率  (b/a)	地域別								団体別		
	(a)	(b)		1. 高知 市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治 体	2. 公益 セク タ	3. 民間 セク タ
					21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	341	231	0.68	61	60	36	74	92	78	121	48	45	115	71
1. 雇用 確保	246 72.1	100 43.3	0.41 0.60	30 49.2	18 30.0	14 38.9	38 51.4	39 42.4	31 39.7	52 43.0	18 37.5	19 42.2	51 44.3	30 42.3
2. 地場産業 活性化	185 54.3	95 41.1	0.51 0.76	19 31.1	24 40.0	14 38.9	38 51.4	41 44.6	35 44.9	53 43.8	23 47.9	21 46.7	48 41.7	26 36.6
3. 地場製品の 製品開発	116 34.0	84 36.4	0.72 1.07	13 21.3	28 46.7	14 38.9	29 39.2	39 42.4	32 41.0	48 39.7	22 45.8	14 31.1	43 37.4	27 38.0
4. 地場製品の 販売・流通確保	98 28.7	34 14.7	0.35 0.51	2 3.3	10 16.7	4 11.1	18 24.3	14 15.2	18 23.1	18 14.9	14 29.2	5 11.1	16 13.9	13 18.3
5. 地場製品の 調査・研究	54 15.8	43 18.6	0.80 1.18	5 8.2	13 21.7	8 22.2	17 23.0	17 18.5	21 26.9	24 19.8	14 29.2	11 24.4	16 13.9	16 22.5
6. 地域行事・ イベント等	106 31.1	63 27.3	0.59 0.88	13 21.3	21 35.0	7 19.4	22 29.7	28 30.4	22 28.2	35 28.9	15 31.3	10 22.2	30 26.1	23 32.4
7. 企業等 誘致	86 25.2	28 12.1	0.33 0.48	6 9.8	6 10.0	3 8.3	13 17.7	13 14.1	9 11.5	18 14.9	4 8.3	8 17.8	15 13.0	5 7.0
8. その他	15 4.4	5 2.2	0.33 0.50	1 1.6	2 3.3	1 2.8	1 1.4	1 1.1	3 3.8	2 1.7	2 4.2	2 4.4	2 1.7	1 1.4

[凡例]

1. 雇用の確保
2. 地場産業の活性化
3. 地場産品を活用した製品開発
4. 地場産品の販売・流通ルート確保
5. 地場産品の商品価値等に関する調査・研究
6. 活性化のための地域行事・イベント等の企画・開発
7. 企業等の地元への誘致
8. その他の課題

[註]

1)「現在課題」の「0.全体」は、表3-02(a)の「0.全体」の再掲載である。

### (3) 高知県立大学と連携したい文化課題

高知県立大学と連携等をした文化課題について、地域別および団体別の分布を表3-08に示す。これによれば、文化課題全体としての高知県立大学への連携等の実質期待倍率は0.69であり、経済課題についてやや低い値となっている。

個別の文化課題についてみると、もっとも期待度数の高いのは「5.生活文化・文化活動の推進(期待度数29%)」であるが、その実質期待倍率は0.67(相対期待倍率は0.97)である。これにたいして「3.文化財・文化資源の発掘・発見(同24%/0.70/1.02)」と「4.古い建物・町なみ保存(期待度数18%/実質期待倍率0.73/相対期待倍率1.05)」については、実質期待倍率が0.70以上で比較的高い値であり、相対期待倍数は1倍超となっている。「3.文化財・文化資源の発掘・発見」については期待度数も比較的高めであり、関連団体における高知県立大学との連携等の期待も比較的高い。また「4.古い建物・町なみ保存」については期待度数はやや低めであるが、実質期待倍率・相対期待倍率はともに文化課題でもっとも高くなっており、関連団体における期待は大きいといえよう。これら以外の文化課題については期待度数26~22%・実質期待倍率は0.60~0.54となっており、文化課題にかんしてはどの課題についても、高知県立大学との連携等にたいして関連団体等からは実質期待倍率でみると5割以上の期待が寄せられていることになる。

地域別にみると、「5.生活文化・文化活動の推進」についての期待度数がもっとも高いのは高知市(期待度数37%)であり、高知市以外の地域(同25~29%)ではいずれも別の課題での期待度数の方が高い値となっている。すなわち、高知市以外での期待度数が高いのは「7.文化財・資源等の情報発信」についてであり、とくに山間部(33%)・中部(33%)・郡部(32%)・西部(32%)ではこの課題の期待度数が各地域でもっとも高くなっている。これら以外の地域のうち、東部では「2.文化施設の企画・開発(26%)」と「5.生活文化・文化活動の推進(26%)」が同比率でもっとも期待度数が高い課題であり、市部では「3.文化財・文化資源の発掘・発見(29%)」の期待度数がもっとも高い課題である。また沿岸部では、「1.文化施設の充実(27%)」「3.文化財・文化資源の発掘・発見(27%)」「7.文化財・資源等の情報発信(27%)」の3つの課題の期待度数が同比率でもっとも高い。地域ごとの文化施設や文化資源の状況の違いなどによって、高知県立大学との連携等を期待する課題も異なっているものと考えられる。

団体別でみると、自治体では「3.文化財・文化資源の発掘・発見(34%)」の期待度数がもっとも高く、ついで「5.生活文化・文化活動の推進(29%)」の期待度数が高い。公益セクタでは、「5.生活文化・文化活動の推進(29%)」の期待度数が高い。また民間セクタでは、「5.生活文化・文化活動の推進(28%)」「6.文化財・資源等の啓蒙・広報(28%)」「7.文化財・資源等の情報発信(28%)」の3つの課題での期待度数が同一比率でもっとも高い。地域の事情や団体の性格などによって高知県立大学に期待する課題はそれぞれ異なっている。

表3-08 地域別・団体別の連携したい地域課題(3)文化課題

現在 課題  (複数回答)	高知県立大学と連携したい課題													
	0. 全体 <sub>b</sub>	0. 全体	期待 倍率 (b/a)	地域別								団体別		
	(a)	(b)		1. 高知 市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治 体	2. 公益 セク タ	3. 民間 セク タ
					21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	305	211	0.69	62	52	31	66	80	69	107	42	41	117	53
1. 文化施設の 充実	87 28.5	47 22.3	0.54 0.78	8 12.9	16 30.8	5 16.1	18 27.3	25 31.3	14 20.3	29 27.1	10 23.8	10 24.4	28 23.9	9 17.0
2. 文化施設の 企画・開発	80 26.2	46 21.8	0.58 0.83	13 21.0	10 19.2	8 25.8	15 22.7	20 25.0	13 18.8	27 25.2	6 14.3	6 14.6	27 23.1	13 24.5
3. 文化財・文化資源 の発掘・発見	71 23.3	50 23.7	0.70 1.02	13 21.0	12 23.1	6 19.4	19 28.8	23 28.8	14 20.3	29 27.1	8 19.0	14 34.1	28 23.9	8 15.1
4. 古い建物・ 町なみ保存	51 16.7	37 17.5	0.73 1.05	10 16.1	5 9.6	7 22.6	15 22.7	15 18.8	12 17.4	21 19.6	6 14.3	9 22.0	17 14.5	11 20.8
5. 生活文化・ 文化活動の推進	92 30.2	62 29.4	0.67 0.97	23 37.1	13 25.0	8 25.8	18 27.3	22 27.5	17 24.6	27 25.2	12 28.6	12 29.3	35 29.9	15 28.3
6. 文化財・資源等の 啓蒙・広報	78 25.6	47 22.3	0.60 0.87	16 25.8	11 21.2	4 12.9	16 24.2	18 22.5	13 18.8	22 20.6	9 21.4	5 12.2	27 23.1	15 28.3
7. 文化財・資源等の 情報発信	97 31.8	54 25.6	0.56 0.80	11 17.7	17 32.7	5 16.1	21 31.8	21 26.3	22 31.9	29 27.1	14 33.3	10 24.4	29 24.8	15 28.3
8. その他	22 7.2	8 3.8	0.36 0.53	2 3.2	2 3.8	3 9.7	1 1.5	0 0.0	6 8.7	2 1.9	4 9.5	3 7.3	4 3.4	1 1.9

## 【凡例】

1. 既存の文化施設の充実
2. 地域にふさわしい文化施設の企画・開発
3. 文化財・文化資源の発掘・発見や、調査・研究
4. 古い建物・町なみの保存や、歴史的価値等に関する調査・研究
5. 生活文化や文化活動の向上・推進・普及
6. 文化財・文化資源・生活文化等に関する住民などへの啓蒙・広報
7. 文化財・文化資源・生活文化等の地域外への情報発信
8. その他

## 【註】

- 1) 「現在課題」の「0. 全体」は、表3-03(a)の「0. 全体」の再掲載である。

#### (4) 高知県立大学と連携したい教育課題

高知県立大学と連携等をした文化課題について、地域別および団体別の分布を表3-09に示します。これによれば、教育課題全体としての高知県立大学への連携等の実質期待倍率は0.78であり、5つの課題区分のなかでもっとも高い値となっている。全回答者349団体のうちおよそ8割の団体が、高知県立大学にたいして教育課題でのなんらかの連携等を期待している。

とくに期待度数の高い課題は「1. 授業への支援・協力(36%)」「8. 地域防災の学習機会(33%)」である。このうち「1. 授業への支援・協力」についてはその実質期待倍率も0.85(相対期待倍率は1.09)とかなり高く、これを課題と認識している団体の多くが高知県立大学に連携等の期待を寄せている。これにたいして、「8. 地域防災の学習機会」については、期待度数は高いものの実質期待倍率は0.59であり、教育課題のなかでは比較的低い期待倍率である。このこと背景には、「8. 地域防災の学習機会」を課題と認識している団体が全県的にきわめて多いこと、そのうちの相対的に多数の団体が「地域防災学習」というニーズにたいして高知県立大学が充分には応えられないのではないかと判断した可能性があること、当該団体の立地条件などの高知県立大学との連携等のしやすさなどを考慮したこと、などのために高知県立大学への期待倍率がやや低めになったものと考えられる。

このほか、「4. 施設・設備支援・協力体制(期待度数17%/実質期待倍率0.51)」については期待度数・実質期待倍率ともやや低めであるが、これ以外の教育課題についてはいずれの課題でも実質期待倍率が0.71~0.78と比較的高く、これらの教育課題を認識している団体の高知県立大学への期待は大きい。「3. 相談・カウンセリング体制(同29%/0.71)」「2. 教諭への研修(27%/0.75)」などのほか、個別の学習課題である「7. 文化・住まい・まち・環境等の学習機会(22%/0.75)」「6. 医療・福祉・健康等の学習機会(18%/0.74)」についても実質期待倍率は高く、学校教育全般への強い期待がうかがわれる。また「5. 社会人教育・生涯教育(17%/0.78)」についても、期待度数は教育課題のなかでもっとも低い、実質期待倍率は「1. 授業への支援・協力」について高く、関連団体における期待は大きい。

これを地域別にみると、高知市では「1. 授業への支援・協力(期待度数36%)」「8. 地域防災の学習機会(同36%)」の期待度数がもっとも高く、これらの課題以外にも、「7. 文化・住まい・まち・環境等の学習機会(17%)」がやや低いほかは、いずれも教育課題でも2~3割の期待度数があり、教育課題全般への期待が大きい。中部でも「1. 授業への支援・協力(31%)」「8. 地域防災の学習機会(28%)」の期待度数が高いが、これら以外の課題については期待度数はあまり高いとはいえない。東部では「3. 相談・カウンセリング体制(33%)」「1. 授業への支援・協力(30%)」の期待度数が高い。西部では「1. 授業への支援・協力(43%)」が4割をこえているほか、「2. 教諭への研修(40%)」「8. 地域防災の学習機会(37%)」「3. 相談・カウンセリング体制(34%)」など、多くの課題で3~4割の高い期待度数をしめしている。

市部・沿岸部では、「1. 授業への支援・協力(市部37%/沿岸部37%)」「8. 地域防災の学習機会(同33%/31%)」「3. 相談・カウンセリング体制(32%/30%)」「2. 教諭への研修(30%/30%)」などの期待度数が高い。郡部・山間部では、「1. 授業への支援・協力(郡部34%/山間部33%)」「8. 地域防災の学習機会(同30%/33%)」「5. 社会人教育・生涯教育(26%/29%)」などの期待度数が高い。

団体別にみると、自治体では「5. 社会人教育・生涯教育(44%)」「1. 授業への支援・協力(38%)」「7. 文化・住まい・まち・環境等の学習機会(33%)」などの期待度数が高い。公益セクタでは「1. 授業への支援・協力(40%)」「8. 地域防災の学習機会(37%)」「2. 教諭への研修(34%)」「3. 相談・カウンセリング体制(34%)」の期待度数が高い。民間セクタでは「7. 文化・住まい・まち・環境等の学習機会(38%)」の期待度数が高く、ついで「5. 社会人教育・生涯教育(26%)」「6. 医療・福祉・健康等の学習機会(26%)」の期待度数が比較的高めであるが、自治体・公益セクタに較べると教育課題かんしては高知県立大学への期待度はやや低めである。

表3-09 地域別・団体別の連携したい地域課題(4)教育課題

(複数回答)	現在課題		高知県立大学と連携したい課題											
	0. 全体 <sub>1)</sub>	0. 全体	期待倍率	地域別								団体別		
				1. 高知市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治体	2. 公益セクタ	3. 民間セクタ
					21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	349	272	0.78	84	72	40	76	100	88	136	52	48	166	58
1. 授業への支援・協力	114 32.7	97 35.7	0.85 1.09	30 35.7	22 30.6	12 30.0	33 43.4	37 37.0	30 34.1	50 36.8	17 32.7	18 37.5	67 40.4	12 20.7
2. 教諭への研修	99 28.4	74 27.2	0.75 0.96	21 25.0	13 18.1	10 25.0	30 39.5	30 30.0	23 26.1	41 30.1	12 23.1	6 12.5	57 34.3	11 19.0
3. 相談・カウンセリング体制	113 32.4	80 29.4	0.71 0.91	25 29.8	16 22.2	13 32.5	26 34.2	32 32.0	23 26.1	41 30.1	14 26.9	11 22.9	56 33.7	13 22.4
4. 施設・設備支援・協力体制	90 25.8	46 16.9	0.51 0.66	17 20.2	11 15.3	3 7.5	15 19.7	19 19.0	10 11.4	24 17.6	5 9.6	2 4.2	34 20.5	10 17.2
5. 社会人教育・生涯教育	87 24.9	68 25.0	0.78 1.00	24 28.6	15 20.8	8 20.0	21 27.6	21 21.0	23 26.1	29 21.3	15 28.8	21 43.8	32 19.3	15 25.9
6. 医療・福祉・健康等の学習機会	66 18.9	49 18.0	0.74 0.95	18 21.4	10 13.9	8 20.0	13 17.1	18 18.0	13 14.8	25 18.4	6 11.5	8 16.7	26 15.7	15 25.9
7. 文化・住まい・まち・環境等の学習機会	80 22.9	59 21.7	0.74 0.95	14 16.7	15 20.8	9 22.5	21 27.6	25 25.0	20 22.7	33 24.3	12 23.1	16 33.3	21 12.7	22 37.9
8. 地域防災の学習機会	152 43.6	89 32.7	0.59 0.75	30 35.7	20 27.8	11 27.5	28 36.8	33 33.0	26 29.5	42 30.9	17 32.7	14 29.2	61 36.7	14 24.1
9. その他	18 5.2	14 5.1	0.78 0.98	5 6.0	5 6.9	0 0.0	4 5.3	3 3.0	6 6.8	6 4.4	3 5.8	4 8.3	8 4.8	2 3.4

## [凡例]

1. 授業向上のための地域住民・専門家などの支援・協力の推進
2. 教諭にたいする教育力量向上のための研修内容・研修機会などの充実
3. 相談・カウンセリング体制などの充実
4. 学校内外の施設・設備や支援・協力体制などの充実
5. 社会人教育・生涯教育の充実
6. 医療・福祉・健康等への住民知識・認識向上等のための学習機会充実
7. 文化・住まい・まち・環境等への住民知識・認識向上等のための学習機会充実
8. 地域防災への住民知識・認識向上等のための学習機会充実
9. その他の課題

## [註]

1)「現在課題」の「0. 全体」は、表3-04(a)の「0. 全体」の再掲載である。

## (5) 高知県立大学と連携したい環境課題

高知県立大学と連携等をした環境化課題について、地域別および団体別の分布を表3-10に示す。これによれば、環境課題全体としての高知県立大学への連携等の実質期待倍率は0.66であり、5つの課題区分のなかでもっとも低い値となっている。

もっとも期待度数が高いのは「6. 地震・水害等災害対策(58%)」であり、これは5つの課題区分の全課題をとおしてもっとも期待度数の高い課題である。この実質期待倍率は0.64でそう高い値ではないが、全県的にひじょうに多くの団体がこれを地域課題と認識しているなかでは比較的高い実質期待倍率であるともいえよう。これ以外の課題については期待度数はおおむね1～2割をいどでそう高くはない。しかし「7. 環境保護運動推進(期待度数13%/実質期待倍率0.81/相対期待倍率1.22)」については、期待度数は1割ほどだが、実質期待倍率は0.81で環境課題のなかではもっとも高い。

これを地域別にみると、高知市では「6. 地震・水害等災害対策(71%)」の期待度数が突出して高く、これ以外の課題の期待度数はいずれも2割に満たない。郡部・山間部以外の地域でも、ていどの差はあるものの、「6. 地震・水害等災害対策(高知市・郡部・山間部以外の地域で63～45%)」の期待度数がきわめて高く、これ以外の課題の期待度数は最大でも31%であり、多くの課題は1～2割前後の期待度数である。これにたいして郡部・山間部では、「6. 地震・水害等災害対策(郡部41%/山間部40%)」の期待度数がもっとも高いものの4割ほどで他地域よりは低く、いっぽう「3. 地域資源有効活用(同36%/35%)」「5. 鳥獣被害対策(32%/35%)」の期待度数は他地域より高くなっている。

これを団体別でみると、自治体では「5. 鳥獣被害対策(48%)」の期待度数がもっとも高く、ついで「6. 地震・水害等災害対策(36%)」の期待度数が高い。公益セクタでは「6. 地震・水害等災害対策(71%)」の期待度数がきわめて高く、これ以外の課題の期待度数はすべて2割未満である。民間セクタでは、「6. 地震・水害等災害対策(47%)」の期待度数がもっとも高いが公益セクタほどではなく、このほかにも「1. 自然環境保護対策(31%)」の期待度数が比較的高くなっている。

表3-10 地域別・団体別の連携したい地域課題(5)環境課題

現在 課題  (複数回答)	高知県立大学と連携したい課題													
	0. 全体 <sub>b</sub>	0. 全体	期待 倍率 (b/a)	地域別								団体別		
	(a)	(b)		1. 高知 市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治 体	2. 公益 セク タ	3. 民間 セク タ
					21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	337	222	0.66	68	53	33	68	81	73	111	43	44	123	55
1. 自然環境 保護対策	69 20.5	43 19.4	0.62 0.95	8 11.8	15 28.3	3 9.1	17 25.0	18 22.2	17 23.3	25 22.5	10 23.3	9 20.5	17 13.8	17 30.9
2. ゴミ処理 問題対策	56 16.6	29 13.1	0.52 0.79	8 11.8	9 17.0	2 6.1	10 14.7	11 13.6	10 13.7	14 12.6	7 16.3	7 15.9	14 11.4	8 14.5
3. 地域資源 有効活用	85 25.2	46 20.7	0.54 0.82	5 7.4	12 22.6	8 24.2	21 30.9	15 18.5	26 35.6	26 23.4	15 34.9	12 27.3	21 17.1	13 23.6
4. 中山間地域の 道路整備	74 22.0	34 15.3	0.46 0.70	3 4.4	13 24.5	5 15.2	13 19.1	18 22.2	13 17.8	21 18.9	10 23.3	12 27.3	17 13.8	5 9.1
5. 鳥獣被害 対策	101 30.0	50 22.5	0.50 0.75	11 16.2	14 26.4	8 24.2	17 25.0	16 19.8	23 31.5	24 21.6	15 34.9	21 47.7	19 15.4	10 18.2
6. 地震・水害等 災害対策	203 60.2	129 58.1	0.64 0.97	48 70.6	24 45.3	17 51.5	40 58.8	51 63.0	30 41.1	64 57.7	17 39.5	16 36.4	87 70.7	26 47.3
7. 環境保護 運動推進	36 10.7	29 13.1	0.81 1.22	7 10.3	8 15.1	1 3.0	13 19.1	12 14.8	10 13.7	17 15.3	5 11.6	6 13.6	13 10.6	10 18.2
8. その他	17 5.0	13 5.9	0.76 1.18	4 5.9	2 3.8	3 9.1	4 5.9	4 4.9	5 6.8	6 5.4	3 7.0	6 13.6	3 2.4	4 7.3

[凡例]

1. 自然環境保護のための対策
2. ゴミ処理問題への対策
3. 地域資源(木材など)の有効活用
4. 中山間地域の道路整備や補修
5. 鳥獣被害対策
6. 地震・水害などの災害対策
7. 環境保護運動の推進
8. その他の課題

[註]

1)「現在課題」の「0.全体」は、表3-05(a)の「0.全体」の再掲載である。

## 4. 高知県立大学への要望と期待度

### (1) 高知県立大学から得たい連携・支援・協力

調査対象団体が高知県立大学から得たいと要望している連携・支援・協力などの内容を表4-01に示す。有効回答総数432団体のうちの308団体(71.3%)がなんらかの具体的な要望があると回答している。

これによれば、とくに要望が多いのは「6. 学生・大学院生の協力(54%)」と「3. 教員・職員の派遣(53%)」である。いずれも全体の5割をこえる団体が要望されており、なんらかの人的な支援・協力等がもっとも望まれている。とくに学生・院生への期待は教職員への期待を若干うわまわるほどであり、第Ⅲ部の各団体からの具体的な要望内容の総括のところでも述べているが、学生・院生自身の認識向上等のためにも、これらの期待に応えるようななんらかの具体的な仕組の創出が課題となる。

これらの要望について多いのは「1. 調査・研究(31%)」「2. 企画・開発立案(29%)」で、それぞれ全体の3割ほどが要望している。地域課題の解決にむけた調査・研究などの、より地域課題に関連した調査・研究をおこないやすいような学内体制の構築なども必要となると考えられる。「5. 図書・視聴覚資料の利用(10%)」や「4. 実験設備・施設の使用(8%)」については1割ほどで少数ではあるが、高知県立大学へのアクセスがしやすい団体などでは具体的な要望等もだされている。「5. 図書・視聴覚資料の利用」については、学生の教育や調査・研究等に支障をきたさない範囲で開放できる仕組をつくらせたり、「4. 実験設備・施設の使用」については地域課題での共同研究などの推進によって可能とするなどの、大学側の体制整備などが考えられる。

これを地域別でみると、「6. 学生・大学院生の協力(地域別で55~51%)」についてはいずれの地域でも5割超の要望があり、全県的に等しく要望・期待されている。「3. 教員・職員の派遣」については、もっとも少ない中部(45%)でも4割をこえており、中部以外の地域(63~52%)ではすべて5割超である。とくに多いのは西部(63%)で、6割をこえる要望がある。「1. 調査・研究」と「2. 企画・開発立案」については、高知市(調査・研究27%/企画・開発19%)と東部(同27%/24%)の要望がやや少なく、これら以外の地域ではいずれも3~4割ほどの要望がだされている。とくに要望が多いのは西部(35%/41%)である。調査・研究や企画・開発に必要な人材・施設・設備などの資源が充分ではないと考えられる地域などでの要望が多くなっている。またこれらの項目についても、具体的な要望の内容でみると、学生や院生の自由な発想や若い活力などがほしいというものが少なくないようである(詳細については、第Ⅲ参照)。「5. 図書・視聴覚資料の利用」については、地理的に近接している高知市(12%)や比較的アクセスしやすい市部(12%)ではやや多めだが、他地域でも7~11%ほどが要望しており、遠隔地でも利用しやすい仕組づくりが必要となる場合も考えられる。「4. 実験設備・施設の使用」については高知市(12%)のみが1割超でやや多めだが、他地域ではいずれも数件ずつの要望にとどまっている。

これを団体別にみると、自治体では「3. 教員・職員の派遣(48%)」「6. 学生・大学院生の協力(40%)」とならんで、「1. 調査・研究(42%)」「2. 企画・開発立案(40%)」もほぼ同程度の要望がでている。とくに高知市以外の地域の自治体ではこれらの項目についての要望が強い。公益セクタでは「3. 教員・職員の派遣(67%)」がきわめて多く、ついで「6. 学生・大学院生の協力(57%)」も多い。公益セクタでは人的な支援・協力をもっとも求めている。民間セクタでは「6. 学生・大学院生の協力(59%)」がもっとも多く、人的支援・協力にかんしては教職員(「3. 教員・職員の派遣」はわずか21%)よりも、はるかに多く学生・院生に期待している。民間セクタではこれについて「1. 調査・研究(44%)」「2. 企画・開発立案(35%)」が比較的多くなっており、民間セクタの場合には、教職員にたいしては調査・研究や企画・開発立案などでの貢献をより多く要望している。



表4-01 地域別・団体別の高知県立大学から得たい連携・支援・協力などの内容

(複数回答)	0. 全体	地域別								団体別		
		1. 高知市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治体	2. 公益セクタ	3. 民間セクタ
			21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	308	101	85	41	81	106	101	146	60	60	180	68
1. 調査・研究	94 30.5	27 26.7	28 32.9	11 26.8	28 34.6	35 33.0	32 31.7	47 32.2	20 33.3	25 41.7	39 21.7	30 44.1
2. 企画・開発立案	88 28.6	19 18.8	26 30.6	10 24.4	33 40.7	37 34.9	32 31.7	50 34.2	18 30.0	24 40.0	40 22.2	24 35.3
3. 教員・職員の派遣	163 52.9	52 51.5	38 44.7	22 53.7	51 63.0	56 52.8	55 54.5	78 53.4	32 53.3	29 48.3	120 66.7	14 20.6
4. 実験設備・施設の使用	25 8.1	12 11.9	6 7.1	4 9.8	3 3.7	9 8.5	4 4.0	9 6.2	3 5.0	5 8.3	12 6.7	8 11.8
5. 図書・視聴覚資料の利用	32 10.4	12 11.9	9 10.6	4 9.8	7 8.6	13 12.3	7 6.9	15 10.3	5 8.3	6 10.0	20 11.1	6 8.8
6. 学生・大学院生の協力	166 53.9	55 54.5	46 54.1	21 51.2	44 54.3	57 53.8	54 53.5	77 52.7	33 55.0	24 40.0	102 56.7	40 58.8
7. その他	11 3.6	4 4.0	3 3.5	2 4.9	2 2.5	2 1.9	5 5.0	3 2.1	4 6.7	2 3.3	5 2.8	4 5.9

[凡例]

1. 調査・研究などの実施
2. 企画・開発案などの立案
3. 教員・職員の派遣
4. 実験設備・施設などの使用
5. 図書・視聴覚資料などの利用
6. 学生・大学院生の協力
7. その他の機能・資源

## (2) 高知県立大学への期待度

高知県内各地域の地域課題の解決等にかんして高知県立大学にどのくらい期待しているかを5段階評価で聞いた結果を表4-02に示す。5段階評価のうち「4.期待していない(全体で7ケース/1.8%)」「5.まったく期待していない(同2ケース/0.5%)」はごく少数なので、地域別・団体別の集計結果は3段階で表示している。

これによれば期待している(「1.ひじょうに期待している(22%)」と「2.期待している(60%)」の合計)というものは全体では8割ほどで、このうち「ひじょうに期待している」というものが2割ほどである。地域別では、「ひじょうに期待している」というものが3割近いなど、高知市(期待している全体で85%/ひじょうに期待している27%)での期待度が他地域よりやや高めである。山間部(同88%/17%)や郡部(88%/15%)では、期待しているもの全体では9割近くあって期待度は高いようにみえるが、「ひじょうに期待している」というものは高知市に較べると10ポイント以上少ない。あるていど期待はしているものの、それほど強い期待はもっていない、ということかもしれない。市部(72%/23%)では、期待しているもの全体ではもっとも少ないが、「ひじょうに期待している」というものは高知市について多くなっている。「ひじょうに期待している」というものがもっとも少ないのは東部(78%/11%)であり、わずか1割ほどである。

これを団体別でみると、期待しているもの全体では公益セクタ(同84%/21%)と自治体(83%/18%)が多いが、「ひじょうに期待している」というものでは民間セクタ(76%/25%)がもっとも多い。地域の立地や団体の事情などによって、高知県立大学への期待度は錯綜しているようである。

表4-02 地域別・団体別の高知県立大学への期待度

	0. 全体	地域別								団体別		
		1. 高知市	1. 区分Ⅰ			2. 区分Ⅱ		3. 区分Ⅲ		1. 自治体	2. 公益セクタ	3. 民間セクタ
			21. 中部	22. 東部	23. 西部	31. 市部	32. 郡部	41. 沿岸	42. 山間			
0. 総数	383	124	103	55	101	137	122	182	76	76	201	106
1.+2. 期待している	311 81.2	105 84.7	83 80.6	43 78.2	80 79.2	99 72.3	107 87.7	138 75.8	67 88.2	63 82.9	168 83.6	80 75.5
1. ひじょうに期待している	83 21.7	34 27.4	21 20.4	6 10.9	22 21.8	31 22.6	18 14.8	36 19.8	13 17.1	14 18.4	43 21.4	26 24.5
2. 期待している	228 59.5	71 57.3	62 60.2	37 67.3	58 57.4	68 49.6	89 73.0	102 56.0	54 71.1	49 64.5	125 62.2	54 50.9
3. 非・期待している	72 18.8	19 15.3	20 19.4	12 21.8	21 20.8	38 27.7	15 12.3	44 24.2	9 11.8	13 17.1	33 16.4	26 24.5

### [註]

1) 調査時点の選択肢は、「1. ひじょうに期待している」「2. 期待している」「3. どちらでもない」「4. 期待していない」「5. まったく期待していない」の5つである。このうち「4. 期待していない(全体で7ケース/1.8%)」「5. まったく期待していない(同2ケース/0.5%)」はひじょうに少数なので、「3. どちらでもない(63ケース/16.4%)」とあわせて、明確に期待しているという「1. ひじょうに期待している」「2. 期待している」以外のものという意味で、「3. 非・期待している」と表記している。

### Ⅲ. 記述項目からみた 高知県の地域課題と 高知県立大学の役割の詳細



## 1. 記述項目からみた地域課題の現況と高知県立大学への期待(総括)

ここでは、調査票の各設問の自由記述欄に記載された内容をおおむね原文どおりにまとめた表5-01～02・表6-01～05・表7-01～05・表8-01～05をもとに、その記載内容を項目ごとに整理している。各項目ごとに関連の記載のある個別番号を付しているため、具体的な記述内容については以下に示している各表の各個別番号のところを参照していただきたい。記述内容が複数の項目にわたるものは、両方の項目で記載している場合がある。個別番号が同一のものは、整理されている項目が分かれていても、単一の記述内容にもとづくものである。なおここで付している個別番号は、調査票回収後につけなおした通し番号であり、調査時のアンケート票の番号とは異なったものである。

### 1-1) 高知県立大学との連携の現況と期待・要請

#### (1) 高知県立大学との連携等の現況

高知県立大学と各団体との連携等の現況については、以下のとおりである。この項に記載されている個別番号は、**表5-01**を参照していただきたい。

#### 01. 共同研究・共同調査・共同開発などにかんするもの

県産未利用植物の活用、海洋深層水、トマトジュースの疾病予防効果、北川村の観光資源調査、本山町まちづくり活性化、高知県地域遺産調査、地域実態調査、などの活動が高知県立大学との連携・協力等でおこなわれている。具体的な記述の個別番号：005)008)011)325)352)357)420)

#### 02. 計画立案・報告書作成等への協力、各種委員会等の委員・アドバイザー、などにかんするもの

新任保健師支援プログラム・保健師人材育成プログラム・自然災害時保健活動ガイドライン、保健師人材育成評価検討委員、デートDV防止啓発資料、NPO地域社会づくりファンド報告書、地域福祉計画策定、活動計画策定、食品製造事業者の生産管理高度化へのアドバイザー、行政情報公開・個人情報保護審査委員長、各種審議会委員、食育推進会議委員、福祉人材の確保・養成にかかる委員会の委員、各種委員会オブザーバー、出版学術賞審査委員、学校支援アドバイザー、高知脳外傷リハビリ講習会実行委員、地域包括支援ネットワークシステム研修会等の講師・アドバイザー、地域ケア会議アドバイザー、災害時のこころのケアマニュアル作成ワーキングメンバー、精神障害者アウトリーチ推進事業評価検討委員、学校での外国語活動研究への助言、地域保健活動強化推進事業でのスーパーバイザー・助言者、保健医療福祉推進会議、NPOフォーラムコーディネータ、地域見守りネットワーク支援事業・地域福祉計画策定支援・保健師人材育成・栄養業務検討会・関連研修会などへの支援者・アドバイザー、文化的景観についての助言者、などでの計画立案の支援・協力や、委員・アドバイザーなどの役割をおこなっている。001)003)004)009)010)034)036)042)043)079)210)265)316)317)318)330)342)358)406)409)410)420)423)428)

#### 03. 講演会・研修会等の講師などにかんするもの

新任保健師研修会、消費生活連携講座、成果報告会、自主的学習会活動グループによる講演会・講義、地域看護学研修、生涯学習の講演会、公開シンポジウム、社会福祉大会、高齢者教室等の講座、「市民の大学」企画運営・講師、健康長寿公開講座、「豊永郷文化講座」、地域包括支援関連研修会、主任介護支援専門員の研修、法定講習会・指定講習会、高知市近代史研修会、栄養士の研修会、地域福祉研修会・講演会、地教連の講師、地域福祉シンポジウム、などの講師等をおこなっている。001)003)005)009)021)024)025)036)042)079)094)113)210)291)316)317)319)232)358)406)410)420)423)428)

#### 04. 研究会・研修会・行事・イベント・広報活動などの諸活動への支援・協力にかんするもの

土佐まるごとビジネスアカデミー、エコバッグ普及啓発事業、地域支援ワーカー研修、介護支援専門員・相談支援従事者研修、地域福祉実践研究会、とんからりんの家、地域活動での地域住民への講義等、在宅移行支援の仕組づくり、災害時保健活動研修会、母子保健事業推進、「市民の大学」企画運営、校内研修会、「高知型住民後見のあり方を考える」学習会、住民同士の支えあいのあり方を考える学習会、過疎地域での外出支援、「豊永郷の古道を歩く」、いきいき百歳応援団、主任介護支援専門員研修、障害者相談支援事業にかんす

る人材育成、福祉教育講演、福祉教育支援、災害ボランティア学習会、白石地区活性計画策定ワークショップ、地域での体験活動、北川村の健康福祉にかんする調査等、などの諸活動への支援・協力等を高知県立大学の教職員および学生がおこなっている。(004)011)034)042)046)066)074)077)078)079)167)251)258)291)308)317)318)340)423)424)

#### 05. 学校教育や児童・生徒への支援・協力にかんするもの

潮江中学校の「食改善プロジェクト」、小・中学校への「学習チューター」、学校の生徒の学部訪問、学校での大学模擬授業の講師、生徒の大学訪問と体験授業、学校での総合的な学習の時間の講師、大学での「高校生のための公開講座」、学校での研修会の講師、放課後学習「まなびの島」、リカレント講座、大学の講義・実習などの受講、スクールソーシャルワーカー、出張講座、などで学校教育への支援・協力等をおこなっている。(009)115)119)120)123)130)215)222)305)328)334)392)

#### 06. 学生による支援協力、地域団体等による学生の受入れ・支援、などの相互支援・協力にかんするもの

インターンシップ、教育実習の事前学習、「食改善プロジェクト」における潮江中学校の生徒・教職員と高知県立大学健康栄養学部学生との相互支援・協力、子育て学習支援、福祉機器展等のイベント、卒業論文・調査・学生活動・実習などへの協力、地域でのイベントへの学生の参加と学生の地域調査への協力、「柚子採り援農隊」との交流・農家民泊、修学旅行介助ボランティア、放課後学習「まなびの島」、下校時の児童の見守り隊、防災キャンプ、みさとフェア、べふ峡温泉への提言、地域の祭り・地域活動、調査のための地域活動受入れ、大野見地区での体験活動、開館記念行事、NPO団体のボランティア活動、在宅高齢者の生活支援サービス、精神障害者施設のイベント、などで学生が地域活動などに参加・協力したり、学生の卒業研究・調査・実習等への支援・協力をいただいたりしている。(005)009)010)034)035)041)045)046)061)062)064)087)091)131)132)215)219)236)238)243)253)255)258)260)263)264)270)283)309)316)323)332)340)378)382)415)

#### 07. 団体による大学の事業・授業・行事などへの支援・協力や相互協力などにかんするもの

大学での救命講習への救急機材貸出、産学官連携による大学から企業への派遣、図書館の相互協力協定、授業のゲストスピーカー、相互貸借制度、大学が実施したJICA事業への協力、高知県受託事業、学生の卒業研究・修士論文・博士論文、教員の調査・研究、学会開催時の運営協力、学生・院生の実習、留学生の学校訪問、大学への講師派遣、池・永国寺キャンパスでのクッキー販売、などで大学が団体の支援・協力を受けたり、相互協力などをおこなっている。(009)022)051)064)067)073)075)220)253)265)268)290)301)432)

## (2) 各団体が今後高知県立大学との連携や支援・協力などで実施したいこと

各団体が今後高知県立大学との連携や支援・協力などで実施したいことの具体的な内容については、以下のとおりである。この項に記載されている個別番号は、表5-02を参照していただきたい。

### 01. 共同研究・共同調査・共同開発などにかんするもの

食品製造事業者の生産管理高度化支援、産学官による人材育成・産業振興の仕組づくり、商品開発・事業家支援、地域課題解決・地域づくり活動、深層水利用開発共同研究、工業分野の産業振興、災害時食支援、高知県の課題解決、特産品を活用した商品開発、販路開拓のための広報支援、地域ニーズ調査・事業所調査、地域資源調査、福祉人材・サービスの調査、近代歌人の研究等、高知県の文人・文化人の研究等、看護・社会福祉・健康栄養等の医療・福祉分野での連携、地域の伝統野菜を活用した商品開発、山間地を活用した食物開発、学校での商品開発・地域貢献活動・国際協力活動等への支援・共同研究、集落調査、食育の共同研究、地場産品の商品開発、運動・スポーツ習慣と医療・介護保険料との関連性調査、鷹取キムチの開発、小規模市町村・中山間地域での生活支援システムの構築、難聴者の社会参加支援事業の共同での開拓・助成申請、独居生活高齢者のための隣組体制の構築、おいしく売れるクッキーづくり、民間でできない研究、食の安全研究・県内実態調査、有機農法・自然農法を生かした農産物の生産・加工等、高知県産生物標本の収集・整理・保管・活用、地域の民俗・言語・植物・生活・食事等々の調査、特別支援学校・児童への教育方法の確立、少子化関連調査・研究、所蔵古文書を活用した研究、地域の川の調査、温泉等の調査、環境調査(観光への活用)、地域産業を生かすための流通ルート開発方法等の支援、規格外農産物等の再利用・商品化の共同研究、収蔵資料調査、ジュニア運動能力調査、競技施設状況調査、幼児運動能力・遊びをとおした運動能力向上の研究、などのさまざまな調査・研究等での共同研究・調査・開発やそれらへの支援の要望がある。これまでの実績に較べてひじょうに多い。004) 005) 008) 022) 023) 024) 025) 030) 032) 034) 065) 076) 091) 108) 223) 226) 230) 236) 242) 245) 246) 260) 261) 268) 276) 287) 290) 291) 309) 320) 325) 373) 386) 405) 406) 431)

### 02. 計画立案・報告書作成等への協力、各種委員会等の委員・アドバイザー、などにかんするもの

新任保健師支援プログラム作成、保健師人材育成プログラム・自然災害時保健活動ガイドラインの見直し、地域の公民館事業、各種審議会等の委員、各種計画等における「住民との協働」手法とりいれのための連携協定、南海地震対策のための専門家派遣、福祉人材・サービスにかんする研修会プログラム開発など、地域福祉活動計画による地区座談会のためのノウハウ・アドバイス、地域支援にあたってのアドバイス、医療・保健・福祉の連携強化のためのコンサルテーションなど、地域の高齢者の生きがい支援、新商品開発アドバイス、要特別支援児童・生徒への支援のあり方など、学校での授業研究への指導・助言、就労支援作業所での魅力ある商品開発やその支援・アドバイス、地域包括支援ネットワークにかんする研修会等のアドバイザーなど、共生型福祉施設にかんするアドバイス、訪問看護の充実、在宅復帰にむけた退院支援のあり方など、社会教育関連各種団体への指導・助言、地域活性化への指導・助言、福祉保健所・市町村保健活動支援へのスーパーバイズ、保健・福祉分野等の人材育成支援、集落活動センターへの提言、商機能への提言、地域福祉計画実践支援・地域包括ケア推進にかんする助言、活動への参加・意見、ボランティア講座等への助言など、地域見守りネットワーク支援事業・市町村地域福祉計画策定支援・保健師人材育成・市町村保健福祉関係職員研修・地域包括ケア推進・栄養業務検討会などへのアドバイス、などの保健・福祉分野での支援・助言などの要請が多い。この項については、すでに連携等の支援・協力などをおこなっているものの継続や関連分野での拡大などを要望しているものが多い。001) 009) 010) 013) 015) 034) 047) 071) 074) 099) 115) 138) 170) 241) 316) 317) 335) 342) 352) 358) 384) 398) 409) 420)

### 03. 講演会・研修会等の講師などにかんするもの

各種研修会(新任保健師・OJT担当者会・中四国ブロック保健師等研修会・企画立案研修など)の講師、放課後児童指導員研修、福祉関係の講演、健康・福祉関連の住民むけ講演会・研修、地域貢献活動としての講演会、近代歌人についての講演・講座など、高知県の文人・文化人の講座など、病院のサービス向上(接遇・安全対策・感染対策)のための院内研修、看護スキルアップ、医療・保健・福祉の連携強化のための講演など、公民館の生涯学習講座、高齢者対象講演・講座、学校での授業改善にむけた研修会、生徒の生活習慣・心の問題などについての研修会、学校の教育問題解決や研究推進のための講演、要特別支援児童・生徒への支援のあり方等にかんする講演など、児童・生徒への学習支援、生徒・保護者・教職員対象講演会、中学生

の進路指導・教科指導への支援、研究発表会等での講演、授業づくりに役立つ話、学校での専門分野の教育講演会、保護者への啓蒙講話、生涯教育で保小中青年一般をつなぐ内容の講演、地域の子育て支援者研修会、地域・企業への出前講座、公民館の市民教室・教養講座・夏季大学講座、ふれあいセンタの講座、地域に係りの深い歴史講話、ボランティアガイドの話し方、絵手紙などの趣味にかんする指導、ボランティア講座、などの種々の講座・講演会・研修会などへの講師派遣などが要望されている。(001)009)010)019)042)056)065)073)074)077)079)080)084)100)105)124)136)137)138)142)153)158)159)165)170)179)186)202)205)206)212)320)332)336)343)368)372)398)399)403)406)

#### 04. 研究会・研修会・行事・イベント・広報活動などの諸活動への支援・協力にかんするもの

消費者生活講座、安心・安全なまちづくり、NPOにたいする公開講座、節水意識の向上、安全・安心な水を送りつづけるためのコストにたいする意識啓発・広報活動、食事啓発イベント、文化の視点からの景観、健康福祉関連の住民むけ講演会・研修、住民活動の組織育成、県民むけ研修会、商工業者むけの講演・研修会、住民座談会、新しい住民サービス実施、住民組織活性化、地域活動等への参加、社協に来てほしい、住民が自ら学び・考え・行動できるきっかけとなる活動、レファレンス・サービスでの連携、課題解決支援サービスでの連携、看護・栄養・福祉などとの共同企画事業、読み聞かせ・お話し会、小学生むけ〇〇教室、歴史にかんする学習支援、「まんさい」やアウト・リーチ活動への協力、地域に根づいた継続した活動、長寿社会での生きがい・健康の学習、高齢長寿社会の地域づくり活性化、保健師人材育成、地域の夏まつり等へのボランティア支援、地域史跡マップづくり支援、防災等の地域活動への協力、地域住民からの要望にたいする取組の共同・サポート、地域住民への情報提供・住民活動助言、社会人教育・生涯教育等において若年層にも魅力ある学習課題・イベントをするための助言など、教師の授業力向上のための研修、学校経営マネジメント研修、校内研修会の助言者など、児童への学習支援・PTA学習会、高齢化地域での支援のあり方、地域住民むけ学びの講座、環境保全活動、障害にたいする理解・啓発のための活動、職業人生にたいおうできる支援・援助、住民後見人養成講座、住民同士の支えあいのある地域づくり、学ぶ地域社会づくり、NPOへの支援、住民交流の場になっている事業所の趣味の教室への支援、難聴者を支援する要約筆記者にたいする研修・講習、高次脳機能障害の啓発活動、高齢者等の生きがいづくり・地域活動活性化、ボランティア活動講座、有機農業の普及推進講演会・研修会、有機食材の普及推進・有用性にかんする研究会・学習会、献眼登録会、在宅困難者生活支援サービス活動の20周年記念事業・新事業、住民活動活性化・地域課題解決・住民自活の取組、地域のスポーツ教室・学習会・研究会・指導者講習会、「貫之まつり」、地域の小資源開発、地域の高齢者支えあい社会の構築、商店街活性化、災害・健康等の講演・講座、校内・PTA研修、地域づくり、男女共同参画社会推進のための地域活動、総合型地域スポーツクラブの活動をとおしての健康への取組・まちづくり、公民館による地域活動への参画、公民館事業の企画立案等、防災や地域の伝統的なまつりなどのイベント、住民主体の活動への取組、専門知識を有している方の支援・協力、「布師田の未来を考える会」の活動、健康で生きがいをもてる地域の暮らしのための支援、地域の絆を深めるイベントへの若者のサポート、行政の手の届かない法のすきまを支援できるような活動、子どもたちへの自然体験・農業体験の場への支援、障がい者も楽しめて活動できる場、公共空間の安全対策・啓発活動、在宅療養者の地域生活維持・推進のための体制づくり、地域福祉活動、保健福祉活動の事業評価・分析、地域福祉・健康栄養・公衆衛生看護等の事業者への研修、イベントなどの人材支援、津野町を大学のフィールドとして利用していただきたい、生ごみリサイクル活動、などのさまざまな活動・イベント等にたいして、支援・協力等が要請されている。(003)009)019)024)030)036)037)038)041)046)051)054)061)062)064)068)077)081)092)094)098)104)164)165)194)197)226)244)247)248)250)251)256)260)265)267)272)274)278)283)286)297)299)300)302)304)306)311)314)317)326)343)351)355)359)363)382)385)387)393)394)395)406)409)410)412)423)432)

#### 05. 学校教育や児童・生徒への支援・協力にかんするもの

高校生への進路講話、「総合的な学習の時間」での講演・講座の内容にかんする助言、学校での大学模擬授業への講師派遣、大学訪問の受入と体験授業の実施、高大連携授業の実施、丸の内高校の生徒が年間を通して継続的に高知県立大学の授業を受講できるシステム、探究型の高大連携事業、学習支援員派遣、課題研究に取組む生徒・教員への支援、「出前授業」の一覧の提示、低学力生徒の基礎学力定着のためのプリント教材、キャリア教育の講演・講座、地元を元気にする活動・ECO活動への支援・協力、高知県立大学を知る機会、聴覚障害を研究している方がいたら支援・協力してほしい、通常学級に在籍している要特別支援生徒への対応、生徒への学習支援、生徒・保護者・教職員対象講演会、総合的な学習の時間などを利用した地域との連



携活動等への支援・協力、学生派遣・研究会支援、キャリア教育・生涯教育等での生徒への講話(生き方・学び方)、生徒の学力向上、生徒向けの出前授業、授業での校区内商店街活性化学習の共同実施、進路指導の一環での先輩・職業人としての講話、教育相談活動、大学と連携した学習会(生活習慣改善など)、児童の学習支援(教科指導)、PTA学習会、発達障害をもった児童等への支援方法、出前食育・環境教育授業、学校での商品開発・地域貢献活動・国際協力活動等への支援など、須崎市への教育の支援、人権教育・福祉教育・体力向上にかんする研修会、学力向上対策としての放課後学習支援、福祉教育・ボランティア学習支援(研修会・講演等)、総合的な学習の時間での講師など、高大連携での出張講義、キャリア教育の観点から大学について知る機会、スクールソーシャルワーカーへの相談、特別支援教育の研究・実践、大学紹介などの進学意欲に結びつく児童にたいする支援・協力、食育推進、タバコ裏作である大豆を活用した商品開発、中山間地域の産業開発にかんする学習支援、などの種々の学校教育支援が要望されている。とくに、学校の授業への支援・協力、出前講座・授業、児童・生徒の学習支援、生徒・教職員・保護者への講演会などの要望が多い。116) 118) 119) 120) 121) 122) 123) 124) 126) 127) 128) 130) 139) 142) 143) 145) 156) 163) 165) 166) 186) 189) 194) 195) 210) 220) 222) 223) 228) 229) 315) 328) 329) 335) 340) 347) 348) 374) 375) 376) 377) 378) 386) 392) 415) 426)

#### 06. 学生による支援協力、地域団体等による学生の受入れ・支援、などの相互支援・協力にかんするもの

親水公園の清掃・除草作業等、介護予防事業へのボランティア、独居高齢者への福祉系学生の傾聴ボランティア、高齢化地域での学生の活動による活性化、放課後加力指導への協力、学生の感性を生かした提言や研究への支援・協力、学生の実地研修への協力、学生ボランティア活動、インターンシップへの協力、地域行事・イベント等への学生参加、地域での学生との交流、修学旅行の介助ボランティア、長期休業期間中の生徒への学習支援、放課後や地域での生徒への学習支援、学生による講演や生徒会との交流、学生による出前授業・キャリア教育・体験発表、チューターなどで学生が教育現場に参加できるような支援体制、授業での指導補助、教科学習支援・野外体験活動支援、「げんきまつり」支援、学生の調査・研究活動への協力、児童・生徒との交流、学生による地域の学校の活用、教育実習以外のインターン的な取組など、学生によるフィールドとしての地域の活用、学生の研究発表・サークル活動成果発表の場としての利用、独居高齢者・学童保育への支援、「日中友好の集い」・植樹ボランティアへの参加、高齢者を元気にする活動への支援や世代間交流、学生の卒業研究への協力、イベント時のお手伝い、中山間地域での暮らし・移動手段の確保への協力、英語活動のサポーター、スクールソーシャルワーカーの委嘱の継続、福祉教育・ボランティア学習への支援・協力、地域のまつり・敬老会への参加、地域の絆を深めるイベントへの若者のサポート、展示解説ボランティア、学生による地域活動・調査への協力、読み聞かせ・子どもむけワークショップへの協力、などの地域や学校などでの学生による支援・協力要望が多数だされている。009) 010) 012) 015) 030) 035) 042) 057) 060) 097) 101) 131) 135) 144) 147) 150) 151) 161) 169) 170) 171) 177) 182) 187) 192) 198) 205) 206) 209) 214) 216) 218) 219) 228) 233) 238) 253) 264) 273) 296) 308) 316) 322) 323) 330) 331) 332) 333) 334) 336) 340) 347) 367) 378) 382) 388) 390) 406) 420) 425)

#### 07. 団体による大学の事業・授業・行事などへの支援・協力や相互協力などにかんするもの

救急資材貸出・消防訓練、卓越した専門分野をもつ講師の相互交流、高知県の生物にかんする団体の職員による講義・実習、大学のサークル活動などに使用できるスペースの設置、などの協力可能な提案などがなされている。基本的には大学からの要望で実施されることが多いために、実績では多数あがっているが、団体からの提案としては少ない。009) 075) 290) 423)

## 1-2) 各分野ごとの課題と役割

ここでは各課題分野別に整理した[表6-01～05の現在の地域課題]と[表7-01～05の高知県立大学と連携等をしたい地域課題]を概観して、各分野ごとにみたときの、(a)主な地域課題、(b)とくに重要な課題、(c)可能と考えられる高知県立大学による連携・支援・協力等、について記述している。なお各課題の分野区分は、おおむね高知県立大学の学部や大学院の研究科などに対応するようなかたちで、(1)医療・看護分野、(2)福祉分野、(3)食・栄養分野、(4)文化分野、(5)生活分野、(6)教育分野、の6つに区分している。

### (1) 医療・看護分野における地域課題と高知県立大学の役割

#### (a) 主な地域課題

医療・看護分野であげられている主な地域課題は以下のとおり。

##### (a1) 地域の高齢化

- ①高齢者の健康づくり
- ②老々介護にかんする支援体制
- ③住民同士の支え合いによる見守り・支え合い・助け合いづくり
- ④地域包括ケアにかんする関係機関の連携や地域力の向上
- ⑤将来の高齢化に向けた保健福祉サービスの拡充

##### (a2) 高齢社会に向けた医療保健福祉施策

- ⑥独居、高齢世帯の増加にたいする健康増進施策
- ⑦安心して在宅で生活し続けられる地域福祉施策
- ⑧生活習慣病対策

##### (a3) 小児の保健医療

- ⑨小中学生の生活習慣の変化に伴う健康不安
- ⑩専門医の不足に伴う健康不安

##### (a4) 保健医療従事者（医師・看護職など）の質の向上

- ⑪診療所等の休止に伴う医師・医療供給不足やサービスの低下
- ⑫質の高い医療人の育成
- ⑬地域福祉を支える人材育成
- ⑭健康産業にたいするコンサルテーション・アドバイザー機能

##### (a5) 災害対策（南海地震対策）

- ⑮健康危機管理にかんする防災・減災教育（健康・安心・安全のための備えなど）
- ⑯南海地震とそれに伴う津波被害にたいする避難・避難生活のための自助・共助の啓発

#### (b) とくに重要な課題

これらの主な地域課題のうち、とくに重要と考えられるものは以下のとおり。

- ①高齢社会に向けた健康増進対策
- ②高齢社会に向けた地域づくり
- ③高齢社会に向けた地域包括ケアの連携・協働のしくみづくり
- ④安心して在宅で生活し続けられる地域福祉施策の策定
- ⑤小中学生の生活習慣の変化に伴う健康不安の改善
- ⑥質の高い医療・保健医療従事者の育成

⑦南海地震を見据えた防災・減災意識の啓発

(c) 高知県立大学で連携・支援・協力等が可能な分野

医療・看護分野であげられている地域課題にかんして、高知県立大学が貢献可能と考えられる地域課題は以下のとおり。

- ①地域住民のニーズを把握する調査や地区診断
- ②地域資源にかんする課題検討のための調査・分析
- ③地域活性化にかんするコミュニティ・ミーティングなどへの参画
- ④学校保健を通じた小中高校生の健康づくりの支援
- ⑤地域保健福祉施策策定の支援
- ⑥地域資源の活性化に向けたネットワークづくりの支援
- ⑦保健医療福祉サービスの質向上・人材育成のための研修や相談
- ⑧健康増進啓発活動などへの講師派遣
- ⑨南海地震対策における健康・安心・安全の保障にかんする地域支援、

## (2) 福祉分野における地域課題と高知県立大学の役割

### (a) 主な地域課題

福祉分野であげられている主な地域課題は以下のとおり。

- ①保健医療福祉の連携体制や地域包括ケアシステムの構築に向けた支援
- ②地域の福祉・生活課題にかんするニーズ調査や事業所調査・集落調査
- ③福祉人材育成やボランティア育成に向けた研修
- ④地域や集落の活性化、生活支援・見守りシステム、地域づくり等にむけた実態調査や施策立案・活動提案・共同実践
- ⑤少子化にかんするニーズ調査や現状分析
- ⑥地域課題の解決にむけた住民との協働を推進、それらを支援するための自治体との協定
- ⑦各種審議会・委員会等への委員としての参加
- ⑧地域福祉(活動)計画の策定・実践・評価に向けた支援
- ⑨高齢者の生きがいづくりや後継者育成にむけたアドバイス
- ⑩福祉関係の講演・研修等の講師
- ⑪児童・生徒への学習支援
- ⑫生涯学習・社会教育・福祉教育への協力・支援
- ⑬地域活動にたいするボランティア支援
- ⑭障害・障害者にたいする理解・啓発の推進

### (b) とくに重要な課題

福祉分野でとくに重要と考えられる地域課題は以下のとおり。

- ①保健医療福祉の連携体制や地域包括ケアシステムの構築にむけた支援
- ②地域の福祉・生活課題にかんするニーズ調査や事業所調査・集落調査
- ③福祉人材育成やボランティア育成にむけた研修
- ④地域や集落の活性化、生活支援・見守りシステム、地域づくり等に向けた実態調査や施策立案・活動提案・共同実践
- ⑧地域福祉(活動)計画の策定・実践・評価にむけた支援
- ⑩福祉関係の講演・研修等の講師
- ⑪児童・生徒への学習支援
- ⑫生涯学習・社会教育・福祉教育への協力・支援
- ⑬地域活動にたいするボランティア支援

### (c) 高知県立大学で可能と考えられる連携・支援・協力等

福祉分野で高知県立大学が連携・支援・協力等によってなんらかの役割をはたせると考えられる地域課題は以下のとおり。

- ①保健医療福祉の連携した地域福祉包括ケアシステムの構築にむけた相談や研修
- ②地域の福祉・生活課題にかんするニーズ調査・事業所調査・集落調査等への研究協力
- ③福祉人材育成や再教育に資するリカレント講座・公開講座、学外機関と連携した研修
- ④学生との集落調査をふまえた生活支援や地域活性化等にむけた提言、大学・地域協働の実践活動の推進
- ⑤少子化対策にむけた高知県におけるニーズ調査と分析
- ⑥地域課題解決にむけた住民・自治体の協働支援のための協定
- ⑦各種審議会・委員会等への委員参加
- ⑧地域福祉(活動)計画の策定・実践・評価に向けた協力・アドバイス

- ⑨高齢者の生きがいづくりや後継者育成にかんするアドバイスや研修・講演
- ⑩福祉関係の講演・研修等の講師派遣
- ⑪学習課題をもつ児童・生徒への学生による学習支援、高大連携授業の実施
- ⑫福祉分野における生涯学習・社会教育・福祉教育へのアドバイスや講師派遣
- ⑬地域活動にたいする学生ボランティアの斡旋・調整・派遣協力
- ⑭障害・障害者にたいする理解・啓発を推進するための学生・地域・団体の共同企画の実践

### (3) 食・栄養分野における地域課題と高知県立大学の役割

#### (a) 主な地域課題

食・栄養分野であげられている主な地域課題は以下のとおり。

##### (a1) 栄養分野

- ①子どもたちへの食育
- ②高齢者の栄養管理
- ③高齢者への食事提供

##### (a2) 食品分野

- ④食品加工・製造にかんすること
- ⑤食品衛生管理にかんすること
- ⑥栄養と食品が連携しての地産地消の推進にかんすること

#### (b) とくに重要な課題

栄養分野については、子どもたちと高齢者のいずれにも重要な課題となる。食品分野については、県産品の他県への販売をめざすためには、食品加工および食品衛生にかんすることがもっとも重要な課題であると判断される。

##### (b1) 栄養分野

- ①子どもたちへの食育
- ②高齢者の栄養管理

##### (b2) 食品分野

- ③食品加工にかんすること
- ④食品衛生管理にかんすること

#### (c) 高知県立大学で可能と考えられる連携・支援・協力等

栄養分野については、以下のように講演会・調理教室・習会などで支援が可能である。また食品分野については、大学の設備的な問題もあるが、食品衛生指導および講習会の実施、食品加工にかんする助言、観光とタイアップした食品開発や調理教室などが可能である。

##### (c1) 栄養分野

- ①講習会・調理教室・研修会等での支援

##### (c2) 食品分野

- ②食品衛生管理指導や講習会の実施
- ③食品加工にかんする助言

#### (4) 文化分野における地域課題と高知県立大学の役割

##### (a) 主な地域課題

文化分野であげられている主な地域課題は以下のとおり。具体的な地域の要望としては、大豊町(豊永郷)・東洋町・須崎市・津野町などからあがっている。また、これらの活動がたんなる保全活動だけで終わるのではなく、観光資源としての活用や地域の活性化などにもつながるようにしていきたい、との意見も少なくない。なお地域の文化資源としては、地域の民俗(祭り・民具など)・言語(方言・民話など)・文化財などがあげられている。

- ①地域の文化資源の記録・保存・発掘
- ②地域の文化資源を活用した地域の活性化にむけての調査・研究
- ③生涯学習としての講演会や地域防災・文学などの講座の開催
- ④学校機関への出前講座
- ⑤外国語教育への教育支援

##### (b) とくに重要な課題

文化分野でとくに重要と考えられる地域課題は以下のとおり。地域の文化資源を活用した地域の活性化と、調査・研究成果の地域への還元と、次世代への継承および人材育成が、最重要課題と考えられる。

- ①地域の文化資源の記録・保存・発掘
- ②地域の文化資源を活用した地域の活性化にむけての調査・研究(大学生・大学院生を含む)
- ③調査・研究成果の地域への還元
- ④次世代への継承および人材育成

##### (c) 高知県立大学で可能と考えられる連携・支援・協力等

文化分野で高知県立大学が連携・支援・協力等によってなんらかの役割をはたせると考えられる地域課題は以下のとおり。以下のような課題にかんして、博物館・NPO・地域住民と行政との連携をはかり、小学校・中学校・高等学校とも連携して、これらの課題に取り組むことが可能と考えられる。

- ①地域活性化の担い手となる人材育成
- ②次世代継承型の地域の文化資源の共同研究・共同調査
- ③上記①②をとおしてその成果等を地域へ還元すること

## (5) 生活分野における地域課題と高知県立大学の役割

### (a) 主な地域課題

生活分野であげられている主な地域課題は以下のとおり。

#### (a1) 日常生活上の課題

- ①高齢者の生活支援・生活環境整備：消費者被害防止、通院・買い物等移動手段確保、孤立化防止、など
- ②住宅・住環境のバリアフリー化
- ③生活習慣・食生活の改善、生活課題をかかえた家庭への支援

#### (a2) 地域社会の課題

- ④若者の就労の場の確保、若者の定住促進のための環境整備
- ⑤地域交流・機会・場などの確保・創出、若者と高齢者の交流
- ⑥生活利便施設の整備、巡回サービスの充実
- ⑦公共施設のバリアフリー化
- ⑧通学路の安全確保、子どもの遊び場・講演・運動施設などの整備
- ⑨地域の維持・活性化・絆づくり
- ⑩高齢者の生きがいがづくり、高齢者の活躍・活動の場の確保
- ⑪視覚障害者・聴覚障害者が生活しやすい環境の整備
- ⑫子育て支援、出会いの場・きっかけづくり
- ⑬スポーツの機会・場の確保・充実

#### (a3) 地域防災の課題

- ⑭地震・津波対策、非常時の通信・交通確保
- ⑮高台移転
- ⑯災害時の食への備え
- ⑰防災計画・防災訓練・自主防災組織・共助

### (b) とくに重要な課題

生活分野であげられている地域課題のうち、とくに重要と考えられる課題は以下のとおり。

- ①高齢者の生活支援・生活環境整備、高齢者の生きがいがづくり、高齢者の活躍・活動の場の確保、などの高齢者が地域で生活しつづけられるようにすること
- ②若者の就労の場の確保、若者の定住促進のための環境整備、子育て支援、出会いの場・きっかけづくり、などの次世代が地域に定着できるようにすること
- ③地域交流・機会・場などの確保・創出、若者と高齢者の交流、地域の活性化・絆づくり、などをおして地域社会を健全に維持できるようにすること
- ④地震・津波・水害などの、自然災害への備えをおこなうこと

### (c) 高知県立大学で可能と考えられる連携・支援・協力等

学内体制として、生活分野に直接関係する生活科学部は廃止されているが、医療・看護分野、福祉分野、食・栄養分野、文化分野、教育分野、などにおける課題解決等をおして、生活支援、生活環境整備、食・栄養改善、防災対策、などに貢献できると考えられる。



## (6) 教育分野における地域課題と高知県立大学の役割

### (a) 主な地域課題

あげられている地域の教育課題は多種多様であるが、主な課題はおおむね以下のとおり。

#### (a1) 学校教育の改善・向上

- ①地域住民や専門家など、地域全体で教育支援をおこない、学校教育を改善・向上
- ②キャリア教育や地域学習など、学校だけでは対応できない教育の場・機会の確保・充実
- ③基礎学力の定着・向上、児童・生徒への学習支援

#### (a2) 教師・保護者などへの教育支援

- ④教師・保護者などにたいする、教育力向上等のための研修会・講演会などの、教育支援体制の充実
- ⑤教師・保護者などの、教育問題・家庭問題などにかんする相談窓口・支援体制の確立

#### (a3) 問題行動・学習困難・発達障害などへの支援

⑥学校や地域単位で、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーなどの専門職員が常駐するようにするなど、教師・保護者・地域住民もふくめた学校や地域全体で問題行動・学習困難・発達障害などに対処できるような体制の確立

#### (a4) さまざまな学習のための教育支援

⑦さまざまな専門分野(医療・看護・福祉・食・栄養、郷土の歴史・文化・住環境など)の学習や防災学習などにかんして、地域での学習機会や学校での児童・生徒向けの学習機会をつくりだすための教育支援

#### (a5) 学生による学習・教育への支援

- ⑧学校や地域での、児童・生徒の学習支援や、教員への協力などをおしての、学生による学習・教育への支援
- ⑨学生による学習・教育支援がおこないやすくなるような協力体制の確立

### (b) とくに重要な課題

地域課題における最重要の教育課題は以下のようなものであると考えられる。

- ①地域・専門家・学生などによる支援・協力体制を構築し、地域全体で学校教育を支援し、その改善向上をはかる
- ②問題行動・学習困難・発達障害などに対処できる体制を学校単位や地域単位で構築する
- ③多様な教育機会を、地域・専門家・学生などの支援・協力によってつくりだす

### (c) 高知県立大学で可能と考えられる連携・支援・協力等

重要課題の多くにたいしては、まずは高知県・市町村の教育委員会や教育行政に、その対応が委ねられ、解決への方向性などが明確にしめされるべき課題であると考えられる。教育課題にかんしては、公的な機関の協力体制を構築して対処することが重要だからである。

しかし高知県立大学においても、教育学部はないが社会福祉学部を除くすべての学部が教員養成課程を有しており、教員による教育分野への種々の地域貢献活動も比較的よくおこなわれている。さまざまな専門分

野の教育支援や学生による学習・教育支援体制の構築などとおして、地域の教育課題にも貢献することが可能と考えられる。

## 2. 高知県立大学(高知女子大学)との連携

表5-01 高知県立大学と連携した活動実績の内容

### 2-2) 高知県立大学と連携した活動実績の内容

#### 1. 共同研究・共同調査・共同開発

- 005)「県産未利用植物の活用に向けた農商工医連携基盤の構築と事業家モデル」の共同研究  
008) 共同研究「海洋深層水中の微量元素に関する研究」(平成13年度) / ミネラル調整液の商品化にかんする連携(平成17年度製紙プラント設置)  
011) 産学官共同研究事業 / トマトジュース摂取による疾病予防効果の研究  
325) 北川村の観光資源と魅力の新たな掘り起こし調査(高知県立大学と北川村観光協会の共同事業) / 北川村内の観光施設見学、森林鉄道遺跡見学、林業・ゆず栽培についての学習、そして活性化への提案作成  
352) 本山町まちづくり活性化プロジェクト(まちかつプロジェクト)(地域と大学連携推進事業2012) / 慶應義塾大・高知短大・高知県立大(土佐姫塾)・東北公益大との4班編成で / 9/13・9/14本山町にて会議 / 10/23テレビ遠隔会議 / 11/18実証 / 12/21全体報告会  
357) 1999高知県地域遺産共同調査活用事業プロジェクトに参加 / 1999～2000中山間調査に参加 / 2001～2002環太平洋の消滅に瀕した言語にかんする緊急調査研究に参加 / 2006～2008地域文化デジタルアーカイブ研究会にともに参加 / 2009.4文化基礎実習の東洋町民具調査に協力 / 2009～2011三原村民具調査 / 2011～2012香美市物部民俗・言語調査 / 2011～2012大豊町・香美市・香南市の民具整理公開についての協力 / 2012～東洋町民具調査 / その他  
420) 地域実態把握調査(立石地区)

#### 2. 計画立案・報告書作成等への協力、委員・アドバイザーなど

- 001)「高知県新任保健師支援プログラム」作成(H18年度) / 「同上」見直しと「高知県保健師人材育成支援プログラム」作成(H22年度) / 「高知県自然災害時保健活動ガイドライン」見直しへの助言や協力 / 高知県保健師人材育成評価検討会委員として、現在教育について検討  
003) デートDV防止啓発資料作成への協力 / 公益信託こうちNPO地域社会づくりファンドの最終報告書作成への協力  
004) 食品製造事業者の生産管理高度化にたいする支援・アドバイス・評価等  
009) 高知市行政情報公開・個人情報保護審査会委員長に高知県立大学文化学部岩倉秀樹教授に就任いただいている。 / 堀内和美助手・大井方子教授(短期大学)に審議会委員に就任していただいている。高知市南部園芸地帯で発生するイエバエ対策について。(イエバエの薬剤抵抗性の調査、イエバエの発生を抑制する肥料についての検討他) / 高知市都市計画審議会委員(宇野浩三教授ほか)への就任。  
010) 食育推進会議の委員に委嘱  
034) 福祉人材の確保・養成にかかる委員会への委員派遣  
036) 地域福祉計画策定へ協力  
042) 活動計画策定における指導・支援 / 各委員会オブザーバー  
043) 地域福祉計画策定での全面的支援をいただいております。  
079) 出版学術賞の審査員として、ご協力いただいております。  
210) 西内先生による学校支援のアドバイス  
265) 高知脳外傷リハ講習会で田中教授に実行委員として参加してもらっている。  
316) 地域包括支援ネットワークシステムにかかる説明会・研修会の講師およびアドバイザーを依頼  
317) 地域ケア会議のアドバイザーとして参画していただいた。 / 介護の日イベント(11/11)にかかる協議会の一員として参画していただくとともに、ブースの出店をおこなっていただき、介護人材の確保に向けた啓発を実施した。  
318) 災害時のこころのケアマニュアル作成ワーキングメンバーへの参加 / 精神障害者アウトリーチ推進事業評価検討委員会への委員派遣  
330) 本校は外国語活動を推進している。研究の助言者として五百蔵教授に来校いただいた。  
342) 地域保健活動強化推進事業における保健活動の再構築研修スーパーバイザーおよび管内保健活動にかんする報告会における助言者としての支援

- 358) 保健医療福祉推進会議および検討会 / アドバイザーとして関係機関との協働した取組への助言
- 385) NPOフォーラムにおいて、県立大の先生のコーディネータで、一般の方を対象にNPOの活動報告をおこなった。
- 406) 植木枝盛旧邸書斎の当館への移築・復元事業についての助言
- 409) 地域見守りネットワーク支援事業(アドバイザー・講演会でのコーディネータ) / 市町村地域福祉計画策定支援におけるアドバイス / 保健師人材育成にかんするアドバイス(研修会での助言含む) / 市町村保健福祉関係職員研修でのアドバイザー / 栄養業務検討会等への講師・助言者
- 410) 管内あつたかふれあいセンター連絡会アドバイザー派遣依頼 / 管内町における保健福祉活動における事業評価の視点等についてアドバイスを依頼 / 在宅医療の推進
- 420) 地域福祉計画座談会・推進について助言
- 423) 教育委員会が文化的景観の助言をいただいたり、地教連の講師を依頼するなど、小規模ではあるが継続的な取組をおこなっている。
- 428) 安芸市地域福祉計画・安芸市地域福祉活動計画策定委員会アドバイザー

---

### 3. 講演・研修等の講師

---

- 001) 研修会講師として支援(「新任保健師研修会」「OJT担当者会」「中国四国ブロック保健師等研修会(座長)」看護協会委託の「企画立案研修」)
- 003) 消費生活連携講座(短大)
- 005) 当センター主催の成果報告会での講演
- 009) 地域で自主的に学習活動をしているグループがおこなった講演や講義に講師として協力いただきました。
- 021) 保健師の育成のための地域看護学の研修
- 024) 研修会や会員向けの生涯学習の講師・講演
- 025) 平成21年より「大学と地域貢献」と題して土佐経済同好会公開シンポジウムを、高知県・高知市・高知県立大・高知大・高知工科大・高知商工会議所の共催にて毎年3回おこないました。地域貢献の考え方(H21年)、貢献の見える化(H22年)、貢献と連携の具体化に向けた実質的な形や仕組みをテーマに知事・社長・各大学の代表の皆様と議論を深めました。
- 036) 社会福祉大会等への講師派遣
- 042) 講演の講師
- 079) 高齢者教室等の講座へ、高知県立大学から講師を派遣していただいております。 / 県内の大学の先生方の自主的な活動による市民の大学運営委員会にご参加いただき、高知市教育委員会や当事業団と共催で専門性の高い「市民の大学」の企画運営や、講師としてご協力いただいております。
- 094) H23. 10. 1. 健康長寿公開講座
- 113) 2年次対象進路L. H. に貴学の清原泰治先生をお招きし、生徒啓発の内容で大学進学のお話しをしていただいている。今年度も10月18日(木)にお越しいただく予定である。
- 210) 西内先生による講演会(黒潮町教頭会)
- 291) 「豊永郷文化講座」での講演(橋尾直和教授)
- 316) 地域包括支援ネットワークシステムにかかる説明会・研修会の講師およびアドバイザーを依頼
- 317) 以下の研修会講師として派遣していただいた。 / 主任介護支援専門員研修(高知県社会福祉協議会への委託) / 介護保険における訪問看護サービスについての主任介護支援専門員への研修 / 地域包括支援センターの機能強化のための研修会
- 319) 児童福祉法施行規則第6条に規定する厚生労働大臣が定める指定講習会への講師派遣、およびその講習会場提供について協力していただいております。
- 323) いの町社会福祉大会への講師派遣(田中きよむ先生)
- 358) あつたかふれあいセンター事業にかんする研修会等への講師派遣
- 406) 高知市近代史研修会等での講演
- 410) 管内市町栄養士を対象とした研修会の講師
- 420) 地域福祉研修会・講演会
- 423) 教育委員会が文化的景観の助言をいただいたり、地教連の講師を依頼するなど、小規模ではあるが継続的な取組をおこなっている。
- 428) H23. 9. 安芸市地域福祉シンポジウム・講師 / H24. 4. 第21回安芸市社会福祉大会・講師

---

#### 4. 諸活動(研究会・研修会・行事・イベント・広報活動等)への支援・協力

---

- 004) 土佐まるごとビジネスアカデミーの開催
- 011) エコバッグ普及啓発事業
- 034) 地域支援ワーカー研修でのプログラム企画から講師派遣まで / 介護支援専門員や相談支援従事者研修での企画から講師派遣まで / 地域福祉の実践にかかる研究会への運営協力
- 042) とんからりんの家たちあげ
- 046) 地域活動で地域住民にたいする講義・情報提供・コーディネートなど
- 066) 当館の常設展示および企画展会場において、貴大学生の卒業制作の和紙のウェディングドレスを着用し、展示させていただいた。 / また、いの町のひなまつりにおいても、和紙バック等を展示させていただいた記憶があります。
- 074) 病院からの在宅へ向けた移行支援のしくみづくりにおける指導・助言・協力
- 077) 災害時保健活動にかんする研修会への支援
- 078) 連携活動強化事業を実施 / テーマ: 母子保健事業の推進 / 「こんにちは赤ちゃん事業」の推進とポピュレーションアプローチによる子育て支援対策の検討。
- 079) 県内の大学の先生方の自主的な活動による市民の大学運営委員会にご参加いただき、高知市教育委員会や当事業団と共催で専門性の高い「市民の大学」の企画運営や、講師としてご協力いただいています。
- 167) 校内の研修会に使用
- 251) 「高知型住民後見のあり方を考える」学習会 / 市町村および民生委員・地域包括などの職員を対象に、市民後見のあり方を考える学習会を開催 / 高知型福祉(住民同士の支えあい)のあり方を考える学習会 / 高知市一宮地区をモデルとして、地域住民同士の支えあいのあり方について学習した / ※実行委員として田中先生にアドバイスや協力をお願いした
- 258) 少子高齢化の進む過疎地域での外出支援についての活動。結果は高知市内に限っては成功で、民間の自家用自動車での有償運送が可能となり、低料金で外出しやすくなった。
- 291) 「豊永郷の古道を歩く」への働きかけ
- 308) いきいき百歳応援団の設立・広報活動のため、リーフレット作成時に大学にも情報収集および制作協力をしてもらいました。
- 317) 主任介護支援専門員研修(高知県社会福祉協議会への委託)の参加者選定にかかる作業(基準作成等)についての支援・協力をいただいた。
- 318) 障害者相談支援事業にかんする人材育成
- 340) 福祉教育講演への協力 / 地域での福祉教育支援 / 災害ボランティア学習会への協力 / ボランティアイベントへの協力
- 423) 旧白石小学校の再利用計画を含めた白石地区活性計画策定ワークショップに社会福祉学部の先生と学生に入っただき、専門的かつ大学としての、また若者としての意見をいただいている。
- 424) 地域での体験活動。 / 北川村の健康福祉にかんする状況説明および聞き取り調査への協力。

---

#### 5. 学校教育・児童・生徒への支援・協力

---

- 009) 潮江中学校の生徒3年生は2年生のときに内閣府安全委員会主催の学習会を潮江中学校でおこなった。内容は「食の安全」について。生徒による「食育改善プロジェクトチーム」を立ち上げ、「食と人がつながる元気なまち」1枚版を作成。一方高知県立大学は健康栄養学部のメンバー約20名が潮江中学校の学校訪問をおこない、食育についての研究を重ねてきた。テーマは「食の安全と中学生」「食と南海地震」「食と学力」「食と体力」とし、研究を重ね1枚版を作成。発表では、テーマ「食と人が元気なまち」で潮江中学校の生徒による学習発表を1本、高知県立大学はテーマ「BODY MASS INDEXって知っている」ほか7本にて研究発表をおこなった。 / 小・中学校への「学習チューター」の派遣
- 115) 24. 9. 10. 本校生徒が貴校健康栄養学部を訪問し、食品開発についてのアドバイスをいただいた。Reihoku youth Netghors(RYN)が地元の米粉を使った新商品の研究をしており、今後も継続的に支援いただく予定である。
- 119) 学年生徒対象の大学模擬授業における講師派遣 / 大学訪問の一環として生徒の受入れおよび体験授業の実施
- 120) 本校(高知丸の内高校)へ講師の派遣(総合的な学習の時間)
- 123) 本校で実施した進路ガイダンスに出席をしていただいた。また貴校が主催する「高校生のための公開

講座」にも多数の生徒が参加させていただいている。

130) 県立大(女子大)より本校にきていただき、指導法などの助言を受けた。

215) 県立大学看護学部(平成23年度卒業生)に水曜日放課後学習「まなびの島」の立ち上げ時にかかわっていただき、児童支援・学習指導をしていただきました。ありがとうございました。

222) 学校行事(進路)において大学より講師を派遣してもらっている。

305) リカレント講座の企画・参加 / 本校の研修への講師派遣 / P T A活動への協力

328) H12. 文 I 生徒が大学で日本文化論・中国古典文学等の講義を受ける / H16. 17. 生活文化コースの2年生が大学へ行って食品加工の講義と実習(ペクチンによるジャムのテクスチャ)

334) 貴職の職員(教授等)を南国市スクールソーシャルワーカーとして委嘱し、定期的に学校へ訪問していただきながら児童生徒支援をおこなっていただいています。

392) 高校1・2年生にたいする進学ガイダンスとして出張講座等で協力いただくとき時があります。

---

## 6. 学生による支援・協力、学生の受入れ、学生への協力

---

005) インターンシップの受入

009) 高知県立大学生をインターンシップ生として高知市で受入れ(平成24年度2件:2名) / 養護教諭教育実習の事前学習として、学生さんへの授業を担当。 / 潮江中学校の生徒3年生は2年生のときに内閣府安全委員会主催の学習会を潮江中学校でおこなった。内容は「食の安全」について。生徒による「食育改善プロジェクトチーム」を立ち上げ、「食と人がつながる元気なまち」1枚版を作成。一方高知県立大学は健康栄養学部のメンバー約20名が潮江中学校の学校訪問をおこない、食育についての研究を重ねてきた。テーマは「食の安全と中学生」「食と南海地震」「食と学力」「食と体力」とし、研究を重ね1枚版を作成。発表では、テーマ「食と人が元気なまち」で潮江中学校の生徒による学習発表を1本、高知県立大学はテーマ「BODY MASS INDEXって知っている」ほか7本にて研究発表をおこなった。 / 小・中学校への「学習チューター」の派遣 / 教育実習生の受入れ / 青年有権者または有権者予備軍(19歳以下)の学生への選挙啓発を目的として、平成22年参議員選挙においてつぎの活動を実施(学生の投票事務および開票事務への従事(選挙事務の体験))(上記従事者(学生)への選挙啓発および投票事務にかんする研修)(事務従事および研修にかんする感想および若者の投票率向上のための提言等のアンケート)

010) 子育て学習支援にたいする県立大生の派遣

034) 福祉機器展等イベントへの学生(スタッフ)派遣等の協力 / 学生の卒業論文・実践等への協力

035) 高知県立大学の学生にたいする実地研修(教育への支援・協力)

041) アンケート調査

045) 学生の卒論調査への協力

046) 学生さんの卒業論文のインタビュー / 学生さんの現場実習の受入れ、ボランティア派遣

061) 建築関連の講師により、貴学生が授業として何度か当施設を利活用頂いたことあり。

062) 「まんさいーこうちまんがフェスティバル」の実行委員会への参加(まんが研究会や学生個人の立場で)

064) 学生受入れ / 博物館実習受入れ

087) 地域文化論研究室の学生さんに、公民館の記念イベントに参加・協力してもらいました。後日同研究室の学生さんが地域の問題点をさがすために、地域を案内しました。

091) 毎年11月におこなっている「柚子採り援農隊」との交流、農家民泊(1泊2日)

131) 小学部・中学部・高等部の修学旅行への介助ボランティアの依頼。

132) 修学旅行の介助ボランティアに参加

215) 県立大学看護学部(平成23年度卒業生)に水曜日放課後学習「まなびの島」の立ち上げ時にかかわっていただき、児童支援・学習指導をしていただきました。ありがとうございました。

219) 下校時の児童の見守り隊 / 防災キャンプへの協力 / みさとフェアへの参加

236) 清原ゼミの学生さんにお手伝いいただき、べふ峡温泉の観光客増加への提言をおこなってもらった。そのほか、香美市でのお祭りや地域活動を手伝ってもらっている。<http://www.fusing.jp/kassei/>

238) 玉里(当時助教授)より、地域活動による調査研究のため斗賀野地区をフィールドとする当NPO法人の活動を体験したいとの要望があり、平成18年頃に学生4名を受入れた。その後そのなかの1名が卒論のテーマとしてアンケートを実施するさいに住民にたいする情報提供などの協力をおこなった。

243) 中土佐町大野見地区での学生たちの田舎体験サークルが宿泊したさいに、カヌーの貸出しや、当時NPOのおこなっていた「四万十川清流度調査」体験などの活動で協力させていただいた。またそのお礼として夕食(バーベQ)に招待された。

- 253) 開館10周年記念行事の企画立案・実施・企画展設営協力・広報誌への寄稿(学生による協力)
- 255) われわれの活動へのボランティア(マンパワーの協力)
- 258) ヤ・シパークにて車イス利用者の海水浴に学生達といっしょに参加していただき、ランディズやチェアボートの利用度が高くなった。
- 260) 詳細に調べてみると「連携」ではなく、①H16. 6. ボランティア体験スクール、②H17. 11. ボランティア体験スクールのなかの1つとして、参加の記録がありました。
- 263) 帯屋町マップの配布を依頼された(観光案内所で配布した)
- 264) 行事等へのボランティアとしての参加
- 270) インターンシップという形式にて学生を受入れ、店舗開発(設計・企画)を具体的におこない、開業までのフローを学んだ。大学生の創立した「企業組合」(法人)の設立準備～解散までサポートするとともに、社会人としての教育をおこなった
- 283) 日々の在宅高齢者の生活支援サービスへのボランティア活動(有償) / 精神障害者施設のイベント(運動会)への参加(社会福祉学部の学生) / 卒論制作のためのゼミ生または学生にたいして、当団体の役割活動内容紹介。 / 卒論制作のためのアンケート調査に協力。
- 309) 介護実習生の受入れ
- 316) 県立大学生の卒業研究論文について、調査に協力している
- 323) 卒業研究論文への調査協力「高知県における市町村社会福祉協議会の福祉教育の今後のあり方について―県内における福祉教育の現状と課題を踏まえて―」(依頼者：社会福祉学部4年・山本理香)
- 332) 以前は学習チューターとして学生が来られていた(昨年は実績なし)。
- 340) 学生の調査研究(福祉教育)への支援・協力
- 378) 卒論調査への協力 / 大学生ボランティアによる学習支援
- 382) 看護学生の実習をデイホームゆったり(宅老所)にて受入れた。元気な高齢者の孤立を防ぎ、生きがいづくりをめざす活動支援にかかわってもらいました。具体的には、日常おこなっている趣味の講座の発表の場であり、個々の高齢者が生きがいとしているカラオケや踊りなどを1年に1度、主役になりきって、仲間や地域の人たちと集い・楽しむ場を支援していただくことが中心でした。
- 397) 学生の研究への協力 / 社会福祉学会での発表
- 415) 教育実習生の受入れ

## 7. 大学の事業・授業・行事などへの支援・協力、相互協力

- 009) 大学が実施する救命講習(講師は大学)への救急資機材の貸し出し協力。 / 大学の消防訓練へ消防隊が出向き、訓練の支援を実施。
- 022) 産・学・官連携で、企業が望む課題解決のために大学教官を企業に派遣するさいに、当センターから謝金を出すなどの支援
- 051) 図書館の相互協力にかんする協定を締結(県立図書館の物流システムを通じた資料の相互貸借)
- 064) 授業ゲストスピーカーとして参加
- 067) 相互貸借制度の連携。町民の利用したい本をお借りしました。
- 073) H23. 9「JICA事業「へき地での保健医療体制の向上」県立大学健康長寿センター池田光徳先生」当院の地域医療の取組について、当院でJICA事業研修員でのプレゼンテーションをおこない、関連施設を案内するなど、当該事業への協力というかたちで。
- 075) (研究推進室として)○高知県受託事業の研修での講師派遣と協力○学生の卒論・修論及び教員への研究受入れ / (看護学科として)○高知看護教育研究会の共同開催○講師派遣の相互交流 / (看護部として)○卒論・修論・博論・その他教員の研究活動を含め、データ収集への協力○学会開催時の運営協力(企画実行委員・シンポジスト・ファシリテータなど)○学部・修士課程での実習への協力○がんプロの活動への協力
- 220) 留学生(イタリアより)の学校訪問
- 253) 講師派遣(当館から県立大へ)
- 265) 爪生先生をとおして、高次脳機能障害について話をさせていただいたことがある。
- 268) 毎月1度、池・永国寺キャンパスでクッキー販売をさせていただいています。とても好評で、150～200個ほど売られています。
- 290) 池キャンパス入口ロビーで移動博物館の開催 / 貴大学で保管されていた生物標本の寄託受入れ
- 301) 女子大への講義で数回おじゃましています
- 432) 園芸療法の講座をした(2005年頃)。当時講師が女子大の非常勤講師をしていたため

---

## 8. その他(含む内容不明)

---

076)主に看護学部にお世話になっています。

107)田中きよむ先生に大変お世話になっております。

109)虹色の里横畠グループでは、1. 農山村に磨をかける、2. 学校を活かす、3. 人と人とのつながりを大切にする、3つの目的を立て活動に取り組んでいる。

110)大桐地区運動会

246)サービスマンシップ実習2010年

276)土佐市の里山調査

291)地域の言語調査

320)子育て応援情報誌「大きくなあれ」特集号への執筆 / 佐藤教授「紫外線対策について」H24年3月発行

365)平成24年9月1日実施の総合防災訓練 / 三里みらい会議が主催する防災フェア(年1回開催、今年で4回目)

384)県NPOセンター発行の広報誌「手をつなごう」取材。(その節はたいへんお世話になりました。ありがとうございました。)

394)中央公園にて工科大・高知大・女子大と共同にてライブをした時に出店をさしてもらいました。

400)民具の整理

420)地区の祭り

---



## 2-4) 高知県立大学と連携したい活動内容

## 1. 共同研究・共同調査・共同開発

- 004) 食品製造業者の生産管理高度化にたいする支援 / 土佐まるごとビジネスアカデミー等産学官連携による人材育成や産業振興の仕組づくり / 地域アクションプラン等による商品開発や事業家への支援 / 地域課題の解決や地域づくり活動に連携しての取組
- 005) 現在おこなっている以外の共同研究 / 講演依頼 / インターンシップ受入れ
- 008) 深層水の利用開発にかんする共同研究
- 022) 県内で県立大だからもちうる優位性の講座＝「健康栄養」学部。食品・健康産業に役立つ。教官のみなさんがもっと地域へでて役に立とうとすれば地域企業に役立つ。そのマッチング。
- 023) 産業振興、とくに工業分野にかんする内容
- 024) 災害時食支援について
- 025) 産学官連携で幅広いネットワークを活かし、高知県の課題を解決する。具体的には、土佐まるごとアカデミーや土佐まるごと社中等で問題解決の糸口をみつけ、行動に移したい。これには高知県立大の力がぜひ必要です。
- 030) 地域の特産品を活用した商品開発や、販路開拓に向けた広報支援等。
- 032) 地域のニーズ調査や事業所調査
- 034) 前述した2-2)への回答[福祉人材の確保・養成にかかる委員会への委員派遣 / 地域支援ワーカー研修でのプログラム企画から講師派遣まで / 介護支援専門員や相談支援従事者研修での企画から講師派遣まで / 地域福祉の実践にかかる研究会への運営協力 / 福祉機器展等イベントへの学生(スタッフ)派遣等の協力 / 学生の卒業論文・実践等への協力]のほか、地域資源調査や福祉人材、サービスにかかる調査、またそれらの研修等のプログラム開発など
- 065) 近代歌人(吉井勇等)についての講演・講座・研究等 / 高知県に關係する文人・文化人の講座・研究
- 076) 看護学部・社会福祉学部・健康栄養学部等、医療・福祉に關係する分野で連携してもらいたい。近森会グループはチーム医療・救命救急医療・リハビリテーション・MSW活動・精神科医療等について、日本でも先進的取組をおこなっており、県立大学とコラボできればと考えている。
- 091) 地区内に「伝統野菜」入河内(にゅうがうち)大根があり、これから販売に力を入れていきたい。赤首大根で味は良く3～4kgほどになる。1月になると胴から首までの赤い部分は生食で充分いける(サラダ等)。現在生協さんに出荷中(12月末～2月上旬まで)。これは使える、という製品(商品)開発はできないものか? 漬物など。
- 108) 水が減ってきている。植林のためか? / 山間地を活用した食物などはできないか?
- 223) 本校における商品開発・地域貢献活動・国際協力活動等にたいする支援や共同研究
- 226) 集落調査
- 230) 小中学生をもつ保護者を対象とした食育について、効果的な方法や具体的な取組方などを共同で研究できれば。
- 236) 香美市の集落に入ってもらって、魅力を発信してもらいたい。映像などを使う。その取組を県外や地域外からの移住につなげたい。 / 地場産品の商品開発。
- 242) 運動・スポーツ習慣を身につけることによる医療費・介護保険料との関連性調査
- 245) 鷹取キムチをつくっております。商品の開発を考えております。いまタケノコやチャーテでのキムチづくりを試作しております。今後の協力をお願いしたいと思います。
- 246) 高知県に点在する小規模町村や中山間地域での生活支援システムを共同で構築できたらいいと思う。
- 260) 難聴者への情報発信による社会参加支援を実現に近づける事業を、共同で開拓・助成申請などを通しておこないたい。
- 261) 地域で独居生活をしている高齢者がどのような思いで生活しているのか、行政や隣人になにを期待し、なにを求めているのか。どうすれば地域で元気に暮らしていくことができるのか。民生委員まかせの地域サポート体制から隣組体制の構築へ。
- 268) クッキーづくりをおこなっています。県立大の協力を得て、さらにおいしく売れるクッキーづくりをすすめたいと思っています。
- 276) 民間ではできない研究分野での連携
- 287) 食の安全についての研究や県内における実態調査等 / 日本農林規格(JAS認証制度)の推進および

普及活動 / アレルギー疾患と農薬(慣行農産物)の関係および具体的なそれらの情報の数値化ならびに資格化。 / 有機農法や自然農法を生かした農産物の生産と加工等(例:地域の農家や加工事業者等の集納化等外商へ向け生産・調整・販売がおこなえるグループや組合等の実現)。

290) 高知県産生物標本の収集・整理・保管・活用

291) 豊永郷と呼ばれていた地域にはまだまだ知られていないことや、調査ができていないことが多くあります。また調査・研究をしたいことが多くあります。先生のご指導のもと、学生にもご協力をいただき、調査ができればと思います。当面は民俗資料館建設にあたり、地域の民俗や言語、植物や生活・食事等々を調査できればと思います。

309) 特別支援学校および児童への教育方法を確立するための共同実施をおこないたいと考えています。

320) 少子化にかんする調査研究(ニーズ調査・現状調査・少子化の要因など)

325) 中岡慎太郎館が所蔵する古文書(庄屋文書・林業関係)を用いた村落支配にかんする研究

373) 地域の川の調査(とくに川のありかた・魚の調査) / 温泉等の調査 / 環境調査ー見る(観光)四万十川づくり

386) 地域の産業を生かすための流通ルート開発方法などの支援

405) ふだん廃棄されている農産物の一部または規格外の産物等の再利用・商品化について、助言・共同研究ができれば・・・。

406) 当館収蔵資料調査への支援・協力

431) ジュニアスポーツ向上(高知)のための運動能力調査活動 / 競技施設状況調査および提言 / 幼児運動能力調査およびあそびを通じた運動能力向上の研究 / (来年度より南国市から始動)ー推進委員会立ち上げ準備中

---

## 2. 計画立案・報告書作成等への協力、委員・アドバイザーなど

---

001) [2-2)と同じ]「高知県新任保健師支援プログラム」作成(H18年度) / 「同上」見直しと「高知県保健師人材育成支援プログラム」作成(H22年度) / 「高知県自然災害時保健活動ガイドライン」見直しへの助言や協力 / 高知県保健師人材育成評価検討会委員として、現在教育について検討

009) 各公立公民館や、地域が運営する自治公民館で計画する公民館事業に、アドバイスや講師派遣等の協力をお願いしたい。 / 各審議会への就任。

010) 各種審議会等への委員の就任

013) <企画財政課>「住民との協働」が現在の地方自治・公共団体のキーワードであり、各種計画等の策定においてこの手法を取入れる必要があるので、連携協定をいただきたい。

015) 南海地震への対策として、専門的知識を有する方の派遣。

034) 前述した2-2)への回答のほか、地域資源調査や福祉人材、サービスにかかる調査、またそれらの研修等のプログラム開発など

047) 地域福祉活動計画に添った地区座談会を開催しているが、潜在的にある住民の思いをより深く広く引き出すためのノウハウや、広報的なアドバイスなどをいただく機会があれば、と思う。

071) 地域支援をおこなっていくにあたっての助言など受けたい。また、建てかえにあたって、地域により開けた施設となり得るための助言なども受けたい。

074) 医療・保健・福祉の連携強化のために、コンサルテーションや講演など

099) 地域の高齢化が進んでいる現状を考え高齢者の生きがいをどうすべきか、またすべての活動にたいする後継者の育成をどうすべきか、に具体的に助言していただきたい。

115) 新商品開発にかんするアドバイス等

138) 特別に支援の必要な児童・生徒が急増傾向にあり、そのため教師自身の力量や児童・生徒への支援のあり方をアドバイス・ご講演いただければ、ありがたいです。

170) [学校教育]日々の授業研究にたいする指導助言

241) 当NPO法人は就労支援B型作業所として軽食および菓子の製造等もおこなっています。「四万十町」ならではの魅力ある商品づくりが求められており、そのための開発への支援・アドバイスがいただけたらと思います。

316) 地域包括支援ネットワークシステムにかかる説明会・研修会にかかる講師およびアドバイザーを依頼 / 共生型福祉施設の設定推進にかんする検討にたいするアドバイスを依頼

317) 訪問看護の充実や急性期病院からの在宅復帰に向けた退院支援の実践またはあり方検討

335) 社会教育における各種関係団体へ指導・助言 / 地域活性化への指導・助言

342) 福祉保健所及び市町村保健活動の支援にかんするスーパーバイズ / 人材育成への支援(保健・福祉)

分野等)

352) 集落活動センター(汗見川・大石地区)への提言 / 商業機能への提言

358) 市町村地域福祉計画実践支援にかかわる取組への助言 / 地域包括ケア推進にかかわる取組への助言

384) 当方の活動に参加していただき、ご意見等をいただきたい。

398) ボランティア講座等への企画にたいする、助言や講師の派遣など

409) 2-2)にかんして[2-2)の内容:地域見守りネットワーク支援事業(アドバイザー・講演会でのコーディネーター) / 市町村地域福祉計画策定支援におけるアドバイス / 保健師人材育成にかんするアドバイス(研修会での助言含む) / 市町村保健福祉関係職員研修でのアドバイザー / 栄養業務検討会等への講師・助言者]、引き続き支援をお願いしたい / 市町村の介護保険運営を含む地域包括ケアの推進についても、上記(前記)の内容について支援をお願いしたい

420) 地域福祉計画推進についての助言(住民座談会等)

---

### 3. 講演・研修等の講師

---

001) [2-2)と同じ]研修会講師として支援(「新任保健師研修会」「OJT担当者会」「中国四国ブロック保健師等研修会(座長)」看護協会委託の「企画立案研修」)

009) 放課後児童指導員研修での講師 / 各公立公民館や、地域が自動運営する自治公民館で計画する公民館事業に、アドバイスや講師派遣等の協力をお願いしたい。

010) 福祉関係の講演依頼

019) 健康福祉関連の住民向けの講演会や研修について、講師としての派遣や協力

042) 講師派遣

056) 具体的にこの講演会をおこないたいというのはまだないですが、地域貢献の活動として講演をひろくようなことがあれば依頼をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

065) 近代歌人(吉井勇等)についての講演・講座・研究等 / 高知県に關係する文人・文化人の講座・研究

073) 当院のサービスの向上に繋がる院内研修への講師派遣(接遇向上/安全対策・感染対策にかんすること/看護のスキルアップにかんすること(看護計画))

074) 医療・保健・福祉の連携強化のために、コンサルテーションや講演など

077) 研修会等の講師

079) 市民の生涯学習にたいするニーズは幅広い分野にわたっており、さまざまな分野で専門的な研究をされている高知県立大学の先生方にご講義をお願いしたいと考えています。また中央公民館では昼間におこなっている講座も多いため、先生方の授業に差し支えない範囲で講師派遣をお願いしたいと思います。

080) 生涯学習の視点からみた講演(講座)を開講する。この活動にたいする講師の派遣ができるとありがたい。

084) 高齢者対象の講演または講座

100) 公民館事業での講師

105) 具体的な計画はないが、研修会等における講師の派遣

124) 授業の向上にむけた授業改善の研修会講師派遣

136) 生徒の心身の成長にともなう(生活習慣や心の問題について)研修会

137) 本校の教育課題の解決や研究推進にかかる講演等

138) 特別に支援の必要な児童・生徒が急増傾向にあり、そのため教師自身の力量や児童・生徒への支援のあり方をアドバイス・ご講演いただければ、ありがたいです。

142) 生徒への学習支援 / 講演会(生徒・保護者・教職員対象)

153) 中学生の進路指導・教科指導のさいの支援

158) 自校の課題解決に向けた講師派遣などの支援やPTA講演会等への講師紹介

159) 講演会など

165) 保護者または教員にたいする講演会の講師

170) [学校教育]研究発表会等での講演

179) 研修会等の講師

186) 大学の先生をお招きして、児童・生徒や教職員・保護者の学習ができればと思う。

202) 授業づくりに役立つ話など聞く機会が持てるとよいと思いますが、遠距離でもあり、具体的な交流の方法については今後の検討課題だと思います。

205) 教育講演会の実施(保護者対象、専門分野)

206) 遠隔地なので難しいと思いますが、児童への学習支援、保護者への啓蒙活動(講話)、学生から児童

へのメッセージ

- 212) 生涯教育で保小中青年一般をつなぐ内容の講演など
- 320) 地域の子育て支援者研修会での子育て支援にかんする講演など / 子育てにかんする広報・啓発への協力(関連記事の執筆など)や地域や企業への出前講座への講師派遣
- 332) P T A(保護者)・教職員研修での活用[講演・講座・研修会]
- 336) 講座・研修会へ講師派遣
- 343) 公民館事業である市民教室・中央公民館教養講座・夏季大学講座において、講師の派遣を含め企画立案等、支援・ご協力いただきたい
- 368) ふれあいセンターで開催する講座等への講師派遣
- 372) 地域に関係深い歴史講座 / ボランティアガイドなどの話し方 / 絵手紙などの趣味にかんする指導
- 398) ボランティア講座等への企画にたいする、助言や講師の派遣など
- 399) 県立大の先生・関係者に講師になっていただいて、市民の関心の高いテーマで、図書館内で講演や講座を開催できればと思います。
- 403) セミナー等講師の派遣
- 406) 講演会への講師派遣

---

#### 4. 諸活動(研究会・研修会・行事・イベント・広報活動等)への支援・協力

---

- 003) 学生・社会人にたいする消費生活講座 / 安全安心なまちづくりにかんする活動での連携 / N P O にたいする公開講座
- 009) 節水意識の向上、安全で安心な水を送りつづけるコストにたいする意識など、イベントや啓発・広報活動の共同実施など / 食事啓発イベントへの協力依頼 / 景観について文化という観点からの協力
- 019) 健康福祉関連の住民向けの講演会や研修について、講師としての派遣や協力 / 地域での住民活動の中での組織育成などへの支援・協力
- 024) 県民向けの研修会の開催
- 030) 学部・センター・研究・人的資源について不明ではあるが、商工業者向けの講演研修会等への支援・協力を願いたい。
- 036) 住民座談会の共同開催 / 新しい住民サービスの実施 / 地域住民組織の活性化
- 037) 今年度より健康・社会推進事業を実施。だれもが安心して住みよい地域づくりをよくするために、住民と考えながら住みよい町づくりや地域づくりをしていきたい
- 038) 地域活動等への参加
- 041) 地域に入ることによって住民の生の声が聞こえてくるのでどんどん社協に来てほしい。高齢者・障害者の話はとても勉強になると思います。
- 046) 住民が学び、自ら考え行動できるきっかけとなるような活動
- 051) ・レファレンス・サービスでの連携 / 課題解決支援サービスでの連携 / 「健康・安心」の分野では、看護・栄養・福祉などの共同企画事業の実施
- 054) 読みきかせやお話し会 / 図書室で行なう小学生向きの〇〇教室
- 061) 歴史にかんする講演・学習支援
- 062) 先述「まんさい」の充実や、今後のアウト・リーチ活動において、協力を求めたい。
- 064) 地域に根づいた活動を継続して取組みたいという要望があれば、分野にこだわらず連携したい。
- 068) 長寿社会での生がい・健康の学習等 / 高齢長寿社会の地域づくり活性化
- 077) 保健師の人材育成への協力・支援
- 081) 地域の夏まつり等へのボランティア支援 / 地域史跡マップづくり支援
- 092) 地域活動への協力(防災等)
- 094) 地域住民からの要望にたいして共同での取組み、またはサポートを要請したい。 / 上記とは逆のパターンで地域住民にたいする情報の提供や住民活動への助言等をしてほしい。
- 098) 社会人教育・生涯学習等において、いずれも参加者が高齢化の一途をたどっており、若年層のニーズがどのようなものであるのかや、また魅力ある学習活動やイベント等の実施に向けた助言等をしてもらいたい。
- 104) 住民のニーズにたいして支援・協力がいただけることがあれば連携して取組みたい。
- 164) 授業力向上にかかわる研修への支援 / ガイダンス・カリキュラムの効果にかんする研究 / 学習への支援・協力 / 学校経営マネジメント研修の開催
- 165) 校内研修会の講師や助言者として

194) 大学と連携した学習会(例：生活習慣の改善に向けて)や児童の学習への支援(教科指導) / P T A 学習会の補助・支援(例：子育て学習会の講師)

197) 高齢化が進みお年寄りの多い地域で、子どもたちができることや地域全体でよりよい生活ができるための支援のあり方などの、助言や支援をお願いしたい。

226) 地域住民向けの学びの講座

244) [2012年]11月24日にN P O 認証イベントをおこなう予定です。この地は四万川龍王宮があり、わたしたちは元々あった所にお社を建ててお祭をしてきましたが、地域が高齢化して過疎が進み、文化や伝統がなくなりそうです。町外の人との交流を通じて活性化に努めていきたいと考えています。行き来することができればよいですね。

247) 環境保全活動 / メダカ池・トンボ公園・桜・アジサイ等の手入れ・保全 / 調整池の観察

248) 障害にたいする理解・啓発を深める活動に協力したい

250) 長い人生のなかで、とくに職業人生(社会人人生)に対応できる支援・援助

251) 住民後見人養成講座の取組 / 住民同士の支えあいのある地域づくり / 学ぶ地域社会づくり / N P O 明日への絆(高齢者の集まり)にたいする支援

256) 当事業所で実施している趣味の教室は地域住民の交流の場となっている。今後より多くの住民が参加いただけるよう、広報活動や参加への仕組づくりなどを共同でおこなえればと考えている。

260) 難聴者を支援する要約筆記者の意識の向上などの研修や講習をうける機会があればと思う。

265) 高次脳機能障害の啓発活動により理解を広めたい。

267) 私どもの活動は、社交ダンスを通じての高齢者等の生きがいづくり、地域活動の活性化です。ともに協力しあえば有効であると考えます。

272) 若い人たちへのボランティア活動講座や研修会の共同開催 / 高知県で望まれる人的育成はどのようなものか / 考え方の整理・学習も組織として(法人として)してみたい

274) 有機農業の普及推進にかんする講演会や研修会の開催 / 有機食材の普及推進と有用性について研究会・学習会の開催

278) 献眼登録会の実施等。

283) 当団体は平成6年より在宅生活困難者への生活支援サービス活動を通じて、住みなれた地域で心豊かに住みつづけることができるよう、「ふれあい社会の構築」を目標に活動をつづけてきました。平成25年には設立20周年を迎えるにあたり、社会の変化・地域課題等を見すえ、記念事業および新事業を企画中のため、上記項目等につきぜひご指導いただきたく存じます。

286) 住民活動の活性化や地域課題解決に向けての取組 / 住民自活の取組など

297) 当法人では「市のスポーツ活動の振興」が主たる目的としてあります。その目的を達成するために高知県立大学のもつ知力・調査能力・実行行動力、そして若さと活力は本市のみならず本県において大いなる魅力のことと思います。具体的にはスポーツ教室の講師としての派遣、指導者にたいしての講習会、地域スポーツ(高齢化・少子化といった問題に対しての)学習・研究会、などが思いつきます。(ただ遠方ですので簡単にはいかないと思いますが・・・)

299) 市商工会(?)が毎年「貫之まつり」を開催しているが、マンネリで貧弱である。土佐日記にからめたイベントを共同企画していただき、全国発信して観光資源となしえないものか。

300) 豊かな水と地形を利用しての小水力発電によって売電し、その利益の一部で森林整備をなし、それによって発生する間伐材の有効活用で地域の雇用の創出 / 地域のお年よりは地域で支えあい、地域で人生をまっとうする社会システムの構築で、高齢化社会に備える社会づくり

302) 商店街活性化施策の実施協力

304) 現在おこなっている行事を継続していくこと / 災害・健康等講演・講座の要請

306) 校内・P T A などの研修への支援 / 地域との連携にかかわる、地域づくりへの支援

311) 男女共同参画社会推進のための地域活動(住民啓発等)や男女共同参画センター「ソール」での共同事業

314) 市民主動型の総合型地域スポーツクラブを活動中で、事業を安定させるために、地域にたいして、6.の内容[地域での生活などにかんする種々の相談や健診等]のことを実施し、健康への取組へつながるサービスを実施したい。また、8.のようなイベント活動[イベントや啓発・広報活動]を実施し、地域が元気になるつながりを提案し、若い方が住みたいまちづくりを目指したい。

317) 訪問看護の充実や急性期病院からの在宅復帰に向けた退院支援の実践またはあり方検討 / そのほか設問2-2)で記載したような活動[2-2)の内容：主任介護支援専門員研修(高知県社会福祉協議会への委託)の参加者選定にかかる作業(基準作成等)についての支援・協力をいただいた。 / 地域ケア会議のアドバイザーとして参画していただいた。 / 介護の日イベント(11/11)にかかる協議会の一員として参画していただ

くとともにブースの出店を行っていただき、介護人材の確保に向けた啓発を実施した。 / 以下の研修会講師として派遣していただいた。 / 主任介護支援専門員研修(高知県社会福祉協議会への委託) / 介護保険における訪問看護サービスについての主任介護支援専門員への研修 / 地域包括支援センターの機能強化のための研修会]

326) 公民館を起点にした地域活動(史跡にかんするもの、ほか)に参画したり協力(支援)をいただいたり連携しては?

343) 公民館事業である市民教室・中央公民館教養講座・夏季大学講座において、講師の派遣を含め企画立案等、支援・ご協力いただきたい

351) 地域活性化のためのイベント(防災関係や地域の伝統的な祭り)への協力

355) 住民主体となった活動への取組に向けて

359) 専門的知識を有している方の支援・協力が地域の発展・活性化につながると思われる。

363) 布師田地区では平成17年にコミュニティ計画を策定。課題の共有と解決に向けて協力しあう場として、地区在住および勤務するもので「布師田の未来を考える会」を組織。福祉分野(広場委員会)・歴史環境分野(歴史環境委員会)・基盤整備分野(安心安全委員会)の3つの委員会を設置し、(地域のよりよい生活環境およびふれあい豊かなまちづくりを進めることを目的として)活動している。定例会も開催しているので、参加していただき、大学として連携・協力・支援できる内容があれば検討していただきたい。

382) 旭地域は高知市でもっとも高齢化の進んだ町です。地域の特性を考えると、まず健康で生きがいのもてる地域の暮らしを支援することがたいせつと考えます。地域の絆を深めるイベントへの若者のサポート。暮らしや健康をサポートする支援のネットワーク等が必要と思います。

385) 行政の手の届かない、法のすきまを支援できるような活動

387) 健康でいきいきとした高齢者となるための、日常定着する行動・活動への支援・指導

393) 子ども(若者)たちへの自然体験・農業体験の場をつくってきたが、公的な機関の支援等がまったくなく、技術面・知識・経済面・信用性など、自分たちだけの力では限界がある。

394) 当作業所では物品販売にて収益を上げて給料をだしているので、障がい者も楽しめて活動できる場がほしい。

395) 公共空間の安全対策・啓発活動等についての共同実施。

406) 当館主催研究会・イベントへの支援・協力

409) 在宅療養者の地域生活を維持、あるいは推進していくための体制づくり

410) 管内市町の地域福祉活動への支援・協力(地域包括支援ネットワークシステムの構築) / 管内市町の保健福祉活動における事業評価・分析 / 地域福祉・健康栄養・公衆衛生看護等の活動事業者への研修講師や事業評価等のアドバイス

412) イベントを実施するにも人が少ないので、人材支援を願う

423) 津野町を大学がフィールドワークの場として利用していただきたいが、その前段で、例えば地域おこし行事に参画いただく等、できることを進めながら、大学との連携事業につなげたいと考えている。 / 津野町に、大学としてサークルとして常時利用できるスペースを旧白石小に設置できないか、利用率も含めて検討中。

432) 当会は生ごみをリサイクルのが主目的であるが、リサイクル方法は多岐あるので、その具体的展開のし方で連携はできるかと思う。例えば、犬のふんの美観対策、みたいなこと。街角に犬のふんBOXを設置する「運動」の展開とか

---

## 5. 学校教育・児童・生徒への支援・協力

---

116) 高校生への進路講話など(大学で学ぶことなど)

118) 「総合的な学習の時間」での、学年全体への講演や各講座の内容にかんする助言など(総合学科推進部より)。

119) 2-2) と同様の内容[2-2)の内容：学年生徒対象の大学模擬授業における講師派遣 / 大学訪問の一環として生徒の受入れおよび体験授業の実施]をお願いしたい

120) 高大連携授業の実施。本校(丸の内高校)の生徒が年間を通して継続的に貴学の授業を受講できるシステムの構築をお願いしたい。

121) 学問的な興味関心を高め、学習意欲を喚起できる探究型などの高大連携事業が展開できたらと考えています。

122) 基礎学力の定着のため、学習支援員などの人的な支援 / 課題研究に取り組む生徒・教員への支援

123) 2-2) で記述したものの[2-2)の内容：本校で実施した進路ガイダンスに出席していただいた。また貴

校が主催する「高校生のための公開講座」にも多数の生徒が参加させていただいている。]に加えて、「出前授業」の一覧を提示していただければありがたい。

124) 低学力生徒の基礎学力定着のためのプリント教材提供

126) [学校教育] キャリア教育の推進を目的とした講演会活動 / 地域の特産品づくりにかんする助言・支援

127) [学校教育] キャリア教育にかんする講演・講座など / 地元を元気にする活動にたいする支援・協力 / E C O 活動にたいする支援・協力

128) 高知市内まで車で片道 2 時間半近くの地理的ハンディが大きく、貴学に進学を希望する生徒も多くなか、情報量は決して多くありません。大学・学部紹介のニーズは高いものがあり、大学を知る機会を設けていただくとありがたいと思います。

130) [高知ろう学校] 聴覚障害にかんして、専門研究されている方がおいでたらぜひ支援・協力をお願いしたい。

139) 通常学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒への対応

142) 生徒への学習支援 / 講演会(生徒・保護者・教職員対象)

143) 総合的な学習の時間などを利用した地域との連携活動などへの支援・協力や共同的な活動。

145) 地理的に近いので、高知大学とは学生派遣や研究会支援など受けている。県立大も同様の支援があれば助かります。

156) キャリア教育・生涯学習等について、生徒への講話(生き方・学び方についてのお話)

163) 可能ならば、生徒の学力向上に向けて、力をかしていただきたい。

165) 生徒向けの出前授業等

166) 総合の授業で校区内商店街活性化にかかわる内容を学習している。そこで共同実施してほしい。進路学習の一環として、先人としてあるいは職業人としての講演をしてもらいたい。

186) 大学の先生をお招きして、児童・生徒や教職員・保護者の学習ができればと思う。

189) 教育相談活動

194) 大学と連携した学習会(例：生活習慣の改善に向けて)や児童の学習への支援(教科指導) / P T A 学習会の補助・支援(例：子育て学習会の講師)

195) 出前授業の実施

210) 発達障害をもった児童等への支援方法等

220) 出前食育授業 / 出前環境教育授業

222) 2-2) と同様のもの[2-2)の内容：学校行事(進路)において大学より講師を派遣してもらっている。]を継続したい。

223) 本校における商品開発・地域貢献活動・国際協力活動等にたいする支援や共同研究

228) 大学公開講座(出前)

229) 現在須崎市では高知大学との連携を進めていますが、保育・幼稚園・小・中学校とまた高等学校を含めたなかへ高等教育のトップである大学が加わることのメリットにははかりしれないものがあると考えています。この縦関係の連携をよくするとは重要と考えていますので、具体的にはいろいろと考えなければなりません、須崎市の教育への支援をお願いしたいと考えています。

315) 支援を要する児童への(とくに学習面)支援

328) 大学に出向いての講義受講と出前授業

329) 人権教育・福祉教育・体力向上にかんする研修会の実施を考えています(来年度以後) / 学力向上対策としての放課後学習の支援ができないかと考えています(来年度以後)

335) 児童や生徒の学力の向上および教師への指導力・授業力の向上

340) 福祉教育・ボランティア学習への支援・協力(研修会・講演等)

347) 連携をしたら、総合的な学習の時間での講師(キャリア教育の立場などから)としてやそのときのテーマにそっての勉強会のときなどに参加してもらい、外部からの視点で意見をもらうなど、情報交換ができればと思う。

348) 児童生徒の学習にかんして、県立大学からはどのような支援が受けられるかが分からないため、具体的な構想は立てられない。児童・生徒の学習や教育への支援・協力をいただきながら教育活動を進められるゆとりがほしい。あらたに連携を計画するゆとりがないのが現状である。

374) 高大連携(大学での教育内容を生徒・教職員が知る機会としての出張講義)

375) 大学とは、どういうところで、どんな勉強し、どんな資格がとれて、将来どんな仕事をめざしているかについて、キャリア教育という観点から学ぶこと。(本年度は、職種別に人材を募り、体験交流学習を実施予定)

376) 4. [小学校・中学校・高等学校の児童・生徒の学習・教育]については、家族全体が困っているケースもあり、保護者も含めた支援をえる機会へどうつなげていくといいか、スクールソーシャルワーカーに相談できるとありがたい。

377) 大学授業体験講座・体験入学等。キャリア教育等。

378) 特別支援教育等における研究・実践

386) 児童に対しての大学紹介など進学意欲に結びつく支援・協力

392) 2-2) [2-2)の内容：高校1・2年生にたいする進学ガイダンスとして出張講座等で協力いただくときがあります。]と同様ですが、これまで以上に出張講座等で生徒の進路決定などに協力していただきたく思っています。

415) [学校教育]本校では食育教育を推進しているのでその面での協力、また大月町ではタバコの裏作に大豆を生産しているのをそれを活用した商品開発など(もしできるとするならば、ということでご理解いただければと思います。)

426) 中山間地域における産業開発にかんする学習支援。

---

## 6. 学生による支援・協力、学生の受入れ、学生への協力

---

009) 地域が行う親水公園の清掃・除草作業等の地域貢献活動への参加。

010) 高齢者の介護予防事業の学生のボランティア参加 / 独居高齢者等にたいする福祉系学生による傾聴ボランティア

012) 高齢化の進む地域に大学生が活動をおこなってもらうことで、活性化されると考える

015) 各学校での放課後加力指導等への学生の協力

030) 学生による感性を重視した提言や調査・研究への支援・協力等。

035) 県立大学の学生にたいする実地研修

042) 学生ボランティア活動

057) インターンシップ等の協力

060) 大学生に参加してもらいたい行事や取組がある。一例としてチラシを同封するのでぜひご参加いただきたい。

097) インターンシップ等の参加にたいする協力

101) 地域に若者が少ないので、地域に入って新しい考え等を伝え、交流してほしい。

131) 修学旅行の介助ボランティアの協力。

135) 長期休業期間中の生徒への学習支援等

144) 放課後や地域における生徒の学習支援 / 放課後：学校において補充的学習 / 地域：地域の公民館などを利用して宿題等の家庭学習支援

147) 中山間地域の中学校にとって大学生がどんな夢をもってどんな学習・研究をすすめているか知ることが中学生の夢を育むうえで効果的ではないかと思えます。大学生による講演や生徒会との交流ができればよいと思えます。

150) 長期休業中等における補習授業で、大学生による学習支援をしていただきたい

151) 出前授業やキャリア教育で、学生による自分の大学生としての体験発表 / 地域の行事にボランティアで参加する

161) 地域の社会人講師との交流学习は年間の活動に入っているが、大学生との交流・学習という機会はほとんどないため、大学との連携ができると生徒達にとってプラスになる面がありはしないかと期待する。

169) 放課後の加力学習の補助に学生のチューターを希望したが、講義や実習の関係で参加してもらえなかった経過がある。チューターをはじめ教育現場への参加を教職課程に反映できる等、学生の参加しやすい支援体勢を望む。

170) [学校教育]大学生による授業

171) 生徒への放課後学習支援

177) 若い人たちとの交流が少ないので、加力学習等の協力をいただけたらうれしい。また教育実習も歓迎します。

182) 放課後の加力指導 / 授業時間の指導補助

187) 教科学習支援や野外の体験活動支援等 / 「げんきまつり」支援・協力(調理・児童出店・昔遊び伝承等) / 応援します(11. 学生の調査・研究活動等への協力)

192) 個別に支援を要する児童はどの学年にも在籍する。その児童への個別対応(例えば、授業中にその児童の傍らに付添い、学習の手助けをする等)をしてもらいたいと考える。



- 198) 授業中・放課後等の学習支援 / 一斉学習では理解が不十分な児童にフォローをしてもらう / 補習・加力指導・運動遊び等をしてもらう
- 205) 児童生徒との交流
- 206) 遠隔地なので難しいと思いますが、児童への学習支援、保護者への啓蒙活動(講話)、学生から児童へのメッセージ
- 209) 現在沖の島小学校在籍児童は小学1年生女子1名であり、併設されている沖の島保育園の園児が5名という状況です。そのような現状のなか、かぎられた人との交流しかできなく、できるだけ多くの島外の人たちと交流をしたいと考えています。大学生による学習支援や講演などのイベントの企画等していただくと助かります。
- 214) 小学生児童の放課後学習等の支援や学習サポートをしていただけたらありがたい。
- 216) 放課後の学習支援(本校の教員とともに)
- 218) 加力学習における補助をお願いしたい。
- 219) 学生さんには地域の学校を活用してほしい。正式の実習以外のインターン的な取組も相方の話しあいのできるのではないかと。
- 228) 児童・生徒の学習・放課後支援
- 233) 環境意識の向上のため毎年水きり大会を開催しているが、文化として定着させたいので、若い人たちに理解してもらい伝えてゆきたい。
- 238) 若い学生から見た田舎の地域活性化について意見交換をおこないたいし、当地域をフィールドとして活用してもらい交流人口を増やしたい。またNPOが主催するイベント等への参画もお願いしたい。
- 253) 学生の方たちの研究発表やサークル活動の成果発表等の場所として、当館を利用していただけたいと思います。また当館の活動にたいして、学生の立場からさまざまな提案をいただける関係になればと思います。
- 264) ボランティアとしての参加、専門的な力をかりたい
- 273) 独居高齢者へのかかわり / 学童保育への支援・かかわり方
- 296) 中国から舞踏家(少数民族の踊り)・音楽家を招待して開催している「日中友好の集い」、足摺岬「和公園」桜の植樹ボランティアへの参加を希望しています。日中友好の集いでは以前1度高知女子大学中国人留学生が参加したことがあります。高知市からは高知大学の中国人留学生が参加しています。参考のため今月開催のチラシを添付します。希望があれば機関誌「和平」を送付します。
- 308) 高齢者を元気にしたいと活動しておりますが、さまざまなニーズまた情報発信をするときに、若い方に参加していただくことで、世代間交流またお互いの情報交換することがたいせつだと考えておりますので、各種イベント等へのご参加をお願いしたいと思います。
- 316) 県立大学生の卒業研究論文について、県からの調査協力をおこなう
- 322) イベント(軽トラ市・土佐日記貫之時代まつり)時に、学生さんのお手伝いをできればお願いしたい。
- 323) 人口減少・少子高齢化の進行により、中山間地域(吾北本川地区)の過疎化・高齢化が急速に進んでいる現状にあります。地域の支えあいの力が弱まり、中山間地域での暮らしの確保が困難となっている。とくに移動手段の確保が急務と考えます。これらの課題を解決するため協力をお願いしたい。
- 330) 英語活動のサポーターとしての学生の派遣。講演会・研修会の講師として。
- 331) 放課後や休日・長期休業などに実施する「学習支援室」での指導 / 地域で開催される子ども対象の活動の補助的支援(活動の手伝い)
- 332) 学生チューター等の受入れ
- 333) 放課後の加力学習への協力、キャリア教育として大学生による自分の将来設計などの話
- 334) 2-2)に記載したこと[2-2)の内容: 貴職の職員(教授等)を南国市スクールソーシャルワーカーとして委嘱し、定期的に学校へ訪問していただきながら児童生徒支援をおこなっていただいています。]の継続化
- 336) 学生ボランティア(親子との交流)の協力
- 340) 福祉教育・ボランティア学習への支援・協力(研修会・講演等)
- 347) 連携をすればしたら、総合的な学習の時間での講師(キャリア教育の立場などから)としてやそのときのテーマにそっての勉強会のときなどに参加してもらい、外部からの視点で意見をもらうなど、情報交換ができればと思う。
- 367) 地区での祭りへの若者の参加(例えば御輿を担ぐことなど) / 敬老会への参加(音楽活動・遊びなどのゲーム)
- 378) 本校生徒への学習支援ボランティア
- 382) 旭地域は高知市でもっとも高齢化の進んだ町です。地域の特性を考えると、まず健康で生きがいのもてる地域の暮らしを支援することがたいせつと考えます。地域の絆を深めるイベントへの若者のサポート。

暮らしや健康をサポートする支援のネットワーク等が必要と思います。

388) 生徒自身の将来像をえがくための、大学生による授業や講演等

390) 小学校で児童といっしょに活動したり、なぜ大学へ進学したのか、将来どのような職業につきたいと考えているか、小学生のときどんな生活(学習も含めて)をしていたかなど、児童に話をする。そういう活動をおこなうことで、児童が将来の夢や希望をふくらませるキャリア教育を推進したい。

406) 学生を含めた展示解説ボランティア等

420) 学生による地域活動や調査への協力(祭り・イベント等)

425) 本の読み聞かせや子ども向けワークショップなどに協力していただきたい(職員だけでは人員不足のため)。

---

## 7. 大学の事業・授業・行事などへの支援・協力、相互協力

---

009) 協力依頼があれば、いままでと同様に救急資機材の貸出し協力をおこなっていく。その他消防にかかる訓練等の支援も実施していく。

075) 卓越した専門分野をもつ講師の相互交流

290) 高知県の生物にかんして、当センター職員による講義および実習の開催

423) 津野町を大学がフィールドワークの場として利用していただきたいが、その前段で、例えば地域おこし行事に参画いただく等、できることを進めながら、大学との連携事業につなげたいと考えている。 / 津野町に、大学としてサークルとして常時利用できるスペースを旧白石小に設置できないか、利用率も含めて検討中。

---

## 8. その他(含む内容不明)

---

015) 活動が全体的に衰退しつつある、町内会(自治会)への行事への参加協力

095) こちらから「〇〇をしてほしい」等のことはすぐには思いつきませんが、むしろ大学側から提案していただきたいと思います。

133) (1) 教員のなかで大学院等への進学を希望している者もあり、社会人卒や大学の先生にどのように相談につけばいいのかそのシステムを知りたい。 / (2) 障害者基礎年金受給や生活支援についての研究をしていきたい。 / (3) 「(2)」とも関連するが、後見人制度等福祉制度について勉強したい。 / (4) 障害者の余暇指導支援に向けた研究

148) 貴大学にどのような資源があるのかよく知らないし、現状でいっぱい之感がある。

154) まずは大学としてどういった活動・支援ができるのかを教えてもらいたい

184) よりきめ細かな指導体制がほしい

185) 県立大がどのような研究をし、人的な資源を有しているか具体的な情報がほとんどないため連携できる活動がわかりにくい。

188) 講師を呼ぶのに費用がかかる。

193) 県立大学のことをくわしく知らないので何ともいえない。「例えばこんな支援・協力ができる」というモデルがあれば、そのなかで支援・協力を依頼したいと思うことがみつかると思う。

201) とくに具体的に考えていることはありませんが、お互いにプラスになることなら取組んでみたいと思います。

219) 大学の持っている専門性を活用したい。そのためにも大学の情報をこれまで以上に出してほしい。

231) 具体的に記入できませんが、協力をお願いできればと思います。

240) 廃校舎利活用の有無(地域活性化にどのように利用できるか)

243) 少子高齢化で人口減少で人手不足に加え、もともと住民は企画力に乏しく、地域力が低下している。いつも行政頼みで、工夫や思いきったアイデアがない。なんとなくお決まりの年間行事として無難にこなしている。

258) いま行政でも困っている問題の1つに障害児の放課後のことで相談があり、事業所では利益がでないので無視する傾向にあるらしく、父兄の方からの相談も多数あるそうです。これらのことを受けて私たちは、NPOでは無理だが多くの方々の協力を得て、デイサービス事業をと考えて事業所と連携して実現しようと活動しています。この思いは文字では説明できません。

270) 就職氷河期といわれる今日、問題や課題は学生側やその親にもあると思われる。「就職できない」のでなく「就職したいとこにできない」のであり、あまりにも社会常識や世の中のことを知らない状況である。インターンシップやトライアルといった経験が必要である。

277) わたしどもはお金がありません。共同研究するレベルではないのでは？

292) 具体的な事業内容について現在検討中ですが、基本的には地域・住民と一体になったイベントや、対外的な収益事業、ネットを利用した広報活動などを考えています。そのなかで大学さんとどう連携できるかはわかりません。

310) 会員の高齢化などで活動範囲も限定的になり、あらたな人材の確保が課題となっている。

313) わたしどもの会社では講演研修会にヘルパーが参加しにくい環境にあります。ヘルパー不足の点です。必要な研修会には参加すべきと考えています。

341) 親子教室等開催するおりに(例：昆虫採集会など)、大学の施設を使用させてほしい

365) 県立大学で開催する研修会やイベント等の情報提供

370) 生涯教育全般についての協力を得たいが、在籍教授等が専門とする分野が分からないし、講演等をお願いしたいと思っても、それを専門とする方が社会人(当センターの場合には対象者はOB社会人が多い)の期待に沿う内容や講演の仕方に応じていただけるか否かがまったく分からないので、接触のキッカケが把握できない。

396) 高知県就労事業者機構は、犯罪や非行をした者を更生のために雇用する協力事業者を支援する組織であり、犯罪や非行をした者の社会復帰について地域社会が理解し、協力が得られるようにするための啓発・広報活動が重要と考えています。

401) 安芸市役所より約18km奥まった中山間で戸数10戸余りにて、地域在住者に50才以下のものは1人もなく50代～70代が3名、あとは75才以上のものが10名くらいという地域で、2ヶ月に1度の無医地区検診を受けながら稲作・柚子の作業をしている状況です。また他地域との交流も少なく、高齢ゆえに移動手段は市の運行するバスに頼るしかないのが実状であります。

404) 大学が同和問題解決のための活動をしているとは思えない

408) 医療関係の支援・協力等、可能なのでしょうか？(例えば医療確保)

414) 高知工科大学とは活動したことがある。教育委員会と学校が連携しないと、いまの現状ではむづかしい。

417) 土佐人気質とユーモアの関係は概にいわれていることであるが、ユーモアは高知の固有の魅力をつくっていく源泉となるものという取組は弱いようだ。 / 地域間競争や成熟したモノづくりのなかで高知を売っていくには、ユーモアを<理解・評価・誇る>ことへの県民市民とのコンセンサスが必要ではないか。(高知は漫画だけでなく、広くユーモアが似合う土地柄である。もったいない。)

418) わたしどもは有料老人ホームの運営事業をおこなっておりますので、貴大学との連携活動をおこなうことはむづかしいです。かつては学童保育を手がけておりましたが、いまはやめております。ただ貴大学の先生が福祉交流プラザなどで講演をなさるときには、参加させていただき拝聴させていただいています。

419) 具体的なものがわからない

430) 自然豊かな浦ノ内湾の景観。黒潮スカイラインから見る雄大な太平洋・鳴無神社(歴史ある)など、全国に発信し、観光客を増やす。 / 体育館・グラウンド・カヌー場は完備しているが、宿泊施設がない。宿泊施設の完備をしたい。

### 3. 高知県の地域課題

#### 3-1) 現在の地域課題

表6-01 現在の地域課題(1)生活・健康課題

#### 3-1) 現在の地域課題(1)地域の生活・健康課題の内容

##### 1. 日常生活上の課題

003) 高齢者等の消費者被害の防止

009) 地域の高齢化が進んでいるので、とくに高齢者の健康づくりは重要。また核家族化も進んでいるので、異世代が交流する場を提供することも重要であると考えている。 / 住民同士の支えあい・助けあいの仕組づくり、孤立化の予防(見守りネットワークの構築など) / 健康寿命の延伸と健康格差の縮小 / 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、社会生活に必要な機能の維持・向上(こころの健康、次世代の健康、高齢者の健康)

010) 高齢者福祉計画や介護保険事業計画などの策定への協力 / 介護予防事業、独居高齢者対策、食生活改善等

013) <健康推進課>過疎高齢化による人口減が顕著で通院・買い物等の移動手段の確保が難しくなっている。

014) 生活にかんすること、医療にかんすることは、すべての地域で課題となる。山間地域に限定すると、とくに生活にかんする課題(移動や負物)はある。

015) 1. [日常の交通]3. [日常の買い物]4. [郵便・非常時通信]は、中山間地域の高齢者(交通弱者)が直面している課題。 / 2. [飲料水]は、中山間地域での施設が充分でない。

019) 土佐町のなかでも地域格差があり、通院や買い物への足の確保が問題となる。古い住居も多く、段差も多く、屋外に浴室やトイレがある場合もある。高齢者の1人暮らしや高齢者世帯の増加で日常生活が支障をきたすこともある。民間サービスも、効率が悪いので十分確保できないこともある。

025) 高知県が直面している超高齢化社会における新産業創造と地域活性化をする。地域の生活・健康を考えるなか、シニアを社会のコスト要因としてではなく担い手として社会問題を解決する。安心・健康・快適なコミュニティを創るのに、高知県立大の立地や研究が有効です。

027) 高齢者が多数を占める地域のため、量販店まで買出しに行ける人にもかぎりがあり、買物難民の解決が必要。 / 水洗トイレの完備(全戸)。 / 病院数の減少に伴う医療施設のサービス低下の引き上げ。高度医療充実迄も希望はしないが安心して診てもらえる施設の充実。

030) 中心地以外に商店が少ない。 / 賃貸住宅が少なく、また築後年数が相当期間経過している。 / 県所有住宅の有効利用が不十分。

032) 高齢者の足の確保(移動手段)

044) 地元商店の閉鎖 / バス等の公共交通の便が少ない

050) 山間部のなかには高齢化によって地域生活が成り立ちにくくなっていく部落がみられる。今後町における自治ではこのことが大きな課題になると思われる。このことはすべてのことに影響を与える。大きな原因は若者の就労の場のないことだと思われる。

051) 図書館に来づらい人たちがいる / 図書館から発進していける情報も多くあるが、実行に移せていない館が多い / コミュニティの場として認識されていない図書館(室)も多い / 活字による資料・情報を利用できない人へのサービス提供(障がい者サービス)

057) 交通の発達(高速道路等)

065) 道路の整備・改修

068) 公共交通の充実、医療機関への送迎 / 元気老人の宅老施設、毎週1回介護予防の集いを実施している。

072) 5. [住環境整備・住宅バリアフリー化]については、県・町の窓口担当者の役割の明確化と柔軟性 / 9. [地域包括ケアの推進]については地域関係機関の連携と地域力との融合。それぞれの機関の役割の明確化と連携・協働の仕組づくり

081) 地域に日用品・食料品の十分な販売店がない。 / 高齢者等弱者には支援・協力が必要。 / 浦戸地区：総人口1044人・70歳以上326人・60歳～69歳207人

084) 近くの商店がなくなり、1キロ程離れたスーパーに行かなくてはいけない。高齢者が進み、徒歩で

は大変な状態にある。

087) 過疎化が進み、商店が少ない、病院がない

089) 地域には商店・病院・郵便局もあり、日常生活には困らないと考える。包括ケアや健康づくりも一定おこなわれている。

091) 中山間・小集落においていつまで集落機能が維持できるかが不安要素(高齢者が約7～8割を占めている)。

094) 独居高齢者の増加と地域の小商店の減少により、買い物難民が多くなってきた。医療機関に出向くのにも同様の悩みが聞こえてくる。

099) 独居老人・交通弱者にたいする移動サービス等

101) 1人ぐらしの高齢者が多いことから、住みなれた自宅で生活できるための支援がほしい。

108) あとをついでくれる若者がほとんどいない。 / この地域から高知市等へ通勤できるような道路をつくってほしい。

115) 国道439号線沿い以外は、山中の細い道で急坂が多く、移動が困難

127) 高知市中心部より遠いことによる格差を少なくする

131) 公共交通機関(バス)の便数が少なく、校外へ出ることが難しい。

135) 公共交通機関の脆弱さ

138) 地理的な不便さ

139) 高知県と徳島県との境に位置しているため、交通手段や施設が少なく不便である。

158) 近くに量販店や医療機関がない。

162) 公共交通機関の整備が不十分(今後も見込めない)

163) 車で移動すれば買い物はできるが、車のない人にとってはとても不便さを感じる。非常時の通信についても困難なエリアがある。診療所での医療であり、急な病気等や重大事故への対応が難しい。1人暮らしのお年寄りが多く、地域福祉・在宅福祉の充実が必要である。

166) 市内中心部にあり物流面では便利である。その反面せまい道も多く、防災面等で不安も多い。

171) 本校区は坂道が多く、高齢者に厳しい地域である

173) 公共交通機関の整備

185) 交通手段がかぎられており、自家用車がないとスムーズな移動はできずらい。生計を立てる仕事が少ない。

194) 早寝・早起き・朝ごはんの取組をつづけて長い、定着したとはいいがたい。

195) バスの便数が少ない

199) 自家用車がないと移動しにくい。バスは各路線1日3～4便(朝・昼・夕)のうえ、いつまで存続できるか分からない。

201) 地域のすべてではありませんが、地域の高齢化・単身世帯化が進んでいるため、買い物に困る人が増えている、ますます増えてくると思います。

202) 田舎は自動車が移動手段であり、高齢者や免許をもたない者は移動も困難となり、結果買い物や通院にも支障をきたす。

206) 過疎地なので車のない老人は買い物に困っている。移動販売車を楽しみに待っている老人が多くいる。

212) 車の運転ができないお年寄りにとって買い物の不便がある。公共施設のバリアフリー化は進んでいるが、一般住宅においてはその意識は低いと思う。

220) 通学路の安全

222) 近隣の駅からの通学路の安全確保と安全指導

231) 集落単位での日用品の販売店舗が少なく、高齢者等の買い物に不便を感じている。

234) 過疎地交通不便 / 量販店が遠い / 高齢者の身の廻り生活不自由 / バリアフリーの改善費は捻出不可

238) 現在は不足したものはないが、将来の不足材料として高齢者への保健福祉(宅老所など)の不足や交通機関や買い物なども課題が生じてくると思う。また若者定住に向けた魅力の発信が必要となってくる。

265) 車の運転ができないとすべての生活面で不便。

273) 資源ゴミ・生ゴミの搬出 / 買物支援 / 高齢者の生きがいづくり / 高齢者の相談への対応

285) 商店なし、足なし、病院遠い

287) 高齢化が進む中山間部等では、いまだ水道がない。家によって絶壁のような谷川を上り、雨が降った後の水源の手入れ(雨や台風後水源のホース等に落葉等が詰まる)をおこなわなければならない。80歳をすぎた老人が谷山をよじ登り、手入れをおこなっている。上水道の敷設は今後大きな課題になるのでは。

289) さまざまな課題はあるが、地方がいちばん困っているのはなにをすることも移動(送迎が必要)ではないだろうか? 病院を受診するにも移動手段に頭が痛い。

300) 地域の「八百屋」さんがなくなり、高齢者の食材の入取および病院等への移動がむずかしくなり、その支援の必要性が求められる。

304) 高齢者が多く買物等が不便

306) 規律のある家庭生活の基盤を育成するための啓発活動への支援

325) 村内外を移動する交通手段(公共)は村営バスのみ(2時間に1本程度)

327) 過疎地で高齢者ばかり。市営のデマンドバスがあるが、回数が少ないので不便。

328) 南北の公共交通の不便さ

333) 公共交通が整備されていない

335) 高齢化により移動手段がなくなっている / 地域活動等について交通を通して活性化をはかりたい

340) 中山間等の交通の便

346) 鉄道が設置されていない。

349) 市の中心部から少しはなれている、国道からもはなれている / 山間部に入ると道がせまく、通学にもたいへん

354) 中山間地区が多くあり、高齢者の方への買物対策が必要である。

355) 定期バスが、朝(7時)昼(12時)晩(6時)と便数も少なく、停留所も平田駅・幡多県民病院までとなっており不便

360) 公共交通の利便性がよくない

367) 地域には店舗がなく、長浜や瀬戸へと買い出しにしている。

372) 近くに買物の場がなく、高齢化にともない買物に困る / 公共乗物の便が少なく、移動が不便

375) 学校周辺の道路が狭く、通学の安全確保が難しい。

378) 高知駅の高架化により地域環境はずい分改善された。 / 歩道の設置が必要と思われる道路がまだある。

384) 商店の閉店時間が早い。

385) 高齢者・障害者の人だけでなく、生活支援を必要とする人へのサポートができるしくみづくり

398) 町内に平野部がなく、吉野川沿いの山間地に民家が点在している。集落内の集まりでも、車での移動が必要などところも多い。

401) 安芸市街まで行かないと買い物ができない。

403) 車がなければ不自由する環境にある。車に頼らない生活をするための知識や体力・健康づくりをいかにすすめていくかが課題。

404) 就労・生活安定等の課題が大

409) 住民が住みなれた地域で安心して生き生きと暮らすために、中山間地域を多く抱える中央西管内には、ほぼすべてあてはまる。

416) 生活課題の著しい家庭や独居老人等への支援。子どもの生活習慣の向上および食生活の改善。

420) 東西南北にのびる市域の広さにたいし、人口密度が薄い地域が多く存在するため、公共交通も制限されている実態がある。病院やスーパーは市街地に集中し、通院や買い物には移動手段を考える必要があり地域の要望も増しています。

425) 交通の便が悪い / 車を運転できない高齢者や児童だけで移動する手段が少ない

426) 公共交通機関(バス)を利用するのに5km程度の移動が必要である。 / 上記(前記)の距離を移動しないと買い物ができない。

428) 山間地域の高齢化により、自家用車での移動ができなくなるために、現在あるバスの路線数を増。

429) 図書館までの移動手段や距離

---

## 2. 医療・保健・福祉・栄養等の課題

---

009) 地域の高齢化が進んでいるので、とくに高齢者の健康づくりは重要。また核家族化も進んでいるので、異世代が交流する場を提供することも重要であると考えている。 / 住民同士の支えあい・助けあいの仕組づくり、孤立化の予防(見守りネットワークの構築など) / 健康寿命の延伸と健康格差の縮小 / 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、社会生活に必要な機能の維持・向上(こころの健康、次世代の健康、高齢者の健康)

013) <健康推進課>市街地に病院機関はあるが郡部には医師がいない状態が続いており、住民からの要望

が強くあがっている。 / 生活習慣病の予防を通じて医療費・介護給付費の削減を目指している。

014) 生活にかんすること、医療にかんすることは、すべての地域で課題となる。山間地域に限定すると、とくに生活にかんする課題(移動や負物)はある。

015) 小児科専門医師が不在。

022) うえの設問に、健康産業にかかる企業課題にたいして、アドバイス等のソリューションの機能があることをもっと広報すべき。その認識がないことが問題

024) 高血圧・糖尿病・腎症など重症化予防が必要な疾病について予防のための啓発や、地域促進の支援ができたらと考えている。

025) 高知県が直面している超高齢化社会における新産業創造と地域活性化をする。地域の生活・健康を考えるなか、シニアを社会のコスト要因としてではなく担い手として社会問題を解決する。安心・健康・快適なコミュニティを創るのに、高知県立大の立地や研究が有効です。

027) 病院数の減少にともなう医療施設のサービス低下の引き上げ。高度医療充実までも希望はしないが、安心して診てもらえる施設の充実。

034) 上記選択肢すべてが課題であるが、あえて限定すれば、福祉サービスの質向上、そのための人材確保・養成 / 上記(前記)の点と相まった住民の主体的な福祉活動の進進

035) 地域福祉計画、地域福祉活動計画が未策定

037) わが市において、とくに地域づくりにおいて強化しているところである。しくみづくりや特定健診の向上、高齢化によって昔のような交流の機会の減少など少しでも改善できるようにしていきたい

038) 移動手段の確保 / 選べるサービスが少ない

041) その他の課題で、高齢化が進む地域での活動はまず住民の福祉への理解を得ることが大切だと、子供から高齢者まで福祉教育、しつこいほど教育、つぎに人材育成、次世代の。この2点です。

044) 上ノ加江診療所の休止。

047) 大月町36地区が車がなければ移動は容易にできない。また高齢化率38.8%、独居高齢者や高齢者のみの世帯の増加により、通院・買い物不自由。 / 上記(前記)の対象者が健康的な食生活を営むうえで、1/W[週1回]の配食サービスでは不十分な方もいる。

054) 地域内に店・病院などがなく、高齢者はタクシー等を利用するしかない

064) 上にあげられたものでは7. [地域医療]9. [地域包括ケア]あたりに課題を感じるが、私どもが取組んでいる分野ではない。

068) 公共交通の充実、医療機関への送迎 / 元気老人の宅老施設、毎週1回介護予防の集いを実施している。

070) 医師・看護職など、医療従事者の不足。

071) 在宅で生活をするということが主流になってはいますが、在宅福祉にかかわる側への負担が大きくなってしまっていて(職員の削減や市町村にすべてのことが移行されようとしているため)、結果として、地域福祉や在宅福祉が不十分な状況になっていると思います(または片寄っている)。

072) 9. [地域包括ケア]については、地域関係機関の連携と地域力との融合、それぞれの機関の役割の明確化と連携・協働の仕組づくり

073) 県内共通の課題：「産科医の不足」(高知市内まで行かなければ定期健診が受けにくい地域性)。小児科が医療圏で1医療機関しかない。このため、少子化に歯止めがかからない / 地域包括ケアは、高齢者だけでなく地域住民の全年齢層を対象に取組が必要かと。 / 地域医療の充実：医師の安定的な確保。地域医療(中山間へき地)を救う医師が居ない。

074) 老々夫婦のみや独居の方々が元気なうちに健康づくりにとりくんだり、今後のこと(QOLやどこでどう生きていくのか)を考えられ決めていけるようなしくみづくり

076) 医師だけでなく、NS・MSW・RD等の医療専門職がこれからの多職種による多数精鋭のチーム医療では必要となり、多くの質の高い医療人をだしつづけてほしい。

087) 過疎化が進み、商店が少ない、病院がない

094) 独居高齢者の増加と地域の小商店の減少により、買い物難民が多くなってきた。医療機関に出向くにも同様の悩みが聞こえてくる。

115) 独居または高齢世帯が多く、食・健康・交流などのアイデアと施策が必要

124) 周産期医療の充実 / 食生活・栄養改善を目指した取組において、より効果的だった事例を町民に知らせ、情報を共有する。

126) 高齢化が進んでいるため、日常生活のケアや健康づくりは緊急の課題。また児童生徒の食生活のも乱れがあり、改善が急がれる。

136) 充実した医療施設ない(カウンセリング・心療内科等の施設)。すぐに生徒が受診できない。

- 137) 児童生徒の基本的な生活習慣や食育の充実
- 142) 基本的な生活習慣の確立の重要性や食生活の重要性について、生徒・保護者への啓発活動
- 148) 校区では糖尿病の方が多いと聞く。これも地域性？
- 163) 車で移動すれば買い物はできるが、車のない人にとってはとても不便さを感じる。非常時の通信についても困難なエリアがある。診療所での医療であり、急な病気等や重大事故への対応が難しい。1人暮らしのお年寄りが多く、地域福祉・在宅福祉の充実が必要である。
- 167) 基本的な食習慣の身についていない生徒がいる。
- 181) 高齢者の多い地域で介護がますます必要となっています。安心して生活できる地域づくりが求められています。
- 186) 食育にもっと取り組むべきであると考えている。
- 187) 県内最北・最標高(約600m)の所。町役場より1時間、但し西条市が近い
- 188) 病院が少ないことと総合病院が近くにない。
- 189) 肥満の改善
- 194) 帰ってからの食育が充分ではない。
- 197) 山間地域であっても食生活や栄養面についてあまり深く考えず、インスタント食品や食生活のバランスがよくない面が多くみえる。
- 198) 地域でのスポーツ大会等の実施
- 218) 朝食をとらずに登校する児童がいる。
- 226) 地域の診療所と健康づくり活動の連携
- 229) 過疎化における医者不足は深刻な課題です。また小中学生の食生活について「早寝・早起き・朝ごはん」活動によって生活リズムの定着を進めていますが、諸々の事情でできない・できていない家庭があるのが現状です。全市的な取組が必要と考えています。取組自体は食改などもおこなわれていますが、独立した取組はできないかと、工夫した取組ができないかと、考えています。
- 234) 専門医が遠い
- 238) 現在は不足したものはないが、将来の不足材料として高齢者への保健福祉(宅老所など)の不足や交通機関や買い物なども課題が生じてくると思う。また若者定住に向けた魅力の発信が必要となってくる。
- 241) 地域の病院に精神科を設置してほしい。
- 242) 食育を含めた健康づくりの実践と、それにとまなう地域交流
- 245) 地域福祉は、いまのままでは5年～10年先には地域がなくなります。住みなれた地域でできるだけ住める政策が必要です。同時に元気な地域、活力のある地域づくりが、地域福祉に繋がると思います。
- 246) 障害や介護福祉サービスは充実してきたが、対象外でサービスを必要としている方々も多く、支援策が必要だと思う。
- 248) 障害者にたいするサービスの向上
- 251) 地域包括ケアのまちづくりを進めていきたいと考えている。そのために、医療・看護・介護の連携が必要であり、一宮をモデルとした取り組みを展開したい。また、一宮コミュニティが中心となって、一宮内のさまざまな団体をつないでいく予定である。 / 「明日への絆」としては、メンバーである1人暮らし高齢者をどのように支えていくか、まだ明確な答えはでていない。それぞれが住まいする地域町内会や民生委員・地域包括・病院など、メンバーとかかわる組織や団体との連携が必要であるが、働きかけはあまり進んでいない。
- 256) 民生委員との協働でパンフレットのポスティングや住民への直接アプローチをおこない、健康体操や趣味の教室への利用促進ならびにデイサービスの提供を働きかけているが、情報が行き届かないのか実現につながりにくい現状がある。
- 260) 障害をもつ人たちのなかでも「不便はない」とか「差別をうけたことはない」という人たちがいる。普通に暮らせるということがどういうことか、地域の人たちとのかかわりを重ねることで体験でき、つながれるようになったらと考える。
- 265) 障害への理解が不十分 / 専門医の不足
- 267) 高齢者化社会における健康の増進が重要と考えます。
- 268) 地域で障害をもった方が自立した生活を送れることができるためには、私たちはなにをしなければならぬのか
- 274) 発達段階の子どもに安全安心の食材がいかんたいせつなのか、食育を含めた推進活動
- 283) 高知県下各地域において「包括ケアの町づくり」の必要性を切望します。
- 285) 商店なし、足なし、病院遠い
- 304) 高齢者の健康(病気のときの病院への交通)



309) 在宅生活をつづけていくうえで、食生活や運動機能の低下防止・予防対策を重視した福祉活動が課題

310) 施設を利用しないですむような在宅福祉の充実や、地域と連携を保って安心して余生を送れる社会

314) いつでも誰でも気軽に参加できる運動・スポーツプログラムの提供や、スポーツ好きになる子どもの運動能力向上プログラムの提供、高齢者の健康増進・体力維持のお手伝い、健康・仲間・まちをテーマとした計画。中高年・老人・障害のある方、多世代にわたり市民が公平に交流をはかれる施設づくり。予防医療に繋がる活動が費用の削減につながり、将来やっぱり南国市に帰りたいと思う子どもを増やしたい。

317) 住民が主体となって継続的に介護予防に取り組むためのしくみづくりが必要。 / 在宅介護・在宅医療・福祉の連携の取組は、県内に広がりつつあるものの、一部の地域ではサービス資源の不足等により進んでいない。

318) 障害のある人が地域で生活するために、障害特性に対応した移動手段や支援・住環境整備が重要 / 中山間地域における障害福祉サービスの不足 / 医療ケアの必要な人のための短期入所事業所の不足 / 児童発達支援センターなどの障害児の療育支援事業所の不足 / 障害のある人が身近な地域で、必要とする専門医療を受けることができる体制整備

323) 福祉サービスの現状と住民参加による新たな支えあいの仕組づくり / 福祉を支える担い手の育成とボランティア活動の普及 / 利用者の視点に立った福祉サービスの質の向上

325) 村内に病院等医療機関がない。

326) 地域の人々との連携のための一歩として、地域の人々の健康づくりについて接点になり、より具体的な取組として

334) 南国市は、食育のまちづくり宣言・食育のまちづくり条例を制定するなど、食育の推進をおこなっています。さらなる取組推進が課題であると考えます。

340) 地域包括ケアの浸透

342) 高齢者や障害のある方が在宅で生活できるためには、医療・介護・福祉の連携をより進める必要がある。 / 在宅療養を安心して継続するための緊急時の対応体制の充実 / 介護者の負担軽減につながるサービスや家族会運営への支援 / 健康格差を考えると。背景にある社会生活環境要因への取組を強化していくことが必要。 / まちづくり団体等民間の地区組織活動の育成や連携、予防と医療との連携のしくみづくり。

343) 高齢化が進んでいることから、通院・買物等に不便な地域が多い。また医師不足の状況であり、地域医療の取組が進んでいない。地理的に広い地域であり、地域福祉等より細かな施策が望まれる。

345) 当地域だけではないが、子どもたちの食生活がバランスを崩していると感じている。

355) 当村に医師が駐在していない

358) 医療・介護職の人材確保自体が困難 / 障害福祉サービス・事業所等資源が乏しい

377) 在宅での介護・終末期医療にたいする対応

378) 高知市における子どもの医療費負担の高さ。中卒まで無料にしてほしい。

386) 在宅医療(ケア)の充実。安心して在宅ですごせる環境づくり。介護保険と医療保険を有効に活用する施設。

399) 介護問題(老老介護・在宅介護)の増加対策

403) 車がなければ不自由する環境にある。車に頼らない生活をするための知識や体力・健康づくりをいかにすすめていくかが課題。

408) 平成16年の新たな医師の臨床研修制度の導入により急速に医師が減少。以来医師不足が問題となっており、病院経営自体が厳しい状況となっている。公立病院の果たすべき役割が担えなくなる。

410) 地域の健康づくりにおいては、地域組織の活性化や住民の主体的行動変容における保健指導技術の向上などの課題があります。 / 食育においては、流通や生産部門との一体的な取組への発展が課題です。

412) 診療所はあるが十分な設備がない

415) 上記2-4) [2-4)の内容：本校では食育教育を推進しているのでその面での協力、また大月町ではタバコの裏作りに大豆を生産しているのをそれを活用した商品開発など(もしできるとするならば、ということでご理解いただければと思います。)]に同じ

416) 生活課題の著しい家庭や独居老人等への支援。子どもの生活習慣の向上および食生活の改善。

421) 介護事業を導入し、地域の活性化につなげたい

423) 町が地域包括センターを直営しているが、対象者の生活相談が多く、職員の負担と労働時間の軽減が課題となっている。

429) 福祉や健康・自然素材などに関心をもっている人が多いが、応えられるか

・図書館や読書で1日暇をつぶしている人がいる

432)生ごみをリサイクルで土に還すことは1つの方法で、その具体化は畑をすることにつながる。畑で野菜などをつくり、自ら収穫したものを食べる、という循環など、食生活・食育にリンクする。それらに学術的考察を付与してくれるとうれしい。

---

### 3. 公益施設の整備・利用サービス・地域活動等の課題

---

051)図書館に来づらい人たちがいる / 図書館から発進していける情報も多くあるが、実行に移せていない館が多い / コミュニティの場として認識されていない図書館(室)も多い / 活字による資料・情報を利用できない人へのサービス提供(障がい者サービス)

056)幅広い年齢層の方が利用する施設なので、そこでの交流が深まれば、豊かな町づくりのきっかけになると思うのですが、まだ個々の利用にとどまっています。

059)図書館でも進めているが費用等の面があり、ある程度までしかできていない

060)文化施設として地域の方たちがいかに興味をもったりかかわりをもってくれるかということ。学校を含め、交流や活動(共働)の機会をつくっても、実際の参加になると難しい一面がある。

084)公民館活動：魅力ある行事(人が喜んで集まる)、どんなことがあるか教えてほしい。

088)公民館を会場にさまざまな講座やイベントをおこなっているが、来場者の固定化・減少が課題である。

100)生涯学習の場としての公民館の立ち位置と協力体制

133)福祉避難所としての機能の充実・環境整備 / 地域住民との学習会

256)民生委員との協働でパンフレットのポスティングや住民への直接アプローチをおこない、健康体操や趣味の教室への利用促進ならびにデイサービスの提供を働きかけているが、情報が行き届かないのか実現につながりにくい現状がある。

290)高知の自然の歴史の証拠となる標本にかんして、後世に引き渡していく体制や設備が不十分。

337)公共施設のバリアフリー化が遅れている。

413)男性の調理参加(調理教室等)をおこなっているが、参加者が伸び悩んでいる。

429)図書館や読書で1日暇をつぶしている人がいる

---

### 4. 地域社会の整備・活性化・交流等の課題

---

004)少子高齢化や人口減少による地域づくり活動の衰退

009)地域の絆による社会づくり

017)地区の維持(田・畑)

025)高知県が直面している超高齢化社会における新産業創造と地域活性化をする。地域の生活・健康を考えるなか、シニアを社会のコスト要因としてではなく担い手として社会問題を解決する。安心・健康・快適なコミュニティを創るのに、高知県立大の立地や研究が有効です。

037)わが市において、とくに地域づくりにおいて強化しているところである。しくみづくりや特定健診の向上、高齢化によって昔のような交流の機会の減少など少しでも改善できるようにしていきたい

044)地域のつながりの希薄化。

047)29地区でサロンを開催しているが、地域によってその地域のリーダーにより内容に温度差がある。また一部に閉じこもりの方もいて、その方への支援が十分におこなえていない状況。

061)若年者と老年者の交流・協力

065)定住できるような住環境・地域づくりの具体策の実施。その具体策ができないところが課題。

066)高齢化の進む中山間地域では、若い人と交流したり、地域の伝統を伝える機会が少なくなってきた。

080)独居世帯が多く、交流も少なくなりがちである。

092)地域でのイベントへの参加

109)旧松山街道探検ウォーク / 健康セミナー：老人クラブとタイアップして

115)独居または高齢世帯が多く、食・健康・交流などのアイデアと施策が必要

127)高知市中心部または県外への人の流出をおさえる地域の魅力づくり

144)集合住宅や新興住宅が増加し、地域コミュニティが弱体化し、子どもたちの成長に貢献できなくなっている。

147)若年人口が少ないため、落ちついていますが活気が乏しいです。

154)地方では少子化の問題がほぼ全ての課題です。

- 156)若い夫婦の定住 / 地域コミュニティの維持、活動の発展・充実
- 164)歩道の高さがあることや歩道がないところもあり、整備が不十分である。中学校の校舎もバリアフリーになっていない。
- 172)地理的課題、少子・高齢化
- 177)高齢化・過疎化
- 190)地域をまきこんでのイベントなど少ないので、交流が弱くなっている。
- 192)児童が自由に遊べる場や体力づくりができる場所、児童公園や運動公園がないこと。
- 198)地域でのスポーツ大会等の実施
- 205)高齢化の社会のなかで、明るく生きがいをもち健康的な生活のできる社会づくり
- 214)高齢者の居場所やいこいの場があればよいと思う。
- 216)発達障害児・母子家庭・就学援助家庭の増加。
- 220)通学路の安全
- 222)近隣の駅からの通学路の安全確保と安全指導
- 234)交流には身体不自由で行けない。
- 236)若い人が流出しており、集落の祭りやイベントが持続できなくなっている。文化があれば魅力につながり、人が集うことができる。大学生の力を単発でいいのでお借りしたい。
- 242)食育を含めた健康づくりの実践と、それにとまなう地域交流
- 244)いまは文化等で交流などしたいと考えていますが、今後は伝統の継承などにも取り組んでいきたい。そのなかで町内外の人たちとの交流をすることで、地域の活性化に向け取り組んでいきたいと考えています。
- 254)犯罪被害者等が地域のなかで安全で安心して暮らせるために、経済的・住環境的・精神的にサポートできる機関・団体・地域づくりが課題と考えている。
- 264)人間らしく暮らせる社会
- 269)独居高齢者の認知の問題、見守りをどうするのか。地域でのつながりをもてる場所づくり。(1人ぼっちで1日だれともしゃべらなかつたとかないように)
- 277)限界集落の町中心部への集積が必要ではないか。
- 291)<外から内へ>地域外から地域へ / 高齢化にとまなう急激な過疎に対応した生活の提案(人がいたときのシステムでは対応できない) / <内へ>地域の価値の再認識、違った価値観の提示 / 1番は、なにが課題なのかを共通の認識としてもつこと。
- 292)過疎高齢化により若者が少ない / 若者の交流の場がない / 高齢者と若者のコミュニケーションの場がない / 交流コミュニケーションが必要：イベント / 移住者を増やす：きっかけづくり
- 295)これといった産業がなく、人口の減少、少子高齢化
- 300)地域の雇用がなくなったので、地域資源(水力・森林資源)を生かしての雇用の創出が必須でありませう。
- 305)視覚障害者が地域で生活しやすいようにハード面・ソフト面での充実 / 視覚障害者・視覚障害児が参加できる余暇活動の充実
- 308)高齢のためひきこもりがちの方が多く、歩いて行けるくらいのところで交流の場をもてるよう、そのことで身体的・心の健康をつくれるようにしたいと考え、現在おこなわれているいきいき百歳体操会場の活性化を願いますが、サポーター・お世話役の高齢化、ボランティアの数が少ないので困っています。
- 314)いつでも誰でも気軽に参加できる運動・スポーツプログラムの提供や、スポーツ好きになる子どもの運動能力向上プログラムの提供、高齢者の健康増進・体力維持のお手伝い、健康・仲間・まちをテーマとした計画。中高年・老人・障害のある方、多世代にわたり市民が公平に交流をはかれる施設づくり。予防医療に繋がる活動が費用の削減につながり、将来やっぱり南国市に帰りたいと思う子どもを増やしたい。
- 316)地域力が弱まるなか、支えあい(共助)を拡大・強化する必要がある。住民主体の活動を行政が継続して支援するしくみが必要。
- 320)子育ての孤立感や不安感を軽減するため、地域子育て支援センターや子育てサークルなど、子育て家庭が気軽に交流・相談できる場づくりの充実が必要。 / 少子化対策を進めるため、結婚を望む独身男女の出会いのきっかけづくりが必要。
- 325)村民の高齢化および若者の人口流出。
- 336)少子高齢化の進行
- 340)集いの場の拡充
- 349)高齢化がすすみお年寄りが多い
- 350)高齢独居老人があまりにも多い。
- 352)2-4)[2-4]の内容：集落活動センター(汗見川・大石地区)への提言 / 商業機能への提言]と同じ

367) 高齢化が進んでいるが、家屋は古くバリアフリー化していない / 独居老人の孤独死や高齢化によるひきこもりがある

371) 少子高齢化により苦慮しています。

375) 学校周辺の道路が狭く、通学の安全確保が難しい。

379) 地域のコミュニティー活動が弱くなっていると感じる。

382) 旭地域は町ぐるみ高齢化しているので、町内会や民生委員の活動も低迷していると思う。既存の組織自体が弱体化しているし、機能を果たせていないことも散見する。上記に○印したすべてにおいて、課題が多いなかで、ボランティアの草の根の活動や古くから残るご近所同士の支えあいや絆をたいせつにして、支援することがたいせつだと思う。

383) 住民活動にさまざまな年代層の人がかかわり、活性化していくこと

384) 住民の人数にたいして、地域行事が多すぎる。

400) 若い人とくに男性が集うものが少ない / 婚活の推進

402) 地位の核となる公民館に若い人たちが集まり、自分たちの話あいがなされ、自分たちの考えや地域をいかに導いていくとか等の考えを聞く、まとめる「リーダー」が必要 / 若い人がいないし、若ものが集まれば自発的に意見もでるし、講師等呼んで勉強会等をして地域を活性化してほしい。そのためご指導あればよろしく。

404) 就労・生活安定等の課題が大

413) 年々衰退してゆく地域の伝統・文化。後継者不足。

417) 市民の移動手段としての自転車の可能性をもっと引き出す。乗りもの・健康づくり(医療費の削減)・コンパクトシティ等多方面から見直し、中心街の活性化にまちづくりとして活かしていく。

428) 地域での世代間交流。各地域工夫しているが、もっと他にも手段があるのではと思っている。

---

## 5. 地域防災・非常時等の課題

---

011) 市内にも携帯電話が通じない地域が存在するので、非常時の対応の検討が必要である。

013) <健康推進課>72集落が散在している状況であり、非常時の通信確保は山間部等では困難となる。

020) 防災、とくに震災・地震対策についての調査等

043) 住民の薄れゆく絆づくりをたいせつにしたい。S C (ソーシャルキャピタル) の概念や測定から向上までの技術・知識の支援をいただきたい

074) 老々夫婦のみや独居の方々がお元気なうちに健康づくりにとりくんだり、今後のこと(QOLやどこでどう生きていくのか)を考えられ決めていけるようなしくみづくり

099) 近い将来起るであろう地震災害に対処する方法としてどうするべきか

117) 南海地震への対応

121) 地域で連携した防災計画や防災訓練がまだできていないこと(本校を避難所とした計画や訓練)。

123) 津波からの防災・減災

151) 地震・津波対策をもっと強化する

157) 近い将来の地震にそなえた住環境整備(高台移転)

160) 防災対策

163) 車で移動すれば買い物はできるが、車のない人にとってはとても不便さを感じる。非常時の通信についても困難なエリアがある。診療所での医療であり、急な病気等や重大事故への対応が難しい。1人暮らしのお年寄りが多く、地域福祉・在宅福祉の充実が必要である。

166) 市内中心部にあり物流面では便利である。その反面せまい道も多く、防災面等で不安も多い。

183) 非常時の交通

190) 防災に向けての食の理解、津波が起きたときなどの食の話・作り方など

219) 地震・津波への対応

315) 防災(地震・津波)にたいする対策

329) 地区別(公民館・自治会別)の自主防災組織ができていない所があると聞いています。

346) 市からの非常時の対応が十分に説明されていない。

359) 地域住民にとって、いまもっとも関心のあるのは防災面。地域の防災力の向上が喫緊の課題。

369) 地震・津波・津波避難対策。

388) 防災。他地域への移動の道が1本しかない

391) 高知市内から車で3時間以上かかり、僻地性を感じる

395) 地震や犯罪から人々の命や財産を守る共助・助けあいについて、地域住民の意識を高めること。安

全安心の地域を実現するための啓発。

401)地震や山崩れで他地域との交流となる道路が寸断され、孤立化することが予想される。

---

## 6. 地域の青少年者の教育・雇用・その他の課題

---

066)高齢化の進む中山間地域では、若い人と交流したり、地域の伝統を伝える機会が少なくなってきたりしている。

108)あとをついでくれる若者がほとんどいない。 / この地域から高知市等へ通勤できるような道路をつくってほしい。

113)高知市内で高校生を対象としたさまざまな催しがおこなわれているが、距離も遠いうえ、公共の交通機関を使うと交通費も莫大なものとなり、市内の高校生と違い、そういった催しに参加させたくてもなかなか参加させられない。 / 地元で大学・専門学校がないことに加え、地元求人も少ないため、高校卒業後ほとんどの生徒が室戸を離れざるをえず、人口減少に。

119)学力向上 / 不登校の減少

122)地域や家庭の教育力の低下

184)地域の人口減少、とくに若い世代が少ない / 就労の場がほとんどない

187)児童の登下校がほとんどバスなので、やや運動不足傾向

192)児童が自由に遊べる場や体力づくりができる場所、児童公園や運動公園がないこと。

194)子どものかかわり方(子どもどうしの交流)に問題がある。

216)発達障害児・母子家庭・就学援助家庭の増加。

218)朝食をとらずに登校する児童がいる。

238)現在は不足したものはないが、将来の不足材料として高齢者への保健福祉(宅老所など)の不足や交通機関や買い物なども課題が生じてくると思う。また若者定住に向けた魅力の発信が必要となってくる。

250)雇用情勢が厳しいなかで、とくに若年者の就労確保と若年者自身の就労にたいする基礎づくり(中学校から高校での対応に重点を置く)

253)この10年間でふり返っても地域に住む子どもは減少するばかりで、高齢化が進んでいる。地域のまとまりや活性化に、学生の方たちの力に期待したい。

287)経済状態がわるく、若年者の県外への流出も歯止めがきかない。新産業・事業の開発や公的な補助や助成等、六次産業の補助事業もよいが、販売するときのことも考える必要がある。

393)若者がいないことには、はじまらない。若者のための仕事づくりが必要。

395)人のために役立つことの意味を子どもたちに教える、実践することの輪をいかに広げることが課題。

397)小学校の統廃合による児童との交流減少や、米作り体験やおまつり等地域伝統行事の消滅

431)子どもの健全育成(高知の子どもの運動能力の底上げ)

---

## 7. その他(とくに課題がないという記述を含む)

---

077)上記に記載されている課題については、この地域だけのものではなく、県全域(一部については市街地除く)の課題としてあがってってくるものだと思う。この紙上で記載することは難しい。

093)生活・健康にかんしては不安はないようです。先端医療技術をもつ病院も近いし、また地区健康文化都市づくり推進委員会では、食生活改善講習会を上・下・西3地区で開いたり、研修旅行も楽しみの1つ。定期開催行事では各種スポーツ・健康づくり推進委員講習会(今年は11月19日県立交流プラザ)にも参加しています。虫歯・無料検診・がん検診にも市が力を入れてます。

095)それなりにできていると思っていますが、むしろ外からみた場合の「こうした方がよい」等のアドバイスをいただきたい。

097)少子高齢化・過疎化が与える課題にたいする対処など

130)聴覚障害についての理解・啓発

170)とくに地域での課題は感じていない

204)少子高齢化の顕著な中山間地域のため、県が課題として取組んでいるさまざまな施策がすべて該当するように思います。

209)沖の島の人口は200人弱であり、高齢者が多く、また離島であることによる住環境の劣悪状態が懸念されています。そのような現況のなか、市町村・県などの支援も充分ではなく、多くの方々(機関)との連携が必要と感じています。

223)とくに該当するものではありません

237) 県産材の使用による経済効果、シックハウス対応等。

239) 環境の保全を図る活動(農薬不使用・化学肥料不使用の農業を広め、生産者および消費者の健康を推進する)

240) 高齢化が進行しているために、新しいことにチャレンジすることがむづかしい。

258) 当NPOでは外出支援のみの活動が主で、上記の設問はあてはまりません。

270) 「コミュニティービジネス」という言葉やビジネス形態がある。まさに地域の課題を地域で解決する手法やそのビジネスモデルを総称しているものであり、いま学生に必要なことは「あらゆる取組は継続することが困難であり、そのためには経営的視点や観念が必要である」ということ。

275) 歴史・文化にかんする資料の保存状況が心配。地域住民の地域の歴史・文化への関心が薄い。

288) 明るく活動力のある人づくり

311) とくに男女共同参画意識の浸透が進まない

312) 過疎・高齢化が進行する状況で、住民の高齢化にともなう課題である。

339) 地域により課題は異なるものであり、高知市を1つのエリアとしてとらえた場合、すべての項目にあてはまる

348) 高学年での総合的な学習の時間でこれらの課題に向き合わせるために、県立大学がどれだけの支援や協力をしていただけのかわからない現状では、具体的には答えられない。

356) 独居高齢者

361) 高齢者多い

365) 防災は、人を知ることを経験的な考えとして、当センターにできるだけ多くの市民・住民を集める工夫・実行を心がけている。

370) 人間が日常生活を送るうえで求められるすべての活動は「課題」と位置づけられると思うので、具体的には表現できない。

392) 高知市中心部にある地域のため、日常的に非常に利便性がよいと思います。

394) だいたいそろってます

414) 課題は多岐にわたってあると考える。内容まで具体的に書くのはむづかしい。高齢化が進み上記の課題が深刻になっている。

418) 土佐市は仁淀川の清流のおかげで、水にはあまり不自由をしていません。野中兼山先生のおかげで井筋が掘られ、田に引く水は広範囲に送られております。日常生活の買物など至ところにスーパーやコンビニがありますし、医療の面でも市民病院はじめ医院薬局も多く、行政を中心にして福祉の面でもまあまあの実績をあげていると考えます。各地域で婦人を中心に百歳体操などをして、老人の健康維持の活動もおこなえていると思います。

424) 31集落が点在 / 課題は地図を見たらわかると思います[手書きの地図が記載されている]。

---

## 3-1) 現在の地域課題(2) 地域の経済課題の内容

## 1. 雇用確保(若者・障害者等を含む)の課題

- 005) 産業の創出や新事業への展開による雇用の確保への支援
- 009) 長引く景気低迷により、市内企業の経済活動も低下し、経営・雇用環境を圧迫しており、地域経済への影響も大きい状況である。 / 地域経済振興のためには、地場産業の活性化・観光振興等の取組は重要な施策であり、地域の経済状況の好転により雇用の拡大も期待できるところである。 / また企業誘致が実現すれば、新たな雇用の選択肢が生まれるとともに、有効求人倍率の改善も期待でき、本市にとって重要な課題であると考えている。
- 010) 高専・大学等あるが、市内に雇用の場が少ない
- 012) 若者の雇用
- 017) 農林業の安定的な雇用確保
- 030) 雇用の確保に向けた上記「2.」～「5.」[地場産業活性化、製品開発、販路・流通確保、地場製品の調査・研究]「7.」[企業誘致]の施策について重点を置いた取組が必要。
- 033) 新商品開発にともなう加工場の増設等が雇用の確保につながるのでは
- 034) とくに福祉職場の就労環境としての成熟と、そこへの就労誘導
- 038) 仕事がないため若者が町外へ出ていく。
- 041) J A以外の雇用の場確保
- 042) 一般就労についていけない人のための、(単純作業)の仕事ができる場
- 044) 若者の働く場がない。
- 047) 町内に就労の場がきわめて少なく、失業者が多い。生活保護受給者が増化傾向にある。また個々で産業に従事し個々で努力しているが、生産年齢人口が減少し産業は衰退傾向である。これら産業を集約的総合的にこなっていくことが必至と考える。
- 056) 平日の昼間にワーキング層の利用がないのは、近くに会社がないため昼休みに寄るということが起きないせいだと思われる。[「1. [雇用]」に○をつけた理由・コメント]
- 058) とくに一次産業の後退による失業者の増加等
- 059) 企業・会社等が少ないため雇用の確保がむづかしい
- 064) なにかイベントをやるのではなく、つぎの世代がこの地にいられる、いたいと思うように仕事を増やすこと。 / 産品はあるが、製品・売り出し方のアイデアがたりない。
- 066) 中山間地域では上記すべてが課題であり、産業が育たないと雇用につながらず定住できない。
- 068) 地域に若人・高齢者(退職者)の仕事場づくり
- 087) 農業・公務員以外は働く場所が少なく、雇用の場があれば若者が地域に残れる
- 089) 若者の雇用先がないという話があります。
- 095) どの地域でも雇用の確保が重要課題ではないでしょうか？
- 099) 働く場がないので地区外への若者の流出
- 101) 若者の雇用の場がないので、ますます過疎化が進む。
- 104) 若者の働く場がない。
- 108) 津波がこないわが町へ、とくに老人たちが来てほしい。老人ホームの拡充をしたら、ここで働く人もいる。
- 117) 地域の若者が多数県外に流出している
- 119) 大学生の就職先として魅力的な場を提供すること
- 122) 県内への就職希望者数にくらべて、採用者数が少ない。
- 123) 地元での就職が難しい
- 124) 卒業後地元で就職できるよう、雇用の確保が求められる。
- 126) 高校生の希望する進路に地元志向がある。希望者も多い。しかし現状では就職先はきわめて少ない。
- 128) 卒業生が進学(大学・専門学校)後地元で就職を希望することが多いが、受け皿がきわめて少ない。
- 132) 障害児の就労の場を確保したい。
- 135) 若者の就労の場
- 137) 1. 安芸市内での若者の雇用の場の確保が不十分
- 139) 漁業も不振であり、働く場が確保されていない。

- 142) 保護者の雇用(無職の割合高い)
- 147) 雇用の場がないため若年層が地域から流出しています。
- 150) 地域に若者の雇用の場がなく、経済が衰退している。
- 153) 本地区は年々人口減により地域が衰退し、少子高齢化が進行している。若年層の定住を真剣に考え取り組む必要がある。
- 158) 地域に若者の働く会社・施設がない。
- 162) 若者の働く場所が少ない。
- 163) 地元の雇用の場が少なく、漁業を主産業とし、農業に従事する方が多く、地場産品の開発等も進めているが、大量生産できず、資金面や流通ルートの確保はもちろんのこと、どのようにして1次産業を支えていくのが大きな課題と考える。
- 165) 村の人口減少をくい止め、活性化をはかるためには、地場産業の育成と雇用の確保が欠かせないと思う。
- 171) 中卒生の進路
- 177) 過疎化・高齢化により人口減少、それにとまなう雇用がなくなり、安定した経済・教育活動ができない地域になりつつある。
- 184) 定めた魅力ある仕事がなく、地域では生計を立てることがむずかしい。
- 186) 子どもが将来地元で暮らしたいと考えても働く場所がないという現実がある。
- 188) 働く場所がなく、町外に働きにでていく。
- 195) パートに従事している保護者(とくに母親)の安定的雇用
- 197) 他の市町村での仕事をしており、時間的に余裕のない生活がみえる。
- 201) 若い方が帰りたいと思っても、仕事がありません。
- 202) 雇用の確保が課題でしょうが、大都市からも遠い地域では企業誘致も難しく、地場産業の活性化に活路を見いだすしかないと考えます。
- 204) 故郷に帰りたい若者は少なくないですが、「仕事」がなく帰れません。上の2つ(「1. [雇用]」「2. [地場産業活性]」)が喫緊の課題です。
- 205) 若者が定住でき生活基盤がしっかりとできないと、少子化の解消や活性化につながらない。
- 212) 産業が少なく雇用が確保できない。
- 213) 地場産業が大月町にはこれといってないため雇用の確保が難しく、若者が定着しない。そのため高齢化が進むという悪循環がつづいている。(大月町だけではないと思います。)
- 216) 子どもたちが将来地元で就職でき自力で生計を営むことができることで、人材の県外流出に歯止めがかかるのではないかと。
- 218) 失業等により経済的に厳しい家庭が多く、それがすべての課題につながっている。
- 229) 雇用が少ないことから、市外・県外へと若者が流出しているのは以前からの課題ですし、人口減の大きな要因でもありと考えています。市としては企業誘致にも取り組んでいますが、難しい問題です。
- 231) 企業等の誘致もむずかしく、雇用の確保が課題である。
- 234) 「1. [雇用]」産業がないので雇用もない。
- 241) 雇用者側と求職者のミスマッチ(求職者の希望職種と雇用側の要望とは一致しない。)
- 242) 若者流失の歯どめ
- 248) 障害者の雇用を拡大するべきだ
- 250) 3-1) (1) [雇用情勢が厳しいなかで、とくに若年者の就労確保と若年者自身の就労にたいする基礎づくり(中学校から高校での対応に重点を置く)]に関連
- 254) 安定した生活を営むことができるだけの収入を確保できる雇用先がもっと必要と考える。
- 269) 高齢者の雇用の問題。年金受給年齢の引き上げで、年金受取りまでの間に仕事確保できないと生活困難。
- 277) 若い人は仕事にたいする考え方が甘い。カベにあたるとすぐやめる。企業誘致をしても働く人がいない。
- 289) 宿毛市ではとくに働く場所の少なさを感じる。
- 292) 移住希望者はわりと多いが雇用が少ない
- 299) 「3. [製品開発]」「4. [販売・流通]」の推進強化により、雇用の確保をはかる。
- 300) 豊かな水を生かした小水力発電の売電の利益で、豊かな森林資源を有効活用して、間伐材のペレット化による新エネルギーの展開をおこない、地域の雇用の創出と都市部の方々との交流および永住者の呼び込みをおこなう / 高齢者を呼び込み、安価な施設を活用し、雇用をつくりだす
- 305) 障がい者の雇用の確保



- 310) 高齢者の雇用の確保
- 311) 女性の雇用
- 312) 若者の定住が地域の経済を持続させると考えれば、地域の資源の利活用を通じての雇用の確保が課題である。
- 314) 若い人が住める環境整備。 / 地場産業はあるが生活につながる仕事として確保できていないため、製品加工するなどの取組が必要。
- 328) 「製品開発→地場産業の活性化→雇用数の増加」の一連の流れにおいて、地域の特産を生かした製品開発
- 333) 若者定住等
- 335) 若者定住のための雇用の確保
- 337) 地場産業の活性化は雇用につながり、地域行事・イベント等は地域交流および地域外との交流も活性化)するのでは!?
- 343) 雇用の場が少なく、人口の流出・減少に波止めがきかない
- 350) 農業のみ。だが農業に従事する若者がいない。
- 354) 1次産業が主体の町であるが、近年の地域経済の停滞がつづくことによって一層厳しい状況になっている。農林産業・製造業・観光振興分野等における雇用促進をはかっていくことが重要と考えます。
- 355) 地元に安住できるような仕事がないため、若者がいなくなり過疎化が進む
- 358) 障害者の雇用の場が限られている。障害福祉サービス事業所での工賃が低く、経済的に自立した生活は困難な状況。商品の付加価値UP、販路拡大が課題。
- 370) 安定し安全で継続性が確保される職場を老若男女みなほっしているが、そのような職場は地域住民のすべてには保障されないと考えるので、具体的には書けない。
- 377) 高校・大学卒業後に地元に就職ができるよう、職場の確保
- 378) 高校生の就職難をなんとか改善してほしい。
- 379) 高知に帰って働く場所の不足という声をよく耳にする。
- 385) 地元を生かした農業・漁業を支援するシステムと、それにより雇用が活発化されていくような地域の活性化
- 387) 若者が安定して、勤める事のできる仕事の場が少ない
- 388) 経済が低迷しており、雇用等がきびしくなっている
- 391) 保護者の中にも雇用の点で困っている方もいる。
- 395) 官民共同で、高知の産物・うまいもの・みやげが揃った大規模物産流通拠点を創立。観光バスがひっきりなしにやってくる拠点を整備。官民あらゆる人脈を駆使し、販売・流通網を確立。大人数の雇用を確保。
- 396) とくに犯罪や非行をした者の就職が困難であり、就職できないことが更生の妨げとなっている。
- 398) 町内に働く場が少なく、若者の町外流出がつづいている。また町内で働いてる人も町外へ転出し、町外から勤務している人もいる。
- 401) 若者の市外流出をなくし、地域で働けるように山林の開発(手入れ等)。
- 404) 差別が厳存するなかでの確保は地域外との格差が大きく、そのための行政施策はないのが現状[「1. [雇用]」に○をつけた理由・コメント]
- 405) われわれのNPO法人は、定年以降の雇用というか、働く場所の確保として遊休農地等の活用し、農産物の生産や商品開発等を通じて、定年以降の生活のクオリティーの向上を目指していきたいと思っている。しかし農地の借り上げ等で前進できない状況がつづいている。
- 409) 地域が活性化するためには、一定の雇用や地域にお金が入ってくる仕組みが必要。
- 412) 企業誘致し地元雇用を願う
- 419) とくに若者の働く場がなく、生活の安定なしに意欲に結びつける困難さがあります。
- 421) 介護事業など[雇用]に○をつけた理由・コメント]
- 426) 地域に仕事が少ない。
- 428) 市外への就職が多く、市内にもっと働ける場所があれば人口数も増ものぞめるし、地域の行事へも参加しやすくなる。
- 429) 仕事や就職に役立つ勉強をしたり、本を借りたりしている人がいるので。[雇用]に○をつけた理由・コメント]
- 430) 浦ノ内湾には体育館・カヌー場・グラウンドはあるが、宿泊施設・飲食関係はまったくなく、県外から来ていただいても1日で帰ってしまう。宿泊施設・飲食店を完備すれば、雇用も確保できる。
- 432) 質問の狙いかわからないが、雇用問題が最大ではないか

## 2. 地場・地域産業の振興・活性化

004) 少子高齢化や人口減少により、地域の産業の担い手不足が深刻であることから、担い手不足の解消に取組、地域の産業を活性化する必要がある。

007) 水産業の振興、活性化

008) 深層水を利用した地域産業の振興(農業・水産業・工業・観光)

009) 地域経済振興のためには、地場産業の活性化・観光振興等の取組は重要な施策であり、地域の経済状況の好転により雇用の拡大も期待できる場所である。

025) 高知県は少子高齢化が他県より10～20年進んでいます。産業も元気ありません。しかしこの課題が新産業を生むチャンスであり、取組むべきものと考えます。

058) とくに1次産業の後退による失業者の増加等

073) 「2. [地場産業活性]」「3. [製品開発]」は、それぞれ取組がなされているようですが、モチベーションを維持し将来につなげる取組・人材育成。

076) 産業構造の変化により、1次産業だけでなく製造業も衰退し、高知で唯一雇用可能な業種は医療介護・福祉の分野になる時代が来ると思います。

077) とくに若者の働く場が限られている(医療や介護職に片寄っている)

086) 農業振興

089) 「2. [地場産業活性]」～「6. [観光活性]」については町並み保存の地域団体がおこなっていますが、まだ結果には結びついていません。

097) 私達の地域が生き残っていくには、「2. [地場産業活性]」「3. [製品開発]」は重要な課題と思う。雇用の確保(現金収入)にも共通すると思う。

115) 各町村・地域の点の活動は活発であるが、線・面での活動にはなっていない。

154) 地域の活性化。どうすれば地域が元気になるのでしょうか

156) 地場産業(製品化と雇用の場)の振興

166) 商店街があるが地域の活性化から教育環境の充実へという流れが弱い

172) 人口減による課題。高齢化により農地を手放さざるを得ない問題等による地域産業の活性化が課題

173) 地域活性化のためのあらゆる活動を有機的・組織的に進めること。

181) 地場産業の活性化が人の交流増加の要因となると思います。

202) 雇用の確保が課題でしょうが、大都市からも遠い地域では企業誘致も難しく、地場産業の活性化に活路を見いだすしかないと考えます。

214) 地域の商店街(サエンバ)がさびれているので活性化できればと思う

226) 既存産業(林業)の活性化

233) 仁淀川の美しい自然や文化を地域活性化に結びつけたい

236) 1次産業で所得が得られることを考えたい。月3万円の収入アップを目指したスモールビジネス。

267) 地域は高齢者が進み、経済の低迷とともにさびれている。

288) 地域の活性化

302) 年々閉鎖する事業所が増加している

308) 地場産品製造販売上の工場等が小さいと思います。もっと共同体的に集まり、量産できる体制づくりや、地域イベント行事を行政支援していただけたらと思います。

337) 地場産業の活性化は雇用につながり、地域行事・イベント等は地域交流および地域外との交流も活性化)するのでは!?

348) 地域産業の活性化や地場産品の開発等はどの地域でも関心の深い課題であろう。これらの課題について小学生に考えさせる教育活動は可能であるが、それから先の具体的な活動については地域や行政が担当することである。

349) 農業地域のためこれといった産業がない

354) 1次産業が主体の町であるが、近年の地域経済の停滞がつづくことによって一層厳しい状況になっている。農林産業・製造業・観光振興分野等における雇用促進をはかっていくことが重要と考えます。

359) 朝倉といえば針木の新高梨。カラスの被害対策が大きな課題。 / また旧商店街の活性化も課題。

360) 万々商店街の活性化

367) 高齢化にともなう漁師の休・廃業による漁獲量の減少で、市場が衰退 / 御豊瀬小学校の閉校にともない、これの活用

374) 地元に貢献できる職業人・社会人としてのビジョンやイメージは、生徒の学校生活のあり方にさま

ざまな影響があると考えています。そうした意味で地域の経済が活発となることがたいせつと思っています。

376) 農家が多く、後継者問題や農業をとりまく状況の悪化

385) 地元を生かした農業・漁業を支援するシステムと、それにより雇用が活発化されていくような地域の活性化

386) 目新しさを求めるのではなく、いまあるものの活用で産業を活性化できないか。地域の特性を生かすこと。

392) 帯屋町筋の活性化が現在もっともたいせつなことではないでしょうか。

397) 大宮米を生かした地域活性化

409) 地域が活性化するためには、一定の雇用や地域にお金が入ってくる仕組みが必要。

---

### 3. 地場・地域産業の製品開発・技術開発・研究開発・ブランド確立等

---

004) 食品の生産管理高度化や、ものづくりの地産地消による高付加価値化

005) 地域の中小企業の技術力向上や次世代の担い手の育成支援 / 産業の創出や新事業への展開による雇用の確保への支援 / 地域資源を活用した研究開発や技術支援

006) 地場産業(紙等)のブランド確立

010) 資源はあっても、その発掘・商品化が足りない

011) 農産物等1次産業は栄えているがそれを加工し販売していくには課題があり、調査研究が必要である。

014) 地場製品の開発・販売、観光の企画等は、常に課題としている。

022) 県内で可能性がある産学は、「食品－農学－販売」していく一連の産学。とくに食品産学は健康・成分などのエビデンスが売るうえで重要。それこそが県立大の使命。

028) 商品開発・販路対策 / 地域共通メニューの開発

064) なにかイベントをやるのではなく、つぎの世代がこの地にいられる、いたいと思うように仕事を増やすこと。 / 産品はあるが、製品・売り出し方のアイデアがたりない。

073) 「2. [地場産業活性]」「3. [製品開発]」は、それぞれ取組がなされているようですが、モチベーションを維持し将来につなげる取組・人材育成。

089) 「2. [地場産業活性]」～「6. [観光活性]」については町並み保存の地域団体がおこなっていますが、まだ結果には結びついていません。

097) わたしたちの地域が生き残っていくには、「2. [地場産業活性]」「3. [製品開発]」は重要な課題と思う。雇用の確保(現金収入)にも共通すると思う。

109) 地域の特産品づくり

110) 地域にあう作物を研究してください

113) とくに「3. [製品開発]」「5. [地場産品調査・研究]」について地域住民の積極性が感じられない。吉良川の街なみのなかでおみやげを買う場所がないという意見が数年前から寄せられているものの、あまり改善されたようすがみられない。

124) 地場産業の活性化には、地場産品を活用した製品開発が欠かせないと考える。

133) 地場産品と関連した作業工程の一部もしくはほとんどを養護学校の作業種目に取り入れられないか検討したいのだが・・・

143) 良いものがたくさんあるにもかかわらず、付加価値が十分つけられなかったり、産品アピールや利用方法に問題があり、結果として経済に生かせていない。

163) 地元の雇用の場が少なく、漁業を主産業とし、農業に従事する方が多く、地場産品の開発等も進めているが、大量生産できず、資金面や流通ルートの確保はもちろんのこと、どのようにして1次産業を支えていくのが大きな課題と考える。

185) 地場産品のPRが不十分で、地域を活性化するものになっていない。

209) 離島であるため収入源もなく、質素な生活を強いられています。しかしそのような状況のなかでも心は満たされており、1つの共同体として助けあって生活しています。これといった地場産品もなく、なにか開発できればと考えています。

234) 「2. [地場産業活性]」地場産品等、地域活性化のためインターネットの活用が重要だ。 / 「3. [製品開発]」IT教育の遅れが地域の活性化を鈍化させている。

238) 斗賀野地区は農業(1次産業)が中心であるが、それだけで生活できず兼業農家がほとんどであり、副産物を産みだす努力が必要と感じている。

- 241) 豊富な食材を生かしきれていない。 / ヒット商品の開発が必要だと思う。
- 268) 高知県の農産物にこだわった商品開発をおこないたい
- 314) 地場産業はあるが生活につながる仕事として確保できていないため、製品加工するなどの取組が必要。
- 322) 地域に地場産品を開発・製造する企業が少ない
- 328) 「製品開発→地場産業の活性化→雇用数の増加」の一連の流れにおいて、地域の特産を生かした製品開発
- 340) 地場産品を利用する知識・アイデア
- 345) 徳島県上勝町の取組例に学ぶ
- 348) 地域産業の活性化や地場産品の開発等ほどの地域でも関心の深い課題であろう。これらの課題について小学生に考えさせる教育活動は可能であるが、それから先の具体的な活動については地域や行政が担当することである。
- 351) 第1次産業の減退により、地場産業が苦しい状況にある。2次加工・3次加工等を工夫して、地場産業の生き残りが課題
- 352) 地域資源を活用した回遊ルート、新商品開発等
- 358) 障害者の雇用の場が限られている。障害福祉サービス事業所での工賃が低く、経済的に自立した生活は困難な状況。商品の付加価値UP、販路拡大が課題。
- 372) トマト・サツマイモ・米等を活用した製品の開発
- 400) ・農産物に付加価値をつける研究が少ない / 販売・流通についても十分でない / 農産物とくにブレンタン等の柑橘類の味を分析し、よい木だけを増やす、等の研究
- 401) JAを通じて柚子にかんしての地場産品の開発・販売。
- 418) 農業を中心に、かなりのお年寄りでも野菜をつくって良心市や自宅の前でミニ良心市を開いてお小使いをつくっていらっしゃる方がおいでです。 / また文旦のジュースを共同で開発して販売している方や生姜の生産者が多く、いろいろな加工品を作る計画をしている方もあります。
- 426) 雑木を燃料として加工する。

---

#### 4. 地場・地域産品の販路開拓・流通確保等

---

- 004) 地域の産品の販路開拓
- 014) 地場産品の開発・販売、観光の企画等は、常に課題としている。
- 028) 商品開発・販路対策 / 地域共通メニューの開発
- 089) 「2. [地場産業活性]」～「6. [観光活性]」については町なみ保存の地域団体がおこなっていますが、まだ結果には結びついていません。
- 149) 「道の駅」等を設立し、市内外・県内外へ地場産品をアピールする。
- 163) 地元の雇用の場が少なく、漁業を主産業とし、農業に従事する方が多く、地場産品の開発等も進めているが、大量生産できず、資金面や流通ルートの確保はもちろんのこと、どのようにして1次産業を支えていくのかが大きな課題と考える。
- 194) 地域にはミョウガ等の地場産の農産物がある。そうした農産物の有効利用と販売ルートの確保を通して地域の活性化につなげていきたい。
- 237) 森林業にかかわるすべての活性化のため、県産材を使用すること。
- 239) 四万十町産の農産物の販売
- 244) いまは秋に四万川龍王大権現の法要をおこなって、そこで札や記念品の販売をしています。しかし私たちは宗教法人ではありませんので、地域の方たちが日頃つくった物(農作物・かざり物等)を販売できればと考えています。
- 274) とくにこだわりの農産物の販売・流通ルートの開拓
- 334) 学校給食に導入できる地場産品の活用
- 335) 特産品の開発や販売の手法等
- 354) 1次産業が主体の町であるが、近年の地域経済の停滞がつづくことによって一層厳しい状況になっている。農林産業・製造業・観光振興分野等における雇用促進をはかっていくことが重要と考えます。
- 358) 障害者の雇用の場が限られている。障害福祉サービス事業所での工賃が低く、経済的に自立した生活は困難な状況。商品の付加価値UP、販路拡大が課題。
- 373) 中央とのルートづくり / 外商・外販・取入れ・受入れ
- 393) 独自性に乏しく、流通ルートの確保は難しい

395) 官民共同で、高知の産物・うまいもの・みやげが揃った大規模物産流通拠点を創立。観光バスがひっきりなしにやってくる拠点を整備。官民あらゆる人脈を駆使し、販売・流通網を確立。大人数の雇用を確保。

401) J Aを通じて柚子にかんしての地場製品の開発・販売。

408) 行政においては地産地消を推進しており、すべての面で地産地消ができれば理想ではあるが、業務委託や物品調達等で市内業者では対応できず、市外の業者に頼らざるをえない状況がある。

418) 農業を中心に、かなりのお年寄りでも野菜をつかって良心市や自宅の前でミニ良心市を開いてお小使いをつかっていらっしゃる方がおいでです。 / また文旦のジュースを共同で開発して販売している方や生姜の生産者が多く、いろいろな加工品を作る計画をしている方もあります。

---

## 5. 観光等の活性化のための企画・開発等

---

014) 地場製品の開発・販売、観光の企画等は、常に課題としている。

060) 桂浜活性化に向けた取組

081) 桂浜公園駐車場の拡張(お盆・ゴールデンウィーク対策)

089) 「2. [地場産業活性]」～「6. [観光活性]」については町なみ保存の地域団体がおこなっていますが、まだ結果には結びついていません。

109) 各イベント等の参加者の推進

206) 交通事情がわるいので「足摺岬」の観光にリピーターが少ない。2車線道路の早期実施。

247) 交流人口の増に向けた取組

270) 商品とは、なにも「形」のあるものだけではない。「観光地」や「体験」も商品である、「価値」である。そういった視点が必要である。

292) 観光産業を盛り上げたい。ラフティングにならぶアウトドアアクティビティの誘致

308) 地場製品製造販売上の工場等が小さいと思います。もっと共同体的に集まり、量産できる体制づくりや、地域イベント行事を行政支援していただけたらと思います。

325) イベント内容のマンネリ化、観光資源の発掘

337) 地場産業の活性化は雇用につながり、地域行事・イベント等は地域交流および地域外との交流も活性化)するのでは!?

352) 地域資源を活用した回遊ルート、新商品開発等

372) 観光活性化のため地域の史跡を活用したイベント等

395) 官民共同で、高知の産物・うまいもの・みやげが揃った大規模物産流通拠点を創立。観光バスがひっきりなしにやってくる拠点を整備。官民あらゆる人脈を駆使し、販売・流通網を確立。大人数の雇用を確保。

402) 養殖業を主体として、1. 漁つり、2. 遊覧、3. 試食コーナー・開発、4. 組合、を中心とした分散型

403) 高齢化・少子化に伴う地域行事を絶やさないための工夫がこれからの課題。

409) 「6. [観光活性]」についても、各地域自身が気づいていない地元の資源活用策をさまざまな視点で検討することが必要。

417) 観光における再訪魅力を高めるには、県民・市民の協力が必要と考える。オール高知の魅力としてユーモアを<理解・評価・誇る>気持ちの充実が欲しい。

430) 浦ノ内湾には体育館・カヌー場・グラウンドはあるが、宿泊施設・飲食関係はまったくなく、県外から来ていただいても1日で帰ってしまう。宿泊施設・飲食店を完備すれば、雇用も確保できる。

---

## 6. 企業誘致

---

009) また企業誘致が実現すれば、新たな雇用の選択肢が生まれるとともに、有効求人倍率の改善も期待でき、本市にとって重要な課題であると考えている。

057) 工業団地への企業誘致(倒産・企業縮小により失業者が多くなっている)

229) 雇用が少ないことから、市外・県外へと若者が流出しているのは以前からの課題ですし、人口減の大きな要因でもなると考えています。市としては企業誘致にも取り組んでいますが、難しい問題です。

412) 企業誘致し地元雇用を願う

---

## 7. その他

---

- 015)「1.」～「6.」については、単発的な取組であるため、具体的な成果が見受けられない。
- 031)「6.」にかんしては担当職員を中心にイベント等をおこなっている(婚活等)。
- 032)後継者難や事業主の高齢化等にともなう組織離れ。
- 051)県内市町村図書館について / 「1. [雇用]」については、臨時職員や非常勤職員などが多く、運営に密にかかわることができなかつたり、数年で契約が切れ、専門的な技術や人脈などを継続的に保つことが困難 / 「2. [地場産業活性]」「3. [製品開発]」「6. [観光活性]」については、図書館でも役立つ情報を発信している部分があるが、人員その他の理由で実行できていないところが多い
- 065)少子・高齢化のため集落に人がいなくなり、すべての活動が衰退している。
- 092)活性化のための地域行事等への参加
- 093)野田地区の産業は農業のみ。それもタバコと稲作がほとんど。昨年タバコの奨励がなくなり、米作だけが頼りとなった。TPPの完全自由化が迫り、コメ価格が下がりはしないかと農家は戦々恐々。
- 099)農家の後継者問題(百姓だけでは食えん)
- 100)上記すべてに遅れをとっていると思う。先進事例研修等が必要。地域活性化への意識改革による住民力アップ。
- 127)地域の良さをつぎの世代に伝えるための工夫
- 136)地域での経済的な格差が大きい。
- 144)経済的に余裕がなく共働き家庭が多い。 / 厚生面で援助を受けている家庭が多い。
- 148)アサリがとれなくなり、うるめを第一にとりあげているが、卒業して漁師になろうとする生徒がいらない。
- 167)経済的に厳しい家庭が多い。
- 190)地域産業と学習を結びつけること。(メロン学習、JAの仕事など)
- 240)新規農業後継者がなく新しい農業の展開ができない。林業も同じことがいえる。
- 243)すべてにおいて住民は消極的である(ある意味のんびりとしている)
- 260)「1.」～「7.」まで、知事さんがよく話しておられる県政の目標です。全部課題で(障害の有無にかかわらず)、しかしどの課題も受身的行動しかとれない。
- 287)前項から述べているような内容に準拠するが、例えばオーガニック等の自然由来の食品のなかでとりわけ困難(実現)なものが畜産物であると思う。牛肉や豚肉は国内では日本農林規格に適合したもの皆無に等しい。理由は飼料の生産が難しいから。こういった飼料がもう少し手軽に入手できるような環境ができれば、新たな産業として発展できる可能性はあるのではないか。
- 290) (1) [高知の自然の歴史の証拠となる標本にかんして、後世に引き渡していく体制や設備が不十分。]を行うための人材確保。
- 291)都市のシステム(高知市内)では大豊町では対応できない。 / 新しい経済学的思考をしめして社会実験的におこなってほしい。ある意味日本の最先端をいく大豊町での活動は、学問との連携によってお互いにフィードバックできるのではないか
- 304)人口減少をとめる対策が必要。市街化調整区域の排除等
- 310)遊休地の活用 / 大洋熱発電を充実 / 世界的凶作などにも対応できる農産物を生産していく / (リストラによる)技術者の海外流出を防ぐ
- 330)校区内は打刃物のさかんな地域であるが、年々その従事者も減少している。
- 339)3-1) (1) [地域により課題は異なるものであり、高知市を1つのエリアとしてとらえた場合、すべての項目にあてはまる]に同じ。
- 380)農業の後継者育成
- 382)旭の高齢化を特徴ととらえ、高齢者がいちばん元気な町づくり、高齢者がいちばん住みたくなるような町づくりをめざすべきだと思う。昭和スタイルの実現化。戦前から残っている家や文化の掘り起こしや、古くからの製品の開発等、知恵をだしあっては。
- 384)地域住民の地域資源にたいする価値観の低さ。 / 行政・住民・事業者等・・・、意識レベルのギャップ / 連携できていない。危機感がうすい。
- 424)少子高齢化で過疎の村の課題はどこも同じだと思います。
- 431)○で囲んだ項目[1. 2. 3. 4. 6.]はすべて高知の課題だと思います。もっと県人は頭をひねるべきです。県民性と流してはいけないと思う。

3-1)現在の地域課題(3)地域の文化課題の内容

1. 地域の文化施設の充実・活用

- 010)既存の文化施設がない
- 013)〈生涯学習課〉先人の生活用具の民具を展示する民俗資料館の建設
- 042)学校の校舎の利用
- 051)各市町村図書館について、建物の老朽化・新しい資料の不足している館が多い / 各市町村にかんする資料の収集・保存ができていない館が多い
- 056)身近な図書館として地域にできた図書館なのに、駐車場が少なく施設も狭いために、近くにある大きくて駐車スペースもゆったりある施設に流れてしまったり、来るのをやめてしまったりする(行っても車をとめれんかったら嫌やき、やめちょこう)。
- 084)公民館施設が貧弱。
- 100)地場産業・史跡・文化遺産等を一同に紹介できる建物の建設 / 文化ホールの建設
- 122)芸術にかんしての文化施設の充実
- 135)市立図書館の充実
- 139)老朽化、またそれらしい施設がない。
- 144)高速道路にも近いので、体育施設ではなくグレードの高いコンベンション施設があればよい。
- 149)既存の文化施設の見直し・改修をおこなうとともに、町おこしに努めることが急務。
- 158)地域住民が集う文化施設がない。
- 162)[現在]あるものは老朽化し、使用しにくい。
- 163)地域の文化を広めるために、どのような施設等の企画・開発が必要か。[どのような]活用の仕方があり、[どのように]地域に生かすことができるかを考えることが大事である。
- 185)徐々にふえてきているが、文化施設は不十分である。
- 190)地域に文化的な施設がほとんどないので、そういう催しなどできたらいい。
- 202)不相応な箱物はいらぬ。身の丈にあった施設があればよい。文化財文化資源の情報発信に心がけ、観光産業等々とリンクさせることができたらいいと思う。
- 212)木材についての文化施設や利用モデル住宅やテーマ館がほしい。自然体験活動のための施設を充実させたい。
- 216)全国大会レベルの研究会等を開催できる会場(人員収容)
- 220)図書館の充実
- 260)地域に「ふさわしい」という言葉が気にかかるが、文化施設は気軽に利用できる場所・規則などを望みたい。郊外の立派な施設をうらやましく思うときもある。現状でもけっこうさまざまな活動・教室などがあると思うが、さらなる選択肢と内容の充実を望みたい。それとともにわたしたちの郷土の魅力を外に向けて発信し、観光や地産外商につなげれば、経済活性化の一端にはなると思う。
- 290)(1)[高知の自然の歴史の証拠となる標本にかんして、後世に引き渡していく体制や設備が不十分。]と同じ
- 299)副県都である南国市に県立の文化ホールを設置してほしい。南国市には文化ホールが皆無であるが、財政力が弱いため県立に頼るほかなし。
- 300)有休(公共)建物の有効活用
- 305)視覚障害児・者にとっても利用しやすい施設の充実(触って楽しめる博物館等)
- 310)高知市内の古い町名の復活中、昭和初期の街なみなどを再現した文化施設などの企画
- 315)文化施設(ホールのような)が校区にないので、設置が必要だと思う。
- 328)芸術的な公演ができる大ホールがない
- 332)民具資料を展示しているところがあるが、施設が貧弱で整理しきれていない状況である。
- 349)学校施設の利用について現在検討している
- 367)ふれあいセンターの整備
- 372)文化施設がない
- 374)学力学習状況調査にかかわって地方説明会のなかで担当の方が私見とは前置きされながらも、文化施設充実や文化・芸術などをたいせつにし、家庭で語る環境はたいせつ、ということをいわれておりました。まさに大きく関わっていると思います。

- 378) 高知駅前の「とさテラス」に博物館機能を設けてほしい。
- 385) 老朽化した土佐市民会館の施設の充実
- 386) 文化施設が乱立した形ではなく、まとまったものが必要。(維持管理の問題は残る? その解決と共に)
- 387) 集える図書館、楽しいイベント満載の文化ホールの開発
- 425) 市内の住民よりも県外からの来館者が多い(市内児童へ無料入館券を配布しているが、利用率が上がらない)
- 426) 例えば炭にかんする学習施設。

---

## 2. 地域の文化財・資源の発掘・調査・研究

---

- 068) 文化財等の体系的仕分け
- 081) 史跡・台帳・史跡めぐりマップづくり / 説明板・案内板の設置(調査)
- 184) 地域外の者にとってもインパクトのあるようなものがないように思うが、調査が十分でないことによるものもありはしないか、と思う
- 226) 地域内の文化財の調査
- 233) 山間地に独自の文化や生活の知恵が伝わってきたが、急速に失われつつある。失われる前に調査・研究・保存・伝承をはじめなければならない
- 251) 一宮地区には旧一宮村当時の村史なるものがなく、現在高知東高校や山内家資料館と連携して、一宮の歴史や文化・暮らしぶりの発掘と未来に伝える取組を展開している。同時に地域の高齢者の力・知恵を表にひきだす取組でもある。
- 270) 「サステナブルディベロップメント」という概念をもって調査・研究に取り組んでほしい
- 304) 文化史跡発掘などに参加者が少ない / 進める方も金がないとの声も? / 県立の歴史館もあり協力活動はできつつある。遺跡発掘等の協力要請
- 314) 文化会館がない
- 333) せっかくの施設(ピアステージ)がある。ここを基地としたことができそうに思っている。
- 356) 昭和初期頃の地域のように高齢者への聞きとりをおこない記録する。宮尾登美子さんの生家跡や田内千鶴子さん生誕地などが自館近くにあります。職安跡地付近に昭和初期(?)電車の線路がきていたり、船着場もあったそうです。そういう当時のことを知る高齢の方への聞きとりができればいいと思います。問合せはあるのですが、資料が少なく、地域のまとまった本になればいろいろと助かります。
- 357) 急激な生活の変化や過疎によって、地域の伝統文化や歴史・民俗資料が消滅の危機にある。ところが研究者や専門家が少なく手がまわらないために、地域の文化資源の把握が不十分である。啓発活動も遅れ、資料の保管場所にも支障をきたしている。
- 360) 史跡(虫送りの鉦・長芝の刑場跡・久万城跡・北山の歴史上の人物の墓等)の調査・活用・PRがなされず、初月地区住民のなかでも知られていない。地元でも埋もれている
- 397) 80~90代の方に伺うと、地域独自の文化が存在していたようだ。いま一度過去の歴史を研究し直すのにふさわしいのでは?(縄文時代の遺跡もあるようだが、地域内・外への発信に至っていない)
- 400) うもれている文化財の発掘、地元の画家の絵、等 / 民具の整理、等
- 421) 教科書無償化運動の記録
- 429) 趣味で調べている人はいるが、かたよっているように感じる

---

## 3. 地域の伝統文化・産業の振興、文化財・資源の活用・情報発信

---

- 006) 伝統的製紙原料の量および品質の確保
- 010) 文化資源はあるが、それらを活かしきれてない
- 011) 市内には四国八十八箇所のうち2つの寺があり、今後お遍路さん等に便利でわかりやすいルートのご案内など、意欲的に情報を発信していきたい。
- 015) かざられた予算のなかでの施設の充実は困難。金のかからないかたちでの情報発信などの工夫が必要である。
- 025) 高知はたくさんの歴史上の文化財・文化資源があります。地元の人々があまりにも知らなすぎます。これを解消するとともに、先人が培った立派な精神(スピリット)を内外に発信したい。
- 032) 情報発信の窓口一元化と地域文化財の案内人養成。
- 050) 自分たちの地域文化を見直そう、そしてその上にたった生活・他に商品として売れるものを発見し



ていこう

060) (1) (2)と同様活性化に向けた取組への積極的な参加促進

064) 自分たちの暮らしについて自信を持つ→外の人からみても楽しい意義あるものを感じてもらう取組。単に地域向けの普及・啓蒙ではだめ。ひとひねりのアイデアが必要。

065) 吉井勇記念館を地域住民に発信し人に来てもらうことが難しくなっている。それは地域の文化財・資源等が生かされているということ。それらを生かす具体的な取組・活動母体・情報発信力を構築したい

076) 日曜市などすばらしい地域の文化だと思います。市を観光などに利用するより、地域住民の生活を豊かにする方向で考えてください。

081) 史跡・台帳・史跡めぐりマップづくり / 説明板・案内板の設置(調査)

089) 吉良川の一部は重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。/ 「6. [文化財等の啓蒙・広報]」「7. [文化財等の情報発信]」は活動を行っているが完全とはいえない。

124) 佐川町は文教の町だといいいながら、地域の文化財・文化資源を知らない人が多い。これらの情報を地域内外に同時に発信する必要がある。

143) 文化財を活用する住民の意識やアイデアが低調であること。またそれにたいする行政の働きかけやアイデアも弱い。

149) 町の昔ながらの通り・建物・老舗をアピールする(昭和のよき時代)

164) ホームページ等での情報発信が弱いように感じる。

165) 地域の財政などを考えると箱物(ハード事業)より、情報発信など知恵や工夫で文化的資源の活用を考えるべき時代ではないか。

166) 市内中心部にあり戦火をのがれた史跡も近くにあるが、とくになにもされていない

173) 地域住民にとっては生きがいや誇りとして、地域外の人々にたいしては観光や文化交流の価値あるものとして位置づけること。

188) 神楽や伝統文化を観光資源に

197) 地域には文化財や文化資源が多数あるので、情報発信の工夫や開発ができればよい。

209) 沖の島独特の文化や自然があります。それを何とか活かしていければと思っています。沖の島の歴史や文化はたいへん貴重なものであるとともに自然資源も豊かで、屋久島のような活用ができるように思います。そのためのノウハウを支援していただきたいと思っています。

214) 地域にある文化資源の発信が少ないように思う。

238) NPOが中心となり地域の歴史的資源(有形・無形)をPRし、自らの地域のよさを再認識する活動をしているが、外部への発信の不足や外部評価が必要と感じている。

243) (四万十川流域が)国の重要文化的景観に選定されたが、活性化や交流人口の増加につながらない。

247) 国宝の利用(小村神社) / 酒蔵

253) 教育施設の多い地域ではあるが、魅力的な企画には欠ける

267) 地域ごとの文化を発進すべきと考えますが、進行しているようです。

289) 宿毛らしさが伝わる文化的な企画がない。

300) 地域の文化・資源の見直しで、都市部の方々との共有

326) 当地区は弥生時代より今日まで古い歴史をもっており、当地区に久礼田地区史読会があり歴史の発掘・調査に取組んで25年になるが、貴大学と連携をはかり地域の情報発信につなげていければ

345) 内部でいくら評価しても衰退していく。外部に発信し、評価を得られるものが生き残る。

365) 当地区には、仁井田神社をはじめ、多くの神社があるので、それらを生かした取組を!

367) 地区の祭りの活性化をはかる

369) 広報活動が少ないかもしれない。

379) ブームではない継続的な取組がたいせつではと感じる。

382) 戦前から焼け残った生活文化の発掘や、旭には歴史上の人物も生誕の地であったり埋葬されたりしている。それらの情報発信と、町の活性化の一助にできないものか。

397) 80~90代の方に伺うと、地域独自の文化が存在していたようだ。いま一度過去の歴史を研究し直すのにふさわしいのでは?(縄文時代の遺跡もあるようだが、地域内・外への発信に至っていない)

402) 戸島千軒野旦千軒と言われた歴史ある文化的価値があるものや、親皇宮神社、楠の大樹(樹令200年昔)のいわれや戸島神社(昔航海の守神)等。海神祭や数多い史蹟調査等。[「7. [文化財等の地域外情報発信]」に○をつけた理由・コメント]

428) 現在も十分におこなっていると思うが、違う目線での発信があれば、また違う面がでてくるのではないか。

431) 高知のよさをもっと発信すべきです。うもれているものが多い。

#### 4. 地域の伝統文化・生活文化・歴史等の維持・継承・学習・教育・普及・交流

009) 自分たちの暮らす地域の習わしや歴史を知ることが、自分たちのルーツを知ること。この課題に取り組む過程で文化意識の向上と同時に地域住民の交流がはかれるのではないかと考えている。

013) <生涯学習課>本市の文化財等について地域住民への周知

017) 祭りなどの維持

025) 高知はたくさんの歴史上の文化財・文化資源があります。地元の人々があまりにも知らなすぎます。これを解消するとともに、先人が培った立派な精神(スピリット)を内外に発信したい。

047) 高齢化率38.8%の大月町においてまた核家族化が進むなか、地域文化を継承したり祭りなどの行事をおこなう人材不足が各地区での課題となっている。

050) 自分たちの地域文化を見直そう、そしてその上にたった生活・他に商品として売れるものを発見していこう

064) 自分たちの暮らしについて自信を持つ→外の人からみても楽しい意義あるものを感じてもらう取組。単に地域向けの普及・啓蒙ではだめ。ひとひねりのアイデアが必要。

086) 地域の歴史の学習など

089) 吉良川の一部は重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。/「6. [文化財等の啓蒙・広報]」「7. [文化財等の情報発信]」は活動をおこなっているが完全とはいえない。

104) 住民の地元文化にたいする意識が薄い。

118) 地域コミュニティと本校が協力して「地域記憶プロジェクト」を立ち上げ、活動・学習している。

119) 高知市は文化的啓蒙力が他県の中核都市にくらべて劣っており、県民全体の文化力向上に大学として深く関与していただきたい

124) 佐川町は文教の町だといいいながら、地域の文化財・文化資源を知らない人が多い。これらの情報を地域内外に同時に発信する必要がある。

126) 文化的資源は多くあり、伝承活動・保存活動・普及等が肝要である。

136) 地域のような歴史を教えてくれる人材がいない。調べ学習が必要である。

137) 安芸市の交流人口の増加のための、文化財・文化資源・生活文化の地域外への情報発進等のあり方

147) 地域の文化が若者の流出により、継承に困難さがみられます。

148) 地域のおどりの継承をしようとしているのは老人と子ども。親世代が動かない。

172) 「山嶽社」という文化施設があり、その歴史について詳しく知り、生徒に教えたい

173) 地域住民にとっては生きがいや誇りとして、地域外の人々にたいしては観光や文化交流の価値あるものとして位置づけること。

181) 「いざなぎ流」がありますが、次代への教育と指導者の育成。

187) 「本川神楽」の伝承を地域有志がボランティアで継続しているので、さらにバックアップすべき現状がある。

195) 現在学校では四川自太刀おどりの継承に取り組んでいる。過疎化のなか、地域をあげての取組が求められる。

201) 地域にはもっと評価されてもよいのでは・・・と思う先人もいますが、一部の郷土の研究者にしか知られていないかもしれません。

231) 人口の減少による後継者不足から伝承文化の衰退。

233) 山間地に独自の文化や生活の知恵が伝わってきたが、急速に失われつつある。失われる前に調査・研究・保存・伝承をはじめなければならない

234) 地域の文化は盛んで、推進普及はすすめている。

238) NPOが中心となり地域の歴史的資源(有形・無形)をPRし、自らの地域のよさを再認識する活動をしているが、外部への発信の不足や外部評価が必要と感じている。

239) 地域の文化をひきつぐ人をふやす。

241) 高齢化・少子化で地域の文化を受け継ぐことが難しくなっている。また文化資源の価値も理解されなくなっているのでは？と感じます。

244) 明治初期の廃仏毀釈で仏が全国的に弾圧をうけています。四万川龍王も処分され、いまの神社にまつられています。元々あった歴史を広めることも文化伝統の継承だと考えています。これにとらわれることのないように地区全体の歴史を広めていきたいと思ひます。

248) 古いものを継承していく

251) 一宮地区には旧一宮村当時の村史なるものがなく、現在高知東高校や山内家資料館と連携して、一

宮の歴史や文化・暮らしぶりの発掘と未来に伝える取組を展開している。同時に地域の高齢者の力・知恵を表にひきだす取組でもある。

277) 地域の文化こそが観光資源です。住民が地域のことをほとんど知らない。啓蒙もしない。指導者の不足がいまあらわれているのでは。

290) (1) [高知の自然の歴史の証拠となる標本にかんして、後世に引き渡していく体制や設備が不十分。]と同じ

292) 古きよき文化を継承していきたい / 田舎体験

308) 生活自体が文化だと思います。中山間の生活をもっと啓蒙し、金やものでははかれない生活を啓蒙広報していくこともたいせつではと思います。

312) 文化を伝承することもたいせつであるが、いまはそれを受け継ぐ人材が求められている。むしろ新しい文化を創造すると考えることが前向きではないだろうか。

329) 戸波地区では「あったか教育推進会議」をつくり、「HEWA・ハート祭」などの取組をおこなっています。

334) 地域活性化は学校教育と密接な関係があると考えます。

343) 講座や教室などを開いても参加者が少ない

348) 本校でも地域の文化の継承者を育てる教育活動はおこなっており、この教育活動が地域の活性化につながっていると評価もいただいている。 / 地域の隠れた文化財(歴史的な資料となるもの等々)も数多くあるようであるが、それらを調査し地域に発表できるような教育活動を展開できる時間的余裕がないのが現実である。

355) 伝統文化の衰退(過疎化による減少)

357) 急激な生活の変化や過疎によって、地域の伝統文化や歴史・民俗資料が消滅の危機にある。ところが研究者や専門家が少なく手がまわらないために、地域の文化資源の把握が不十分である。啓発活動も遅れ、資料の保管場所にも支障をきたしている。

360) 史跡(虫送りの鉦・長芝の刑場跡・久万城跡・北山の歴史上の人物の墓等)の調査・活用・PRがなされず、初月地区住民のなかでも知られていない。地元でも埋もれている

374) 学力学習状況調査にかかわって地方説明会のなかで担当の方が私見とは前置きされながらも、文化施設充実や文化・芸術などをたいせつにし、家庭で語る環境はたいせつ、ということをいわれておりました。まさに大きく関わっていると思います。

379) ブームではない継続的な取組がたいせつではと感じる。

383) 住んでいる地域に価値を見いだすことにより、自信をもった活動を広げる

385) 地域に昔から伝承されている文化の継続

417) 高知の固有の魅力づくりに、土佐人気質としてのユーモアという視点が県民・市民の間でコンセンサスがとれていないように思える。(知識としてはあるが活かすという気持がないようだ。)

424) 人口減で神社やお寺の維持が難しくなりつつある。

429) 地域の文化にたいしてあまり関心のない住民が多い

---

## 5. 地域の文化財・歴史的建造物・景観等の保全・活用

---

033) 漁師町の景観として既に保存しています(重要文化的景観)。

047) 高齢化率38.8%の大月町においてまた核家族化が進むなか、地域文化を継承したり祭りなどの行事をおこなう人材不足が各地区での課題となっている。

073) 文化的資源の維持管理―財源・技術―、地元住民によることができれば地域での関心が高まり、経費削減につながるのでは。人材育成

099) 地区の文化財の老朽化による修理等の財源確保をどうするべきか

126) 文化的資源は多くあり、伝承活動・保存活動・普及等が肝要である。

128) 「小京都」中村の街なみ保存等

154) 地域の人々の文化活動の充実の方法

192) 校区に城山があるが、ほとんど地域住民に認知・保存されていないように思われる。歴史財産の整備ができればよいと思う。

194) 地域には昔の城跡もあり、近くには古い街なみもある。そうしたものを保存し、伝えていくことがたいせつだと思う。

236) 空き家を維持・管理しなければならない。地域の大工さんが建てた家は文化と景観を担っている。移住者を受入れるためにも。

- 237) 古い建物、とくに商店街の空き店舗利用。  
321) 文化財等の適切な保護  
325) 地域に残る仏像の保存・修復等について  
352) 旅館「高知屋」を核とした町なみ活性  
357) 急激な生活の変化や過疎によって、地域の伝統文化や歴史・民俗資料が消滅の危機にある。ところが研究者や専門家が少なく手がまわらないために、地域の文化資源の把握が不十分である。啓発活動も遅れ、資料の保管場所にも支障をきたしている。  
359) 朝倉には本山氏の城跡や古墳・朝倉神社など文化財そして旧陸軍跡地もあり、こうした文化資源を守り残すことが重要。  
392) 県の活性化を考える上でも県部の発展はたいせつです。そのなかで観光のしめる割合は大きいものがあり、そのことにつながるのでは。[「4. [古い建物・町なみ保存]」に○をつけた理由・コメント]  
395) 夜須町手結内港(歴史的な内港)の保存・活用など

---

## 6. 地域文化にかかわる人材不足・人材育成

---

- 032) 情報発信の窓口一元化と地域文化財の案内人養成。  
073) 文化的資源の維持管理－財源・技術－、地元住民によることができれば地域での関心が高まり、経費削減につながるのでは。人材育成  
077) 過疎・高齢化により、地域の伝統文化や風俗を伝承する人材がいなくなっている。  
136) 地域のように歴史を教えてくれる人材がいらない。調べ学習が必要である。  
181) 「いざなぎ流」がありますが、次代への教育と指導者の育成。  
198) 後継者不足。しめ縄づくりの技法等  
230) 文化資源等の研究や活用に取組んでくれている方々も高齢者が多く、新たな人材育成や活動の輪を広げていくことが課題となっている。  
239) 地域の文化をひきつぐ人をふやす。  
277) 地域の文化こそが観光資源です。住民が地域のことをほとんど知らない。啓蒙もしない。指導者の不足がいまあらわれているのでは。  
312) 文化を伝承することもたいせつであるが、いまはそれを受け継ぐ人材が求められている。むしろ新しい文化を創造すると考えることが前向きではないだろうか。  
335) 文化活動の後継者問題  
384) 文化伝承人の確保。ネットワークづくり。 / 情報共有ができていない。  
398) 町内各地域にある地域文化を継承する人がいない。  
403) 文化物・精神文化、どちらも保存・伝承していく人的資源の確保が必要。  
413) 質問3 [3-1) (1) への回答[年々衰退してゆく地域の伝統・文化。後継者不足。]のことと思われる]のとおり

---

## 7. その他

---

- 034) 福祉文化・風土の醸成(新たに創りだすものと取りもどすもの)  
068) 文化施設間の交流  
095) 3-1) (1) [それなりにできていると思っておりますが、むしろ外からみた場合の「こうした方がよい」等のアドバイスをいただきたい。]に同じ  
108) 山は山でよい面があるのではないか。  
109) 旧松山街道・清水井手・大山祇神社・キリスト教会・お薬師様[選択肢には○なし]  
115) 江戸期に祭りなどのぜいたくな行事が廃止された過去をもつ。しかし棚田をはじめ人々の生活には文化の香りが漂い、豊かである。中山間に埋もれないようにしたい。  
254) 学力・不登校・いじめ・非行等、家庭とそれを支える地域力の向上が大事ではないか。  
274) 地域の実態としては生活にゆとりがなく、生活文化や文化活動の普及推進がなされていない  
291) 文化とはなにか、文化財とは何かの根本認識の違いから、真の文化財に価値がみいだせていないように思える。  
335) 文化財や文化活動は経済的効果は薄いことが問題・課題  
337) 現在西土佐では文化資源等が情報不足であり、四万十市になって多くの文化的資産が中村に集中しているのでは!?

339)3-1)(1)[地域により課題は異なるものであり、高知市を1つのエリアとしてとらえた場合、すべての項目にあてはまる]に同じ。

350)上記項目以前の現状ばかりである。

370)現在あるものすべてが地域の文化そのものと考えてるので、文化課題を個別具体的に表現することは困難と思う。

404)異文化として蔑視されている[同和問題のことと思われる]

418)伝統的におこなっている行事は、夏の大綱引きと宇佐の夏の花火くらいです。文化面ではあまりありません。

430)宇佐の青龍寺から窪川の岩佐寺までが遍路道となっている。また浦ノ内湾では巡航船が運用されているが、待合所・WCがほとんどない。

---

## 3-1) 現在の地域課題(4) 地域の教育課題の内容

## 1. 授業・学校教育の改善・向上

071) 地域全体で子どもを育てるという意識をもたないと、これからの教育は成り立たないと思います。地域住民が積極的に教育現場にはいって現状を知ることとたいせつかと思います。家族(親)を育てる取組も必要かと…。

108) 高知県は私立学校に比べて、公立は学力面でもたいへんよくない。子どもひとりひとりの能力の向上を。

126) キャリア教育の推進を目標としている。多様な児童・生徒が存在しており、それに対応しうる教員の資質向上と教育整備等が緊急の課題である。

128) 西部地域の進学拠点校として、さまざまな方面からサポートをお願いしたい。

142) 生徒への学習支援

144) 要するに、学校にはできないことを外部の力を導入して、専門性やカリスマ性のある質の高い教育を生徒が享受できるようにする。

147) かぎられた人とのつきあいのなかで生徒が育っています。多様な職業やものの考え方を教えるため、外部講師をお招きしてのキャリア教育が必要です。

162) いまもおこなわれているが、さらなる充実が必要[「1. 学校教育向上への住民・専門家の支援」に○]

164) 専門家の支援・協力の推進が弱い。研修会・学習会の実施が少なく、参加しやすい日の設定も少ない。[「1. 学校教育向上への住民・専門家の支援」「2. 教諭への研修充実」に○]

182) 基礎学力の定着、学力の向上。全国学力学習状況調査で国語・理科が全国平均を下まわっている。

184) そうしたゆとりそのものがない状況ではできない[「4. 体験的学習のための施設・支援充実」に○]

186) ゲストティーチャーとして授業に参画してもらい取組をいままで以上に充実させたい。

190) 人材の発掘と確保をしていくことが課題[「1. 学校教育向上への住民・専門家の支援」「4. 体験的学習のための施設・支援充実」に○]

192) 地域に世話役がいてボランティア組織の充実や活用ができるようなシステムになっておればよい[「4. 体験的学習のための施設・支援充実」に○]

195) 本校では「ことばの力」をつけるために研修を重ねている。土佐教育研究会の指定を受けている。資金面と研究の充実は関係している。

202) 豊かな体験活動はキャリア教育の点からも重要と考えられる。

205) 地域としての教育の向上、そのために地域として学校をサポートできる体制づくり

206) 自然に恵まれた環境だから自然を利用した活動が多くできるわけではない。都会の子と同じように自然とふれる機会を設定してやらないと体験できない状況である。[「4. 体験的学習のための施設・支援充実」に○]

260) 「1.」～「8.」全部。専門機関が中心となり、さまざまな団体や住民といっしょになっての取組が活発になればよいと思う。

270) 体験や経験を実現できる教育カリキュラム

290) 実物資料を用いた学習活動の展開が必要と考える

292) 学校では学べない体験 / 各種アウトドアスポーツ体験など / 地域住民との交流

299) 生徒に勤労の尊さを教えるうえで有益

305) 盲学校における専門性ならびに教育力向上

309) 課題にたいする取組や知識の向上を目的とした教育 / 人間性(尊敬・尊重)などと社会人教育の充実(教育者も同様)

334) 外部人材の積極的な活用は今後の教育課題である。また防災教育の推進のためにも、地域防災との連携は不可欠です。

335) 地域の住民活力の授業への取入れ

375) 「4. [体験的学習のための施設・支援充実]」については、施設・設備の老朽化

379) 上記[「2. 教諭への研修充実」「3. 問題行動などへの相談体制」「4. 体験的学習のための施設・支援充実」「8. 地域防災に関する学習機会」]の記述内容そのものだと考える。

393) 進学だけを狙った学習ではなく、ひろく社会を世界を知れる教育をしてほしい。

395) 形骸化している教育委員会の改革(適材の人選・活性化) / 退職教員公務員の活用

404) 生きる力を養う教育、学力向上施策。

416) 総合的な学習等への講師派遣。

---

## 2. 教師・保護者・家庭などの教育力の向上・支援

---

009) 専門家の不足等を背景とした、研修や相談の機会の少なさ

010) 研修や学習機会はあればあるほどよい / 体制も充実[させる]

071) 地域全体で子どもを育てるという意識をもたないと、これからの教育は成り立たないと思います。地域住民が積極的に教育現場にはいって現状を知ることとたいせつかと思います。家族(親)を育てる取組も必要かと・・・。

086) 教師・研修体制の充実

104) P T A活動の低迷。子育て力の格差。

113) ふだんの校内研修や長期休暇中の研修などは豊富に用意されていると思うが、on the job trainingが不十分である。たとえばアナウンサーや会社の営業職などの場合には先輩が後輩につきっきりで指導するケースが頻繁にあるが、教員の場合は先輩教員が後輩教員の授業を何回も見てそのたびに授業のあり方について指導するということはあまりない。教員の世界では先輩教員であっても「上司」ではないので、指導となるとむずかしいのかもしれない。それよりも、そんな時間的余裕はもとよりない。

124) 地域全体で家庭学習がたいせつだとの風潮をつくるのが急務だと考える。同時に教員の指導力向上が欠かせない。

126) キャリア教育の推進を目標としている。多様な児童・生徒が存在しており、それに対応する教員の資質向上と教育整備等が緊急の課題である。

142) 教職員の授業力向上

143) 経済的その他の諸理由によるさまざまな格差からくる、教育や教育現場にたいする理解や協力態勢の差。

163) その学校にあった教育や個々の生徒・家庭とのつながり等、生徒指導をふまえた授業づくりの実践につなげるために、教師の資質向上が必要である。

164) 専門家の支援・協力の推進が弱い。研修会・学習会の実施が少なく、参加しやすい日の設定も少ない。[「1. 学校教育向上への住民・専門家の支援」「2. 教諭への研修充実」に〇]

165) 教員にとって教育力・指導力の向上は永遠の課題だと思う。

170) 2-4) [日々の授業研究にたいする指導助言]と同様

171) 生徒は学校でなんとかするが、保護者の支援をお願いしたい

173) 家庭の教育力の課題(その背景にある就労・家計・離婚・養育態度)から生起するさまざまな課題があり、家庭や地域の教育力を高めることが必要。

177) 複式授業についての指導力向上

230) 授業改善も含め教員の教育力向上をめざしていきたい。

260) 「1.」～「8.」全部。専門機関が中心となり、さまざまな団体や住民と一っしょになっての取組が活発になればよいと思う。

274) すべて課題だらけ。とくに教諭の教育力の向上はもとより、人間性の向上

305) 盲学校における専門性ならびに教育力向上

320) 地域で子育て支援に取り組む団体・個人の資質向上のための研修の充実。

328) 5教科の教員の教育力を高めるための研修会の充実

335) 教師への研修・支援等

376) 困っている家庭と社会的支援機関とのつなげ方がよくわかっていないので相談できる窓口がほしい。

379) 上記[「2. 教諭への研修充実」「3. 問題行動などへの相談体制」「4. 体験的学習のための施設・支援充実」「8. 地域防災に関する学習機会」]の記述内容そのものだと考える。

383) 子どもたちが自ら育つ力をのばす教育の方法を研究・実践していく

386) 教育力量の向上というよりも、ともに学ぼうとする意識のあり方に問題があるように思う。

---

## 3. 問題行動・学習困難・発達障害などへの対応

---

077) 中学校のソーシャルワーカーが発達障害等問題のある児童の対応に困っている事例がある。不登校・ひきこもり・喫煙防止対策等、地域住民と学校保健との連携が必要であるが、現状は不十分である。

122) 週に4時間勤務のスクールカウンセラーを学校専属とし、教育相談を受けるだけでなく、積極的

に学校教育へ参画できる体制づくり

136) 3-1) (1) [充実した医療施設ない(カウンセリング・心療内科等の施設)。すぐに生徒が受診できない。]で回答しました。

142) LD・ADHD等特別な支援の必要な生徒への支援

197) 問題行動などの障害に対応するカウンセリングなどしていただく場が地域にあれば、さまざまな対応が早くできると思う。

204) 大学等の高等教育機関や(「3. [問題行動などへの相談体制]」に対応できるような)専門機関等が近隣になく、人的な支援が得にくいのが悩みです。

210) 「3. [問題行動などへの相談体制]」についての相談・カウンセリング等

214) カウンセラーの方が週2回来ていただき成果をあげてはいるが、より多いカウンセラーの常駐的存在があればありがたい。

218) 落ちついて学習に取り組めない・集中できない等、多動的傾向児童が多い。

220) 多様な児童への対応

231) 問題に対応した専門職員の確保[「3. 問題行動などへの相談体制」に○]

237) 「いじめ」問題に迅速に対応できる学校以外の機関の設置。

248) どこにいても平等に相談の機会を与えられるべきだ(地域差をなくす)。

260) 「1.」～「8.」全部。専門機関が中心となり、さまざまな団体や住民といっしょになっての取組が活発になればよいと思う。

267) いじめ問題にもっと関心をもつべきと考えます。他人の子どもに注意する大人がいない。

289) 発達障害等、大人になってから問題になるケースがふえている。

310) 教師・父兄・住民など一体となって、問題点の早期発見対応できる体制が必要と思う

335) 発達障害児への支援や授業の工夫等

343) 学校教育と地域住民の連携等十分な取組となっていない。また発達障害等への相談支援体制が不十分である。地域防災、とくに南海地震対策への対応もこれからという状況である。

351) 発達障害等で進路がとざされるケースがある。発達障害への理解がとぼしく、包括的な支援が未熟である。

375) 「3. [問題行動などへの相談体制]」については、受入側の人員不足

379) 上記[「2. 教諭への研修充実」「3. 問題行動などへの相談体制」「4. 体験的学習のための施設・支援充実」「8. 地域防災に関する学習機会」]の記述内容そのものだと考える。

388) 学習困難や心の問題などさまざまな問題がある。スクールカウンセラーの配置等でタイムリーに相談できる体制が望ましい

390) 特別な支援が必要な児童が年々増加しているので、スクールカウンセリングの時間数をふやす必要がある。月2～3回のカウンセリングでは十分でない。

410) 発達障害児(疑いを含む)への切れ目のない支援や関係者によるチーム対応など連携が課題です。

432) 社会的に大きな問題になりつつあると思う。[「3. 問題行動などへの相談体制」に○]

---

#### 4. 地域の社会人教育・生涯教育の充実

---

013) <生涯学習課>学校・行政・地域や各種団体のネットワークづくりと協力体制を充実するための組織作りが必要である。 / いつでもだれでもが学習することのできるシステムづくり

025) 地域の社会人教育・生涯教育を充実させ、シニア世代が若者と交流できる「場」を提供する。机上の学びだけでなく、経験や実践でより具体化していく。

032) 学習機会は提供しているが、受ける側(住民)に問題があるのではないか(参加者が少ない)。

051) 生涯学習の必要性をあまり感じていない

068) 公共機関の指導体制の充実 / 公共機関による講座[「5. 社会人教育・生涯教育」「7. 文化・住宅・住環境・環境問題などの学習機会」に○]

094) 地域住民のもつ学習意欲の内容の把握とそれらにたいするサポートについて。さいきん頻繁にいられている「自助・公助・協助」の判断の認識の境界について、地域コミュニティの再生について。

100) 幅広い分野の教養力を身につける場を住民に提供する

226) 社会教育活動の活性化

251) 大人(とくに高齢者)を対象に、学ぶ地域社会づくりを進めたいと考えている。そのためには上記に○をした取組[「5. 社会人教育・生涯教育」「6. 医療・福祉・健康などに関する学習機会」「7. 文化・住宅・住環境・環境問題などに関する学習機会」「8. 地域防災に関する学習機会」]について、一宮コミュニティが主



体となって学習会に取組む予定である。防災については、個人的には一宮小校区町内会(37町内会)防災協議会の会長であり、住民の防災意識向上に努めたい。明日への絆における学びを地域社会に発信できればと思っている。

260)「1.」～「8.」全部。専門機関が中心となり、さまざまな団体や住民といっしょになっての取組が活発になればよいと思う。

300)社会教育の一環として、地域の文化・資源の見直しおよび体験学習を断続的に実施する。

309)課題にたいする取組や知識の向上を目的とした教育 / 人間性(尊敬・尊重)などと社会人教育の充実(教育者も同様)

335)社会教育の充実

359)地域にはさまざまな生涯学習へのニーズがあり、こうしたニーズに応えていくことが求められる。

378)発達障がい等、支援の必要な子どもにたいする支援方法の検討・研究

382)高齢者の生きがいをうみだす生涯教育の充実と、健康な日常生活を送れるよう、教育や支援体制を充実させるべき。また旭には障害者の自立に向けた通所作業所も多くある。けれど町中では彼らをあまり見かけない。施設から外へとびだし日常にふれあう事を可能にする教育や支援を、旭の町ならもっと受け入れられるのではと。

400)生涯学習計画の策定

403)年を重ねてもつづけられる文化活動・スポーツなどを普及・推進していくことが必要。

428)市を中心に各種行っているの、今後もいまをキープしていき、住民に周知していく。[「5. 社会人教育・生涯教育」「6. 医療・福祉・健康などに関する学習機会」に〇]

---

## 5. 医療・福祉・食・健康などの教育・学習

---

009)食育の推進—食育にたいする理解(知育・徳育および体育の基礎との位置づけ。「食」にかんする知識と「食」を選択する力の習得。)

034)福祉教育の観点から、子どもから大人まで包括した支援。とくに地域特性を活かしながら、住民がともに支えあう風土と仕組・仕掛け。

041)時間をかけておこなうことが大事[「6. 医療・福祉・健康などの学習機会」に〇]

084)講師の派遣[「5. 社会人教育・生涯教育充実」「8. 地域防災の学習機会」に〇]

092)医療・健康などにかんする学習機会の充実。

251)大人(とくに高齢者)を対象に、学ぶ地域社会づくりを進めたいと考えている。そのためには上記に〇をした取組[「5. 社会人教育・生涯教育」「6. 医療・福祉・健康などに関する学習機会」「7. 文化・住宅・住環境・環境問題などに関する学習機会」「8. 地域防災に関する学習機会」]について、一宮コミュニティが主体となって学習会に取組む予定である。防災については、個人的には一宮小校区町内会(37町内会)防災協議会の会長であり、住民の防災意識向上に努めたい。明日への絆における学びを地域社会に発信できればと思っている。

260)「1.」～「8.」全部。専門機関が中心となり、さまざまな団体や住民といっしょになっての取組が活発になればよいと思う。

261)認知症の予防等、とくに介護者教育。

323)高齢者にとって関心度の高い健康問題にかんする学習会・勉強会の開催

355)「6. [医療・福祉・健康などに関する学習機会]」：現在元気な高齢者等はあまり興味をもたない(他人ごとのよう)

372)高齢化にともなう病気の予防と対策の学習(とくに食生活にたいする)。(具体的な病気の予防治療などについては高知大学と連係)。

382)高齢者の生きがいをうみだす生涯教育の充実と、健康な日常生活を送れるよう、教育や支援体制を充実させるべき。また旭には障害者の自立に向けた通所作業所も多くある。けれど町中では彼らをあまり見かけない。施設から外へとびだし日常にふれあう事を可能にする教育や支援を、旭の町ならもっと受け入れられるのではと。

408)市内の多くの民間医療機関が「療養型医療」をおこない、公立病院である当院は「急性期医療」を担っている。この医療機関の役割分化に医師不足の問題等も加わり、赤字経営がつづいている。そうした状況のなかで住民の間でも病院の存続等について議論がおこなわれているが、それぞれの病院の果たしている役割についてどれだけ理解しているのか疑問である。日頃病院にかかっている者にとって認識不足は大きいと思われる。

418)福祉の面では健康面・食育面について、市の福祉事務所が中心となって、料理の講習や100才体操の

普及などにつとめています。

428)市を中心に各種行っているので、今後もいまをキープしていき、住民に周知していく。[「5. 社会人教育・生涯教育」「6. 医療・福祉・健康などに関する学習機会」に○]

---

## 6. 文化・住宅・住環境・環境問題などの教育・学習

---

017)郷土への思いを伝える教育の強化

068)公共機関の指導体制の充実 / 公共機関による講座[「4. 体験学習充実」「7. 文化・住宅・住環境・環境問題などの学習機会」に○]

251)大人(とくに高齢者)を対象に、学ぶ地域社会づくりを進めたいと考えている。そのためには上記に○をした取組[「5. 社会人教育・生涯教育」「6. 医療・福祉・健康などに関する学習機会」「7. 文化・住宅・住環境・環境問題などに関する学習機会」「8. 地域防災に関する学習機会」]について、一宮コミュニティが主体となって学習会に取組む予定である。防災については、個人的には一宮小校区町内会(37町内会)防災協議会の会長であり、住民の防災意識向上に努めたい。明日への絆における学びを地域社会に発信できればと思っている。

260)「1.」～「8.」全部。専門機関が中心となり、さまざまな団体や住民といっしょになっての取組が活発になればよいと思う。

299)「7. [文化・住宅・住環境・環境問題などの学習機会]」「8. [地域防災に関する学習機会]」: 農業者が多くて関心度が低い。

---

## 7. 地域防災の教育・学習

---

009)教職員にたいする防災関連の研修(各学校ごとの地震・津波にたいする対策など) / 災害時における食事への対応(食材の調達、調理方法、栄養の確保等)を考え、防災への意識を高める。

011)近い将来おきるとされる南海地震に備えるため、各地域ごとに情報の共有をおこなっていくことが重要である。

013)<学校教育課>南海トラフ巨大地震を考えたとき、本市の教育施設の多くは海拔10メートル前後にあり、避難方法を含め総合的な対策が大きな課題となっている。 / <総務課>地域の防災学習や学校での防災教育にかかわることがあっても、継続的かつ系統的な取組となっていないため、不十分な状態である。

015)かぎられた人員での、市内全域で結成されている自主防災組織の支援・養成には限界がある。

054)防災教育・講演会

071)防災意識がまだまだ低いと思います。

115)もし災害があれば中高生が支援にあたらなければならない、そのための枠組みづくりが必要

121)3-1)(1)[地域で連携した防災計画や防災訓練がまだできていないこと(本校を避難所とした計画や訓練)。]を見てください。

131)本校が高知市と福祉避難所の協定を結んでいるので、合同での防災訓練の実施等。

132)地元日高村との大規模震災への対応にかんする協議の設定から取組をはじめたい。

133)福祉避難所運営学習会

137)地域防災にかんする具体的な対応(学校・地域・行政の連携)についての学習や体制づくりが不十分。

148)必ずおこる地震・津波にたいする意識が低いように感じる。生徒も学習と現実とが一致していないようで残念である。

149)必要不可欠・急務な課題として市民に徹底認識させるべき。[「8. 地域防災に関する学習機会」に○]

166)津波発生時に避難場所として指定されているが、協力体制は今後の課題である。

177)災害時における独居老人、医療を必要とする人等の支援体制

181)津波の心配はないので、いまひとつ防災にたいして弱い感じがしています。

185)地域防災については、住民の意識改善も含め不十分である。

201)いまの課題は「地震・津波」です。四万十川河口から直線距離で3km、子どもたちの命を守ることが最大の課題です。

212)学校と地域が1つになっての防災学習が必要

213)地震・津波にたいする備えが十分でないと思います(海岸地区が多いわりには・・・)。

222)地域と連携した防災活動の取組の必要性を感じている。

238)当NPOは小学校への支援が多く、学習田や農工支援・グラウンド芝生化の協力をして連携を深めている。防災にかんしては地域の部落単位で自主防を組織し、避難訓練等を実施している。

243) (大野見地区では)住民の危機感が薄い。自主防災組織があってもほとんど活動していない。海岸部の久礼や上川江地区の住民とはかなりの温度差がある。

251) 大人(とくに高齢者)を対象に、学ぶ地域社会づくりを進めたいと考えている。そのためには上記に○をした取組[「5. 社会人教育・生涯教育」「6. 医療・福祉・健康などに関する学習機会」「7. 文化・住宅・住環境・環境問題などに関する学習機会」「8. 地域防災に関する学習機会」]について、一宮コミュニティが主体となって学習会に取組む予定である。防災については、個人的には一宮小校区町内会(37町内会)防災協議会の会長であり、住民の防災意識向上に努めたい。明日への絆における学びを地域社会に発信できればと思っている。

260) 「1.」～「8.」全部。専門機関が中心となり、さまざまな団体や住民といっしょになっての取組が活発になればよいと思う。

269) 地震・津波対策、避難訓練等。小学校の校区を年に1～2回児童がまわって清掃実施(保護者も参加)することにより地域の美化に感心をもつことがたいせつ

273) 町民の防災意識の低さ

288) 災害時、いろいろと避難場所もよいことだが、避難所へ自力で移動できる日ごろからの体力づくり

299) 「7. [文化・住宅・住環境・環境問題などの学習機会]」「8. [地域防災に関する学習機会]」: 農業者が多くて関心度が低い。

304) 地域防災にかんする講演

315) 自主防災組織単位あるいは地域(校区)全体での防災学習の機会をふやすべきだ。

323) 自主防災組織を対象とした南海地震対策にかんする勉強会(避難訓練など)

334) 外部人材の積極的な活用は今後の教育課題である。また防災教育の推進のためにも、地域防災との連携は不可欠です。

335) 防災教育の充実

343) 学校教育と地域住民の連携等十分な取組となっていない。また発達障害等への相談支援体制が不十分である。地域防災、とくに南海地震対策への対応もこれからという状況である。

355) 「8. [地域防災に関する学習機会]」: 当村においては津波の心配がない分、あまり防災にたいして意識していないのか、各地区長さんもあまり積極的ではない

360) 自主防災組織未整備の町内会が半数以上あり、地域防災にたいする認識に町内会間の温度差がある。

367) 高齢化にともなう避難訓練など、実状にあった活用をはかる

369) 防災講習会・防災研修旅行による。

374) 本校は海岸線に隣接しており、防災教育は大きな課題です。

377) 防災教育の計画的・継続的な体験型の学習機会

379) 上記[「2. 教諭への研修充実」「3. 問題行動などへの相談体制」「4. 体験的学習のための施設・支援充実」「8. 地域防災に関する学習機会」]の記述内容そのものだと考える。

391) 地域防災については、南海地震の津波予測がずい分と高くなっており、避難場所の整備や意識などが今後の改善点である。

397) 住民・行政の危機感が薄い

426) 南海沖地震にたいする学習

---

## 8. 教育・学習への学生ボランティアの協力体制

---

009) 児童・生徒が体験的な防災学習を進めるさいの学生ボランティアの協力体制の組織化

054) 学生チューター

142) 生徒への学習支援

158) 学習支援ボランティア(大学生など)は存在しない。

---

## 9. 地域の教育・文化施設の充実・活用

---

051) 地域の図書館の利用のしかたを知らない学校も多い / 図書館が生涯学習の中心施設という認識が利用者・行政とも薄い / そもそも図書館がない / 「6. 医療・福祉・健康などの学習機会」「8. 地域防災の学習機会」については、図書館から発信できる情報も多いが実行できていない館が多い

056) 体験的な学習ができるような企画・活動をしたいが、施設規模の小ささや、人件費の捻出が厳しく、なかなか手をだせないでいる。

060) 館を利用した学習体系の拡充

093) 小学校と公民館共催で毎年7月に「平和集会」を開催しています(高新2012年7月7日地方面参照)。地区の古老3人を語り部に、6年生・5年生・4年生に戦時中の貴重な話をしていただいています。75%以上が戦争を知らない世代となってきました。あと何年つづくか…。

109) [地域の]学校は休校、公民館の活用の推進

188) 文化的施設が近くにない

400) 学校外施設の充実

---

## 10. 地域の衰退、学校の立地、地域と学校との関係

---

047) 子どもの育て方(躾や育児)を知らない親がいる。また学力向上や子育てにおいて、学校への責任が大きい。 / 社会現象の1つ。利己的・個人主義的な人が多く、田舎独特の「向こう三軒両隣の支えあい」が薄れている。

038) 少人数にもかかわらず、保育所・小中学校の統合がおこなわれていない。

058) 児童・生徒の減少にともなう複式学級の増加による教諭の減

064) まず地域の学校の先生が地域のことを知らない。

065) 少子化のため子どもがまったくいない。集落が成立しなくなっている。

091) 学校に子どもがいない。若者も数えるくらい。現在地元小学校に1年生1人のみ。

123) 生徒が大学との連携事業に参加したいと思っても、県内3大学とも遠方にあり、参加が難しい。

135) 高知市内から遠隔地であるため、支援を受けにくい

139) 地域には人材が少なく、教育への関心も高いとはいえない。

145) 学校を核とした地域コミュニティづくりをおこなっている。まだ本格的ではないので支援をいただきたい。

146) H24年度より小中一貫教育校となった本校は児童生徒の減少による極小規模校であり、今後の学校存続においては地域コミュニティの核としての役割を担っていかなければならないと考えている。

154) 生徒数減少にたいする取組

172) コミュニティスクールを目指しているため、地域の人々の学習の場となる取組がしたい

183) 少子化・児童数減

204) 大学等の高等教育機関や(「3. [問題行動などへの相談体制]」に対応できるような)専門機関等が近隣になく、人的な支援が得にくいのが悩みです。

205) 地域としての教育の向上、そのために地域として学校をサポートできる体制づくり

209) 学校への学習支援のみならず、沖の島の人たちをまき込んだ教育・文化活動ができればよいと考えます。

229) 須崎市では地域ぐるみ教育を進めています。地域・保護者・学校が児童生徒を支援する体制を構築していこうと、各地区でいろいろな取組がはかられています。しかし個別支援の必要なケースも多く、支援体制の構築にも課題があり、充実した体制が望まれています。

234) 専門でないからわからないが、過疎地ながら住民一体となって教育に力を入れている。

236) 生徒数の確保。いなかの学校は学力が高いことを知ってもらいたい。大栃中学校など。

238) 当NPOは小学校への支援が多く、学習田や農工支援・グラウンド芝生化の協力をして連携を深めている。防災にかんしては地域の部落単位で自主防を組織し、避難訓練等を実施している。

239) 小・中学の生の少人数化による廃校をふせぐため、町・県外からのI(U・J)ターン希望の受入れ

241) 地域の教育力がレベルダウンしていると思います。

244) 地域の子どもたちとイベントを通じて交流をはかり、伝統文化等の継承につながればよいと思います。

245) 小・中学校はいま一貫校として頑張っておりますが、高等学校が生徒数の少なさが心配です。梶原高校の閉校となれば、梶原人の学力低下になるのではと心配です。

291) 外部教育機関と連携をとるための中間的立場の町内の[学校の]教師はすべて町外在住であり、町内の過去の生活やこれからの生活にふれる機会がない。歴史的史跡の見学で町内を知ることはできない。よって生徒・親・教師・学校・社会・他の教育機関との真の連携がむずかしい。

292) 学校では学べない体験 / 各種アウトドアスポーツ体験など / 地域住民との交流

308) 先生が先生として活動できるよう、学校も住民もお互いの立物を尊重しあう必要がある。先生がPTA恐れPTAは学校を批判するのではなく、子どもたちを守り育てることが自分たちを育てることにもなる意識が必要では

314) 地域は地域で育てる取組の充実をはかる

- 331) 子どもを対象とした活動を実施する地域団体の方々(世話役)の高齢化が進んでいる(後継者不足)。
- 343) 学校教育と地域住民の連携等十分な取組となっていない。また発達障害等への相談支援体制が不十分である。地域防災、とくに南海地震対策への対応もこれからという状況である。
- 349) 来年度から地域の活性化のために取組が必要[小学校]
- 373) 体験的な学習を推進する地元の経験者の講師の取扱い方
- 382) 高齢者の生きがいやをみだす生涯教育の充実と、健康な日常生活を送れるよう、教育や支援体制を充実させるべき。また旭には障害者の自立に向けた通所作業所も多くある。けれど町中では彼らをあまり見かけない。施設から外へとびだし日常にふれあう事を可能にする教育や支援を、旭の町ならもっと受け入れられるのではと。
- 384) 地域の特色が授業で活かされていない。時間外活動が多すぎて、子どもたちも多忙・義務的で自主性に欠ける。
- 385) 地域のさまざまな業種の職場体験や、また逆に地域の人を学校に招いて体験を話してもらうなど
- 413) 小学校の統廃合により校区が拡大し、放課後児童クラブを設置しているが、場所と指導員が不足しており、児童にも窮屈な思いをしてもらっている。
- 418) 小中学校では合唱や吹奏部の活躍など仲々頑張っていますが、地域をあげてというまでには至ってなく、各校での行事として励んでいる。
- 431) もっと連携すべきです。地域・学校・その対象者と。

---

## 11. その他

---

- 013) <環境課>野焼きの禁止、無責任なネコへのえさやり。
- 022) 教育学部はないなか、社会・暮らしに県立大の住み分けられる分野を確立できるのだろうか？
- 030) 地域としての将来像を描く調査研究と住民のニーズ聴取が必要。
- 074) 家族のあり方や他者とのかかわり。人生について(死について)など
- 076) 公立学校で生徒が減っているなか、中央高等学校では生徒数が倍となり、生徒はあいさつができ、笑顔です。決まりきったままでの教育や研修をつづけるより、高知の教育を根源的に考えるべきでは？
- 095) 3-1) (1) [それなりにできていると思っておりますが、むしろ外からみた場合の「こうした方がよい」等のアドバイスをいただきたい。]に同じ
- 099) ごく一部の者だけが何年も活動し、つぎは俺が私がという意識改革をどうすればできるか。
- 130) 聴覚障害にかんして、専門的に研究している大学の教員が県内にほしい。
- 133) 発達障害のある生徒への支援について、地域の教員と養護学校・特別支援学校との連携
- 194) 地域には保育・小学校・中学校・高校が500mの円内にある。そうした地域には連携していくうえで多くの課題がある。
- 240) 四万十川のよさを地域住民がよく理解し、たいせつにすること。
- 254) 講座や学習機会はその気になってさがすと多くある。なのに出席率が低いのは何故なのか・・・。
- 258) 上記[「3. 問題行動などへの相談体制」「4. 体験的学習のための施設・支援充実」]はNPO外の活動として捉えています。[教育課題として〇はつけたが、自分たちのNPOの活動・課題ではない、という意味か？]
- 277) 目先のことにこだわりすぎる。日本人としての自律心・誇りをもつような教育が必要では。先生の覚悟が必要。
- 339) 同上[地域により課題は異なるものであり、高知市を1つのエリアとしてとらえた場合、すべての項目にあてはまる]
- 340) 協力者の確保
- 348) 地域にはさまざまな教育課題がある。本校でも独自の取組をおこないたいと考えるが、現実的には校内授業研修会やPTA教育講演会に講師を派遣していただき指導を仰ぐことが精一杯である。地域の教育課題にかんして県立大学からどのような指導を仰げるかがわからないため、具体的な内容は答えられない。
- 352) 地域住民のBCP等
- 367) ふれあいセンターを活用して事業の活性をはかる
- 370) 3-1) (1) [人間が日常生活を送るうえで求められるすべての活動は「課題」と位置づけられると思うので、具体的には表現できない。]の問いに答えたとおりです。
- 373) 商工業者の、人口3000人以下のあり方

3-1) 現在の地域課題(5) 地域の環境課題の内容

1. 環境保護対策

- 006) 製紙スラッジによる河川汚濁への対策は進んでいるが、回集したスラッジを有効に利用できないだろうか。
- 008) 地先の海域における海藻の衰退(磯焼け)
- 009) 新エネルギーの導入・省エネルギーの推進
- 010) 物部川の濁水
- 025) 生を声を聞き、実現可能な対策を講じる。即対応すべき事項と中長期の対策を決め、問題解決をはかる。[「4. 中山間道路整備」「5. 鳥獣被害」「7. 環境保護運動」に○]
- 031) 1 例だが、テレビ等で放送された仁淀ブルーと呼ばれている仁淀川の環境保護など。
- 064) この地域では、子ども以前に大人(とくに子育て世代)が環境・災害にたいして、地域をとりまく取組・活動へと発展していない、と感じます。参加はしているかもしれないけれど、この世代が中心となり広がっていくことが少ない。いそがしいからしかたないかもしれないが…。
- 113) かつて佐喜浜沖でコンクリート製造のため海底から砂を採取していた時期があり、その影響で海岸(砂浜)がどんどん小さくなってしまった。いったん小さくなった砂浜はなかなか元に戻らない。
- 126) 地元には豊かな自然が残っている。後世につなげるため、環境保全等を重要視しなければならないと考える。
- 147) 日本一の清流仁淀川を維持していきたいです。
- 163) 自然環境保護は1次産業を支えるために必要である。
- 166) 校区に多くの自然を残す区域もあり、開発とのかねあいがむずかしい
- 172) ホテルが生息しているため、その保護について詳しく知りたい
- 205) 自然環境保護と生活環境向上のバランス
- 231) 放置された植林や、農産物の鳥獣被害、海岸線にある当庁の地震対策など、多くの課題がある。
- 234) 自然保護・ゴミ処理・鳥獣害対策は、地域住民のつくる各種団体、学校生徒、老人会クラブなどの町づくり有志が心がけているが、できないことは行政に頼んでいる。災害対策は訓練や施設の整備・建築等で徐々に改善されている。
- 236) 道路の草刈など、住民だけではできなくなってきている。
- 238) 自然保護のために斗賀野の畔にノカンゾウを植えている。希少植物のササユリの保護増殖のため虚空蔵山をフィールドとして保護活動をおこなっている。河川環境の保全活動も定期的におこなっている。
- 239) 農薬・化学肥料を使わない農業の推進
- 241) 四万十川を保護する活動が町民全盤に広がっているとはいいがたい。
- 243) 山林が放置されている。
- 277) 山は荒れています。最近の雨の降り方は異常です。早明浦ダム底が見えていても1日の雨で放水をするぐらい、山の保小力がなくなっています。
- 290) 3-1) (4) [実物資料を用いた学習活動の展開が必要と考える]と同じ[「1. [自然環境保護」「5. 鳥獣被害」「6. 災害対策」に○]
- 310) 「1. [自然環境保護]」: 地域住民の声を尊重
- 314) 学習会を実施することにて必要である認識を与える。[「1. 自然環境保護」「7. 環境保護運動」に○]
- 335) 環境保護活動の推進 / 資源再利用・有効活用等 / 環境変化にともなう被害問題
- 337) 四万十川汚染にかんして長年問題視されているが、行政・地域の対策が進んでいない(消極的)ように思う。
- 360) 北山の自然破壊やホテル・メダカ減少を防止するための自然環境保護対策
- 373) 川を守るために川のなかの整備 / まわりに歩道をつくり、川のそばの環境づくりを充実する
- 380) 農地の保全[「1. 自然環境保護」に○]
- 383) ESD的な視点で身近な環境の問題へのとりくみから、世界的な視野をもち、自ら考えていく
- 384) とくに早明浦ダム周辺には大型バスやボートトレーラー(ダム見学・視察・観光)など多数きているが、駐車場もなく道が狭い。 / 美化活動など、それぞれにおこなわれていて、効率がわるい。連携できていない。
- 385) 環境について、地域だけでなく、市や県全体でとりくむような、市民活動の充実。

393) 四万十川上流域のため生活排水には十分注意が必要だが、洗剤やシャンプー等水資源に悪影響を及ぼす恐れのあるものを使用している家庭が多い。

403) 現在は豊かな自然に囲まれている当町だが、長期的な視野で持続可能な環境保護活動が必要。

432) たとえば道路の街路樹・植樹帯などの草刈りは業者へ委託されているのがふつうであるが、委託されているがゆえに、家の前の植樹帯であったとしても[住民]自らが草を刈ることをしなくなる。そのため草ぼうぼうの状態になる。年に数回業者が仕事としてやってしまう。美観や安全性の確保からすると、問題があると思う。たとえば地域住民やNPOなりに年間分の美観維持委託として任せれば、週に1回ほど草刈りをするにより、常態的な美観(景観)の維持や、草がのび放題になることで視認性が失われることはなくなると思う。

---

## 2. ゴミ処理問題

---

013) <環境課>不法投棄の防止

042) ゴミがだせない家で焼いている高齢者が多い。また家の周囲に積みあげている家が目立つ。

073) 流域河川の地域での一斉清掃等の取組は毎年おこなわれているが、上流から流れてくるゴミの量は減っているように思われない(最終的処理量は把握してない。収集しての感想)。産業活動から生じたもの、生活上生じたもの、交流人口によるポイ捨てなど。

192) ゴミのポイ捨てがあとをたたない。子どもの教育上も好ましくない。

193) 校区は山の上にあるが、道路ぶちにゴミがたくさん捨てられている。不法投棄で量が多く、重たいもの、急な坂で危険で取れないものが多く、そのまま放置されている。

201) 毎年1度は四万十川中心に清掃活動をおこなっていますが、いっしょにおこなっている中学生に尋ねても「毎年ゴミは減らない」です。

209) 人口がかぎられているため大きな自然破壊につながる事案はありませんが、やはりゴミ処理、家庭排水の対策、尿尿処理は大きく問題になっています。また猪による作物被害に苦しんでいます。沖の島の特産の白芋や落花生に被害がでています。

212) 校内のゴミ放置への対策、シカ・イノシシ被害、地震対策が必要

214) 商店街と住宅との混在地域で、多くの粗大ゴミがでてくる。そのときに交通量の多い道路近くが集取場となっていて、児童登校と重なり危険を感じる。

233) 大量生産・大量消費・大量廃棄の社会構造を変えるための活動を手伝ってほしい。せまい日本のどこにもゴミをすてていいところはない。ゴミをつくらず資源にするための研究をはじめてほしい。

234) 自然保護・ゴミ処理・鳥獣害対策は、地域住民のつくる各種団体、学校生徒、老人会クラブなどの町づくり有志が心がけているが、できないことは行政に頼んでいる。災害対策は訓練や施設の整備・建築等で徐々に改善されている。

241) ゴミの減量化・分析収集についてはさらに徹底した啓発が必要。

269) ゴミの不法投棄、公共施設内(公園・公衆トイレ)でのいたずらタバコの吸いガラ、ゴミ散乱等、マナーモラルの低下。

308) ゴミが多すぎることをもっと広報してください。

310) 「2. [ゴミ処理問題]: 行政が無料で処理、悪質なものは告発する。

311) ゴミ有料化問題

322) ゴミ処理施設の老朽化や、イノシシなどの鳥獣被害が多く発生し四方竹や竹のこ等が荒されている。

358) 一般廃棄物等の不法投棄が絶えない

359) 朝倉地区にアジロ山というところがあり、以前は不法投棄が後を絶たなかった。地元住民が公園を整備し自然を守る努力をしている。針木地区でのカラス対策も課題で住民がパトロールをつづけている。

361) 県道高知本山線にゴミ多し

409) ゴミの不法投棄対策

410) ゴミの不法投棄がなくなり、くりかえしおこなわれている。

418) ゴミ処理にかんしては5ヶ町村の協力のもとに焼却場があり、市全体の生ゴミ・不燃物を集めて処理しています。汚物の処理場もあり、堆肥など製造しています。

430) 浦ノ内湾・黒潮スカイラインなど景観のよい場所が多く、遊びにきた人がゴミを捨てていく。1年3回地域でゴミ処理をしているが、追いついていない。

---

## 3. 鳥獣被害対策

---

009)有害鳥獣(イノシシ・サル)による被害が拡大するなかで、狩猟免許を所持し捕獲する者が減少。高齢化しているので捕獲をつづけることが困難になってきており、捕獲者を増員することが課題となっている。上記有害鳥獣の捕獲とともに、被害を防除することも重要である。とくにサルについては地域ぐるみでの追払い対策の実施体制の整備が必要であるが、被害が多発している中山間地域においては高齢化や人口の減少により地域ぐるみでの取組が困難な状況である。

010)イノシシなどの鳥獣被害

011)市内でのイノシシ等による農産物の鳥獣被害が甚大であり、早期に解決をはかっていきたい。

013)〈産業基盤課〉イノシシ被害の拡大

015)被害が広がる一方のシカの食害。

017)シカ・サルの獣害が多い

025)生を声を聞き、実現可能な対策を講じる。即対応すべき事項と中長期の対策を決め、問題解決をはかる。〔「4. 中山間道路整備」「5. 鳥獣被害」「7. 環境保護運動」に○〕

038)有効な対策がおこなわれていない〔「5. 鳥獣被害」に○〕

042)さる・いのしし他、畑の作物が被害にあうため、高齢者が困っている。

077)猪や猿による農作物等への被害が発生している。

095)猪の被害が大きな問題です。

097)地域全体を金網で囲んで対応しているが、谷川・起伏の激しい個所から進入して被害がある。猿にかんしては網も役に立たない。

104)イノシシ・サル・シカ。

124)山際の畑においては芋等の農作物が猪等によって被害を受けているので対策が必要。

171)カラスの被害がふえている

191)犬・ネコへの対応

194)地域にはイノシシもでるし、須崎湾口に面したところに立地している。そのため災害対策にはとくに気をつけている。

195)イタチ・タヌキが果実をいためる

198)イノシシ・ハクビシン対策が急務である。子どもたちが育てているサツマイモや稲が毎年被害にあっている。いくらフェンス等をしてもらいたいへんである。

209)人口がかぎられているため大きな自然破壊につながる事案はありませんが、やはりゴミ処理、家庭排水の対策、屎尿処理は大きく問題になっています。また猪による作物被害に苦しんでいます。沖の島の特産の白芋や落花生に被害がでています。

212)校内のゴミ放置への対策、シカ・イノシシ被害、地震対策が必要

226)シカ等の食害対策

231)放置された植林や、農産物の鳥獣被害、海岸線にある当庁の地震対策など、多くの課題がある。

234)自然保護・ゴミ処理・鳥獣害対策は、地域住民のつくる各種団体、学校生徒、老人会クラブなどの町づくり有志が心がけているが、できないことは行政に頼んでいる。災害対策は訓練や施設の整備・建築等で徐々に改善されている。

243)猪が人口を上まわっている。

248)個人では対応しきれない〔「5. 鳥獣被害」に○〕

260)「3. [地域資源有効利用]」「4. [中山間道路整備]」「5. [鳥獣被害]」「6. [災害対策]」:「6.」を除いて具体的にその困り度というものは理解できないが、過疎といわれる地域を目にすると荒廃という言葉がうかんでくる。なんとかしなければと思う。「6.」については、障害をもつ人たちは一般人より不安感をもっている。それについてどうするかを考えていかねばならないと思う。

290)3-1) (4) [実物資料を用いた学習活動の展開が必要と考える]と同じ〔「1. [自然環境保護]」「5. 鳥獣被害」「6. 災害対策」に○〕

322)ゴミ処理施設の老朽化や、イノシシなどの鳥獣被害が多く発生し四方竹や竹のこ等が荒されている。

361)山が近いのでイノシシ等、畑を荒らすことが多い

367)野良猫の増加・猫・犬・野鳥の糞公害

372)害鳥防護方法 / おごろなど地下より野菜等に被害を与える害獣防止対策

376)今年はイノシシが平地までよくおりてきているので、心配している。

380)作物保護〔「5. 鳥獣被害」に○〕

384)鳥獣駆除等も人手不足に悩まされている。

386)畑などの耕作が困難になっている。防護費用がかさみ、耕作を放棄することも少なくない。

391)イノシシ・シカの被害がある



398) 農作物への被害が年々ひどくなっている(猪・猿・鹿)。駆除する人も高齢者が多く、追いつかなくなっている。

400) 猪・鹿の被害対策

401) 現在植林されている山林をあるていど改植し、鳥獣が住める山にしてこれらが里(人家)近くにおいてこない木を植える。

405) 農作物への被害は年々増加しているが、対策が充分とられているとは思えない。一部地区では活動を開始しているとも聞かすが、市街地近くの猪被害は近年非常に多くなったと聞いています。猟銃会・自治体・警察・地元住民との対話を通じて、多くの費用をかけずに対策はとれると信じてます。

418) 鳥獣対策はうまくいっていません。家のすぐそばの畑にまで猪が出没し、作物を荒し、筍などかたっぱしから食べられてしまう状態です。

420) 畑を生きがいや楽しみにしている方が多いなかで、鳥獣被害(とくにイノシシ)で収穫もままならなくなっている

424) 鹿・猿被害の対策

430) 猪が多く、農作物に被害がでている。

---

#### 4. 過疎対策・地域の交通手段確保・道路整備・生活環境整備

---

009) 県道の1.5車線化とトンネル建設の実現。 / 市道・農道の維持管理をおこなっている地域住民の高齢化

025) 生を声を聞き、実現可能な対策を講じる。即対応すべき事項と中長期の対策を決め、問題解決をはかる。[「4. 中山間道路整備」「5. 鳥獣被害」「7. 環境保護運動」に○]

034) 中山間地域における交通(移動)手段

042) 「4. [中山間道路整備]」: 草刈りや水路の整備ができない(人手不足)。

095) 国道・県道・市道等の雑草が生い茂り、景観がわるい。

108) 通勤できる道路を。林道をどんどんつくってほしい。

113) 下水道の整備が遅れており、バキュームカーのお世話になっている世帯数が県外とくらべて多いのではないか。

122) 郡部の小中学校の統廃合が進み、人口の少ない地域への資源投入が弱くなってきている

144) 幹線道路のグレードは高いが、接続する市町村道などの安全性に課題がある。

158) 道路整備が遅れている。

173) 恵まれた自然を活用するための道路整備が必要。

177) 通学路を含む道路(市道)の状況が劣悪である。

197) 道路整備の必要な地域がある。

205) 自然環境保護と生活環境向上のバランス

206) 交通事情がわるいので「足摺岬」の観光にリピーターが少ない。2車線道路の早期実施。[3-1)(2)にも記載]

241) 里山保全の対策が中途半端だと感じる

260) 「3. [地域資源有効利用]」「4. [中山間道路整備]」「5. [鳥獣被害]」「6. [災害対策]」: 「6.」を除いて具体的にその困り度というものは理解できないが、過疎といわれる地域を目にすると荒廃という言葉がうかんでくる。なんとかしなければと思う。「6.」については、障害をもつ人たちは一般人より不安感をもっている。それについてどうするかを考えていかねばならないと思う。

299) 中山間地域の整備が遅れているが、平地でも南北道路がとくに遅れている。まちなかでも交流できない道・行止りの道が多い。

334) 中山間振興のためにも中山間地域の道路整備は補修は不可欠だと考えます。

349) 山間部の道路がよくなるとよい

350) 現状は、より身近な生活環境の課題ばかりである。

355) 行政が指定しているゴミの収集場所までの距離が遠い高齢者世帯がある。行政は現状のままで収集場所をふやす考えはない。今後の支援対策を考える。

367) 高齢化にともない月1回の不燃物の処理ができない世帯がある / 上水断水にたいする井戸の整備をはかる

371) 「地域の環境問題」「4. [中山間道路整備]」: 当地区は中山間地域に位置し、とくに山間部にいくと道路が狭くカーブが多く、カーブミラーは8割ほどついているが、車の通行にはとくに気をつけなければならず、幅員を広くしていただきたいところが何箇所もある。またガードレールの設置がないところもあり、

道路に亀裂があるところもあるので「県道29号線」を管理する県土木へ要望しなければと思っているところ  
です。

397) 市町村合併後、土砂災害での道路や橋の補修が長期間なされない状況が多い

401) 市街地へ安心・安全に行けるように、幅員の1.5車線化

408) 市内には中山間地域が多く、医療機関までが長距離であったり、狭隘で救急車の通行もままなら  
ない道路もあり、緊急時において生命の危険にさらされる場合もあるため、早急な道路整備が望まれる。

412) 行政の予算の関係上道路整備が補修面において十分でない。

423) 棚田の維持と担い手の確保

426) 道路の拡幅工事(対策)

428) 山間地の高齢化で、町部におりて生活する人が多い。山間地の道路整備で生活しやすくなるのでは。

429) 西土佐地域との交通が不便

---

## 5. 災害対策

---

009) 災害対策にかんすることは命にかかわることであり、地域にとっても関心が高い。地域の現状を知  
る機会があれば、具体的な対策も立てられる。

010) 地震津波等の防災対策

032) ライフラインの確保(救急車両が入れない地域が現存する)

034) 災害時における高齢者・障害者への支援

041) 災害にともなう社協の動き

044) 沿岸部に位置するため地震による津波対策が急がれる / 避難タワーの建設 / 役場・保育園・デイ  
サービス等の高台移転

047) 沿岸地域が1/2ある。津波対策がハード面をとらえても十分でない。

051) 図書館の資料の保存、住民の安全確保。その後の復旧等。

054) 防災対策のアドバイス・援助

056) 海に近い施設なので津波は避けられないのはわかっているが、近くに安全に避難できる場所がない  
ため、いざというときに利用者を誘導することが難しいように思う。(「あそこへ逃げれば安全なので大丈夫、私についてきてください」とはいいにくい環境にあります)

058) 東南海・南海地震による対策

059) 津波の高さがこれまでの予想より高くなることがわかってきたので、今後対策を考えていく必要が  
ある。

064) この地域では、子ども以前に大人(とくに子育て世代)が環境・災害にたいして、地域をとりまく取  
組・活動へと発展していない、と感じます。参加はしているかもしれないけれど、この世代が中心となり  
広がっていくことが少ない。いそがしいからしかたないかもしれないが…。

076) 1000年に1度の大地震・大津波がくれば、「浜通り」しかない高知県は(東北3県は中通りが残り、ま  
だましです)崩壊すると思います。建て前ではなく、「ホンネ」で考えるべきだと思います。

081) 地震対策・津波対策 / 高台避難場所への早急な避難路の整備 / 災害弱者対策

088) 公民館が避難所として災害時に役立つのか(海が近い)、立証できないことが課題である。

099) いままさに市をあげてワークショップ等で検討中ですが、食料・水・寝具・簡易トイレ等、すべて  
先立つものは金、いかに確保して活用するか最大の課題です。

132) 地域(日高村)との連携。[「6. 災害対策」に○]

133) 土砂崩れ危険(警戒区域)に本校も存在(設置)されている。

135) 災害対策のスピード感が弱い

136) 地域の避難場所になっているが、経路が1ヶ所しかなく、整備も遅れている。

139) 地理的条件から非常に困難である。[「6. 災害対策」に○]

141) 災害対策マニュアルのうちとくに地震を想定したものを、村行政の策定しているものとあわせて検  
討し、村と一体のものを整備しなければならない。その課題改善が急がれる。[馬路中学校]

142) 地震・津波にたいする防災学習

163) なによりも地震による津波の高さが34.3mと想定され、避難場所の整備、備蓄庫の確保など、津波  
にたいする対策が急務になっている。

164) 対策は進んでいるが、地域・学校・公共機関の協働体制が構築できていない。まだ進んでいない。[「6.  
災害対策」に○]

165) 第1は南海地震対策だと思う。

180) 災害対策マニュアルのうちとくに地震を想定したものを、村行政が策定しているものとあわせて検討し、村と一体のものを整備しなければならない。その課題改善が急がれる。[馬路小学校]

181) 道路のくずれ、大雨への対応

190) 海辺の学校なので、地域をまきこんでの防災学習を進めていくことが早急の課題。

194) 地域にはイノシシもでるし、須崎湾口に面したところに立地している。そのため災害対策にはとくに気をつけている。

204) 大雨のたびに崩れるような脆弱な道路網、農家(とくに高齢の方の)の意欲を奪いとっている鳥獣被害等、待ったなしの課題です。

212) 校内のゴミ放置への対策、シカ・イノシシ被害、地震対策が必要

216) 潮江地域は南海地震が発生した場合4mの浸水が予想され、その水は2週間以上引かないという想定がされている。

218) 住民が連携した防災対策について。

220) 災害時の水・食料等の備蓄

229) 山間部に位置する学校へ通う児童・生徒の安全確保が、自動車等だけでなくなっています。食料不足による猪などが里に出没し、突然のできごとへの対応に困っています。一方海岸部に位置する学校では津波にたいする警戒に敏感で、避難訓練をいろいろな想定で実施していますが、命を守る意識を根づかせることが急務であると考えています。

231) 放置された植林や、農産物の鳥獣被害、海岸線にある当庁の地震対策など、多くの課題がある。

234) 自然保護・ゴミ処理・鳥獣害対策は、地域住民のつくる各種団体、学校生徒、老人会クラブなどの町づくり有志が心がけているが、できないことは行政に頼んでいる。災害対策は訓練や施設の整備・建築等で徐々に改善されている。

252) 避難場所の充実

253) 耐震に課題のある建物の多い地域だと思うがその手立ては……。水害にたいしても有効な手立てはとられていないように思う。

260) 「3. [地域資源有効利用]」「4. [中山間道路整備]」「5. [鳥獣被害]」「6. [災害対策]」: 「6.」を除いて具体的にその困り度というものは理解できないが、過疎といわれる地域を目にすると荒廃という言葉がうかんでくる。なんとかしなければと思う。「6.」については、障害をもつ人たちは一般人より不安感をもっている。それについてどうするかを考えていかねばならないと思う。

267) 広報の徹底と非常食の配布、災害グッズの広報

273) 防災対策費用の確保

289) 宿毛市のようにほとんどが災害エリアの場合、どうすればよいのか?

291) 学校と災害にかんして不安。大豊川の十学校統合について、土砂災害の危険といわれる地域へ新校舎をつくらうとしていることが不安

305) 視覚障害者への災害時の支援について

306) 避難地域としての条件の整備。地域住民への啓発。

309) 災害対策(電気・水)の確保はできても、復旧にかかる処理が課題

315) 避難タワーや避難施設等の早急な建設

316) 災害時に避難が困難な要援護者を支援するための仕組づくりに取り組んでいる。要援護者情報の共有の仕方や支援者の確保、また津波からの避難対策等、解決せねばならない課題が多い。

325) 国道493号線沿いの山々のがけ崩れ、土砂流対策。

330) 急峻な校区の地形を考えると、地震・水害への不安がある。

331) 各町内会に防災組織がない。

333) 喫緊の大課題です。命を守る高台避難への道の整備等の対策。

334) 南国市の災害対策は最重要課題だと考えます。

343) 現在南海地震等に備えた取組がはじまったところです。

354) 南海地震対策として、最大津波高34.4mが公表されたことによって、沿岸部における津波対策を緊急かつ最重要課題として位置づけた早期の対策をはかる必要があること。(町では現地調査のうえ取組むことが計画されています。)

356) 地盤が緩く浸水予定地域にも指定されているので、防災が地区の重要課題になっています。防災グループも活動されています。

358) 災害時要援護者支援対策

359) 土佐道路沿いは液状化が憂慮される。

360) 地震・水害などの災害に備え、避難経路や4階以上の避難ビルの整備

- 362) 津波に対応するための避難施設の不足
- 364) 校区防災会との連携で対策をとっている
- 365) 高齢者等災害弱者にたいする避難啓発。
- 368) 避難路・避難ビルの指定・整備に向け、高知市と協議を進めている。
- 369) 3-1) (4) [防災講習会・防災研修旅行による。]と同じ
- 373) 部落の地震水害時の対策。個々の家が孤立する。
- 377) 地震・津波発生後の対応・対策について
- 378) 南海地震対策として、現在地域と協力し取組をすすめている。津波避難ビルがもっと必要だと考えている。
- 379) 予算面と実施の関連が明らかではないが、真に有効活用されているかという点で疑問を感じる。[「6. 災害対策」に○]
- 382) 若者が少ないので、災害対策も有効に機能するかどうか不安です。そうした町でも可能な防災システムのあり方等、専門家の指導が必要だと思う。
- 384) 航路からの災害対策が遅れている。
- 388) 南海地震への対策
- 390) 海岸に近い地域に安全な避難場所がない。
- 391) 「6. [災害対策]」については、3-1) (4) [地域防災については、南海地震の津波予測がずい分と高くなっており、避難場所の整備や意識などが今後の改善点である。]と同じで。
- 395) 南海地震から命を守るために、自主防災組織の活動活性化、若手リーダーの育成など。
- 404) 避難場所がない
- 408) 災害発生時のライフラインの確保について、現状は十分でないと思われる(水道管の耐震化、食料品の備蓄等)。
- 409) 災害時における地域保健・地域看護にかんすること / 災害時における食支援対策にかんすること
- 410) 管内市町のなかには津波で浸水する地区が多くあり、その対策が大きな課題となっている。
- 415) 「6. [災害対策]」にかんしてはまだまだ対策が十分とはいえない状況で、町行政と一層の連携が必要
- 420) 津波等にたいする不安
- 421) 避難経路の導入、防災タワーの設置

## 6. 地域資源の有効利用・活用

- 006) 製紙スラッジによる河川汚濁への対策は進んでいるが、回集したスラッジを有効に利用できないだろうか。
- 009) 木質燃料としての有効活用。市関係施設や園芸施設への木材ペレット焚きボイラーの導入。コストや量の確保など解決しなくてはならない問題はあるが、木質バイオマスは重要な資源である。
- 012) 木質バイオマスの検討
- 015) 「3. [地域資源有効利用]」：コストとの戦い。
- 030) 販売価格の低下、販路の確保・拡大。
- 047) 全国でいちばん山が多い県として、また大月町として木材は少なくないと思うが、ねむっている。
- 068) 里山の有効活用と保存 / 間伐材の有効利用、竹材の活用 / 資源のエネルギー化
- 073) 人工林は多いが、手入れされていないところが目につく。もったいない。個人の費用で整備することはむずかしい。整備に投資した費用が確実に回収できて利潤がもたらされるなら、意欲的な取組につながると思われるが。
- 077) 森林資源の多くが活用されず、山が荒廃している(山の手入れがされていない)。 / 耕作放棄された田畑が、地域によっては多くみられる。
- 184) 木材価格の長期にわたる低迷による産業の衰退、労働者の他取種への転向
- 188) 川・山といった自然環境を町外・県外へ売りだす。
- 202) 地域を活性化するためには地域資源の有効活用が必要だとは思うが、それをマネジメントしていく人材等々が不足していると感じます。
- 233) 大量生産・大量消費・大量廃棄の社会構造を変えるための活動を手伝ってほしい。せまい日本のどこにもゴミをすてていいところはない。ゴミをつくらず資源にするための研究をはじめてほしい。
- 237) 住宅やその他建築物に県産材を使用することへの支援を個人や企業に。
- 240) 人工林は経営が困難であり、雑木材等の有効利用(バイオマス)の活用等。
- 241) 地域資源の有効活用がどの程度なされているのか、把握できているか？

243) 山林が放置されている。

247) 調整池の活用

258) これも間伐材の有効利用の1つとしてブロック式のログハウスを提案したが、企業がすでに販売していた。挫折。

260) 「3. [地域資源有効利用]」「4. [中山間道路整備]」「5. [鳥獣被害]」「6. [災害対策]」: 「6.」を除いて具体的にその困り度というものは理解できないが、過疎といわれる地域を目にすると荒廃という言葉がうかんでくる。なんとかしなければと思う。「6.」については、障害をもつ人たちは一般人より不安感をもっている。それについてどうするかを考えていかねばならないと思う。

270) 高知県特有の課題から取組むべきであろう。なぜならあらゆる機関や事業にて検討している状況であり、学べる機会が多い[「3. 地域資源有効利用」に○]

290) 3-1) (4) [実物資料を用いた学習活動の展開が必要と考える]と同じ[「1. [自然環境保護]」「5. 鳥獣被害]」「6. 災害対策」に○]

292) 森林を利用した施設の誘致

295) 木材価格の低迷

300) 地域の豊かな水資源を利用しての小水力発電の開発 / 地域の森林整備とそれによって発生する間伐材の活用とペレット化等での協働研究

308) 80%が森林の高知県、これを使えないでしょうかねえ

335) 環境保護活動の推進 / 資源再利用・有効活用等 / 環境変化にともなう被害問題

400) 耕作放棄田畑の活用

411) 耕作放棄地の増加にたいする活用

418) ゴミ処理にかんしては5ヶ町村の協力のもとに焼却場があり、市全体の生ゴミ・不燃物を集めて処理しています。汚物の処理場もあり、堆肥など製造しています。

424) 木材を燃料にする

---

## 7. その他

---

065) 最大の環境づくりは、ここでは人である。まず人が定住する仕組である。

081) 水路浚渫・臭気対策

100) 課題については担当課が取組んでいる。公民館では市民セミナー等でおこなっている

148) 地域の特性をもっとしっかり知ろうとさせること。

170) 3-1) (1) [とくに地域での課題は感じていない]と同様

250) 公共道徳について小さい時期から啓蒙し、環境の美化をはかる

304) すべてに応援を求む。それぞれの地域にとってどれも必要なことであり課題である。

329) 学校独自の取組をおこなっているもので、ありません。

339) 同上[地域により課題は異なるものであり、高知市を1つのエリアとしてとらえた場合、すべての項目にあてはまる]

340) 関係機関とのいままで以上の連携強化

348) 地域の環境課題については、学校も地域も行政に改善等をお願いしている。しかし予算的な関係でなかなか改善が進まないのが現状である。

370) 3-1) (1) [人間が日常生活を送るうえで求められるすべての活動は「課題」と位置づけられると思うので、具体的には表現できない。]に答えたとおりです。

431) すべてと思います。すべてに力を入れるべき。

---

### 3-2) 高知県立大学と連携したい地域課題

表7-01 高知県立大学と連携したい地域課題(1)生活・健康課題

#### 3-2) 要望する高知県立大学の支援・協力の内容(1)地域の生活・健康課題

##### 1. 日常生活上の課題

015)「1. [日常の移動]」「3. [買い物]」「4. [郵便・非常時通信]」：大学院・各科による高齢者の生活力向上のための調査研究等の協力。

017) 地域の課題として、日々の生活はとくに問題ない。しかし10年後を考えると後継者がいない家庭が多く、田・畑・ゆずの維持管理する人がいない。よって馬路全体が、景観だけでなく実際に過疎が進む。

041) 移動手段の確保や地域でのさまざまなボランティア(人材)確保など、問題山積。 / 連携・支援・協力は具体的にどこまで介入してくれるのでしょうか。

095) 買い物弱者が今後ますますふえていくと思われるが、具体的な対策がみつかっていない

108) 山だったらきれいな水と空気があって当然。しかし水が減ってきている。植林を放っておいたためか？

184) 高齢化がすすんだ地域に住む住民たちの利便性を高めること(とくに「3. [買い物]」「4. [郵便・非常時通信]」の項目)。

188) 限界集落が多いことや、町全体が高齢化している。

209) 離島であるための不便さはさまざまな場面にあらわれています。島の人たちの住環境の整備、医療をはじめとする健康的な生活の確立など、課題は山積しています。教育においても児童1名という現状のなか、島外からの人的支援を必要としています。

212) システムづくりのための支援[「3. 買い物」「6. [住環境整備・バリアフリー化]」に○]

241) 「3. [買い物]」：買物難民を解消するため地域がどう連携して仕組づくりをしていくか、その調査研究を支援していただきたい。

251) 買い物支援：ただいま高台にある高齢者を対象に買い物支援の取組を展開しており、10町内の町内会長を集めて会合を開いた段階である。今後学習会等も計画していく予定であるが、講師等の派遣をお願いしたい。 / 一宮住民同士の支えあいのまちづくりに着手したところであるが、近隣住民による安否確認や声かけ運動を実施したいと考えている。住民運動の進め方等について教えてほしい。

335) 生活弱者にたいする支援施策について。

355) 「1. [日常の移動]」：移動手段について考える(買い物・通院)。

372) 交通が不便、買物の場が近くにない。

395) 地域の買い物難民対策についての助言・提言。

417) 市民の足としての自転車を見直す。自転車をやっかい者にせずに、その可能性を引きだし活かす。

420) 自宅からバス停までの移動について、住民が協力できる具体的な支援体制。

423) 外部受託を含め、津野町に適合した「高齢者の相談体制の確立」について支援いただけないか。

##### 2. 医療・保健・福祉・栄養等の課題

009) 「5. [地域福祉・在宅福祉]」「12. [交流・楽しみ]」について：住民座談会・意見交換会等の地区診断や住民ニーズを把握するための過程や調査・研究における支援 / 「10. [健康づくり]」について：計画策定にかんする助言や協力等における支援、意見交換会等住民ニーズを把握するための過程や調査・研究における支援

010) 福祉関係の各審議会等への委員の就任

013) <健康推進課>本市[土佐清水市]では慢性的に医師不足の状況であり、郡部の医師確保についての方策等を要請する。 / 本市では栄養改善指導等を実施しているが、健康栄養学部地域評価の検討等をお願いしたい。

019) 現在実施されている事業等への協力・支援をしていただければお願いしたい(たとえば健康づくり講座、住民といっしょに考える場、など)

022) 地域企業が健康産業に取組むうえでの「学」分野におけるデータ・提案。

025) 高齢者の要介護者を少なくすることがかなりの課題解決になります。健康の安心と自立するライフスタイル構築、介護にならないよう、健康支援・サークル活動・コミュニティの自治参加等により「つなが

り)や「なにかに夢中」なるという実感をもつ(元気シニア)。 / 介護者にたいしては安心してサービスを受けられる場所の提供、心配なしに暮らしつづけられることが重要。

034) 3-1) (1) [上記選択肢すべてが課題であるが、あえて限定すれば、福祉サービスの質向上、そのための人材確保・養成 / 上記(前記)の点と相まった住民の主体的な福祉活動の進進]で回答したとおり。そこでのプログラム開発や講師等の養成派遣。

046) 地域包括ケアの考え方を地域住民と共有したり、多忙な関係機関が共有し行動するためには、先生にとともに参画いただきご教示いただければと思います。

047) 「5. [地域福祉・在宅福祉]」について、住民の声をそのつど反映すべく事業を展開してきたが、さらに地域資源などを掘りおこし、活用すべく手法があれば・・・と思っている。

070) 県内の医療機関は看護職員の確保が厳しい状況にあります。とくに県内従事者の8割が中央保健医療圏に集中しており、県東部の安芸保健医療圏には5%(710人、H22年現在)しかいない状況です。県東部に看護学校等が存在しないこともその一因であると考えられます。貴学の学生をはじめ看護職志望者が安芸保健医療圏の医療機関への就職を志望していただけるような取組を支援していただきたい。

071) 在宅で生活している障害児・者がどのような福祉支援を受けているのか? また福祉側はどのような活動をどの程度しているのか? 在宅で生活している障害児・者の認識と支援者側の認識の違いなど、まず現状を知るための調査や研究など、公平な(中立的な)立場でしていただければと思います。

073) 自治体等所属の保健師への研修等の支援・連携 / 地域包括支援センターへの研修等の支援・連携

074) これまで同様看護学部の先生方に、地域での意見交換や地域カンファレンスにおいでいただきながら、具体的になにをしていったらいいのか見つけていけたらと思います。 / あと、高齢者の見守りや地域全体で支えあうしくみづくりを、いっしょにお立場の先生方からご指導いただけたらと思います。

079) 上記テーマ(「10. [健康づくり]」「11. [食生活・栄養改善・食育]」「12. [交流・楽しみ]」)の講座を実施することで、市民の意識啓発、学習機会の提供、交流の場づくりとなるため、高知県立大学から講師の派遣をお願いしたいです。

094) 独居老人への聞き取り調査等をおこなって、状況をデータで把握できるようにする。対策の具体案を練る。

122) 県立大の福祉分野(児童福祉)への取組に期待しています。家庭と地域・学校を結ぶような活動を通して、教育分野への支援をお願いします。

124) 高校生における健康的な食生活等の具体的事例の情報提供をお願いしたい。学校から各家庭に向けて「保健だより」で発信して、食育を推進したい。

126) 家庭科の授業やPTA研修会等で、食生活改善にかんする講話(講演)等の協力

136) 食育の学習

147) 中学生が自分でお弁当がつかれるように毎年講師をお招きしてお弁当づくり教室をおこなっています。

148) 食生活の改善

153) 食育にかんして実習をともなう指導協力

163) 地域の少子高齢化が大きく進み、高齢者福祉はもちろんのこと、雇用状況の厳しいなか、子どもへの福祉サービスについても考えなければならない。

167) 将来に向けての健康な生活ができるように食育等について学ぶ機会がほしい。

168) 学齢期にある子どもの食育のたいせつさについての地域への啓発。

189) 朝食のメニューづくりや食の改善

194) 食育の推進や交流などで支援・協力をお願いします。

195) 食育にかんする出前授業 / 保健にかんする出前授業(傷の手あて等)

197) 成人病などが少しでも減るように、食生活の改善など食生活のたいせつさを伝える講演など。

209) 離島であるための不便さはさまざまな場面にあらわれています。島の人たちの住環境の整備、医療をはじめとする健康的な生活の確立など、課題は山積しています。教育においても児童1名という現状のなか、島外からの人的支援を必要としています。

218) 食生活のたいせつさを啓発してほしい。

241) 「5. [地域福祉・在宅福祉]」:さらなるニーズ調査を。

243) ケアホームやグループホームなどの調査・研究。

251) 地域包括ケアのまちづくりについて、医療・看護・介護機関の連携を具体的にどう進めていったらいいのか悩んでいる。アドバイスをお願いしたい。

258) おのおのの病状に応じた対応の仕方をいっしょに考えて、両親等のストレス解消に継がる活動をい

つしよに。地域の人々とともにアイデアをだし子どもたちの思いをくみとる活動を。

267)ともにダンスを楽しむもとにより交流をはかり、もって健康に寄与する。

273)独居高齢者への対応。

274)食育等の推進にあたり、実際に有機食材を活用し食味を体験したり栄養価の比較調査分析等。

300)地域の高齢者の支援と、都市部の高齢者を地域に迎えての地域の活性化と、自然に恵まれた当地での高齢者の生活支援。

308)他県にくらべ高齢化率の高い高知県。高齢者自身が活動的であるために種々のコミュニティ集合をたくさんつくり、それらを包括できる横のつながりを持ち、明るく励みとなれる集合体にする。そのために健康寿命をたいせつにするいまある百歳体操の会場を利用した広報活動・イベント情報を広げる手段をご支援いただきたいです。

312)中山間地域の医療の実態を調査・研究し、その改善策を提示してほしい。日本の医療制度(医師制度)の見直しがなければ地域医療の充実は困難と思われるので、積極的に情報発信して社会を動かしてほしい。

316)今後も引つづき地域の支え合いの再構築など中山間地域における地域福祉の取組強化についての連携・ご協力をいただきたい。

317)在宅での療養が必要な高齢者にたいして、医療・介護・福祉の各関係機関が一体となってサービス提供をおこなっていくための連携のしくみづくりにおいての、専門的立場からの助言や指導者の支援。

325)就職および進路支援、スキルアップを兼ねた保健師・介護福祉士の派遣。

330)小学生のころから食生活のたいせつさをわからせるための事業。

334)食育推進への支援。具体的な内容は検討が必要だと思います。

335)健康問題。

340)南国市の地域福祉を考えるさいに、参加・協力・支援(アドバイス)。

342)大学がまちづくり等で地域のなかに入っていくとき、その視点のなかに健康づくり(食生活も含む)もとりいれて進めていくなど、学部間の連携体制や福祉保健所と市町村との連携をはかる。

343)中央公民館では健康体操・3B体操等健康づくりに取組むサークル活動が盛んですが、地域では移動手段の確保、人口の4割を占める高齢者への福祉の充実等、課題が多くあります。中央公民館活動として実施している市民教室・教養講座への企画段階から実施までの支援・協力があれば、より充実した活動が推進できると考えます。

358)在宅療養(在宅医療)を考える住民や関係者のネットワークづくりへの支援。

359)専門家の派遣による学習会等の開催(実習も含めて)等[「8. 疾病予防・保健活動」]「9. 地域包括ケア」「10. 健康づくり」「11. 食生活・栄養改善・食育」に○]

367)食生活などの個別指導などの開設。

378)食育にかんする講演会。

386)地域と密接なかかわりをもとうとする医師の養成。

401)栄養調査。

403)健康づくりを進めていくための講師派遣など。

408)地域医療の充実をはかるためには、とにかく医師の確保が大前提であるが、都市部への医師の偏在により郡部の医療機関は医師不足の問題に悩んでいる。また医師のみならず看護職についても確保が難しい状況である。人材確保の面で支援が可能であれば協力をお願いしたい。

409)現在も支援していただいているので、引きつづき支援をお願いします。[高知県中央西福祉保健所]

410)在宅医療(療養)の実現に向けたしくみづくり / 保健指導力の向上支援 / 食育推進体制への専門的アドバイス。

412)現在診療所は週2回の診療となっているが今後1回になるといわれているので、いままでのように週2回診療していただけるよう人材(医師)などの支援を願いたい。

420)今後高齢化がますます進むなかで、医療が安心面につながるため、その充実のための具体的な支援。

423)外部受託を含め、津野町に適合した「高齢者の相談体制の確立」について支援いただけないか。

429)食や健康・福祉で役立つ情報をわかりやすく教えてくれるような。

---

### 3. 公益施設の整備・利用サービス・地域活動等の課題

---

068)公共施設活用の安老所(いこいの場所)

192)地域での児童の遊び場等を調査・分析し、その結果を市等へ具申することなどはできないだろうか。

214)かるぽーと等の施設で高齢者のいこいの場づくりをできないでしょうか。

356)建物の老朽化にともない新館建築中[高知市下知市民図書館]です(現在仮設開館中)。24年4月に完



成予定です。新館は地域コミュニティを兼ねた建物なので、地域の方々に更に利用していただけるようにしていきたいので、連携していただくと助かります。

---

#### 4. 地域社会の整備・活性化・交流・後継者等の課題

---

009)「5. [地域福祉・在宅福祉]」「12. [交流・楽しみ]」について：調査・研究や住民座談会・意見交換会等、地区診断や住民ニーズを把握するための過程における支援

079) 上記テーマ(「10. [健康づくり]」「11. [食生活・栄養改善・食育]」「12. [交流・楽しみ]」)の講座を実施することで、市民の意識啓発、学習機会の提供、交流の場づくりとなるため、高知県立大学から講師の派遣をお願いしたいです。

091) 交流活動は小規模ながらH12年度より農産物をベースにしたイベント等はおこなっているが、地区の活性化には程遠い。柚子・茶・大根などを各農家が栽培しているが、山間地ゆえ収益もあがっていない。ちょっとしたヒントがほしい。

092) 年に2～3回ウォーキング大会の計画・実行(地区の文化財等をウォーキングする)。

109) 活動を発展させるために後継者の育成

154) この地域のいちばんの課題は少子化の問題だと思います。地域を支える若い人材が年々少なくなっています。

166) 中心街特有のドーナツ化があり、家屋はあるが空家のような家が手つかずで残っており、開発・改良はおこないにくい

188) 限界集落が多いことや、町全体が高齢化している。

198) 各スポーツ大会の開催

250) 雇用の場の確保

244) 文化系サークル(軽音・箏曲・吹奏・地域文化・ちゅーき[原文のまま]・マンドリン等)などの発表会などを山間の地でおこなっていただければ、地域の人たちによるこんでいただけたと思います。

260) 「交流楽しみづくり」はたんにそこで終わるのでなく、自分たちの課題に気づいたり、さらにはふだん直接的なかかわりをもたない地域の人と障害者がふれあうことで、翌日から生活が少し変わる・変わるきっかけづくりのためなど、どの学部の方々とも連携し学ばせていただきたいと思います。これまでも文化学部の先生に講師としておいでいただき研修の機会をもったが、今後もまたお願いしたいと思っている。

267) ともにダンスを楽しむもとにより交流をはかり、もって健康に寄与する。

335) 地域の活性化。

367) 地域からの依頼による催事への参加。

380) 農家の女性グループへの支援。

387) 活動している高齢者(予備軍含めて)が限定されている。集ってこない。新しい効果的なつづけられるネタがわからない。

395) 地域の祭り・イベントなどへの協力。

400) 少子化対策で交流の場づくりの推進。

428) そのほか世代の交流方法など(地区運動会やおまつり等)。

430) 浦ノ内地区は地域も広く、百姓・漁業が中心なので地域での交流ができにくく、住民の方の集まりもよくない。

431) 幼少期の運動能力向上のための、むりなく楽しい「あそび」の研究など。

---

#### 5. 地域防災・非常時等の課題

---

060) 地震対策・防災促進

160) 災害時の医療支援

190) 学校レベルで考えたらなにがというのほうかばないが、津波がおこったあとの避難場所での生活などを、地域の人に伝え理解させていくことは必要だと思う。

219) 定期的に合同避難訓練などの実施。

309) 復旧等にかかる人材・金・時間。福祉事業においては運休という考えをもっていないため、支援する事業所が運休になれば困る方々が多数でる。

310) 在宅障害者や高齢者が緊急に支援を求めるときの方法を日頃から話しあっておく(町内会・民生委員・その他の方と)。

315) ハード面は市行政の仕事だと思うので、防災意識の啓発等の支援を希望。

---

## 6. 地域の青少年者の教育・雇用・その他の課題

---

- 119) 本校生徒への講演や大学訪問での貴学学生との交流
- 122) 県立大の福祉分野(児童福祉)への取組に期待しています。家庭と地域・学校を結ぶような活動を通して、教育分野への支援をお願いします。
- 181) 看護学生と小学生との交流(キャリア教育の視点から)
- 209) 離島であるための不便さはさまざまな場面にあらわれています。島の人たちの住環境の整備、医療をはじめとする健康的な生活の確立など、課題は山積しています。教育においても児童1名という現状のなか、島外からの人的支援を必要としています。
- 325) 就職および進路支援、スキルアップを兼ねた保健師・介護福祉士の派遣
- 415) 現在大豆(タバコの裏作として生産しているものです)を素材にした新メニューを本校の2年生が総合的な学習のなかで取組んでおり、それに力を貸していただければありがたいです。

---

## 7. 協力内容・連携手法等にかんする要望など

---

- 001) 地域課題把握から施策化・評価について、必要に応じた科学的根拠にもとづいた助言や協力
- 004) 県立大学と地域住民および行政が協働して、地域課題の解決や地域資源の掘起こし等地域づくりの活動の発展につなげていくことを目的としたフィールドワークやワークショップ等をおこなうことができると考えている。
- 009) 地域の必要に応じ、講師派遣やアドバイスがほしい。 / 計画策定にかんする助言や協力等
- 030) 実態調査・現状把握・ニーズ調査等。
- 051) 地域でおこなわれるイベント・講演等の講師や選書のアドバイス等
- 056) 具体的な支援をお願いしたい機会ができたときに、直接お願いしたいと思います。そのさいはよろしくをお願いします。
- 099) 人的支援+経済支援
- 100) 市民セミナー等公民館の主催する事業に講師としてお願いする。
- 115) 地域の食材を使った新商品開発、とくに付加価値のつけ方・PR・販売についてのアドバイス。
- 151) 県立大学が昨年度実施した「連携・支援・協力」の内容を冊子にして配布する
- 207) 専門的な知識を活かし、アイデアを教えてもらう。 / 若い活力で、地域に楽しさ元気を与えてほしい。
- 243) イベント等に工夫やアイデア・人的援助が望まれる
- 255) 調査研究
- 270) 私たちは、すべての学びについて「ビジネス・マインド」の構築が必要だと考えています。「継続は力なり」といった見地での連携は歓迎しますが、「夢や理想論」は否定します。
- 305) さまざまな課題にたいする相談支援体制の構築。
- 320) 地域子育て支援センター職員や子育てサークルなどの資質向上のための研修への講師派遣
- 370) 学内人的資源をできるだけ詳しく情報公開すること。
- 385) 地域のニーズを把握する調査やアンケート

---

## 8. 学生による支援・ボランティア

---

- 010) 高齢者の介護予防事業への学生ボランティア / 独居高齢者等にたいする傾聴ボランティア
- 038) 地区出身の学生さんの意見を聞きながら、地域を活性化するための計画づくりをおこなう。
- 041) 移動手段の確保や地域でのさまざまなボランティア(人材)確保など、問題山積。 / 連携・支援・協力は具体的にどこまで介入してくれるのでしょうか。
- 062) 企画・運営等に学生の若い視点やマンパワーを借りたい。
- 065) 地域内外の若者たちと交流する場。学習する場を定期的におこなうことがあれば。
- 066) 学生さんと地域の人との交流の場づくり。
- 119) 本校生徒への講演や大学訪問での貴学学生との交流
- 207) 専門的な知識を活かし、アイデアを教えてもらう。 / 若い活力で、地域に楽しさ元気を与えてほしい。
- 220) 登下校時の見守り活動への学生ボランティアの派遣

236) 大学生に地域に入ってもらって、まずは現状を知ってもらいたい。2泊3日の体験学習。課題は学生が見つけてほしい。小さなことでよいので。

238) 学生の調査研究のためのフィールドとして活用してもらいたい。とくに当NPOは集落活動センターとしての機能を有しており、住民主体のまちづくりを進めているので勉強になると思うし、当方も学生のパワーや交流による組織の活性化を要望したい

251) 明日への絆の会員にたいして学生たちの支援は可能か。

253) 学生たちがなにを学んでいるのか。そしてそれが地域にどのようなかかわっているのか(いくのか)、もっと外に向けてわかるように提示してほしい。

289) 既存の仕組を打破するような(具体的なものは思いつかないが)新しい力は、若い人にしかないと思う。

314) 学生ボランティア等の活動で地域を元気にする。

331) 子どもたちの活動(地域団体の主催する)への補助(マンパワー)。

393) 古民家を借りていつでも大学生が泊まりにきて地域学習ができる環境をいっしょにつくりませんか。

395) 絵本読みきかせグループなどのボランティア団体への支援・協力。

397) 高齢化率が高く、思いはあっても率先して地域を引っばっていくのには限界がある。地域外・若者の知恵を生かし、継続可能なしくみを提案してほしい。

---

## 9. その他

---

064) 大学としてどんなことができるのかわからない。

076) 大学の先生方は現場を知らないので現場に役立つようなことがあまりできてないように思えてなりません。もっと積極的に地域にでてください。

077) 県立大の各学部の明確な動きがわからないので、いままで取組んできたフィールドワークの内容や今後力を入れていきたいこと等を紹介してもらえると、具体的な要望をだしやすい。

133) 余暇活動支援。土日・長期休業中の家庭でのレクには限界があり、余暇をいっしょに計画・実施してくれることがあれば・・・。

139) 地理的条件があり、どのようなことができるのか疑問である。

143) 大学の協力・支援にかんしては思いうかびません。

172) 地域の歴史や文化、ホテルの生息にかんする専門家の派遣がかなえばと思う

202) 地域に足を運び、現状把握をおこなうことがたいせつではないでしょうか。そうすることで地域のニーズについて知ることができると思います。

234) 大学に協力・支援されるほどの大きいことは考へたことはないし、いまのところ必要はないと思う。すべて香南市に頼むから。ただ住民にIT教育してないと機関が頑張ってもなにも浸透しないし、理解してもらえない。そのため私たちが頑張っている。

290) 大学内の施設に標本収蔵場所の創出。

291) 行政はよくわからないが、文化的レベルで交流ができ、生活にいかせるとありがたい。

299) 市職員の意識啓発(モラルがとくに低い)

339) すべて。

348) ここに記されている内容はいどは別にしてすべてがあてはまる。これらの取組が推進されれば住みやすい地域が実現できよう。このことは行政も「百も承知」である。さらに小学校の教育活動のなかでこれらに気づかせることはできても、教育活動をとおして具体的な提案までには困難である。

382) 県立大学のさまざまな機能が、より地域の課題や資源をほりおこし、これからの起爆剤となっていたくことを願います

418) 土佐市といたしまして考えたときにはいろいろと連携をさせていただいて地域の活性化をはかることができると思いますが、私どものNPO法人は老人ホームの運営という固定した仕事に従事しておりますので自分の職場のみを考えることになってしまい、地域全体については願望のみに終わってしまい申しわけありません。

---

3-2) 要望する高知県立大学の支援・協力の内容(2) 地域の経済課題

1. 雇用確保(若者・障害者等を含む)・人材育成

- 005) 貴学や企業と共同研究をおこない、新たな知見を得たり新たな技術を確立したりすることで事業化につなげ、雇用の確保や地域産業の振興をはかる。
- 068) 若人・高齢者のグループの育成。
- 076) 尾崎知事のすすめている製造業の活性化は、日本自体が衰退しておりむりと思います。高知でもっとも雇用し高い給料を出せるのは病院と思います。だけど高知新聞などマスコミを含め行政もみんなが見ようとしていません。
- 099) 働く場の確保。
- 117) 製造業を誘地して地域雇用の確保。
- 132) 障害児の就労の場。
- 133) 特別支援学校で設定できる作業種目の検討。
- 154) 若い人たちが定住でき、生活が安定できる方法への支援。
- 158) この地域での雇用について、大学とどういう連携がはかれるか想像できない。
- 163) 雇用の確保のため手立てをどうおこなうか。
- 171) 保護者の就労。
- 207) 地方にとって雇用が何よりの課題。
- 260) 聞こえの不自由な人の雇用問題につなげるべきだが、具体的によく分かっていない。個人の資質や努力というところで判断や決定がされている感もあるが、そういう調査研究などあればと思う。
- 310) 難聴者の雇用にかんしては周囲の人とのコミュニケーションに苦勞する。手話通訳者の職場への派遣などが自由にできるとよい。
- 311) 女性のキャリアアップにかんする研修。
- 378) 高校生の県内就職問題。
- 387) 若者が働ける場。
- 396) 犯罪や非行をした者の更生を考え、事情を承知のうえで雇用する協力事業者の重要性が地域社会において認知されるよう広報・啓発したい。
- 432) 仕事が減っている以上、仕事を創りださないといけない。まちの美化・環境改善につながるような作業職をどんどんつくっていくしかない。

2. 地場・地域産業の振興・活性化

- 004) 食品製造業者の生産管理高度化への助言。 / 農林漁業や商店街などといった地域の産業の活性化に継続的にかかわっていただければと考えている。また学生の方々に地域の産業の活性化に継続的にかかわっていただくことでその地域のファンになっていただき、将来的に地域の産業の担い手になっていただければと考えている。
- 005) 貴学や企業と共同研究をおこない、新たな知見を得たり新たな技術を確立したりすることで事業化につなげ、雇用の確保や地域産業の振興をはかる。
- 047) 「5. [地場製品の調査・研究]」: 産業を全国発信できるきっかけにできれば活性化につながると思う。
- 051) イベントなどに県立図書館の展示など関連づけられたらと思います。
- 065) 地場産業の活性・育成については「4. [販売・流通確保]」「5. [地場製品の調査・研究]」等に期待する。
- 076) 尾崎知事のすすめている製造業の活性化は、日本自体が衰退しておりむりと思います。高知でもっとも雇用し高い給料を出せるのは病院と思います。だけど高知新聞などマスコミを含め行政もみんなが見ようとしていません。
- 163) 地場産業の活性化について、1次産業を軸とした展開について。
- 166) 中学校で取組めることはおこなっている。高校にも協力を依頼し、参画してもらった。「なにを」という具体的内容はわからないが、「商店街活性化」を協力してもらいたい。
- 184) 山地がほとんどの本山町では、林産資源の活用なしに地域の活性化はあり得ない。
- 350) 農業経営がない立たない。
- 359) 前述のとおり[朝倉といえば針木の新高梨。カラスの被害対策が大きな課題。また、旧商店街の活性

化も課題。]。加えて実態調査も。[「2. 地場産業活性化」に〇]

367) 御昼瀬小学校傾向にともない、これを活用し地域の活性化をはかる。

---

### 3. 地場・地域産業の製品開発・技術開発・研究開発・ブランド確立等

---

- 004) 商品の付加価値化に向けた栄養分析等
- 008) 深層水商品の開発や成分分析などで共同で取組める課題があれば、共同研究などをおこないたい。
- 022) 食品産学に重要なエビデンス確立のための相談・情報提供。
- 047) 「5. [地場産品の調査・研究]」：産業を全国発信できるきっかけにできれば活性化につながると思う。
- 065) 地場産業の活性・育成については「4. [販売・流通確保]」「5. [地場産品の調査・研究]」等に期待する。
- 109) 加工による付加価値をあげる開発
- 124) 地場産品を活用した製品開発については、高校生の発想力を取り入れることも一手だと考える。総合的な学習の時間を利用した取組を考えたい。
- 126) 特産品の開発にたいする協力。
- 153) 地場産品の製品開発において協力体制での研究。
- 168) 豊富な海産物を活用した地元産品の開発。
- 181) 栄養学部との連携により商品の企画。
- 185) 健康食品等の開発。
- 188) 林業(木材)・お茶の活用や販売ルートと開拓など。
- 194) 地域の地場産品の販売・活用についての支援・協力。
- 195) お茶・イチゴ・なし等の特産物を活用した製品。
- 202) 地場産品の活用や販売・流通ルートについて助言をもらったり、組織運営についてのマネジメント等がお願いできるとよいと思います。
- 207) 専門性を活かして取組・開発に協力してほしい。
- 238) 地域の産品にたいするアイデア、観光資源の開発など。
- 241) 四万十町としての特産品づくりに製品開発等アドバイスをお願いしたい。
- 243) 米のブランド化「大野見米」を推進しているグループがあるが、その販促や加工品への展開に苦慮している。 / 生姜の生産地であるが、加工品がない。
- 308) いろいろな所で作られている商品をつなぎあせることは無理でしょうか？
- 312) 地域の農産物を加工し、商品化することに支援を期待します。
- 314) 開発への取組。
- 325) 北川村の再発見にとどまらず周辺地域の観光素材を活用した観光モデルコース作成と、それにリンクした地場産品を用いた商品開発。
- 328) 製品開発に県立大学の協力・支援が必要。
- 340) 地場産品を利用する知識・アイデア。
- 349) 地場産品の開発支援。
- 376) 地域の特産品である文旦をよりPRしていけるといいと思う。
- 385) 地域のための製品開発(文旦・しょうが・漁業)。
- 393) 商品価値のあるものをいっしょに探してほしいです。
- 400) よい木の特定とその生産。
- 401) 新製品の共同研究・開発。
- 405) 試作品は可能であるが、賞味期限や栄養分析(成分)等の確保をする施を知らなかったり、機関をよく知らない。
- 430) ミヨーガ・ポンカン・文旦・鯛の商品の開発。

---

### 4. 地場・地域産品の販路開拓・流通確保等

---

- 050) 高知県には商品となるいいものはいっぱいありますが、それを流通に果せるノウハウがあまり豊富ではないと思います。
- 065) 地場産業の活性・育成については「4. [販売・流通確保]」「5. [地場産品の調査・研究]」等に期待する。
- 188) 林業(木材)・お茶の活用や販売ルートと開拓など。
- 194) 地域の地場産品の販売・活用についての支援・協力。
- 202) 地場産品の活用や販売・流通ルートについて助言をもらったり、組織運営についてのマネジメント

等がお願いできるとよいと思います。

243) 米のブランド化「大野見米」を推進しているグループがあるが、その販促や加工品への展開に苦慮している。

287) 県内農畜産物生産者向けの展示会やフェア等。

---

## 5. 観光等の活性化のための企画・開発等

---

065) イベント等を実施するときに、企画・運営・実施面において人材面での協力等を期待する。

122) 本校[伊野商業高校]が取組んでいる観光等の分野での連携・支援。

136) P T A が地域行事にどうかかわっていくかの学習会。

149) 地域(町)の観光資源のほりおこし。

234) 観光の地域範囲を大きくして特産物・催し物を考えだし、四季を通じて観光のできるどころにした  
い。

238) 地域の産品にたいするアイデア、観光資源の開発など。

267) イベントの共同開催。

291) 一発的なイベントや一時的な人口増をのぞむのではなく、長期的な視点での地場産品・観光の内発  
・生活につながるものがよい。

300) 地域資源の活用と地域性を生かしての観光資源の活用。

325) 北川村の再発見にとどまらず周辺地域の観光素材を活用した観光モデルコース作成と、それにリン  
クした地場産品を用いた商品開発。

391) 年々観光客が減っている。

403) 行事活性化のためのアイデアが欲しい。

431) 高知の地形的デメリットや西高東低といわれる観光事業を考えてみても、東部地域のイベント等の  
企画も若いアイデアを組込むとよいと思う。

---

## 6. 企業誘致

---

009) 長引く景気低迷により、市内企業の経済活動も低下し、経営・雇用環境を圧迫しており、地域経済  
への影響も大きい状況である。 / 地域経済振興のためには、地場産業の活性化・観光振興等の取組は重要  
な施策であり、地域の経済状況の好転により雇用の拡大も期待できるところである。 / また企業誘致が実  
現すれば、新たな雇用の選択肢が生まれるとともに、有効求人倍率の改善も期待でき、本市[高知市]にと  
って重要な課題であると考えている。

117) 製造業を誘地して地域雇用の確保。

370) 企業を誘致することがいかに困難か少しわかるので、具体的には書けない。

412) 地元への企業誘致にかんする P R 支援。

---

## 7. 協力内容・連携手法等にかんする要望など

---

004) 産学官連携を実践する場の提供と参画(人材育成・事業化支援)。

212) システムづくりの支援。

299) 市職員との共同事業。

---

## 8. 学生による支援・ボランティア

---

004) 農林漁業や商店街などといった地域の産業の活性化に継続的にかかわっていただければと考えてい  
る。また学生の方々に地域の産業の活性化に継続的にかかわっていただくことでその地域のファンになっ  
ていただき、将来的に地域の産業の担い手になっていただければと考えている。

209) 沖の島を活性化させるためのなにか施策があればよいと思っているのですが、大学生などの若い思  
考で提案していただければうれしく思います。

214) 菜園場商店街をもりあげる大学生の視点からのアイデアと実行があればよいと思う。

236) 若い学生からみた地域の商品や観光スポットへの意見が聞きたい。

351) 地域イベント等への学生参加。

418) 農産物の加工や製品の開発・販売など、若い方たちの力をお借りして取組む課題は多くあると思

ますが、行政にも力を入れてもらわないといけないと考えます。

431) 高知の地形的デメリットや西高東低といわれる観光事業を考えてみても、東部地域のイベント等の企画も若いアイデアを組込むとよいと思う。

---

## 9. その他

---

009) 貴大学の研究されている内容と連携が可能な分野がある場合には検討も考えたい。

017) ニーズ調査。

025) 産学官のそれぞれの立場やノウハウによりアイデアをだし、ニュービジネスを生むことが地域の経済課題を解決する。 / 収益確保により自立をはかる。

034) 3-1) (3) [福祉文化・風土の醸成(新たに創り出すものと取りもどすもの)]で回答した内容の具体方策への提案。

099) 農作物の安定した価格確保による経済的安定。

108) 津波がない越知や佐川に老人ホーム等の施設を拡充させ、津波がくる市町村からこちらへきていただくと、そこで働く場もできる。PRをお願いしたい。

115) RYN (Reihoku Youth Neighbours) の活動にたいする支援。

172) 食教育にかんすること。

218) 労働意欲を高めるための取組？

244) 私たちのNPO法人ではなく、梶原町全体への連携・支援・ご協力を願いたいですね。

270) すべてに対応が可能です。すべての専門家がそろっています。

272) NPO法人として2つの県立施設の指定管理者であるが、非常に厳しい条件でまっとうに計算すると最賃を切ります。まるでボランティアに名をかりて当法人が労働者を苦しめているようです。経済力の低い地域での雇用とボランティアのあり方の整理。

290) 3-2) (1) [大学内の施設に標本収蔵場所の創出]を管理する人材確保。

348) ここに示されている内容は、ていどは別にしてすべてが必要と考える。しかし小学校の教育活動のなかでそれがどれだけできるのかはわからないし、取組む時間がないのも現実である。これだけ地方が疲弊している現状で、これらの課題に学校教育がかかわれない現実があることを研究者には理解してほしい。

395) 零細漁業者の生活を支えるための提言など。

408) すべての業務が地元でまかなえる環境整備。

---

## 3-2) 要望する高知県立大学の支援・協力の内容(3)地域の文化課題

## 1. 地域の文化施設の充実・活用

- 166) コミュニティーセンター等はあるが、充実の方法等を連携してみたい。
- 188) 文化施設が町内にない。
- 197) 地域の文化施設などを充実し、地域外への情報発信し、地域の発展につながるような取組の支援。
- 212) 地域にふさわしい文化施設デザインのための支援。
- 270) これからの施設開発に必要なこととは・・・。
- 314) 計画の提案。[「2. 地域にふさわしい文化施設の提案」に○]
- 332) 史跡等がいくつかあると思われるが、それを紹介する文書や展示等の施設がないこと。
- 349) 中心となる施設の充実。
- 399) 図書館資料のさらなる充実をはかりたい。
- 418) 図書館の建設、そのなかに各町代の引き継いでゆかねばならぬ土佐市の遺産を展示する資料館などの建設等、課題はたくさんありますが、過去に県からの補助で図書館を建設しようという計画が否決されたまま、なにもできないのが現状です。

## 2. 地域の文化財・資源の発掘・調査・研究

- 013) <生涯学習課>[「3. 文化財等の発掘・調査・研究」]: 地域に埋もれている文化財・文化資源の発掘・発見について、関係団体や研究者と協力し調査研究が必要である。
- 068) 施設の資料の歴史と分別。
- 089) 大学の研究等で町なみ保存や調査・研究結果について有益なものがあれば、ご教授いただきたいと思えます。
- 109) 地域の観光資源の発掘。
- 124) いまの高校生は佐川町に居住するものであっても牧野富太郎を知らない。佐川町出身者で名声を馳せた先人について調査し、その情報を発信できるような取組をしたい。
- 153) 歴史的価値のある住居や施設の発掘研究。
- 192) 地域の文化財の調査・研究、またはその広報。
- 194) 地域に残る文化財の発掘・発見についての支援・協力になる。
- 198) 文化伝統の技を身につけている人材の調査。竹材工や稲わら材工・木工材工・石材工など。
- 207) 昔からの伝統・知恵がすたりつつあるので、発掘・復興してほしい。
- 226) 文化財の調査。
- 267) 地域の歴史を研究し、隠れた文化資源を発掘。
- 275) NPOと県立大教員・学生のグループで地域の歴史・文化にかんする調査・研究をおこない、成果を博物館展示として発表するなど。
- 291) 多くの文化的価値が豊永・大豊川には残る。しかし調査・研究・報告にかたよりがあり、大豊川内でも大変な差がある。
- 304) 高知歴史・古墳発掘のための人材派遣を!!
- 343) 文化資源の調査・研究のノウハウが少ないため、その手法等の支援があればと思います。
- 356) 3-1) (3) [昭和初期頃の地域のような様子について高齢者への聞きとりをおこない記録する。宮尾登美子さんの生家跡や田内千鶴子さん生誕地などが自館近くにあり。職安跡地付近に昭和初期(?)電車の線路がきていたり、船着場もあったそうです。そういう当時のことを知る高齢の方への聞きとりができればいいと思います。問合せはあるのですが、資料が少なく、地域のまとまった本になればいろいろと助かります。]に同じ。
- 359) 前述[3-2) (1) 専門家の派遣による学習会等の開催(実習も含めて)等]のとおり。加えて実態調査も。[「3. 文化財等の発掘・調査・研究」]「7. 文化財等の地域外発信」に○]
- 400) 絵等の文化財の作者の特定。 / 民具の分類と整理。
- 413) 現存している伝統文化も、後継者不足や知識人の減少により、衰退している。村史等で記録は残っているが、1度衰退したものについては復活が困難であるので、若者に調査・研究・伝承してもらいたい。ただ地域の若者が都市部へ移り住むことで、かかわりのある若者が減少していることも拍車をかけている。



---

### 3. 地域の伝統文化・産業の振興、文化財・資源の活用・情報発信

---

- 015) 文化学部の協力を得て、文化財・文化資料・生活文化の啓蒙普及へのアドバイス。
- 062) 3-2) (1) [企画・運営等に学生の若い視点やマンパワーを借りたい。]に同じ。[「6. [文化財等の啓蒙・広報]」に○]
- 065) 地域の経済・文化は連動して考えており、文化を経済活動等に結びつける具体的な企画・工夫・アイデアを考えてもらう研究機関が必要である。
- 068) ネットによる発信。
- 081) 史跡台帳・史跡めぐりマップづくり。
- 115) 観光、とくに人を呼びこむ方法についてのアドバイス。
- 124) いまの高校生は佐川町に居住するものであっても牧野富太郎を知らない。佐川町出身者で名声を馳せた先人について調査し、その情報を発信できるような取組をしたい。
- 136) 文化財・文化資源の活用の仕方について。
- 143) 文化資源の活用方法の研究。
- 163) 地域の文化の活用や企画について。
- 168) 地域の文化財を活用した学校教育の活性化。
- 192) 地域の文化財の調査・研究、またはその広報。
- 195) 四ツ白太刀踊[よつしろたちおどり。佐川町]の情報発信。
- 197) 地域の文化施設などを充実し、地域外への情報発信し、地域の発展につながるような取組の支援。
- 202) 地域の文化財をたいせつにしていくこともたいせつだが、観光資源として活用できるものは活かしていくことを考えることができると思う。そのさいの発信の仕方等々について示唆をいただければありがたいと思います。
- 214) 大学からの情報誌等で文化資源の紹介をしていただくとありがたい。
- 230) 地域の文化財や資源の有効活用を模索していく必要を感じています。
- 234) 情報発信力が乏しい。
- 243) 四万十の源流域であるが、情報発信が弱いので企画力がほしい。
- 244) 梶原町全体で取組んでいただきたい。私たちの夢は、四万川龍王伝説の地ですので龍・龍神を集めた展示をしてみたい。[「6. [文化財等の啓蒙・広報]」「7. [文化財等の地域外発信]」に○]
- 275) NPOと県立大教員・学生のグループで地域の歴史・文化にかんする調査・研究をおこない、成果を博物館展示として発表するなど。
- 310) その場所の古い資料など、人目につく所に建てて、置くとよい。
- 315) 地域に埋れている文化財や文化資源について学習する機会があれば・・・。
- 332) 史跡等がいくつかあると思われるが、それを紹介する文書や展示等の施設がないこと。
- 352) 3-1) (3) [旅館「高知屋」を核とした町なみ活性]
- 359) 前述[3-2) (1) 専門家の派遣による学習会等の開催(実習も含めて)等]のとおり。加えて実態調査も。[「3. 文化財等の発掘・調査・研究」「7. 文化財等の地域外発信」に○]
- 374) 専門教育機関として地域のよさを発信していただくことは、郷土に誇りをもち自信のもてる人材を育てていくことにつながると期待します。
- 395) 大学のインターネットを活用して情報発信。
- 431) インターネットなどによる情報発信の充実!!

---

### 4. 地域の伝統文化・生活文化・歴史等の維持・継承・学習・教育・普及・交流

---

- 100) 3-2) (1) [市民セミナー等公民館の主催する事業に講師としてお願いする。]と同じ。
- 126) 津野山神楽の伝承活動。
- 154) 若い人たちが楽しく活動できるコミュニティーの支援。
- 172) 文化・歴史についての講演会。
- 185) 地域の実態にあった地域教育の企画。
- 190) 歴史学習と結びつけて地域のことを知る学習はしてみたい。
- 209) 沖の島には独特の文化があり、それは貴重な財産であるとともに継承していくべきものであると思います。そのための支援を、島外の方々をまきこんで進めてほしいものです。
- 236) 地元の人が評価していない、見すごされている価値を、発表してもらいたい。

241)文化講座を開設し、講師の派遣をしていただきたい。

251)現在の取組(一宮の歴史や文化・暮らしぶりの発掘と未来に伝える取組)について、地域住民をどのようにまきこんでいくのかに苦慮している。

343)文化活動の向上等の連携ができればと思います。

348)地域の隠れた歴史的遺産等の調査をおこなわせその結果を地域に公開できるような教育活動をさせたいと願っている管理職は多い。しかし教育課程がかわり、それを要する時間を確保できないのが現実である。

374)専門教育機関として地域のよさを発信していただくことは、郷土に誇りをもち自信のもてる人材を育てていくことにつながると期待します。

424)神社の祭り等での交流人口をふやす。

---

## 5. 地域文化にかかわる人材不足・人材育成

---

017)後継者育成。

335)3-1)(3)[文化活動の後継者問題]と同じ。

374)専門教育機関として地域のよさを発信していただくことは、郷土に誇りをもち自信のもてる人材を育てていくことにつながると期待します。

413)現存している伝統文化も、後継者不足や知識人の減少により、衰退している。村史等で記録は残っているが、1度衰退したものについては復活が困難であるので、若者に調査・研究・伝承してもらいたい。ただ地域の若者が都市部へ移り住むことで、かかわりのある若者が減少していることも拍車をかけている。

---

## 6. 協力内容・連携手法等にかんする要望など

---

009)地域の必要に応じて、講師派遣やアドバイスがほしい。

025)大学が地域にでて直接文化課題に取り組む方法が必要。 / 目・耳・体感と精神面で高知文化(先人スピリット)を残していくことが必要。

051)高知県に図書館が必要であるという認識を広めるために共通の認識をもって、情報発進をおこなったり、その手助けをしていただいたりできればと思います。

100)3-2)(1)[市民セミナー等公民館の主催する事業に講師としてお願いする。]と同じ。

238)文化活動を行うグループへの協力・助言をいただきたい。

241)文化講座を開設し、講師の派遣をしていただきたい。

253)講演会等の共催。

299)県立大学のバックアップ[NPO大地の会]。

304)高知歴史・古墳発掘のための人材派遣を!!

385)市民のニーズを把握するためのアンケート調査。

403)知識の提供。

---

## 7. 学生による支援・ボランティア

---

062)3-2)(1)[企画・運営等に学生の若い視点やマンパワーを借りたい。]と同じ。[「6.[文化財等の啓蒙・広報]」に○]

220)図書館での読み聞かせボランティアの派遣。

413)現存している伝統文化も、後継者不足や知識人の減少により、衰退している。村史等で記録は残っているが、1度衰退したものについては復活が困難であるので、若者に調査・研究・伝承してもらいたい。ただ地域の若者が都市部へ移り住むことで、かかわりのある若者が減少していることも拍車をかけている。

425)学生のボランティア参加など。

---

## 8. その他

---

034)3-1)(3)[福祉文化・風土の醸成(新たに創りだすものと取りもどすもの)]で回答した内容の具体方策への提案。

076)こんなに自然が豊かで野菜や魚・お肉のおいしい県はありません。県民が豊かに楽しく暮らせるようにサポートをお願いします。

099)財源の確保。

108) 移り住んでくれる人がほしい！

243) 冬場のキャンプ場の活用方法(シーズンオフの利用者が皆無)。

260) 聞こえの不自由な人たち(高齢者も含め)にどのような支援があり、どのような支援ができるのかということ、声をだせずにいる当事者や周囲の人たちに発信していきたい。そういうことで連携・協力できると思う。

270)「将来のニーズをいまの開発で妨げてはいけない」将来のニーズとは。

334) 地域活性化支援。

335) 3-1) (3) [文化財や文化活動は経済的効果は薄いことが問題・課題]と同じ。

357) 2-2) [1999高知県地域遺産共同調査活用事業プロジェクトに参加 / 1999～2000中山間調査に参加 / 2001～2002環太平洋の消滅に瀕した言語にかんする緊急調査研究に参加 / 2006～2008地域文化デジタルアーカイブ研究会にともに参加 / 2009.4文化基礎実習の東洋町民具調査に協力 / 2009～2011三原村民具調査 / 2011～2012香美市物部民俗・言語調査 / 2011～2012大豊町・香美市・香南市の民具整理公開についての協力 / 2012～東洋町民具調査 / その他]で回答したとおり、県立大とは女子大時代から密接な協力関係を保ち、さまざまな地域で民俗・言語調査、文化財保護の支援、地域住民と文化的事業をおこなう会の設立などをおこなっている。今後もこれらの活動を発展・拡大させていただきたい。

370) 3-2) (1) [学内人的資源をできるだけ詳しく情報公開すること。]に記したとおり。

417) 高知人のアイデンティティの再構築としてユーモアを活かす。 / 市民のお気に入りの乗りものとしての自転車をまちづくりのなかに活かす。

---

## 3-2) 要望する高知県立大学の支援・協力の内容(4) 地域の教育課題

## 1. 授業・学校教育の改善・向上

071)「1. [学校教育の向上]」「2. [教諭にたいする研修充実]」について、どんどん地域に出向いて支援してほしい(教育現場のガードはなかなかだと思えます)。

108) 公立の学校の学力向上を！ 公立の学校職員の子どもは、公立をあきらめて私立へ行かせている。

124) 基礎学力・学習意欲・質の高い授業・家庭学習のどれが欠けても学力の向上は望めない。こうしたことから基礎学力の定着と学力の向上をめざした取組についてアドバイス・支援・協力をお願いしたい。

145) [学校を核とした]コミュニティーづくりの専門の先生にアドバイザーとして参画いただき、助言をいただきたい。[「1. 学校教育の向上」に○]

147) キャリア教育をすすめるうえで、多様な外部講師をお招きし、生徒の夢を育てる活動をしています。大学の専門分野の一端を紹介いただけると幸いです。

156) ゲストティーチャー・講師として、これからの社会においてキャリア教育として自己実現にどのように取り組んでいくべきか、また生涯学習の観点からどのような姿勢で生活するべきか、講話してほしい。

164) 校内授業研究会への支援・協力をお願いしたい。

190) 学力向上に向けて支援があれば。

194) どんなかたちでも学校に支援・協力していただけるものであればありがたいです。[「2. 教諭にたいする研修充実」「3. 問題行動等への相談・カウンセリング体制」「4. 体験的な学習への施設・支援等の充実」「8. 地域防災の学習機会」に○]

202) 講師による講演、授業づくりの研修会の実施等々、また専門家による豊かな体験活動などを仕組みれば(とくに看護福祉分野等について)よいと思います。

204) 上記の分野[「1. 学校教育の向上」「3. 問題行動等への相談・カウンセリング体制」に○]のスペシャリストの派遣(学生さんも含めて)。

236) 地域の子どもたちとっしょに学習できる機会をつくってもらいたい。[「4. 体験的な学習への施設・支援等の充実」に○]

335) 3-1) (4) [地域の住民活力の授業への取入れ、教師への研修・支援等 / 発達障害児への支援や授業の工夫等 / 社会教育・防災教育の充実]と同じ。

378) 特別支援教育の充実、社会福祉分野における研究・協力。

395) 基礎学力向上のため、学校の補習授業に教員・学生を派遣。

412) 体験学習などの協力。

## 2. 教師・保護者・家庭などの教育力の向上・支援

009) 教職員にたいする防災関連の研修(各学校ごとの地震・津波にたいする対策など)。 / 専門家の不足等を背景とした研修や相談の機会の少なさ。

051)「2. [教諭にたいする研修充実]」「9. [その他]」: 情報の調べ方(参考図書の使い方、本の探し方、ND Cについてなども)基本的なことをわかっていない人が多い。大学でも学内の図書館の使い方や図書の分類等のレクチャーを学生向けにお願いしたいです。

071)「1. [学校教育の向上]」「2. [教諭にたいする研修充実]」について、どんどん地域に出向いて支援してほしい(教育現場のガードはなかなかだと思えます)。

117) 校内研修の充実。

119) 校内研修での講師。

122) 教育相談・生徒指導等にかんする支援。

126) カウンセリングや教育相談の手法にたいする支援(校内研修の講師等)。

133) 教員への研修・大学への派遣。

137)「2. [教諭にたいする研修充実]」: 新学習指導要領の主旨をふまえた教育のあり方や、特別支援教育等についての教員の指導力の向上のための、講演や講話等。

163) 地方教育の課題を考え、その地域の研修充実のための予算配分の見直しや研修の簡素化と効率化を考え、ブロックごとの研修体制の確立等を考えたい。

164) 校内授業研究会への支援・協力をお願いしたい。

194) どんなかたちでも学校に支援・協力していただけるものであればありがたいです。[「2. 教諭にたいする研修充実」「3. 問題行動等への相談・カウンセリング体制」「4. 体験的な学習への施設・支援等の充実」「8. 地域防災の学習機会」に〇]

202) 講師による講演、授業づくりの研修会の実施等々、また専門家による豊かな体験活動などを仕組みれば(とくに看護福祉分野等について)よいと思います。

328) 国語・英語の教育力を高める研修会の協力。

335) 3-1) (4) [地域の住民活力の授業への取入れ、教師への研修・支援等 / 発達障害児への支援や授業の工夫等 / 社会教育・防災教育の充実]と同じ。

377) 勤務時間後の研修会等の充実。

386) 教諭が地域や保護者とかがわろうとする具体的な実践形態をつくること。

416) 大学の専門性を生かした出前研修(教職員向け。食育・福祉等)。

424) 「3. [問題行動等への相談・カウンセリング体制]」の相談・カウンセリング体制の確立(親への支援を含む)。

---

### 3. 問題行動・学習困難・発達障害などへの対応

---

015) 地域教育センターとの連携による相談・カウンセリングの充実への協力。[「1.」「3. 問題行動等への相談・カウンセリング体制」「6.」「7.」「8.」に〇]

168) 特別に支援が必要な生徒にたいする支援のあり方の研修。

190) 不登校対応としての相談・カウンセリング(親も含めて)。

194) どんなかたちでも学校に支援・協力していただけるものであればありがたいです。[「2. 教諭にたいする研修充実」「3. 問題行動等への相談・カウンセリング体制」「4. 体験的な学習への施設・支援等の充実」「8. 地域防災の学習機会」に〇]

197) 発達障害などの子どもの支援のあり方などを専門的に教えていただきたい。

214) 子どもや保護者のカウンセリングに、週1とか月2とか来ていただくなど。[「3. 問題行動等への相談・カウンセリング体制」に〇]

220) カウンセラーの派遣。[「3. 問題行動等への相談・カウンセリング体制」に〇]

267) 問題少年の発見と対話の支援。

335) 3-1) (4) [地域の住民活力の授業への取入れ、教師への研修・支援等 / 発達障害児への支援や授業の工夫等 / 社会教育・防災教育の充実]と同じ。

375) さまざまな課題をかかえた支援の必要な児童への取組。

390) スクールカウンセラーの勤務時間をふやす。 / 児童の支援にあたる支援員をふやす。

424) 「3. [問題行動等への相談・カウンセリング体制]」の相談・カウンセリング体制の確立(親への支援を含む)。

---

### 4. 地域の社会人教育・生涯教育の充実

---

013) <生涯学習課>「5. [社会人教育・生涯教育]」: 地域の連携・支援・協力をえて、指導者・リーダーの人材育成が必要である。

051) 「5. [社会人教育・生涯教育]」: 生涯学習における成人教育や高度な社会人教育がなさすぎる(高知市の中心部はオフィスも多いのだからもっとビジネスパーソン向けの高度な内容の社会人教育があるべき。図書館や公民館もがんばらないといけないが、大学もがんばらなくてはならない)。

335) 3-1) (4) [地域の住民活力の授業への取入れ、教師への研修・支援等 / 発達障害児への支援や授業の工夫等 / 社会教育・防災教育の充実]と同じ。

359) 前述[専門家の派遣による学習会等の開催(実習も含めて)等]のとおり。[「5. 社会人教育・生涯教育」「6. 医療・福祉・健康などの学習機会」「8. 地域防災の学習機会」に〇]

400) 生涯学習計画策定についての支援・協力。

403) 幅広い年代に対応できる生涯学習講座を開催したい。

408) 市民参加の講演・研修会の開催。

424) 「5. [社会人教育・生涯教育]」: 生涯教育の指導。

---

### 5. 医療・福祉・食・健康などの教育・学習

---

009) 災害時における食事への対応(食材の調達、調理方法、栄養の確保等)を考え、防災への意識を高める。 / 食育の推進—食育にたいする理解(知育・徳育および体育の基礎との位置づけ。「食」にかんする知識と「食」を選択する力の習得)。

034) 3-1) (4) [福祉教育の観点から、子どもから大人まで包括した支援。とくに地域特性を活かしながら、住民がともに支えあう風土と仕組・仕掛け。]で回答した内容の企画・実践への協力。

047) とくに「6. [医療・福祉・健康などの学習機会]」「8. [地域防災の学習機会]」について、住民意識を啓発できることは地域福祉の推進を容易にするキーポイントととらえる。

073) 産業衛生・うつ病対策・メンタルヘルス：自殺予防(各年齢層ごとの特性をふまえた)。具体的事例をとおした、対応のしかた、してはいけないこと、など。

172) 文化・歴史・自然(ホテル)・食教育。

251) 定期的に医療・福祉・健康づくりなどの学習会を開催していきたいと考えている。講師派遣などの協力をお願いしたい。

260) 地域のなかの障害者が地域住民とかかわり関係が結べるような教育・研修の場があればと思う。情報の伝達役として支援できる。

349) 地域の方の健康・福祉の増進に向けて。

359) 前述[専門家の派遣による学習会等の開催(実習も含めて)等]のとおり。[「5. 社会人教育・生涯教育」「6. 医療・福祉・健康などの学習機会」「8. 地域防災の学習機会」に〇]

378) 特別支援教育の充実、社会福祉分野における研究・協力。

397) 福祉を教育。

---

## 6. 文化・住宅・住環境・環境問題などの教育・学習

---

092) 学習機会の計画・実施(年に1～2回)。[「7. 文化・住宅・住環境・環境問題などの学習機会」に〇]

099) 地域住民への広報、継続した普及教育。[「7. 文化・住宅・住環境・環境問題などの学習機会」に〇]

172) 文化・歴史・自然(ホテル)・食教育。

---

## 7. 地域防災の教育・学習

---

013) 「8. [地域防災の学習機会]」：〈学校教育課〉地震・津波を含め総合的な防災教育を推進するため、アドバイザーの派遣。 / 〈総務課〉さまざまな機関・団体と連携して取組んでいきたい。

046) 地域防災にかんしては地域住民の要望も高く、小地域でていねいに取組むことがたいせつなので、断続的な支援を期待します。

121) 災害想定を具体化し、具体の動きを訓練できるような情報提供や計画策定の援助など。

132) 防災にたいする取組のあり方などの情報提供。

153) 地域防災にかんして、協同による学習会の開催、また地域をまきこんでの学習会。

158) 水害対策について。

185) 地域防災に必要な学習。

194) どんなかたちでも学校に支援・協力していただけるものであればありがたいです。[「2. 教諭にたいする研修充実」「3. 問題行動等への相談・カウンセリング体制」「4. 体験的な学習への施設・支援等の充実」「8. 地域防災の学習機会」に〇]

212) 防災を含めたかたちでの生涯教育のデザインのための支援。

238) 地域防災にたいする後方支援。研修会や地域住民と一っしょの行動をすることで住民意識を変えていくための協力を願いたい。

273) 子どもたちの防災学習への支援。

315) 3-1) (4) [自主防災組織単位あるいは地域(校区)全体での防災学習の機会をふやすべきだ]と同じ。

335) 3-1) (4) [地域の住民活力の授業への取入れ、教師への研修・支援等 / 発達障害児への支援や授業の工夫等 / 社会教育・防災教育の充実]と同じ。

359) 前述[専門家の派遣による学習会等の開催(実習も含めて)等]のとおり。[「5. 社会人教育・生涯教育」「6. 医療・福祉・健康などの学習機会」「8. 地域防災の学習機会」に〇]

377) 防災について、発生後の対策について、事前に理解する機会。

418) 宇佐・新居地区に24mの高さの津波がくるだろうということで現地の方たちは熱心に防災に取り組んでおりますが、高地の人たちはあまり関心がないと思います。津波がこなくても地震はかならずおきるのでしょうから、もっと関心をもつべきとは思いますが。

---

## 8. 教育・学習への学生ボランティアの協力体制、学生への支援・協力

---

- 009) 児童・生徒が体験的な防災学習をすすめるさいの学生ボランティアの協力体制の組織化。
- 038) 学んだ知識を地域へ。
- 081) 夏休み期間中のプール監視。
- 135) 長期休業中の学習支援。
- 204) 上記の分野[「1. 学校教育の向上」「3. 問題行動等への相談・カウンセリング体制」に〇]のスペシャリストの派遣(学生さんも含めて)。
- 218) 学生ボランティアによる学習支援。
- 220) 学習支援等のボランティア派遣。
- 229) 市[須崎市]教育委員会としては、大学生の支援によって小中学校が元気になってほしいと考えています。大学生が学校にはいると児童・生徒だけでなく教職員も元気になります。学校は楽しい場所であることを、いっしょになってつくりあげてもらいたいと思っています。
- 236) 地域の子どもたちといっしょに学習できる機会をつくってもらいたい。[「4. 体験的な学習への施設・支援等の充実」に〇]
- 270) インターンシップの受入など。
- 332) 放課後等の加力指導にたいする補助(どこの学校でも学力向上のために取り組んでいると思われる。)
- 395) 基礎学力向上のため、学校の補習授業に教員・学生を派遣。

---

## 9. 地域の教育・文化施設の充実・活用

---

- 128) 地域の進学拠点として、大学進学にかんするさまざまな取組でご支援願いたい。
- 144) 放課後の時間帯に補充学習の支援(個別対応)。本来は地域での家庭学習の支援をしていただきたいが、これは行政と連携してほしい。
- 163) 地方教育の課題を考え、その地域の研修充実のための予算配分の見直しや研修の簡素化と効率化を考え、ブロックごとの研修体制の確立等を考えたい。
- 167) 家庭・地域・学校で、ともに学べる場がほしい。
- 241) 昔は公民館活動が活発だったと思います。その中で「3. [問題行動等への相談・カウンセリング体制]」「6. [医療・福祉・健康などの学習機会]」「7. [文化・住宅・住環境・環境問題などの学習機会]」等の課題も住民が意識づけできたこともあると思われます。新しい公民館活動のあり方などを検討し実行する手だてを、支援してほしい。
- 251) 学ぶ地域社会づくりのための情報やアドバイスをお願いしたい。
- 260) 地域のなかの障害者が地域住民とかかわり関係が結べるような教育・研修の場があればと思う。情報の伝達役として支援できる。
- 291) 地域住民に価値の再発見をうながす。 / 地元の子どもに真の生活を知ってもらう。
- 305) 盲学校ならびに地域の小学校で学ぶ視覚障害児・視覚障害者にたいする教育力の向上。
- 310) 難聴児の教育原場での情報保障ための国の支援と進学者のための支援(大学等)の充実。

---

## 10. 地域の衰退、学校の立地、地域と学校との関係

---

- 131) 地域の人材に「1日先生」として講師になってもらい、地域とのつながりを強める。
- 154) 生徒数減少に歯止めをかけるための支援協力。
- 335) 3-1) (4) [地域の住民活力の授業への取入れ、教師への研修・支援等 / 発達障害児への支援や授業の工夫等 / 社会教育・防災教育の充実]と同じ。
- 385) 地域の人が学校で話をするために必要なことがらなどを調査し伝える。
- 386) 教諭が地域や保護者とかかわろうとする具体的な実践形態をつくること。

---

## 11. 協力内容・連携手法等にかんする要望など

---

- 001) 「3-2)」(1) [県立大学と地域住民および行政が協働して地域課題の解決や地域資源のほりおこし等、地域づくりの活動の発展につなげていくことを目的としたフィールドワークやワークショップ等をおこな

うことができれば、と考えている。]と同じ。

025) 大学の研究成果(途中でも可)を広く県民にアナウンスしてほしい。その内容での、ネットワークや支援・協力で地域の教育課題を解消。 / 土佐まるごと社中への参加等。

030) 上記[実態調査・現状把握・ニーズ調査等]に準ず。

038) 学んだ知識を地域へ。

068) 講演講座の実施。

094) 講座の開設、講師の派遣、自主講座運営等へのアドバイス。

100) 3-2) (1) [市民セミナー等公民館の主催する事業に講師として願う]と同じ。

101) 116) 専門的な知識を身につけた方々が、その立場から地域に出向いて支援してほしい。

104) 助言・講師派遣。

139) 講師派遣。

166) 「中学校」という特別な時期の悩みに対応してみてもはどうでしょう？

179) 研修会の講師。

195) 「これができます」という具体例を掲載したチラシをつくっていただき、そのなかから学校のニーズにあわせて依頼する方法でおねがしたい。

202) 講師による講演、授業づくりの研修会の実施等々、また専門家による豊かな体験活動などを仕組めれば(とくに看護福祉分野等について)よいと思います。

207) 専門的知識をいかしているいろいろ指導・協力を願いたい。

226) 出張講座。

290) 大学施設の利用。 / 学生の活動参加。

299) 市教委との連携。

314) 講習会やイベント。

320) 地域で子育て支援に取り組む団体・個人の資質向上のための研修への講師派遣。

334) 貴職からの人材の派遣。

340) 講演・研修会への支援・協力(講師等)。

367) 高齢化にたいする学びや趣味の講座を通じて、互いの交流をはかる。

370) 3-2) (1) [学内人的資源をできるだけ詳しく情報公開すること]に記したとおり。

374) 長期休業中でのオープン講座やメディアを活用した開放講座をふやしていただくとありがたいです。

378) 高卒就労をサポートする機関への支援。

383) 「とさっ子タウン」への協力。

431) 幼少期からの運動能力向上と小中学への連携。

---

## 12. その他

---

022) 「地域の暮らし」に、高齢化・人口減少する地域の産業、地域企業のあり方、地域産業の方向があり、それをしめす分野があってもいい。

051) 「2. [教諭にたいする研修充実]」「9. [その他]」: 情報の調べ方(参考図書の使い方、本の探し方、ND Cについてなども)基本的なことをわかっていない人が多い。大学でも学内の図書館の使い方や図書の分類等のレクチャーを学生向けにお願いしたいです。

056) 具体的にこんな支援をお願いしたいという機会ができたときに、こちらから直接お願いしようと思っております。そのさいはよろしく願います。

065) 故郷に定住するために、なにが必要で、なにをするべきか。具体的な活動の仕方がわからないのが現状である。1人からはじめる取組を考えたい。

076) あまり期待できません。

115) 中高生ができる支援についてのアドバイス。

192) 県立大学に支援・協力依頼をするのはむずかしい内容であるとする。[「4. 体験的な学習への施設・支援等の充実」に○]

230) 学校外の教育力の有効活用をしていきたい。

231) 人員の確保。

234) 教育を受けたくとも場所が遠い。

243) 若者が積極的に参加するような企画がほしい。

348) 教科の学習活動や総合的な学習の時間のなかで、地域の課題等に取り組む学習で研究機関等と連携して取組んだり継続して指導を仰げる体制を、どこも願っている。しかしそのことを実現できない要因が教



育現場にはあることを研究者にはわかってほしい。

352)3-1) (4) [地域住民のBCP [Business Continuity Plan。大規模な災害・事故・システム障害が発生した場合に、企業や行政組織が基幹事業を継続したり、早期に事業を再開するために策定する行動計画。]等]

421) これまで支援・協力をいただいたことがないので、どのような支援・協力をしていただくかわからない。

---

3-2) 要望する高知県立大学の支援・協力の内容(5) 地域の環境課題

1. 環境保護対策

- 022) 環境を考えるなら「ビジネス」としての環境を考えないと、金がまわらない。その視点で考えるべき。バイオマス・風力・小水力・ソーラを、工科大とともに「工学+地域」の融合領域で考えたら。
- 065) 道路整備や補修が災害対策とつながり、それが環境保護等に発展し、地域の人々の経済基盤の向上につながり、人々が定住し、村づくりができるような、すべてがつながり循環するモデルケースがあれば、それらを研究・学習していきたい。
- 108) 桐見ダムに自然のアユやカニやウナギがのぼってこれるような補修をやってもらいたい。
- 172) ホテルについての学習。
- 192) ゴミのポイ捨て等の実態調査および分析・結果考察をとおして、地域への啓蒙や調査結果の公開をおこなう。
- 243) 人工林から自然林への回帰、その重要性。
- 314) 研修会の実施。[「1. 環境保護対策」「7. 環境保護運動」に○]
- 335) 3-1) (5) [環境保護活初の推進。資源再利用・有効活用等。 / 環境変化にともなう被害問題]と同じ。
- 359) 調査活動。提案等。 / アジロ山自然の森公園の活用。 / 針木梨畑でのカラス対策(有効策)。[「1. 環境保護対策」「5. 鳥獣被害対策」「6. 災害対策」「7. 環境保護運動」に○]
- 385) 地域の環境保護にかかわっている人たちとの意見交換会などの開催。
- 403) 地域と密着した活動を行いたい。そのためのノウハウ・人員等の提供。[「1. 環境保護対策」「7. 環境保護運動」に○]
- 416) 環境委員会への協力。 / 地域の環境団体(アジロ山を守り育てる会)との連携活動。
- 423) 棚田キャンドルまつりや棚田オーナー制度に集落が主体となり取組んでいるが、メンバーが高齢のため今後の不安感が大きい。棚田地域の取組に大学と連携し、若い力を入れたい。 / 四万十川源流点を活用し、水・山・川の環境を維持する長期の活動を大学とともに構築できないか。
- 431) 自然環境保護のための教育を幼児より進めていくための活動推進などをお願いしたい。
- 432) これは3-1) (5) [たとえば道路の街路樹・植樹帯などの草刈りは業者へ委託されているのがふつうであるが、委託されているがゆえに、家の前の植樹帯であったとしても[住民]自らが草を刈ることをしなくなる。そのため草ぼうぼうの状態になる。年に数回業者が仕事としてやってしまう。美観や安全性の確保からすると、問題があると思う。たとえば地域住民やNPOなりに年間分的美観維持委託として任せれば、週に1回でいど草刈りをするにより、常態的な美観(景観)の維持や、草がのび放題になることで視認性が失われることはなくなると思う。]に書いた。ぜひ試行してほしい。集まったアイデアはすぐ試しにやってみるにかぎる。県立大学なので県への提言と県関係の施設等で実行できるはずである。

2. ゴミ処理問題

- 274) 「2. [ゴミ処理対策]」: リサイクルする技術。
- 322) 行政と連携してほしい。[「2. ゴミ処理対策」「5. 鳥獣被害対策」に○]

3. 鳥獣被害対策

- 013) <産業基盤課>鳥獣被害をおさえる対策の研究をぜひお願いしたい。
- 066) 鳥獣対策(安価で省労力)の推進。駆除した動物の処理(収入につながる活用方法等)。
- 068) 里山の堅持と鳥獣害対策セット。
- 086) カラスやイノシシによる食害。
- 110) 鳥獣被害対策の特効化。
- 124) 鳥獣被害について、夏季休業等を利用して双方の学生が協力しあって鳥獣被害マップをつくり、その後対策を考える取組をおこないたい。
- 195) 農家の方との協働。[「5. 鳥獣被害対策」に○]
- 274) 「5. [鳥獣被害対策]」: 実態調査と具体的対策。
- 310) 会員の高齢化で社会的役割をはたすという使命感が薄い。若い人の考へ方と行動力など参考にでき

る機会があればと思う。鳥獣等の食料となる木を高齢者等とともに、ふやしていけばどうか。

335) 3-1) (5) [環境保護活初の推進。資源再利用・有効活用等。 / 環境変化にともなう被害問題]と同じ。

359) 調査活動。提案等。 / アジロ山自然の森公園の活用。 / 針木梨畑でのカラス対策(有効策)。[「1. 環境保護対策」「5. 鳥獣被害対策」「6. 災害対策」「7. 環境保護運動」に○]

367) 課題の解決に向けての支援(勉強会など)。[「5. 鳥獣被害対策」に○]

400) 被害防止方法の指導。[「5. 鳥獣被害対策」に○]

---

#### 4. 過疎対策・地域の交通手段確保・道路整備・生活環境整備

---

013) <環境課> 過疎高齢化などにより収集場所までのゴミの搬出が困難となってきている。

034) 3-1) (5) [災害時における高齢者・障害者への支援 / 中山間地域における交通(移動)手段]で回答した内容の研究。

065) 道路整備や補修が災害対策とつながり、それが環境保護等に発展し、地域の人々の経済基盤の向上につながり、人々が定住し、村づくりができるような、すべてがつながり循環するモデルケースがあれば、それらを研究・学習していきたい。

110) 林道整備。

209) 人と自然が共存し少しでも島の人たちの住環境・生活環境の向上につながることを、考案・支援していただきたいと考えています。

243) 現行道路の安全性を調査。

274) 「4. [中山間道路整備]」: 実態調査。

299) 「4. [中山間道路整備]」: 平地の南北道路、中山間地域道路ルートの研究。

401) 中山間地の生活状況の把握、山林の植生を研究。

408) 推進活動(啓発等)。[「4. 中山間道路整備」「6. 災害対策」に○]

412) 行政への要望支援。[「4. 中山間道路整備」に○]

---

#### 5. 災害対策

---

065) 道路整備や補修が災害対策とつながり、それが環境保護等に発展し、地域の人々の経済基盤の向上につながり、人々が定住し、村づくりができるような、すべてがつながり循環するモデルケースがあれば、それらを研究・学習していきたい。

099) 公共機関との連携、地区民の防災訓練等の支援。災害対策の研究・研修等の協力・支援。

115) 守られる側ではなく、中高生が守る側になるときのアドバイス。[「6. 災害対策」に○]

131) 災害時の地域住民との連携・協力。

133) 福祉避難所としての指定。機能整備。

154) 南海地震にたいする災害対策。

163) 地震からどのように身を守るか津波からどう身を守り避難するかを考え、地域と教育機関・関係機関の連携が必要である。早急に対応しなければならないのは、子どもの命を守り高齢者地域を守るために必要なことを考えていきたい。

164) 協働体制を構築するための支援。[「6. 災害対策」に○]

166) 防災学習にたいして多くの情報を共有し、協力してみたい。

167) 地元なのでぜひ協力して対策を考えたい。[「6. 災害対策」に○]

168) 災害発生時における看護・医療体制の確保。

190) 防災学習で高知大の先生にはお世話になっている。そういう専門家の話。

194) 新荘地域は津波浸水が予想される地域にある。また新荘川の河口付近に位置しているため災害対策は欠かせない。同様に付近の国道・県道・市道についても補修を常日頃お願いしている。子どもの安全確保のためにも連携・支援・協力は欠かせない。

218) 津波にかかわる情報提供をしていただきたい。

260) (聞こえの不自由な人たちに) 災害時における支援、あるいは防災対策など。講習や研修で情報伝達できる。

267) 災害グッズの研究と広報への協力。

291) どこに逃げたらいいのか等まったく伝わっていない。 / どういった連絡網があるのかもわからない。

305) 介助や支援を要する人の避難や避難所での支援についての研究と結果の広報。

315) 避難タワーや避難施設等の早急な建設は市行政の事業なので、防災学習の面での支援。

- 330) 学校での安全対策にたいする指導・助言。学校での安全対策にたいする講師。[「6. 災害対策」に○]  
331) 町内会組織の活性化。[「6. 災害対策」に○]  
349) 災害への対応について。  
356) 専門の方をまねいての講演会。[「6. 災害対策」に○]  
359) 調査活動。提案等。 / アジロ山自然の森公園の活用。 / 針木梨畑でのカラス対策(有効策)。[「1. 環境保護対策」「5. 鳥獣被害対策」「6. 災害対策」「7. 環境保護運動」に○]  
377) 各学校にたいして、長期の防災教育計画の立案・指導・対策。  
378) 地域住民とともに津波から「逃げる」ことの訓練とその支援。  
390) 南海地震のような巨大地震が発生したときの避難場所をできるだけ多くつくる。  
408) 推進活動(啓発等)。[「4. 中山間道路整備」「6. 災害対策」に○]  
420) 津波等にたいする不安の共有、それをもとにした日ごろからの地域のつながりをどう構築するか。

---

## 6. 地域資源の有効利用・活用

---

- 030) 加工品等の開発。  
047) 「3. [地域資源有効活用]」について、住民意識の啓発と有効活用法の支援・指導。  
108) 曲がったような木材でも有効に使っていただけるようなことを考えてもらいたい。  
126) 木材等の拡大にかんする支援・助言。  
153) 地域資源の木材の活用について、また環境との関連について県下でも中心的となるような取組。  
185) 資源活用のための学習および企画。  
198) 高知県は山林県ですので山資源の活用をすべきです。そうすれば鳥獣被害も減ってくると思います。大学の施設は県材を積極的に活用する、間伐等に学生がボランティアで参加する、など。  
243) 間伐材の有効活用(松・杉)。  
258) 問題は価格や販売方法。安価で提供したいが、業者が高い値段を表示するので難しい。[「3. 地域資源有効活用」に○]  
270) 資源から商品へ(販売できる資源とは)。商品開発のいろはを学び、商いができる品へ。  
274) 「3. [地域資源有効活用]」: 木や竹を燃料にする方法(安価)。  
335) 3-1) (5) [環境保護活初の推進。資源再利用・有効活用等。 / 環境変化にともなう被害問題]と同じ。

---

## 7. 協力内容・連携手法等にかんする要望など

---

- 001) 「3-2)」(1) [地域課題把握から施策化・評価について、必要に応じた科学的根拠にもとづいた助言や協力]と同じ。  
009) 地域の必要に応じ、講師派遣やアドバイスがほしい。  
025) 県立大ならではの地域の環境課題にたいする考え方を聞きたい。県民に聞かれた大学としての位置づけが産学連携により問題解決できる。  
051) お持ちの情報等の発信をお願いしたいです。  
100) 3-2) (1) [市民セミナー等公民館の主催する事業に講師としてお願いする]と同じ。  
139) (4) [講師派遣]と同じ。  
207) 知識を活かしてほしい。  
212) 対策のための研究の支援。[「2. ゴミ処理」「3. 資源有効利用」「4. 中山間道路整備」「5. 鳥獣被害対策」「6. 災害対策」「7. 環境保護運動」に○]  
220) 出前授業等の講師派遣。  
238) 環境学習を子どもたちにおこなうための協力。  
290) 3-2) (4) [大学施設の利用 / 学生の活動参加]と同じ。  
395) 大学で研究した資料・データなどを活用し、地域住民に周知。  
416) 環境委員会への協力。 / 地域の環境団体(アジロ山を守り育てる会)との連携活動。

---

## 8. 学生による支援・ボランティア

---

- 124) 鳥獣被害について、夏季休業等を利用して双方の学生が協力しあって鳥獣被害マップをつくり、その後対策を考える取組をおこないたい。  
198) 高知県は山林県ですので山資源の活用をすべきです。そうすれば鳥獣被害も減ってくると思います。

大学の施設は県材を積極的に活用する。間伐等に学生がボランティアで参加する。など。

236) 地域から大学に草刈の現場などの日時をお知らせするので、1人でもいいので見に来てもらいたい。大学生がそこにいるだけで、地域の人々はいいところを見せようと元気になる。

310) 会員の高齢化で社会的役割をはたすという使命感が薄い。若い人の考へ方と行動力など参考にできる機会があればと思う。鳥獣等の食料となる木を高齢者等とともに、ふやしていけばどうか。

423) 棚田キャンドルまつりや棚田オーナー制度に集落が主体となり取組んでいるが、メンバーが高齢のため今後の不安感が大きい。棚田地域の取組に大学と連携し、若い力を入れたい。 / 四万十川源流点を活用し、水・山・川の環境を維持する長期の活動を大学とともに構築できないか。

---

## 9. その他

---

050) 地域の高齢化により人材がいない(不足ではない。いない)。

147) 地元のよさを中学生が認識できる活動をとおして、郷土に誇りがもてるように指導したいです。

172) ホタルについての学習。

348) 教科の学習活動や総合的な学習の時間のなかで、地域の課題等に取り組む学習で研究機関等と連携して取組んだり継続して指導を仰げる体制を、どこも願っている。しかしそのことを実現できない要因が教育現場にはあることを研究者にはわかってほしい。

370) 大学がどこまで、なにができるのか、よく分からないので、具体的には書けない。

---

#### 4. 高知県立大学への要望・期待

表8-01 高知県立大学に要望したい支援の内容

##### 3-3) 要望する高知県立大学の機能・資源の内容

###### 1. 調査・研究

005) 貴学教員に共同研究者として参画してほしい。

015) 3-2) [高齢者の生活力向上のための調査研究等の協力。 / 文化財・文化資料・生活文化の啓蒙普及へのアドバイス。 / 地域教育センターとの連携による相談・カウンセリングの充実への協力。]のとおり。

034) 上記「1. [調査・研究実施]」「2. [企画・開発案立案]」「3. [教員・職員派遣]」すべてにおいて、専門性の提供、研究等ノウハウの提供。

068) 中山間地の資源(竹林)の有効活用研究。

071) 調査研究など現場・地域にどんどんはいついて、活性化への足がかりをつくっていただきたい。 / そしてさまざまな企画・開発へ取り組んでいただきたい。 / 学校現場に教員や学生を派遣して現状を打開する一翼になっていただきたい。

074) 「1. [調査・研究実施]」「2. [企画・開発案立案]」「3. [教員・職員派遣]」「4. [実験設備・施設使用]」「5. [図書・視聴覚資料使用]」につき、これまでもお世話になっております。地域の特性を活かせる地域のネットワークづくりにおいて、問題に直面したときのご相談や解決に向けてのアドバイスなど、これからも継続してお願いできればと思います。

099) 過去の災害事例の調査・研究および普及教育。 / 防災訓練および防災施設・用具等の点検・整備にたいする人的支援。

108) 公立学校と私立学校との学力調査や授業内容などのちがいを調査・発表してほしい。

124) 鳥獣被害等の調査・研究。

185) 地域の活性化のための研究や学習に協力が望まれる。

192) 学校単独では、地域を含めての調査等はなかなかできにくい。よって県立大学にテーマにそった調査研究をお願いしたい。 / また本校で活用できる資料等はどのようなものがあるのか、そのリストを公開してほしい。

245) まず梶原町の調査・研究をしてほしいと思います。高齢化率41%となりました。町中心部はまだしも各集落では1戸1人の老人世帯ができております。梶原町としても町長をはじめ、梶原町の存続・人口増に必死の努力をいただいております。貴大学の協力のもと、活力ある町づくりを願っております。いまならまだ間にあうと思いますので、よろしく願いいたします。

251) ふえつづける1人暮らし高齢者の孤立化を防ぎ、安らかな最期と旅立ちを支援し、絆のある地域社会を創造する運動をいかに広めていくか、その取組が急がれる。 / また行政や福祉関係団体、町内会や地域コミュニティなどの地域組織、病院や介護施設のほか、民間のさまざまな組織が連携して、独居高齢者等を支援していく必要に迫られている。 / わたしたち明日への絆は、独居高齢者を取りまくさまざまな組織や団体の組織化を働きかけ、2015年までに「見守りネットワーク」を構築することを組織のビジョンとして掲げている。 / そのような仕組づくりに大学の力をお借りしたい。高齢化率全国3位の高知県の実態を調査研究し、全国のモデルとなるような仕組が構築できればと考えている。 / 要望というより、ともに調査研究ができるような体制が組めればと考えている

290) 高知県の自然史について、調査・研究・学習活動の展開。また、その過程で得られた成果の蓄積・保管体制と施設の充実化。

291) 文化・歴史についての調査・報告。

305) 本県の教育課題等について、調査・研究を実施し報告をしてほしい。

318) 障害保健分野におけるニーズや課題の把握、顕在化していない問題の把握など。

325) 貴校はフィールドワークや地域活動に出向くなど実践的活動に取り組んでいるとかがっています。貴校と共同・連携で調査・研究およびその成果発表をおこなうための教員・学生・院生協力をお願いすることがあるかと存じます。

343) 生活文化の調査研究への人的支援・ノウハウの提供。

357) 地域の民俗や文化財にかんする合同調査と、それにもとづく企画展や講座の実施、あるいは地域とも連携した活動を、教員や学生の方々と協力しておこないたい。

359) 遺跡・文化財の調査活動。

385) 調査・研究により、地域の人のニーズの把握。

386) 具体的にはわからないが、現状課題として生活面・経済面・精神面において、地域における在宅医療・ケアは過疎地では絶対必要だが、安心して暮らせるための医療の往診・訪問看護などの体制がどこまでできるか。環境は整えられているのか？ そうした具体的な課題調査がほしい。

406) 設問2-4) [講演会への講師派遣。 / 当館主催研究会・イベントへの支援・協力。 / 当館収蔵資料調査への支援・協力。 / 学生を含めた展示解説ボランティア等]への記述と同じ。

420) 過去にご支援ご協力いただいた教員および学生の調査とその後の活動が地域の住民力を活性化させ有意義なものとなっている事例があることから、実際に地域への派遣とその後の支援を希望します。

---

## 2. 企画・開発

---

013) <企画財政課>「2. [企画・開発案立案]」「3. [教員・職員派遣]」「6. [学生・院生協力]」:「住民との協働」が現在の地方自治・公共団体のキーワードであり、各種計画等の策定においてこの手法を取入れる必要があるため、連携協定をいただきたい。

034) 上記「1. [調査・研究実施]」「2. [企画・開発案立案]」「3. [教員・職員派遣]」すべてにおいて、専門性の提供、研究等ノウハウの提供。

051) 相互貸借で県立図書館も助かっていますので、これからもご協力をお願いします。 / その他イベント等でお知恵や講師派遣など力添えいただきたいこともでてくるかと思っておりますのでそのときにはお願いしたく存じます。

071) 調査研究など現場・地域にどんどんはいついて、活性化への足がかりをつくっていただきたい。 / そしてさまざまな企画・開発へ取組んでいただきたい。 / 学校現場に教員や学生を派遣して現状を打開する一翼をになっていただきたい。

074) 「1. [調査・研究実施]」「2. [企画・開発案立案]」「3. [教員・職員派遣]」「4. [実験設備・施設使用]」「5. [図書・視聴覚資料使用]」につき、これまでもお世話になっております。地域の特性を活かせる地域のネットワークづくりにおいて、問題に直面したときのご相談や解決に向けてのアドバイスなど、これからも継続してお願いできればと思います。

124) 地場産品を活用した製品開発のアイデアをだし、実用化に向ける。

164) 開発案の立案や教員の派遣があれば、専門家からの的確な指導助言がいただけると思っている。

181) 「べふ峡」開発に市の第3セクターもかかわっているが、さらに知恵をかしていただいて、活性のための企画をしてもらいたい。 / 食生活についてご指導いただきたい。

243) 行政まかせにしない住民力・地域力の向上。 / 住民のやる気を奮発する企画。

340) 地域福祉推進を考えるさいの企画会等への参加協力。

343) 文化活動・生涯学習推進について企画段階からの参画・助言。

349) 新しい発想力で地域の活性化につながるとよい。[「2. 企画・開発案立案」に○]

357) 地域の民俗や文化財にかんする合同調査と、それにもとづく企画展や講座の実施、あるいは地域とも連携した活動を、教員や学生の方々と協力しておこないたい。

396) 効果的な広報活動の方法など。[「2. 企画・開発案立案」に○]

---

## 3. 教員・職員派遣

---

001) 検討会委員や助言者・研修会講師等として、専門の教員を派遣していただきたい(現在もしているが、今後も必要に応じてご支援いただきたい)。

003) 「3. [教員・職員派遣]」: 審議会等委員への参画。

004) 農林漁業や商店街の活性化など地域の産業振興に向けた教員からの助言・協力等。 / 産学官連携を実践する講座や交流会の施設使用の協力や教員の参画。 / 地域の商品開発への食品・栄養学からのアドバイスや学生の嗜好にもとづく味覚等へのアンケート協力など。

009) 講師や相談員・支援員・各種委員としての人材の派遣。

013) <企画財政課>「2. [企画・開発案立案]」「3. [教員・職員派遣]」「6. [学生・院生協力]」:「住民との協働」が現在の地方自治・公共団体のキーワードであり、各種計画等の策定においてこの手法を取入れる必要があるため、連携協定をいただきたい。

015) 3-2) [高齢者の生活力向上のための調査研究等の協力。 / 文化財・文化資料・生活文化の啓蒙普及へのアドバイス。 / 地域教育センターとの連携による相談・カウンセリングの充実への協力。]のとおり。

034) 上記「1. [調査・研究実施]」「2. [企画・開発案立案]」「3. [教員・職員派遣]」すべてにおいて、専門性

の提供、研究等ノウハウの提供。

051) 相互貸借で県立図書館も助かっていますので、これからもご協力をお願いします。 / その他イベント等でお恵や講師派遣など力添えいただきたいこともでてくるかと思っておりますのでそのときにはお願いいたたく存じます。

071) 調査研究など現場・地域にどんどんはいついて、活性化への足がかりをつくっていただきたい。 / そしてさまざまな企画・開発へ取り組んでいただきたい。 / 学校現場に教員や学生を派遣して現状を打開する一翼をになっていただきたい。

073) 2-4) [当院のサービスの向上につながる院内研修への講師派遣 / 接遇向上 / 安全対策・感染対策にかんすること / 看護のスキルアップにかんすること(看護計画)]について。

074) 「1. [調査・研究実施]」「2. [企画・開発案立案]」「3. [教員・職員派遣]」「4. [実験設備・施設使用]」「5. [図書・視聴覚資料使用]」につき、これまでもお世話になっております。地域の特性を活かせる地域のネットワークづくりにおいて、問題に直面したときのご相談や解決に向けてのアドバイスなど、これからも継続してお願いできればと思います。

076) 専門家の研修会等への派遣。

079) 高知市立中央公民館では市民を対象としたさまざまな講座を安価な受講料で実施しており、今後も高知県立大学から講師の派遣をお願いしたいと思っております。また「いま市民の方にぜひ学習していただきたいテーマ」やおすすめの講師等の情報提供もお願いできたらと思っております。よろしくお願ひいたします。

105) 講師等の派遣。

115) 貴学と人的・施設面での交流がふえることを期待します。RYN(Reihoku Youth Netghbors)については健康栄養学部の先生・学生との交流や調理設備の使用等。

119) 総合的な学習の時間や放課後等での進路指導時における講師またはパネリスト等での協力をお願いしたい。

120) 講師等の派遣。

124) 職員を対象とした校内研修における教員の派遣。

126) 地場産業の開発やキャリア教育の推進に向けて、大学からの教員派遣といった支援や助言に期待したい。

128) 大学出前授業(高2・11月実施)では多くの大学に協力していただいております、貴学にもご協力願ひたい。

133) 教員研修(専門性を身につけること)。 / 余暇活動をどのように立案し、実施できるか。

136) 研究会や学習会をおこなううえで、教員や職員の派遣をおねがいしたい。

147) 中学生の夢を育てる講演を希望したいです。

151) 出前授業を積極的に実施して、県民にたいして県立大をもっとアピールしてください。 / 情報発信が少ないと思っております。

158) 学校のもつ教育課題について協力・支援をいただける教員の派遣。

165) 県立大学で研究している内容やその成果を教職員や中学生あるいはその保護者等にわかりやすく講演会などでお話ししていただければ、われわれにとっても勉強になるし、県立大学にとってもPR活動や学生募集のひとつになると思う。

181) 「べふ峡」開発に市の第3セクターもかかわっているが、さらに知恵をかしていただけて、活性のための企画をしてもらいたい。 / 食生活についてご指導いただきたい。

194) 学校評価や教科の指導法など、大学の先生方から教えていただくことはたくさんあります。また学生は教員よりも子どもに年齢面で近いことがあり、ある面指導にはいりやすいこともあると思っております。

202) いま具体的になにをという事は思いつきませんが、授業づくりにかかわることや子どもたちにかかわること(食育・福祉など)で講師としてお願いできることがあればと考えています。

210) 校内研修等への講師等。

219) 三里地区三校(三里中・十津小・三里小)の合同研修会などへの講師の派遣。

220) 出前授業の講師派遣。

316) 地域包括支援ネットワークシステムの構築に向けた助言、研究会への講師派遣。 / 各福祉保健所単位で1ヵ所以上のモデル地域を設置し、その実践事例をとおして地域に応じた連携のしくみや支援体制の構築をはかることとしており、これらの取組にたいする助言や研究会での講師をお願いしたい。

320) 地域の子育て支援者の資質向上のため、現在の子育てをめぐる現状・課題や対応について、社会福祉学部の先生に講演等をお願いしたい。

323) 社会福祉大会(福祉講演会など)への講師派遣。

330) 外国語活動にたいする指導・助言の継続。



- 340) 講演・研修会への支援・協力(講師等)。  
343) 市民教室・教養講座への講師派遣。  
359) 講習会等への講師の派遣。  
368) 現在具体的に計画があるわけではないが、県立大学との連携で考えられるものは上記の「3. [教員・職員派遣]」と「6. [学生・院生協力]」である。  
376) 「3. [教員・職員派遣]」については、支援が必要な児童について相談にのっていただきたい。  
377) 中学・高校の大学体験講座等への講師の派遣。  
403) 講座・講演・スポーツイベント等が公民館活動を含む生涯学習事業には多くあるので、優秀な講師さんや若くて元気な青年の協力をお願いしたい。  
406) 設問2-4) [講演会への講師派遣。 / 当館主催研究会・イベントへの支援・協力。 / 当館収蔵資料調査への支援・協力。 / 学生を含めた展示解説ボランティア等]への記述と同じ。  
420) 過去にご支援ご協力いただいた教員および学生の調査とその後の活動が地域の住民力を活性化させ有意義なものとなっている事例があることから、実際に地域への派遣とその後の支援を希望します。

---

#### 4. 施設・設備使用

---

- 004) 産学官連携を实践する講座や交流会の施設使用の協力や教員の参画。  
008) 化学分析などに用いる機器や設備など。  
074) 「1. [調査・研究実施]」「2. [企画・開発案立案]」「3. [教員・職員派遣]」「4. [実験設備・施設使用]」「5. [図書・視聴覚資料使用]」につき、これまでもお世話になっております。地域の特性を活かせる地域のネットワークづくりにおいて、問題に直面したときのご相談や解決に向けてのアドバイスなど、これからも継続してお願いできればと思います。  
115) 貴学と人的・施設面での交流がふえることを期待します。RYN(Reihoku Youth Netghbors)については健康栄養学部の先生・学生との交流や調理設備の使用等。  
216) 研究会等の会場として、大学の施設を使わせていただくことはできないか(夏期休業中等)。  
320) 子育てサークル等の活動の活性化のため、貴大学の施設の使用や、子育てサークル活動への学生の参加などの協力をお願いしたい。  
341) 野外活動等で施設を利用させてほしい。  
383) 「4. [実験設備・施設使用]」: 具体的には現在はないですが、講座等の開催に会場としてかしていただけたらうれしいです  
392) グラウンド等の施設がせまいため、なにかのときに使用できるようであればお願いしたい。  
432) 県有施設・設備の低価な利用ができないか。生ごみ処理などでも菌を活用したりするので、その分野での実験・利活用ができるとうれしい。

---

#### 5. 図書・資料使用

---

- 008) 大学図書館による文献の取寄せなど。  
013) <総務課>防災にたいするさまざまな資料やシミュレーション的な視覚的な資料があればと思う。  
051) 相互貸借で県立図書館も助かっていますので、これからもご協力をお願いします。 / その他イベント等でお知恵や講師派遣など力添えいただきたいこともでてくるかと思っておりますのでそのときにはお願いしたく存じます。  
074) 「1. [調査・研究実施]」「2. [企画・開発案立案]」「3. [教員・職員派遣]」「4. [実験設備・施設使用]」「5. [図書・視聴覚資料使用]」につき、これまでもお世話になっております。地域の特性を活かせる地域のネットワークづくりにおいて、問題に直面したときのご相談や解決に向けてのアドバイスなど、これからも継続してお願いできればと思います。  
190) 図書館の充実。  
192) 学校単独では、地域を含めての調査等はなかなかできにくい。よって県立大学にテーマにそった調査研究をお願いしたい。 / また本校で活用できる資料等はどのようなものがあるのか、そのリストを公開してほしい。  
291) 図書の利用。  
395) 保有資料等を市民に開放。

## 6. 学生・院生の協力

- 003)「6. [学生・院生協力]」：調査や啓発活動への協力。
- 004) 地域の商品開発への食品・栄養学からのアドバイスや学生の嗜好にもとづく味覚等へのアンケート協力など。
- 009) 学生さんを学校に派遣してほしい(学習チューターの継続)。
- 013) <企画財政課>「2. [企画・開発案立案]」「3. [教員・職員派遣]」「6. [学生・院生協力]」：「住民との協働」が現在の地方自治・公共団体のキーワードであり、各種計画等の策定においてこの手法を取入れる必要があるため、連携協定をいただきたい。
- 046) 先日障害者の運動会にボランティアで参加していただきました。障害者の方もとてもよろこんでおり、よかったです。
- 060) 学生による企画から行動までを連携しておこなうことが望ましい。
- 071) 調査研究など現場・地域にどんどんはいついて、活性化への足がかりをつくっていただきたい。 / そしてさまざまな企画・開発へ取り組んでいただきたい。 / 学校現場に教員や学生を派遣して現状を開く一翼をになっていただきたい。
- 115) 貴学と人的・施設面での交流がふえることを期待します。RYN (Reihoku Youth Netghbors) については健康栄養学部の先生・学生との交流や調理設備の使用等。
- 124) 学生等の協力による基礎学力の定着と学力向上の取組。
- 127) 高知市西部の子どもたちは身近に大学生がおらず、イメージ・モデルをみだしにくい。高校生以上の年の近い若いモデルとなる方々と、身近に接する機会がもっとほしいと感じている。
- 131) 修学旅行の介助ボランティア等人的支援。
- 132) 今年度修学旅行の介助ボランティアをお願いしたところ、貴校の学生が心よく受けてくださり、感謝しています。今後ともよろしくお願いします。
- 144) 生徒への学習支援。
- 156) 生徒たちに、自分の生き方・夢・将来への思いなど、先輩として語ってほしい。
- 170) 授業や放課後の学習会へ大学生にきてもらい、教員といっしょに指導していただけると助かります。
- 171) 生徒の学力にかかる放課後支援。
- 177) 卓球の指導、学習の加力指導、大学生との交流。
- 190) 学生の学習面での支援。
- 194) 学校評価や教科の指導法など、大学の先生方から教えていただくことはたくさんあります。また学生は教員よりも子どもに年齢面で近いことがあり、ある面指導にはいりやすいこともあると思います。
- 195) 学生と児童の交流はたいへんありがたい(チューターのようなかたちで)。
- 198) 勉強面やスポーツ面で子どもたちとの交流をお願いします。
- 214) 学生ならではのアイデアや子ども保護者とかかわることができれば、新しいコミュニケーションの場が生まれ活性化につながると思います。
- 218) 学生ボランティアによる学習支援をしていただきたい。
- 219) 加力指導の時間への学生さんの派遣。
- 220) 児童支援のボランティア派遣。
- 223) 教員・生徒・学生間での教育交流。
- 229) 大学生という資源(失礼ない方かもしれない)を大事にうまく活用させていただきたいし、先生方にも市内小中学校の教職員にかかわっていただきたい。つまり、大学生は小中学校生に、先生方は教職員に、と欲ばりな要望です。児童・生徒には学力向上(基礎学力の定着)および将来への関心・意欲の向上のために、教職員には資質向上のために支援いただけたらと考えています。
- 233) 時間を自由に使える学生の強みを生かしてほしい。
- 236) 大学生が地域に足をはこんでくれることを望みます。交通費・宿泊費はNPOでだします。過去の大学生の発表資料・映像資料もあります。
- 238) 学生の調査研究のフィールドとして活用してもらえればよい。ただし当方のニーズと学生のニーズとのマッチングをおこなったあとで・・・。
- 244) いろいろなサークルなどを通じて学生さんにきていただくことが高齢者地域には必要だと思います。なにをするにも若い人が少ないので活気がありません。話での交流はいまのところむずかしいので、サークルなどをあわせた交流ができればうれしい。
- 253) 当館と貴大学永国寺キャンパスはごく近い位置にあるが、利用していただくことはほとんどない。

利用者として、まずは1度来館してもらえたらと思う。そこから、利用者としての要望や、学生としていっしょにやってみたい企画の提案をいただけたらうれしい。

258)若い人の企画力および行動力に期待。

270)当センター(NPO)ではさまざまな調査事業や研究事業をおこなっています。学生のインターンシップ等で協力いただいたり、といったことが望ましいと考えます。

305)学生のボランティアを望む。

308)種々の統計や資料を必要と思われる団体等に流して、役立てる方法はないでしょうか。また学生さんの多くに地域の中にはいっていただきともに協力しながら問題をみつけ解決方法を考える。

310)障害者学生および一般学生等の協力があればよい。活動目標・指導・催し等の協力・相談。

320)子育てサークル等の活動の活性化のため、貴大学の施設の使用や、子育てサークル活動への学生の参加などの協力をお願いしたい。

322)イベント時の学生等の協力(軽トラ市・土佐日記貫之時代まつり)。

323)「6. [学生・院生協力]」:地域福祉課題(限界集落、1人暮らし高齢者・高齢者夫婦世帯)の実態調査への協力。

325)貴校はフィールドワークや地域活動に出向くなど実践的活動に取り組んでいるとうかがっています。貴校と共同・連携で調査・研究およびその成果発表をおこなうための教員・学生・院生協力をお願いすることがあるかと存じます。

330)学生による児童との交流。

331)放課後学習に「指導員」を派遣する。 / 地域団体の活動に補助員を派遣する。[「6. 学生・院生協力」に〇]

353)領北地域の資源ほりおこし。若い学生の目から見たニーズおよびシーズの認識。

357)地域の民俗や文化財にかんする合同調査と、それにもとづく企画展や講座の実施、あるいは地域とも連携した活動を、教員や学生の方々と協力しておこないたい。

359)環境保護活動への学生の参加。

368)現在具体的に計画があるわけではないが、県立大学との連携で考えられるものは上記の「3. [教員・職員派遣]」と「6. [学生・院生協力]」である。

376)「6. [学生・院生協力]」については、児童の補習や学力向上にむけて、長期休業中などに教室を開いてほしい。

378)本校学習支援ボランティアへの参加(大学生・大学院生)。

383)「6. [学生・院生協力]」:8月第3土・日に開催する「とさっ子タウン」(子どもたちのまちづくり体験イベント)に、実行委員さんとして参加してもらえると、学生も学びにつながると考えています。

388)内容にもよるが、出前授業や、学生と本校教員とがコラボした授業などができるのではないかと考えます。

390)いっしょに活動する。 / 読み聞かせをしてもらう。 / 将来の夢をふくらませる話をしてもらう。

403)講座・講演・スポーツイベント等が公民館活動を含む生涯学習事業には多くあるので、優秀な講師さんや若くて元気な青年の協力をお願いしたい。

406)設問2-4)[講演会への講師派遣。 / 当館主催研究会・イベントへの支援・協力。 / 当館収蔵資料調査への支援・協力。 / 学生を含めた展示解説ボランティア等]への記述と同じ。

420)過去にご支援ご協力いただいた教員および学生の調査とその後の活動が地域の住民力を活性化させ有意義なものとなっている事例があることから、実際に地域への派遣とその後の支援を希望します。

425)職員の人員も十分とはいえない。また地域も高齢化が進んでいる。イベントなどを継続しておこなうための若者の参加を希望する。

431)大学生のアイデア・技術の協力を求めます。

---

## 7. 研修・講習・講座・情報発信など

---

050)地域の大学としての役割をはたすために、地域の情報を集めて分析・情報発信をしてほしい。

077)県立大では生涯教育のひとつとして公開講座を定期的の実施しているが、開催場所が永国寺や池キャンパスであるので、遠隔地である幡多地域からは参加しづらい傾向がある。年1回でも興味のあるテーマの講座を幡多地区でも開催してもらえればと思う。

079)高知市立中央公民館では市民を対象としたさまざまな講座を安価な受講料で実施しており、今後も高知県立大学から講師の派遣をお願いしたいと思います。また「いま市民の方にぜひ学習していただきたいテーマ」やおすすめの講師等の情報提供もお願いできればと思います。よろしく願いいたします。

099)過去の災害事例の調査・研究および普及教育。 / 防災訓練および防災施設・用具等の点検・整備にたいする人的支援。

151)出前授業を積極的に実施して、県民にたいして県立大をもっとアピールして下さい。 / 情報発信が少ないと思います。

357)地域の民俗や文化財にかんする合同調査と、それにもとづく企画展や講座の実施、あるいは地域とも連携した活動を、教員や学生の方々と協力しておこないたい。

---

## 8. 学校教育への支援・協力、高大連携、など

---

121)高大連携事業づくりに向けて。

122)人的な支援により、職員の活性化をはかりたい。

166)永国寺キャンパスはかなり近いので、スポーツ交流などもしてみたい。就職サポートなどは中学生にも体験させてみたい。

222)進路研究などの場面で今後も協力をお願いしたい。

223)教員・生徒・学生間での教育交流。

229)大学生という資源(失礼ない方かもしれない)を大事にうまく活用させていただきたいし、先生方にも市内小中学校の教職員にかかわっていただきたい。つまり、大学生は小中学校生に、先生方は教職員に、と欲ばりな要望です。児童・生徒には学力向上(基礎学力の定着)および将来への関心・意欲の向上のために、教職員には資質向上のために支援いただけたらと考えています。

348)教育研究機関との連携は強く望んでいる。しかしここにしめされている事柄を実現させるために担当させる職員を構えることも不可能に近いし、その時間の確保も困難である。

374)教職員の研修や生徒への啓発などの機会。

375)3-2) (4) [さまざまな課題をかかえた支援の必要な児童への取組]について、取出授業などの支援。

---

## 9. 地域活性化・個別課題への支援・協力

---

065)中山間地域で人々が暮らしていける知恵とアイデアと人材(核)の中心になってほしいと思う。

099)過去の災害事例の調査・研究および普及教育。 / 防災訓練および防災施設・用具等の点検・整備にたいする人的支援。

139)今後の地域活性化に向けた取組。

154)少子化による児童生徒数の減少は本地域だけの問題ではないと思います。このままいけば高知県の多くの地域は限界集落となって、地域そのものがなくなってしまう可能性があります。そのことにたいしてどう取組むか、行政・教育等がもう1度真剣に取組む必要を感じています。

163)とくに地震・津波についてどのように備えどのように対応していくのか、それぞれの地域・状況に応じて事前に考えていくことがたいせつである。

172)今まで記述したこと[地理的課題：少子・高齢化 / 人口減による課題：高齢化により農地を手放さざるを得ない問題等による地域産業の活性化が課題 / 「山嶽社」という文化施設がありその歴史について詳しく知り生徒に教えた / コミュニティスクールを目指しているため地域の人々の学習の場となる取組がしたい / ホテルが生息しているためその保護について詳しく知りたい / 地域の歴史や文化、ホテルの生息にかんする専門家の派遣がかなえばと思う / 食教育にかんすること / 文化・歴史についての講演会 / 文化・歴史・自然(ホテル)・食教育 / ホテルについての学習]についてご専門とされている先生の講演・支援が得られるか知りたいと思います。

163)とくに地震・津波についてどのように備えどのように対応していくのか、それぞれの地域・状況に応じて事前に考えていくことがたいせつである。

206)県立大と土佐清水市(役所)が連携し、総合的統括的に土佐清水市の明日を構築できる計画をねりあげて行ってほしい。大学と行政の連携により、地域を活性化させる道を模索してほしい。短期間でなく数年かけたプロジェクトとして取組めば道は開けそうです。

209)とにかく多くの人に沖の島の資源のすばらしさに気づいてもらい、その活用をともに考えていければと思っています。できるだけたくさんの人にまずは沖の島にきていただきたいものです。そうすれば島のよさに気づくことができると思います。

241)大学がもつさまざまな情報・知識・学識等を地域に提供し、地域活性化のために地域住民と共働できる大学機関であってほしい。

245)まず梶原町の調査・研究をしてほしいと思います。高齢化率41%となりました。町中心部はまだし

も各集落では1戸1人の老人世帯ができております。梶原町としても町長をはじめ、梶原町の存続・人口増に必死の努力をいただいております。貴大学の協力のもと、活力ある町づくりを願っております。いままらまだ間にあうと思っておりますので、よろしく願いいたします。

251) ふえつづける1人暮らし高齢者の孤立化を防ぎ、安らかな最期と旅立ちを支援し、絆のある地域社会を創造する運動をいかに広めていくか、その取組が急がれる。 / また行政や福祉関係団体、町内会や地域コミュニティなどの地域組織、病院や介護施設のほか、民間のさまざまな組織が連携して、独居高齢者等を支援していく必要に迫られている。 / わたしたち明日への絆は、独居高齢者を取りまくさまざまな組織や団体の組織化を働きかけ、2015年までに「見守りネットワーク」を構築することを組織のビジョンとして掲げている。 / そのような仕組づくりに大学の力をお借りしたい。高齢化率全国3位の高知県の実態を調査研究し、全国のモデルとなるような仕組が構築できればと考えている。 / 要望というより、ともに調査研究ができるような体制が組めればと考えている

256) 大学が保有しているノウハウや人的資源を活用した地域高齢者の生きがいづくりを支援できないのだろうか？

260) 具体的には、「要約筆記」の性格上「ことばについての学習」や「人権」「福祉」「対人援助」「コミュニケーション」などの研修をお願いしたい。が、今後わたしたちの団体が企画推進していく「遠隔情報システム」についても支援や連携していただけたらと思う。

267) イベント等の共同開催や協力。

273) 社会福祉現場での実践。

275) 博物館収蔵資料のうち未整理のものの整理・調査・研究を行うにあたり、県立大教員を中心としてNPOメンバー・学生のグループがつかれないか。

290) 高知県の自然史について、調査・研究・学習活動の展開。また、その過程で得られた成果の蓄積・保管体制と施設の充実化。

291) 食にかんしての指導。

315) 前述したとおり(「2-4」)、支援を要する児童への支援のための人的支援。

334) 人材の活用のための支援。

335) 高知県立大学の総力をあげて、県下各町村のために支援を望む。

400) 出版物を寄贈いただけると助かります。

406) 設問2-4) [講演会への講師派遣。 / 当館主催研究会・イベントへの支援・協力。 / 当館収蔵資料調査への支援・協力。 / 学生を含めた展示解説ボランティア等]への記述と同じ。

414) 水質・環境・学校・地域の活性化など。

---

## 10. 大学の機能のあり方等への要望

---

006) 同じ県立の施設として、とくに問題なければ、利用できるものは相互に利用すべき。

022) 県立大として優位性のある領域をもっとみがくべき。それは食品・健康。

025) 歴史ある県立大の機能・資源を最大限に活用してほしい。 / 永国寺キャンパスの地域への開放(産・学・官連携の場)。 / シニア世代への大学への参加(入学を含め)を進めてほしい。

038) 地域へ関心をもっていただきたい。

212) さまざまな支援のために、ハード面でもソフト面でもできるかぎりの協力をお願いできたらと思う。

225) 大学の有する専門性を活かした活動。

233) 大学による組織的な調査と専門的な研究に期待したい。

241) 大学がもつさまざまな情報・知識・学識等を地域に提供し、地域活性化のために地域住民と共働できる大学機関であってほしい。

308) 種々の統計や資料を必要と思われる団体等に流して、役立てる方法はないでしょうか。また学生さんの多くに地域の中にはいっていただきともに協力しながら問題をみつけ解決方法を考える。

312) 大学による調査研究は、地域差はあっても数多くおこなわれています。地域にとってその結果を投げかけられても、具体化で苦労しています。大学が地域の人と連携して具体化していくことが求められていることであって、調査研究は地域にとっては重要ではありません。大学(先生)にとっても具体化してこそ調査・研究の成果を検証できるのではないのでしょうか。

335) 高知県立大学の総力をあげて、県下各町村のために支援を望む。

358) 専門分野の知識が現場活動に必要。

370) この部門でこのような優秀な教員がいると、幅広く具体的にPRすること。

---

## 11. その他

---

100) 貴大学の機能や資源について認識不足のためお答えできません。

136) どのような講話や指導等をおこなってくれるか知りたい。

172) 今まで記述したこと[地理的課題：少子・高齢化 / 人口減による課題：高齢化により農地を手放さざるを得ない問題等による地域産業の活性化が課題 / 「山嶽社」という文化施設がありその歴史について詳しく知り生徒に教えたい / コミュニティスクールを目指しているため地域の人々の学習の場となる取組がしたい / ホタルが生息しているためその保護について詳しく知りたい / 地域の歴史や文化、ホタルの生息にかんする専門家の派遣がかなえばと思う / 食教育にかんすること / 文化・歴史についての講演会 / 文化・歴史・自然(ホタル)・食教育 / ホタルについての学習]についてご専門とされている先生の講演・支援が得られるか知りたいと思います。

184) あまり大きな期待はいたしていません。

234) 中高年のパソコンサポートセンターなので、大学からきてもらう規模ではない。

274) 具体的にどのていどの機能を備えているかわからない。

299) 市幹部職員の意識啓発(モラルの向上支援)。

303) 大学がどのような機能をもっているのか、よく理解していない。

332) どのていど大学施設の開放が可能なのか不明である。また人的協力をしてもらう場合にその費用面(謝金・旅費・保険等)をどうすればよいか気がかりである。

365) 強固で比較的高台にある校舎の災害時における有効活用。

387) 大学を見て聞いてその内容を知らなければ、なにも書けない。

405) 県立大学の機能や設備にどのようなものがあるか、なにができるかがわからない、知らない。

417) 自分たちの取組がまだ明確になってないので、要望はまだ。

---

## 4-1) 高知県立大学への要望・期待

## 1. 地域の生活・医療・福祉・健康等の課題への貢献

001) 現在「地域保健従事者研修」は、県から看護協会に委託し、県立大学の教員(看護学部の先生方)に運営委員および講師をお願いして実施している。可能であればこの研修を高知県立大学健康長寿センターで受託していただき、学生教育から現任教育(新人・中堅期・管理期)までが連動して、より効果的に人材育成を推進できるようにご協力いただきたい。 / ※「地域保健従事者研修」: 保健師等地域保健に従事する県と市町村の職員を対象とした、①企画立案研修、②人材育成研修、③管理者能力育成研修、④運営委員会、からなる。

034) 福祉分野における実践的な専門職の養成。 / 実践で役立つ研究成果の提供・共同研究。 / 実践で生じた研究ニーズへの対応。 / ex.) 本会が実施する研修の考課。人材育成(研修)を通じた職員定着が施設経営に与える効果(コスト等)。福祉サービス(ケアサービス)の質の評価(基準)。地域福祉にかかる事業評価、市町村社協活動分析。

047) いままでおこなってきた地域福祉などにたいして、客観的に大月町をとらえたうえで、高いスキルをおもちの大学にアドバイスをいただければありがたい。

074) 現在すでに中央西地域において医療・介護・福祉の包括ケアシステムづくりのご協力をいただいております。私自身が病院の窓口的立場なので、地域のいろいろな方々とかかわるなかで、問題に直面したときにご相談させていただけることは大きな支えとなっています。

122) 福祉分野での専門性をいかして、地域・学校・家庭を結びつけ、社会的に困っている家庭(子ども)への支援を担ってほしい。

165) 日本一の健康長寿県をめざす本県にとって、とくに健康・福祉・看護の分野において研究と人材育成をしている県立大学の存在意義は大きく、今後ますますその重要性は高まってくると思います。またわたしたち県内の公立学校にとっては教員養成機関としての機能も重要で、県内の優秀な人材が県内にのこり公教育をしっかりとささえるためにも、県立大学には期待をしています。

334) 本市は高知大学および高知工業高等専門学校との連携協定を結んでおり、多くの支援・協力をいただいております。県立大学さんとは福祉と教育の部分で、教育相談活動等の支援・協力をいただけると幸いです。

398) 医療・福祉学科をもつ県内唯一の県立大学として、高齢化に拍車のかかる県内町村の実情を把握して助言・支援をお願いしたい。大豊町は平成にはいると高齢化率25%をこえ、現在53%である。人口は平成20年4月の5311人が平成24年4月には4740人に減少している(高齢者の人口は平成14年をピークに減少している)。私たち社協は、地域みなさんの協力によっていろいろな行事・活動をおこなってきたが、今後は「いままでどおり」にはできなくなっていくと思います。具体的にということが浮んできませんが、上記のとおり期待しています。

## 2. 地域活性化・地域整備・地場産業活性化等の課題への貢献

004) 今後の地域活性化には、地域と行政の2者ではなく、大学・地域・行政の3者が地域内において継続的に活動していく必要があるのではないかと考えています。

030) 地域の存続・活性化に向けた取組への企画立案や提言を願いたい。

050) 高知の製品の流通ルートの確保について。

051) 県外からきた学生や県内の学生が、就職先がなく県外にでてしまっているという現状が多くあると思います。企業の誘致や現存企業への協力等で県内の産業が振興し人がふえ経済が活性化していくことによって、図書館の整備等にも人やお金がつけられるようになればと思います。

055) 高知県内市町村の地場製品の情報発信。

062) 地域の課題として「地域の活性化」対策等の必要性がいわれる。その具体的な施策となるとイベントの実施等が多いが、一過性・話題性でとどまっているものが多いようにも感じる。課題Aにたいして施策A'を実施して終わりというパターンではなく、施策後の効果についての検証まで含めた地域研究を期待したい。

065) 「豊かで幸せに暮らしていける」町・村の基準(アウトライン)がもしつくられるのであれば、そういった理想の基準をもとにして1つのイメージをつくりだしていくことが可能であると思う。少子・高齢化

という現実をふまえて、定住できる小さな町・村づくりのプロセスをぜひ研究していただきたい。

085) 地域は高齢化がますます進んでいる。高齢者がいつまでも健康で生きがいある文化的な生活を送れるよう、公民館活動を実施しているところである。このことについて専門的な立場から助言いただければありがたい。

091) 地区は中山間の小集落で、今後10～20年後にはなんらかの支援が必要となる(人口が半減する)。とりあえず地区外へでていった地区出身者に、「ヘルプカントリー」を呼びかけるよいアイデアはないものか？古里をたいせつにしていく意識づけを各方面に情報発信したいのだが・・・(館長のひとりごとです)。

099) 県内の子どもたちが進んで選ぶ学校として、子どもたちの意見を重視して学部等の構成・確保により、県外校への流出を防ぐ等、県内の子どもを優先入学させる方法はどうか。また県内企業と連携した研究による地場産品等の会社の起業による人的資源の流出の防止。

154) 少子化の問題にたいする取組について、大学としてどのような役割があるのかを考えてほしいと思います。

171) まちづくりへの参画。

172) 地域へ派遣いただき、地域全体で学びあいができればと思います。

204) 県内の中山間地域は、学校はもちろん地域そのものの存亡をかけた苦闘を強いられています。さまざまな面での物(人)心(知恵)にわたるご支援をお願いいたします。

206) 高知県の地域状況を考慮し、県都以外の地域に目を向けた研究をしていただきたい。

244) 山間部に企業がほしい。若い人の働く場がほしい。若者や子どものいない所がどんどんふえている。夜になれば早くから電気が消えている。淋しい。

246) 地域活性化のために、地場産品を活用した製品を開発し、販路開拓し、雇用を拡大することを柱に。物流の支援や、障害者や介護サービスを受けることのできない人たちへのサービス充実に向けて、日高村と一体となり、大学の力を借り、現状分析やサービス提供の優先順位など、日常の業務に追われて整理整頓できない部分をいっしょに考えてもらい、これからの計画づくりをおこなっていきたくと思うので、協力をお願いします。

270) 平成25年4月から「金融円滑化法」にともなう経営革新が必要となる企業や法人が多数生まれまわります。あらゆる企業が疲弊している状況のなか、「学ぶべきもの」は大きいと思いますが・・・。

286) 中山間地の地域の支えあいや安心してくらすせる具体的なしくみづくり等について、研究や提言を望む。

289) 地域の問題は中央では解決できない。地方を愛し地方で生きる若者の育成を、これからも期待している。

291) 大学が調査・研究・報告したものを基礎として、地域で実験的に企画や生活の改善や意識の変化をうながし、その結果をふまえてまた大学に報告して新たな学の追究の資料とし、さらにまた地域にフィードバックしてほしい。 / やりたい調査・研究・それらの土壌はあるが、人がいない。 / 学生とともに活動ができるこの場を拠点として研究することで、学生の一助となればありがたい。なんなりと協力をさせてほしいです。無料の宿泊環境などもあるので、お声をかけていただければ幸いです。NPOでは「豊永学」をつくるべく基礎づくりをしています。

300) 小水力発電の共同研究。 / 地域の森林整備とそれによって発生する間伐材の用途開発と販売推進。 / 高齢者の支援。「地域のお年よりは地域で支えあい、地域で人生をまっとうする」。

312) 大学はこれまで外からの要請に対応する姿勢できましたが、高知県の状況を考えれば、大学の総合性を最大級に生かし、特定の地域にかかわり地域の持続性を担保するモデルづくりが必要だと思います。先生方が個別の課題でバラバラに活動することも必要ですが、大学として組織的にかつ長期間にわたって地域と連携することが求められています。「地域で生きることに誇りと希望」をもてるよう、県立大学の一層の支援を期待します。

314) 健康で安心して住めるまちづくり、若い方が多くまちに残る・帰る取組への研究。

323) 平成23年度に県が実施した高知県集落調査では、10年後には一部の集落が消滅するなど将来にわたり中山間地域の集落の衰退を危惧する声が多くよせられています。中山間地域では人口減少や高齢化がさらに進み地域の課題が多様化・複雑化していくなかで、これまでのように生活・福祉・医療・産業・防災などそれぞれの分野で個々に施策に取組むだけでは、中山間地域の暮らしを守っていくことが困難になっています。今後はこうした取組にくわえて、市町村・住民団体・住民と連携をはかりながらそれぞれの人や組織が一体となって地域(集落)ごとの課題解決にあたる仕組づくりを構築して、それぞれの実情にあった対策を総合的に進めていくことが重要です。そのため地域(集落)ごとに活動を支えるための拠点づくりをおこない、地域の絆の構築と住民相互の支えあいの仕組づくりを進めるなど、10年後をみすえた集落対策の強化を進め集落の維持・再生をはかることができる基盤づくりをおこなうことが必要です。また今回



の調査では、地域において地域活動や産業づくりの人材が不足していることや、地域の活性化をはかっていくためには「人材」が欠かせないと感じていることも明らかになっています。今後地域内の若い世代をはじめとした地域の将来をになう人材の発掘や、そうした人材を育成し活用していくための施策を講じるために、ぜひとも貴大学に協力いただきたいと思います。

337) (合併して) 四万十市として新しい地域づくりを進めるにあたって、西土佐地域にとって合併がはたして最良の選択だったのか疑問のこのころ現在であるように思う。具体的に行政の施策をもっと深く知るべきかもしれませんが、田舎には田舎の地域づくりがあり、地域の特性をいかした振興策がたいせつだと思います。現況調査から対策まで大学のさまざまな機能を結集して、田舎の元気を取りもどすためのご支援を期待します。

338) 今年度よりスタッフの移動があったため、室戸には4月より赴任しております。そのため地域についてのご質問にお答えできずもうしわけございません。当NPOでは室戸の漁業者とともにウミガメを中心とした海棲生物の調査・研究をしております。今後大学の方々と協力してなにか活動をおこないたと思いますが、まだ具体的にはございません。今後ともよろしく願いいたします。

343) 地域課題解決への県内外の取組等情報提供。 / 公民館活動への企画段階からの参画・人的支援。

357) 地域の民俗文化(民具・年中行事・祭・民俗芸能・伝説)や歴史・文化財は、画一化が進む現代社会においては、地域の個性をアピールし住民のアイデンティティのよりどころとなる重要なものです。ところが高知県にあつては、地域文化を調査できる人材が減っており、多くの民俗文化や資料がだれにも知られることがないまま消失しているという現状があります。地域の民俗や歴史を専門的に研究調査できる人材育成を、ぜひお願いしたいと思います。

359) 地域と一体となって活動する大学であってほしい。(とくに学生に地域にとびこんでほしい。) その点で今回の調査は詳細で評価したい。

360) 初月地区では、今秋地域コミュニティ再構築の検討をはじめたところです。その検討のなかで、地域住民による地域課題・組織体制・連携・役割分担などを考えていくこととなります。その検討過程で課題解決に向けて、人的協力・調査・研究・企画などで県立大学からの支援を要望することがあるかもしれませんが、いまのところスタートしたばかりで、考えがまとまりません。

363) 現在高知県が取組んでいる産業振興計画に積極的にいかかわってほしい。とくに県内各地域が取組んでいる200あまりのアクションプランについては、ヒアリング等をおこなって大学として協力できる内容であれば教員・職員・学生等が大学から地域に積極的にでて協力するのが県立大学の使命ではないか、そのような取組をすれば卒業後優位な人材の県外流出を防ぐことにもつながる。 / また喫緊の問題である地震対策にも県立大学の英知を役立ててほしい。

384) <地域活性化について> 当地には領北高校がありますが、生徒数の減少により廃校の危機に直面しています。「廃校は大袈裟」という人もいますが…。高校生から町外にでてしまうと、両親も(家ごと)町外に移住するケースも少なくなく、町全体の衰退につながります。領北高校存続にむけて、魅力ある学校づくりについて、ご協力いただける方がいらっしゃいましたら幸いです。

385) 地元の子が地元の大学にいけるような学力向上。 / 地元の大学の魅力の向上。 / 若者の自由な発想を取りいれるために、高知県の活性化をこころみ、若者の地元定着。

402) 地域の人たちとの話あいの場に参加してほしい。いまなにを求めているのか必要なのか、みんなで考える場が必要。そのためになにをすべきか。講演をするにも参加者が来ない。講演参加者が多く集まるための方法とか、いっしょに考えていきたい。

417) 高知県立大の地元へのかかわりへの期待は大いにある。 / 大学との連携については、自分たちの取組みテーマがもっと明確になってから。 / 観光にしてもモノづくりにしても成熟してきているので、その背景が重要と考える。 / あれこれそれなりにやっているように思うが、文化についてはそれほどでもないようだ。ユーモア環境をつくる最大の装置は人といえる。ぜひ県民市民がユーモアを<理解・評価・誇る> 気持ちになるよう高めたいものだ。

---

### 3. 地域の教育課題・学校教育への貢献

---

120) 隣接している県立の教育施設として連携をお願いしたい。ぜひ連携授業についてご検討ください。

121) 大学進学を考える生徒たちにとって、大学での学びその後の社会にでてからの職のありようは一連の流れとしてとらえており、セットで考えるべきものである。とくに資質や学力などの高い生徒にとってはその傾向が著しい。高校側からみれば、大学の活性化として県内の経済状況を好転させ、そこに貴学をはじめとする各大学が深くかかわっていくことを望みたい。地域の文化芸術面も同様に考えている。こうした点で、「お茶」での貴学の活動など、期待できる要素が今後も(経済・文化・芸術・医療・福祉などさま

ざまな分野で)多くみられるよう、要望・期待します。

125)本校では、地域の活性化とそのための人材づくりを地域の課題および本校の教育課題としてとらえ、平成25年度の入学生からの教育課程に地域リーダー養成コース(これまでの農業・家庭・商業の3コースを融合したもの)を設置し、3年次には地域課題研究に取組ませるようにしています。研究課題としては、地域産品等を使った商品開発、観光資源を活用した地域の行事やイベント、等を考えています。そのため、ぜひ貴学から調査・研究企画・実践方法等につきまして、継続したご指導をいただければありがたいと考えます。どうか宜しく願いいたします。

146)本校ではこれまで高知大学農学部や愛媛大学教育学部との交流をおこなってきた(体験活動等)。中山間地域の小規模校として、子どもたちにさまざまな体験活動の機会を催促できるよう支援を要望したい。

151)県立大学は高知県の税金で運営をしているのだから、大学入試(推薦合格)においてもっと高知県から合格者をとってもらいたい。(例)高知県出身：90%合格。他県出身：10%合格。 / 小学校教諭免許をとれる学部をつくってください。

099)県内の子どもたちが進んで選ぶ学校として、子どもたちの意見を重視して学部等の構成・確保により、県外校への流出を防ぐ等、県内の子どもを優先入学させる方法はどうでしょうか。また県内企業と連携した研究による地場産品等の会社の起業による人的資源の流出の防止。

124)地域の課題の1つに人材の育成がある。地域の高等学校としては、将来的に地域のために頑張ってくれる生徒を育てていきたい。こうしたことから、本校卒業後は2～3名ていど貴学で受入れてくださるような連携を強く希望する。

156)職員や学生に講師となって講話してほしいです。中学生に人生の先輩として生き方について語ってほしい(大学生となった目的・やりたい事・研究の内容・将来の夢等)。

165)日本一の健康長寿県をめざす本県にとって、とくに健康・福祉・看護の分野において研究と人材育成をしている県立大学の存在意義は大きく、今後ますますその重要性は高まってくると思います。またわたしたち県内の公立学校にとっては教員養成機関としての機能も重要で、県内の優秀な人材が県内にのこり公教育をしっかりとささえるためにも県立大学には期待をしています。

166)中学生や中学校教員ではない学生の発想や有識者の意見を聞き、活用してみたい。

187)地元の大学として、山間部振興を重要視していただきたい。あわせて特別支援教育にかかわる支援を推進し、教育水準の地域間差がでないよう人材育成に努めていただきたい(山間部での教育に使命感をもつ教員養成)。

192)学校はその地域の文化の拠点であるとの認識をもっている。そこで、文化や教育の支援機関として、県立大学には各校に実際に出向き、どのような課題があるのかまた県立大学として支援できる内容はなにかを、このようなアンケートだけでなくヒアリング等をとおして、自ら収集してほしい。アンケートを送付しその回答を回収するといった安易な方法に頼らず、自らの足で現場把握に努めてもらいたい。

194)地域の学校を支援することで、県立大学がより県民に身近な存在になっていくと思う。また学生にとっても卒業後の進路保障につながっていくのではないかと思う。 / 大学から各小中学校に積極的に情報発信をしていくこともたいせつなことだと思う。

198)もっと地域等に出向いてってください。高知県の学力・体力向上のためにもぜひお願いします。

378)高校生の進学先として県内大学の存在はきわめて大きい。現在廃止が検討されている高知短大については存続を強く望むものである。

384)〈地域活性化について〉当地には領北高校がありますが、生徒数の減少により廃校の危機に直面しています。「廃校は大袈裟」という人もいますが……。高校生から町外にでてしまうと、両親も(家ごと)町外に移住するケースも少なくなく、町全体の衰退につながります。領北高校存続にむけて、魅力ある学校づくりについて、ご協力いただける方がいらっしゃいましたら幸いです。

385)地元の子が地元の大学にいけるような学力向上。 / 地元の大学の魅力の向上。 / 若者の自由な発想をとりいれるために、高知県の活性化をこころみ、若者の地元定着。

423)津野町では「県内の大学に旧白石小学校をサテライトキャンパスのように使用していただけないか」との思いから、その可能性の調査をはじめたところで、高知県立大学社会福祉学部の西内先生にも助言等いただいているところです。この調査に大学としてご協力をお願いします。

---

#### 4. 地域貢献のための大学の体制整備・あり方等

---

009)高知市がかかえるさまざまな行政課題と県立大学における研究分野に関連がある場合等は、実務的な連携による課題の解決をはかることができると思われるが、現段階では連携の可能性のある分野等について十分な情報を有しておらず、具体的な連携にまで進まないケースが多いのではないかと考えられる。

022) 産学連携の役割。優位性のある食品・健康の分野で、もっと地域企業に役立とうとする気概をもつべき。教員自らが地域にでていく風土をつくってほしい。地域産業に貢献できることを認識し、この分野に重点的に資源を投入してほしい。めざすべきは、地域企業から信頼され頼られる大学! に、シフトして。

025) 土佐経済同友会が提言した「高知県10年ビジョンの提言」にもとづく、GKH(Gross Kochi Happiness)を実践していくのに、高知県立大の力がぜひとも必要です。高知版リタイアメント・コミュニティなど、あらゆる可能性のある施策を導入するよう活動をしています。協働により高知県を再生しましょう。ありがとうございました。

032) 高知工科大学と新体制を組まれることで、その役割も多くなると思う。

042) 学生の受入れや学生との連携は、大学側のコーディネータがきっちりとしてほしい。 / 交通の問題にしても、大学と連携していければよいが、社協が連携しても行政が大学との連携を望んでいなければむづかしい。 / 包括的なケアシステムも、導入するためには町全体のデザインをする必要があり、大学との連携は必要と感じているが、行政の方針によるものが大きいため、社協の考えだけでは連携できない。

064) わたしは卒業生なので大学のことは少し事情がわかりますが、そうでない人からみると県立大学は組織として社会にたいしてどういうことができるのか、またどこにだれに相談していいのかわからないようです。先生方とのやりとりはあったとしても大学として窓口が開いているか・・・、どうしても先生のイメージが強いです。先生と同じくらい事務の人もフロントにでてアピールしては？ まずは窓口と、大学としてできることのアピールを望みます。期待しています。

066) 県立大学にどんなことを期待するのかといわれても、大学のことを知らないため書きづらい。専門性をいかして課題の解決をはかるためにも、地域にはいりこんで地域の状況を肌で感じてみる必要があると思います。

068) 長寿高齢社会の先進県としての、人材の確保、人的・物的資源の有効活用、をはかってほしい。自然・海・山・川の環境保全、川上・川下の協力づくり。

069) 大学は知的・人的また施設自体も地域にとって大きな資源・財産であると思うので、地域に積極的にかかわってほしい。教員・職員だけでなく、高齢化が進むなかでは若者(学生)が貴重な存在なので、フィールドワークなど、また直接的に大学としてのかかわりでなくても、学生さんが地域のいろいろな活動に参加することで、地域の活気もでるし、学生さんにもプラスの経験になると思う。

071) 世界的な視野をもたれている南先生をはじめ専門的知識の豊富な先生方が地域に実際にでて、地域の問題解決にいっしょになって取組まれることは、地域が活性化し問題を明確にし解決に向かっていくために重要なのではないかと考えます。そしてそれが伝統もあり、改革にも取組まれている高知県立大学の役割ではないかと考えます。

077) 各学部積極的に県内各地をフィールドとして活用してもらえれば、地域課題が共有しやすく、課題解決に向けて連携した取組が進むのではないかと考えます。またいつでも気軽に相談できる関係づくりが、日頃の活動をつうじてできればいいと思います。

078) 現在看護学部以外と連携することはないが、今後他学部の情報も知りたいと思う。

084) 現段階では県立大学についてはほとんど知りません。県民にももっと知らせる方法を考えてみてはどうでしょうか。

095) 協力等をお願いする場合はどのような手続きが必要ですか？ また費用はかかるのですか？

100) 学生が学んだことを社会人として地域で活かし、課題の解決に向けて取組んでもらいたい。研究成果を、適材適所に働きかけ実現を目指す。

101) 県立大学の内容についてあまり知られていないので、大学のことにかんしてもっと知らせてほしい。

113) これからの地域貢献に役立つことができる学部をもたれていると思いますので、ますますの活躍を期待します。

133) まずは県立大学が具体的にどのような分野・内容での支援が可能になるのかを幅広く知っておきたい。その情報をお願いしたい。

142) 県立大学の活動内容やどのような支援をすることができるのか、広く県民に知ってもらおう手立てが必要ではないでしょうか。

144) 地域に貢献するためには「日常的にそこにいる」ということがたいせつです。したがってそれは市町村立学校いわゆる「末端」の役目です。したがって大学の役目は人材育成が最大のミッションかと思います。また学校にはない専門性を活かして、「研究」や「イベントでの広報」などがよいのではないかと思います。

153) 県立大学となって、さらなる発展と研究推進に期待します。

168) 高知県立大は高知県の大学という部分で高知大とは違った意義があると思う。しかし教育現場においてその活動をみると、高知大学に大きくリードされているように思える。またその活動自体がみえてこない。もっと地域に開かれた学校であってほしいし、地域にその活動の場を広げていただきたい。

170)最初にアンケートをいただいたときに質問の項目をみて、なかなか回答しづらいと思ってお返事をだすのをやめてしまったのですが、葉書きをいただきましたのでもう1度考えてみました。なぜ回答しづらいかという、県立大学がどのようなことをしていて、どんな支援体制がとれて、それをどう地域や学校にたいしておこなっていくか、ということがわからないからです。大学のパンフレットにはいろんなことが書かれてありましたが、それを隅から隅まで読んでアンケートにおこたえする時間がとれず、たいへん失礼な回答になってしまいましたことをお許しください。まずは大学の方からこんなことができるという具体的な内容をお知らせいただき、あとは直接のやりとりになるのかと思います。たいへん乱暴な書き方でもうしわけありません。2回もアンケートへの協力依頼があるということは、大学の方でも本気で支援体制を組まれるというお考えだと思います。ぜひよいものになることを願っています!!

173)本調査結果にもとづいて、「県立大学としてなにができるのか」を検討していただき、その情報を広く発信していただきたい。

185)いまの県立大学がなにができるのかを先にしめしていただきたい。これまでの県立大の活動を例としてしめしていただければ、もう少し具体的に要望・期待を書くことができたと思う。 / 県立大として地域に貢献することは当然であり、いまできることをもっと積極的に果たしてほしい。 / この調査について、質問のなかに答えづらいものがあつた。機関によって質問を選べるようにしていただくとうりがあった。

192)学校はその地域の文化の拠点であるとの認識をもっている。そこで、文化や教育の支援機関として、県立大学には各校に実際に出向き、どのような課題があるのかまた県立大学として支援できる内容はなにかを、このようなアンケートだけでなくヒアリング等をとおして、自ら収集してほしい。アンケートを送付しその回答を回収するといった安易な方法に頼らず、自らの足で現場把握に努めてもらいたい。

195)高知県立大学の活動がよくわからない状況で回答しました。どんどん発信してください。

198)もっと地域等に出向いていってください。高知県の学力・体力向上のためにもぜひお願いします。

201)郡部に住んでいるため、大学との連携・支援・協力ということにピンとくるものはありません。もうしわけありませんが、後半はどのように回答してよいかわからず空欄にしています。まずはなにかひとつ具体的な連携を経験して、そしてさまざまなイメージがわくのだろうと思いますので、私たちの貴大学にたいする具体的な要望は、今回はお許しください。

202)一口に高知県といっても高知市のような都市部もあれば郡部の過疎地域もあり、課題も地域によってさまざまであろうことは容易に想像できる。地域の大学として地域に足を運び、声をひろってほしいと思います。

229)大学が地域貢献のために各地域にはいっていくことは重要であり、とても有意義なことだと思っています。ぜひともいろいろな分野で活躍してほしいと考えています。

249)どんな先生がいて、専門はなにか? フィールドワークの経験はあるのか? 学問的な専門領域と現場の経験は? 大学がもっている課題をオープンにし、現場に問合せをする。この方式がもっとよいのでは? 課題がわからないのか? このやり方は、大学の研究対象として、レポートをつくって終り。田中さんてどんな人?

251)行政をまきこんだネットワークの構築を望む。

260)いろいろかってな注文を書きつらねましたが、あれこれ中途半端に門戸を広げるよりも、学部の特徴を中核として、影響力のある支援や連携をしてほしい。あそこに相談すれば端緒が見つかる・・・、という「知のバンク」であってもほしいと思う。西梅先生・向井先生には、本会の研修会や講座でお世話になりました。

266)当NPO法人と県立大が連携できること・・・、もうしわけないが思いつきません。高知県各地域にはいって課題をみつけ解決していってください。期待しています。

272)現在高知大とは連携することがありますが、県立大とはありません。実質的に高知大とどう差があるのか在野にいるとわかりません。学生さんとしかとらえてないのが実情。

277)お金がでないところに協力できるのですか? 5年くらい前にお願いしたことがあるのですが、期待しましたが、残念な結果でした。やはり研究にはお金がいるようでした。

283)県下各地の地域課題の設問すべてに解答できるだけの知恵はもちあわせていませんが、できる範囲で記入いたしました。課題解決に向けて多くの取組が必要で努力の必要性も感じていますが、県立大学のみならず、人間教育・社会教育の重要性を痛感しています。いままでふれあつた県立大学の学生さんの純粋さや夢・希望等にふれ、感動しています。県内の地域課題解決に向けての根本に、「ふる里愛」の醸成が不可欠であると感じています。県民個々および関係機関がゆるやかにネットワークを組んで課題解決に向えるよう、県立大学の力を発揮してほしい。

288)地域住民との共同提案と指導。

297) 学生も教員も「大きな夢」を描き叶える努力をおしまない人たちが集まっている大学であってほしいと思います。大学生の力を大人や高齢者のために使ってその人々に協力し喜ばせ楽しませることもだいじなことです。個人的には「小・中・高生にあこがられる大学生」であってほしいです。高校生以下の子どもたちが、「あんな大学生(お兄ちゃんお姉ちゃん)になりたい!」とめざしたくなるような大学生であってほしい。そのためには、大学生自身・教員自身・大学自身が「大きな夢をもっている」「そのための努力をつづけている」、そんな人間が集まった高知県立大学であってほしいのが要望であり、期待する役割と思います。

304) 高知に残る人材の育成。 / すべての項目で協力を要請し解決してほしい。 / 国・県・市の行政とともに!! 具体的にはたくさんありすぎて書ききれない!! 自分自身勉強して、なにが地域に必要なのか地域住民と話しあっておきます。

311) 10年程前(女子大時代)は大学教員のソーレ事業へのかかわりがあったが、近年はほとんどないように思う。市民活動への参加・協力、あるいは大学事業への参加呼びかけ、等を期待する。学生の参加もお願いしたい。長澤紀美子教授には本会にご参加いただいており、感謝している。

312) 大学はこれまで外からの要請に対応する姿勢できましたが、高知県の状況を考えれば、大学の総合性を最大級に生かし、特定の地域にかかわり地域の持続性を担保するモデルづくりが必要だと思います。先生方が個別の課題でバラバラに活動することも必要でしょうが、大学として組織的にかつ長期間にわたって地域と連携することが求められています。「地域で生きることに誇りと希望」をもてるよう、県立大学の一層の支援を期待します。

325) 「産学連携」がいわれて久しいですが、地域に根ざして、そこにある「資源」や課題を調査し、その解決に向けて各機関と協力しあいながら活動するところに敬意を表します。そしてその課題を学生たちが学び、実践していく「実学」指向に期待しています。

326) いままで貴大学は、学内にとどまる世界と一部には産学の世界にある、という認識があります(世間一般社会にでかけていない)。もう少し、地域社会にあって中心的役割をもっている公民館に目を向け、本件のアンケート内容のように、取組をはかっては?

330) 県立大の活動を広くアピールし、身近な存在であることを知らせる。(例) 地域での活動として、帯屋町でしていること、障害のある方への学生のサポート、中山間地域との交流、などがあると聞いています。

332) 高知の特性にあった諸研究をとおして、具体的立案を多く発表してほしい。そのなかから実現可能なものが行政・企業・諸団体(例えば漁協や農協等)がとりいれれば、県立大学としての価値もあがってくるのでは。

335) 本調査をする以上本腰を入れて各課題に取り組む熱意があるか、今後貴学の生きのこりをかけて県民といっしょになった、なくてはならない大学になることを熱望する。

336) 高知県内の地域課題の解決に向けて、現在またいままでにどのような活動をされているのか教えていただきたい。

370) 県内高校生がめざすに値する個性ある有用な大学になること。同時に社会人にたいしても門戸を広く開き、とくに教員を地域に派遣することに力をいれて取組んでほしい。

402) 地域を知るのであれば、現地へ行き地域の人に状況を聞くなりして、自ら情報を収集するのがよいと思います。

403) 自分たちだけでは考えつかないアイデアをもった柔軟で豊かな人的資源の有効活用をお願いしたい。

415) たいへんもうしわけありませんが、県立大学自体の中味がよく理解できておらず、十分なお回答をさせていただくことができませんでした。逆に県立大学としては、地域にたいしてこんなえことできるというリストを提示していただくと、答えやすかったと思いました。今回の調査を足がかりに、次回は大学の方から発信してはいかがでしょうか。

431) 地域におりてきてほしい。

432) 情報などのオープンさと利活用のしやすさを求める。

---

## 5. 学生・院生による地域課題への貢献

---

017) 県立大とはいままでご縁がなかったと思います。今年は夏休みに高知大医学部と看護学科の学生による馬路中・小学生の交流をおこなった。来年は未定だが、このような交流はよいのでは。

038) 地域福祉にかんして、学生ならではのアイデアを期待します。

069) 大学は知的・人的また施設自体も地域にとって大きな資源・財産であると思うので、地域に積極的にかかわってほしい。教員・職員だけでなく、高齢化が進むなかでは若者(学生)が貴重な存在なの

で、フィールドワークなど、また直接的に大学としてのかかわりでなくても、学生さんが地域のいろいろな活動に参加することで、地域の活気もでるし、学生さんにもプラスの経験になると思う。

100) 学生が学んだことを社会人として地域で活かし、課題の解決に向けて取組んでもらいたい。研究成果を、適材適所に働きかけ実現を目指す。

115) 本校ではRYN以外にも、生徒の自主組織 Reihoku Fliigels があり、幼児から高齢者までを対象に幅広く活動している。 / 生徒たちが、自分と地域の将来のためになにができるか、なにをしなければならぬか、学生たちと話したりアドバイスをもらえたりともに活動できれば、大いに刺激になる。

156) 職員や学生に講師となって講話してほしいです。中学生に人生の先輩として生き方について語ってほしい(大学生となった目的・やりたい事・研究の内容・将来の夢等)。

166) 中学生や中学校教員ではない学生の発想や有識者の意見を聞き、活用してみたい。

184) 学生さんはしっかり勉学し、卒業後地域に残ってもらい、専門性を生かしてほしい。

209) 若い方の考えや行動力は、地域を活性化させるための大きな原動力だと思います。よろしくお願いいたします。

233) 天界集落は新たなキャンパスである。若い学生と山のなかで暮らす高齢者とをくっつけると化学反応がおこるにちがいない。それが新しい文化に育つことを期待する。高知は自然エネルギーの宝庫であり、環境を守る仕事はテンコモリである。調査を中心とした地味なフィールドワークを重ねる場になってほしいものである。

236) 大学生が大学で学んだことを使って地域にでて地域貢献しようという取組は、大学生の大きな成長につながります。大学生を地域に入れるだけではなく何かを生みだしてもらうために意識づけすることはむずかしいのですが、日本中の大学が取組をスタートさせていますので、地域教育研究センターには大学生の意識を高めるノウハウをつくってほしいと思います。大学生同士がチームをつくって行動するさいのサポートも期待します。チームへの補助金なども含め。

238) 最近の学生さんのレベルが低下しており、自分の意思や意見もなくただ受動的であるとの話を聞きます。そのなかでも、1人でもやる気や前向きな提案をいただくことで、自分たちNPOの固定概念や思いこみを変えていただければ、お互いにとってプラスになると思います。

239) 農業にかんする学部・研究所が記載されていませんでしたので、直接的な要望などは記入していません。当法人は四万十町の過疎化を防ぐため、町外・県外からの移住者をつのり、四万十町特有の豊かな自然を生かし、さびれゆく農業を活性化すべく新規就農者として育て、住居・農地・販売でサポートする活動をしています。個人的な意見ですが・・・、農繁期の人手不足は年々深刻化しています。「地域のお助け隊」みたいなものがあればいいですね。それと・・・、娘の小学校に高知大生の方々がイベントごとに来てくれます。人数の少ない学校だけに若い力がとても助かります。大きいお兄さんお姉さんとの交流ができて、子どもたちにもとてもよいと思います。ありがとうございます。

267) 高齢者・身障者・闘病者等が望むものは、その者たちの集りも1つですが、年齢を含めて枠をこえた対話・活動を望んでいます。社交ダンスはそれを可能にするもので、いま私どもは四万十市・高知市の「ソール」でおこなっていますが、若い方の参加は多くの方によるこびや生きがいを与えるものです。枠をこえ平等にともにできることがたいせつと思っています。

297) 学生も教員も「大きな夢」を描き、叶える努力をおしまない人たちが集まっている大学であってほしいと思います。大学生の力を大人や高齢者のために使ってその人々に協力し喜ばせ楽しませることもだいじなことですが、個人的には「小・中・高生にあこがられる大学生」であってほしいです。高校生以下の子どもたちが、「あんな大学生(お兄ちゃんお姉ちゃん)になりたい!」とめざしたくなるような大学生であってほしい。そのためには、大学生自身・教員自身・大学自身が「大きな夢をもっている」「そのための努力をつづけている」、そんな人間が集まった高知県立大学であってほしいのが要望であり、期待する役割と思います。

308) このたびご協力いただき、すばらしい学生さんたちと交流させていただきありがとうございました。素直な目で汗をかいていただくなかで、「いまどきの若いもんは」とは2度といわんと思えました。こんな経験をほかの方にもしていただきたいと思います。みなさんが高知に残ってくださったらとつくづく思いますがそうはいきません。地域のなかにかどうかどんどんはいつてきてください。お待ちしております。

310) 組織が脆弱で地域に貢献する役割など、活動は不十分である。組織強化のため、高学歴の会員獲得など課題がある。県立大学在学者等、活動支援できる会員がほしい。

325) 「産学連携」がいわれて久しいですが、地域に根ざして、そこにある「資源」や課題を調査し、その解決に向けて各機関と協力しあいながら活動するところに敬意を表します。そしてその課題を学生達が学び、実践していく「実学」指向に期待しています。

390) 地域の高齢者の人たちとスポーツをしたり、ゲームをするなど交流する。 / 幼児や児童に絵本の読

み聞かせをおこなう。 / 地域の運動会にグループで参加する。 / 親子料理教室に参加する。

393) 貴大学だけでなくすべての大学生へですが、高知をもっとよくしたいなら、高知をでて日本をでて世界までみて、高知へ帰ってきてほしい。比較をするものがないと、なにがよいかかわりかわからないと思います。若いうちにたくさんの経験をつんでほしいです。

---

## 6. その他

---

010) 課題がでてきたときに、適宜貴大学の協力をお願いしたい。

041) 大学の責任でもないと思いますが、いかなる場合においてもふつうに会話できる人間を育成していただきたいです。お願いします。

088) 公民館担当者として公民館運営にかんする部分について回答させていただきます。現在公民館運営にかんして、連携等の希望はないようです。(大学生が講師としておこなう巡回講座がありましたら、どのような活動をされているか情報提供をお願いいたします): CAMPASこちらでわかりました。すみません。

089) 公民館担当者として公民館および生涯学習課関連の内容に回答させていただきました。公民館事業としては現在のところ要望はないようです。地域の任意団体と県内の大学生とは連携しているところもあるようですので、今後ご協力をお願いしたいと思います。

108) 学生が卒業したら、1度は県外や国外へ行ってもいいが、かならず高知県にもどってきて、高知県の将来のためにがんばってほしい。

126) 大学とは地理的に遠く予算面もかぎられているが、そのなかで実施可能な連携がどのようなものあるのか考えていきたいと思います。よろしく願いいたします。

177) 県立大学の外向いている活動を具体的に把握できていないのでまだよくわかりません。

190) 学部的なこともあり、小学校とはかかわりにくかったように思うし、こちらあまり知らないので、利用の仕方がわからない。

213) 高知市内から遠方である本町にどのような支援ができるのか距離的な問題がやや心配になりました。またこの設問に、わたしたちのように大月町にきたばかりの人間があまりようすもわからない状況でありながら答えたために、参考にはならないのではと思ったところがありました。このような地域課題に向けた現在の取組や、これまでおこなってきた取組の紹介などがあれば、参考になってよかったかもしれません。

234) 香南市にはポリテクカレッジがあって、さらに高専もIT関係の活動をしてもらっているので、とくに遠い高知大学へお頼みすることはいまのところありません。

237) いまのところ高知県立大学との連携等については考えておりませんが、今後なんらかのかたちでいい関係が生まれることは期待します。

279) 要望・期待などはもちあわせていません。自分たちの行動に追われ、他の行動まで考えられる状況にありません。すみません。

292) いまのところわがNPOでは具体的な内容がきまっておらず、また大学さんの方でどんなことに協力していただけるのかよくわからないので、とくに要望等はありません。逆に1から地域活動の組立てに参加できる機会だと思うので、興味がおありでしたら月2回の定例会にご参加ください。

293) 昭和15年からの会です。会と地域も高齢者しました。わたしたちの方でなにかをお願いするという状況ではなく、大学の方でどう活用するかできるかと考えていただいた方がよいと思います。

299) 県立大学として地域課題を発掘し、研究に取組もうとされている姿勢は高く評価できると考えます。NPO理事長の立場をはなれ、一般市民としての意見を述べさせていただきました。

348) このアンケートに答えた者は、その地域にある学校の管理職ではあるが、その地域の住人ではない。だからこの地域の住人がほんとうに望んでいる課題かどうかはわからない。また所属が公立小学校であるので、その学校の教育活動として取組めるかどうかを判断しながら答えた。このアンケートでは、それぞれの地域にある学校として、それぞれの地域での課題にどのように向きあって、その課題にどのように取組む教育活動が可能かどうかの問いになっていない。だから研究機関とどのような連携が可能かどうかについての答えができなかった。 / このアンケートに記されている内容と、その具体的な取組(構想)はいまの高知県には絶対に必要なことであろう。そのことに学校教育も真剣に携わらなければならないが、教育課程の改訂によってそのような教育活動を展開できる時間も大幅に削除されており、そう願ってもできない現実があることを研究機関も理解していただき、このような厳しい現実のなかにある教育現場との連携についての提言をお願いしたい。 / 県立大学のこのような取組はいままさに高知県が必要としている内容であると考え。それぞれの教育機関(小学校・中学校・高等学校)では子どもたちに、これらの内容にたいして向きあわせ考えさせる教育活動が必要であろう。現にわたしが勤務する学校の地域の方々には、ここ



に記されている事柄に学校教育が取り組むことを強く願っている。 / それぞれの地域では、これらの課題に向きあわせる教育活動に取り組んでいる学校は数多くある。しかしすべての学校では、県がしめした教育施策を実現させることを第1として、教育活動を進めている。そのため十分な時間をついやしてこれらの課題に取り組んだり、(多方面にわたる内容について)広く研究機関の支援をいただいたり、長期的な連携した取組をおこなう時間的な余裕はないのが現実であろう。

369) なにかあればご相談させていただきます。

373) 高校にしる大学にしる、即使える人材を育成する学科があればいいと思います。近年ではなんでも免許制です。学科と免許実技をふまえた学校教育であること。 / その地域地域の特長をいかして売をみつ、すべて商業ベースで考えて中央とのパイプをつくること。 / 役場等の機関とは話・考えがあわない。いちばんのネックは予算制からはじまる教育です。教育とは予算制からはじまります。たてのつながりでなく、横のつながりを考えないといけない時代にはいりました。

418) 地域の活生化や小・中学・高校等の教育にかんする課題など、個人として考えること(こうありたいと希望すること)はありましても、行政や学校がこうしようと受けいれてくれることはなかなかむつかしいと考えます。貴大学の積極的なお考えに心から敬意を表します。感謝申し上げます。先だってテレビで最新の防災グッズを展示している放送をみましたが、私個人での希望としては、防災のための必需品で便利で安くて長もちのする品物にはどんなものがある、どこで求めたらいいのかというようなことを調べていただけたらありがたいと思います。例えば、かんたんで便利な浮き袋やヘルメットなどです。お役に立つ回答になっておりません。お許しく下さいませ。

---



## IV. 資料編



高知県内関係各機関・団体長 様

2012年 9月14日

調査責任者：  
高知県立大学  
地域教育研究センター地域課題研究部会  
部会長 田中きよむ(社会福祉学部教授)  
この調査にたいするお問合せ先：  
〒780-8515 高知市永国寺町5-15  
TEL 088-873-2152(内線232)  
FAX 088-873-3934  
Email aeru@cc.u-kochi.ac.jp  
担当者：岡崎康展

「高知県各地域の地域課題の現況等に関する調査」への  
ご協力をお願い

謹啓

時下、益々ご清祥のことと、お慶び申し上げます。

高知県立大学(旧高知女子大学)では、2012年度から新たに設置された**高知県立大学地域教育研究センター**内の**地域課題研究部会**を中心として、高知県の各地域におけるさまざまな地域課題の解決に向けて研究・教育面でのいっそうの貢献をすすめていくことになりました。

そのためには、県内各市町村・各地域の地域課題やそれらにたいする支援要望(ニーズ)等を的確に把握したうえで、それらの地域課題・ニーズ等にたいして、高知県立大学が保有している研究・教育資源(シーズ)を有効に活用しながら、課題解決に向けての支援等をおこなっていくことが重要と考えております。

そこでまず、高知県内各地域の地域課題・支援要望等を把握するためのニーズ調査をおこなうことにいたしました。この調査票は、高知県内各地域の方々のさまざまなお立場からのお考えなどをお聞きするために、県内のすべての市町村役場・NPO法人・図書館・美術館・博物館・公民館・幼稚園保育所関係団体・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・公立病院・公社・各経済商工団体・社会福祉協議会・保健所その他の関係機関・団体にお送りいたしております。

つきましては、ご多忙の折りからたいへんお手数で恐縮ではございますが、この調査の趣旨をご理解いただき、このアンケート調査票にご回答のうえ、同封の**返信用封筒にて2012年10月10日**ころまでにご投函いただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

敬白



# 高知県各地域の地域課題の現況等に関する調査

2012年9月

高知県立大学(旧高知女子大学)では、2012年度から新たに設置された高知県立大学地域教育研究センター内の地域課題研究部会を中心として、高知県の各地域におけるさまざまな地域課題の解決に向けて研究・教育面でのいっそうの貢献をすすめていくことになりました。そのためには、県内各市町村・各地域の地域課題やそれらにたいする支援要望(ニーズ)等を的確に把握したうえで、それらの地域課題・ニーズ等にたいして、高知県立大学が保有している研究・教育資源(シーズ)を有効に活用しながら、課題解決に向けての支援等をおこなっていくことが重要と考えております。

そこでまず、高知県内各地域の地域課題・支援要望等を把握するためのニーズ調査をおこなうことにいたしました。この調査票は、高知県内各地域の方々のさまざまなお立場からのお考えなどをお聞きするために、県内のすべての市町村役場・NPO法人・図書館・美術館・博物館・公民館・幼稚園保育所関係団体・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・公立病院・公社・各経済商工団体・社会福祉協議会・保健所その他の関係機関・団体にお送りいたしております。

つきましては、ご多忙の折からたいへんお手数で恐縮ではございますが、この調査の趣旨をご理解いただき、このアンケート調査票にご回答のうえ、同封の返信用封筒にて**2012年10月10日**ころまでにご投函いただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

調査責任者：

高知県立大学地域教育研究センター地域課題研究部会  
部会長 田中きよむ(社会福祉学部教授)

この調査にたいするお問合せ先：

〒780-8515 高知市永国寺町5-15  
TEL 088-873-2152(内線232) / FAX 088-873-3934  
Email aeru@cc.u-kochi.ac.jp  
担当者：岡崎康展

## [アンケート票にご記入いただく上でのご注意]

- このアンケート調査票は、各関係機関・団体等の長の方宛にお送りいたしております。調査内容をご参照いただいた上で、**地域課題の現況等**に関する各質問項目にご回答いただける**ご担当者**の方に、このアンケート調査票をお返しいただければ幸いです。
- 各質問項目については、あてはまる**項目**または**番号**に○印をつけ、**回答欄**が指定されているものはその中へ記入してください。
- 「その他」と「自由記述欄」については、その内容を**具体的に**記入してください。

## 1. あなたの機関・団体の種別・所在地等について

1-1)あなたの機関・団体の種別について、つぎのあてはまるもの**1つ**に○印をつけてください。

1. 市町村の役所・役場
2. 高知県や広域市町村の機関
3. NPO法人・ボランティア団体
4. 文化・教育・医療・健康・福祉等の専門機関
5. 産業・経済・商工の団体・事業所
6. その他の団体・機関(具体的に： )

1-2)この調査票にご回答いただいている方が所属している**部署等**について、下の  のなかに**具体的に**記入してください。

あなたが所属している**部署等**の名称は

1-3) あなたの機関・団体の**所在市町村**について、つぎのあてはまるもの**1つ**に○印をつけてください。

- |          |          |         |         |         |          |
|----------|----------|---------|---------|---------|----------|
| 1. 高知市   | 2. 室戸市   | 3. 安芸市  | 4. 南国市  | 5. 土佐市  | 6. 須崎市   |
| 7. 宿毛市   | 8. 土佐清水市 | 9. 四万十市 | 10. 香南市 | 11. 香美市 | 12. 東洋町  |
| 13. 奈半利町 | 14. 田野町  | 15. 安田町 | 16. 北川村 | 17. 馬路村 | 18. 芸西村  |
| 19. 本山町  | 20. 大豊町  | 21. 土佐町 | 22. 大川村 | 23. いの町 | 24. 仁淀川町 |
| 25. 中土佐町 | 26. 佐川町  | 27. 越知町 | 28. 禰原町 | 29. 日高村 | 30. 津野町  |
| 31. 四万十町 | 32. 大月町  | 33. 三原村 | 34. 黒潮町 |         |          |

## 2. あなたの機関・団体と高知県立大学(高知女子大学時代を含む)との連携について

2-1) あなたの機関・団体は、これまで**高知県立大学(高知女子大学時代を含む)**と**連携**したなんらかの**活動**をおこなったことがありますか。つぎのあてはまるもの**1つ**に○印をつけてください。

- |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 連携した活動をおこなったことが、ある | 2. 連携した活動をおこなったことは、ない |
|-----------------------|-----------------------|

2-2) 設問「2-1)」で「1. 連携した活動をおこなったことが、ある」と回答した方におたずねします。それはどのような活動ですか。つぎのあてはまるもの**すべて**に○印をつけてください。また、それぞれの活動やその他の**活動の内容**について、できるだけ**具体的**に下の「自由記述欄」に**記入**してください。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 共同調査・共同研究</li><li>2. 講演・講座・研修会の共同開催、またはこれらへの支援・協力</li><li>3. 社会人教育・生涯教育への支援・協力</li><li>4. 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒の学習・教育への支援・協力</li><li>5. 地域での商品開発や生活サービス・住民サービス等の共同実施、またはこれらへの支援・協力</li><li>6. 地域での生活などに関する種々の相談や健診等の共同実施、またはこれらへの支援・協力</li><li>7. 研究会や学習会の共同開催、またはこれらへの支援・協力</li><li>8. イベントや啓発・広報活動の共同実施、またはこれらへの支援・協力</li><li>9. 地域活動や住民活動への、共同での支援・協力</li><li>10. 地域活動等に助言を受けたり、講師派遣(大学からの講師派遣や大学への講師派遣)での支援・協力</li><li>11. 高知県立大学の学生による地域活動や調査研究への支援・協力</li><li>12. その他の活動</li></ol> |
|---|



上で○印をつけた**活動**について、その**内容**などをできるだけ**具体的**に**記入**してください。

[自由記述欄]

2-3) 設問「2-1)」で「2. 連携した活動をおこなったことは、ない」と回答した方におたずねします。その理由について、つぎのうちもっともあてはまるもの**1つ**に○印をつけてください。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 高知県立大学(または、高知女子大学)と連携する機会やきっかけが、なかったから(または、ないから)</li><li>2. 高知県立大学(または、高知女子大学)にどのような学部・センターや研究・教育・人的な資源があるか、よく知らなかったから(または、よく知らないから)</li><li>3. 高知県立大学(または、高知女子大学)との連携によって、期待できるものがない(または、少ない)と考えていたから(または、考えているから)</li><li>4. その他の理由(具体的に： )</li></ol> |
|--|

2-4) あなたの機関・団体では、今後、高知県立大学と連携したどのような活動などをおこないたいとお考えですか。つぎのあてはまるものすべてに○印をつけてください。また、それぞれの活動やその他の活動の内容について、できるだけ具体的に下の「自由記述欄」に記入してください。

1. 共同調査・共同研究
2. 講演・講座・研修会の共同開催、またはこれらへの支援・協力
3. 社会人教育・生涯教育への支援・協力
4. 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒の学習・教育への支援・協力
5. 地域での商品開発や生活サービス・住民サービス等の共同実施、またはこれらへの支援・協力
6. 地域での生活などに関する種々の相談や健診等の共同実施、またはこれらへの支援・協力
7. 研究会や学習会の共同開催、またはこれらへの支援・協力
8. イベントや啓発・広報活動の共同実施、またはこれらへの支援・協力
9. 地域活動や住民活動への、共同での支援・協力
10. 地域活動等に助言を受けたり、講師派遣(大学からの講師派遣や大学への講師派遣)での支援・協力
11. 高知県立大学の学生による地域活動や調査研究への支援・協力
12. その他の活動
13. 高知県立大学と連携した活動等をおこないたいことは、とくにない

上で○印をつけた活動について、その内容などをできるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]

### 3. あなたの地域の地域課題について

3-1) あなたの機関・団体からみて、あなたの地域における地域課題として、どのようなことがあるとお考えですか。つぎのあてはまるものすべてに○印をつけてください。また、それぞれの課題やその他の課題の内容について、できるだけ具体的に下の「自由記述欄」に記入してください。

#### (1) 地域の生活・健康課題

1. 日常生活上の移動のしやすさなど
2. 飲料水などの水の確保
3. 日用品・食料品などの買い物のしやすさなど
4. 日常の郵便の利用のしやすさや、非常時の通信確保など
5. 地域福祉や在宅福祉の充実
6. 住環境の整備や、住宅などのバリアフリー化の推進
7. 地域医療の充実
8. 地域の疾病予防・保健活動などの強化
9. 地域包括ケアの推進
10. 地域の健康づくりの推進
11. 健康的な食生活・栄養改善や食育などの推進
12. 地域でのさまざまな交流や楽しみづくりなど
13. その他の課題

上で○印をつけた課題について、その内容などをできるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]

## (2) 地域の経済課題

1. 雇用の確保
2. 地場産業の活性化
3. 地場産品を活用した製品開発
4. 地場産品の販売・流通ルートの確保
5. 地場産品の商品価値等に関する調査・研究
6. 観光等の活性化のための地域行事・イベント等の企画・開発
7. 企業等の地元への誘致
8. その他の課題



上で○印をつけた課題について、その内容などをできるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]

## (3) 地域の文化課題

1. 地域の既存の文化施設の充実
2. 地域にふさわしい文化施設の企画・開発
3. 地域の文化財・文化資源の発掘・発見や、それらについての調査・研究
4. 古い建物・町なみの保存や、その歴史的価値等に関する調査・研究
5. 地域の生活文化や文化活動の向上・推進・普及など
6. 地域の文化財・文化資源・生活文化などに関する地域住民などへの啓蒙・広報
7. 地域の文化財・文化資源・生活文化などの地域外への情報発信
8. その他の課題



上で○印をつけた課題について、その内容などをできるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]

## (4) 地域の教育課題

1. 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の授業向上のための、地域住民・専門家などの支援・協力の推進
2. 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭にたいする、教育力量向上のための研修内容・研修機会などの充実
3. 問題行動・学習困難・発達障害などの問題に対応した、相談・カウンセリング体制などの充実
4. 体験的な学習を推進するための、学校内外の施設・設備や支援・協力体制などの充実
5. 地域の社会人教育・生涯教育の充実
6. 医療・福祉・健康などに関する、地域住民の知識・認識向上などのための学習機会の充実
7. 地域文化・住まいづくり・まちづくり・環境問題などに関する、地域住民の知識・認識向上などのための学習機会の充実
8. 地域防災に関する、地域住民の知識・認識向上などのための学習機会の充実
9. その他の課題



上で○印をつけた課題について、その内容などをできるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]



## (5) 地域の環境課題

1. 自然環境保護のための対策
2. ゴミ処理問題への対策
3. 地域資源(木材など)の有効活用
4. 中山間地域の道路整備や補修
5. 鳥獣被害対策
6. 地震・水害などの災害対策
7. 環境保護運動の推進
8. その他の課題



上で○印をつけた課題について、その内容などをできるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]

3-2) 設問「3-1)」で○印をつけたあなたの地域の地域課題のうち、その課題解決などのために、高知県立大学との連携や高知県立大学からの支援・協力などを要望するものについて、つぎのあてはまるものすべてに○印をつけてください。また、希望する高知県立大学との連携やその支援・協力の内容について、できるだけ具体的に下の「自由記述欄」に記入してください。

なお高知県立大学には、文化学部・看護学部・社会福祉学部・健康栄養学部・大学院(看護学研究科・人間生活学研究科・健康生活科学研究科)・地域教育研究センター・健康長寿センター・附属図書館などがあり、さまざまな機能を果たすことができます。

### (1) 連携・支援・協力を要望する「地域の生活・健康課題」

1. 日常生活上の移動のしやすさなど
2. 飲料水などの水の確保
3. 日用品・食料品などの買い物のしやすさなど
4. 日常の郵便の利用のしやすさや、非常時の通信確保など
5. 地域福祉や在宅福祉の充実
6. 住環境の整備や、住宅などのバリアフリー化の推進
7. 地域医療の充実
8. 地域の疾病予防・保健活動などの強化
9. 地域包括ケアの推進
10. 地域の健康づくりの推進
11. 健康的な食生活・栄養改善や食育などの推進
12. 地域でのさまざまな交流や楽しみづくりなど
13. その他の課題



要望する連携・支援・協力などの内容について、できるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]

## (2) 連携・支援・協力を要望する「地域の経済課題」

1. 雇用の確保
2. 地場産業の活性化
3. 地場産品を活用した製品開発
4. 地場産品の販売・流通ルートの確保
5. 地場産品の商品価値等に関する調査・研究
6. 観光等の活性化のための地域行事・イベント等の企画・開発
7. 企業等の地元への誘致
8. その他の課題



要望する連携・支援・協力などの内容について、できるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]

## (3) 連携・支援・協力を要望する「地域の文化課題」

1. 地域の既存の文化施設の充実
2. 地域にふさわしい文化施設の企画・開発
3. 地域の文化財・文化資源の発掘・発見や、それらについての調査・研究
4. 古い建物・町なみの保存や、その歴史的価値等に関する調査・研究
5. 地域の生活文化や文化活動の向上・推進・普及など
6. 地域の文化財・文化資源・生活文化などに関する地域住民などへの啓蒙・広報
7. 地域の文化財・文化資源・生活文化などの地域外への情報発信
8. その他の課題



要望する連携・支援・協力などの内容について、できるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]

## (4) 連携・支援・協力を要望する「地域の教育課題」

1. 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の授業向上のための、地域住民・専門家などの支援・協力の推進
2. 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭にたいする、教育力量向上のための研修内容・研修機会などの充実
3. 問題行動・学習困難・発達障害などの問題に対応した、相談・カウンセリング体制などの充実
4. 体験的な学習を推進するための、学校内外の施設・設備や支援・協力体制などの充実
5. 地域の社会人教育・生涯教育の充実
6. 医療・福祉・健康などに関する、地域住民の知識・認識向上などのための学習機会の充実
7. 地域文化・住まいづくり・まちづくり・環境問題などに関する、地域住民の知識・認識向上などのための学習機会の充実
8. 地域防災に関する、地域住民の知識・認識向上などのための学習機会の充実
9. その他の課題



要望する連携・支援・協力などの内容について、できるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]

(5) 連携・支援・協力を要望する「地域の環境課題」

1. 自然環境保護のための対策
2. ゴミ処理問題への対策
3. 地域資源(木材など)の有効活用
4. 中山間地域の道路整備や補修
5. 鳥獣被害対策
6. 地震・水害などの災害対策
7. 環境保護運動の推進
8. その他の課題

↓ 要望する連携・支援・協力などの内容について、できるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]

3-3) 高知県立大学との連携や高知県立大学からの支援・協力などに関して、高知県立大学が保有している機能や資源の面では、とくにどのような点での連携・支援・協力などを要望したいとお考えですか。つぎのあてはまるものすべてに○印をつけてください。また、その内容について、できるだけ具体的に下の「自由記述欄」に記入してください。

1. 調査・研究などの実施
2. 企画・開発案などの立案
3. 教員・職員の派遣
4. 実験設備・施設などの使用
5. 図書・視聴覚資料などの利用
6. 学生・大学院生の協力
7. その他の機能・資源

↓ 要望する高知県立大学の機能・資源の内容などについて、できるだけ具体的に記入してください。

[自由記述欄]

#### 4. 高知県立大学への要望・期待などについて

4-1) すでにご回答いただいた以外のことで、あなたの地域や高知県内のいろいろな地域課題の解決に向けて、高知県立大学に要望・期待する役割や、果たしてほしい役割などについて、ご意見・お考えなどをできるだけ具体的に下の「自由記述欄」に記入してください。

[自由記述欄]

4-2) あなたの地域や高知県内のいろいろな地域課題の解決に向けて果たす高知県立大学の役割について、あなたの機関・団体では、どのくらい期待していますか。つぎのもっともあてはまるもの1つに○印をつけてください。

- |                |                |            |
|----------------|----------------|------------|
| 1. ひじょうに期待している | 2. 期待している      | 3. どちらでもない |
| 4. 期待していない     | 5. まったく期待していない |            |

5. もしさしつかえなければ、この調査票に関連した内容について具体的な話をお伺いしたい場合の、ご担当者の方の、お名前(ふりがな)・電話番号・Fax番号・メールアドレスをご記入ください。ご記入いただいた個人情報などは、この調査に関するこちらからのお問合せ以外の目的で使用することは一切ありません。

(1)お名前(ふりがな)

(2)電話番号

 —  — 

(3)Fax番号

 —  — 

(4)メールアドレス

**ご多忙のところ、ご協力ありがとうございました**

---

**地域貢献調査報告Ⅰ**  
**(地域貢献ニース集)**  
高知県各地域の地域課題の現況等に関する調査報告書

発行日 2013年3月31日  
発行者 高知県立大学  
発行人 地域教育研究センター  
センター長 荻沼 一男  
編 集 地域課題研究部会  
部会長 田中きよむ  
副部会長 宇野 浩三  
部会員 時長 美希  
橋尾 直和  
羽田 行男  
渡邊 浩幸  
協力委員 竹崎久美子  
事務局 今倉 俊男  
岡崎 康展

---

